

まちづくり チャレンジ 550

地域再生大賞の10年

地域再生大賞実行委員会 編



共同通信社

まちづくり
チャレンジ
550

地域再生大賞の10年

地域再生大賞実行委員会 編

4 ごあいさつ

5 選考委員のことば

6 地域再生大賞とは

7 チャレンジの軌跡〜受賞団体の取り組み紹介〜

8 【総括】地域再生大賞の10年を振り返る

10 【報告】500団体の活動や組織を分析

14 第6回大賞 かさおか島づくり海社

15 第7回大賞 都岐沙羅パートナーズセンター

16 第8回大賞 陽気な母さんの店

17 第9回大賞 多言語センターFACIL

18 第10回大賞 ふるさと福井サポートセンター

19 第11回受賞50団体が決定

24 受賞者が語る「地域再生大賞」

ポケットマルシェCEO 高橋博之さんインタビュー

25 ルポ・コロナ禍打開に住民が主体的に行動

27

受賞団体データ集

28 第1〜11回の受賞団体一覧

34 都道府県別・団体データ

34 北海道

40 青森

49 秋田

61 茨城

73 千葉

82 新潟

91 富山

103 静岡

112 滋賀

121 兵庫

130 鳥取

139 広島

148 香川

157 福岡

169 大分

43 岩手

52 山形

64 栃木

76 東京

85 山梨

94 石川

106 愛知

115 京都

124 奈良

133 島根

142 山口

151 愛媛

160 佐賀

172 宮崎

46 宮城

55 福島

67 群馬

79 神奈川

88 長野

97 福井

109 三重

118 大阪

127 和歌山

136 岡山

145 徳島

154 高知

163 長崎

175 鹿児島

100 岐阜

70 埼玉

166 熊本

178 沖縄

コラム まちづくりチャレンジの「いま」

37 コロナ禍でイベントに知恵絞る

39 高校生が地域で活躍

45 フランス、英国の地域運営組織

57 国連の持続可能な目標に重なる

59 グッズ販売などで財源に工夫

63 中間支援団体の役割増す

66 頑張る自治会・町内会

61 解散・休止の形もさまざま

コラム 大賞・準大賞選考の決め手

75 地域再生大賞の選考委員

86 第1回（2010年度）

90 第2回（2011年度）

95 第3回（2012年度）

119 第4回（2013年度）

123 第5回（2014年度）

129 第6回（2015年度）

135 第7回（2016年度）

137 第8回（2017年度）

143 第9回（2018年度）

159 第10回（2019年度）

177 第11回（2020年度）

183 協賛社・後援団体のことば

184 中日本高速道路（NEXCO中日本）

185 日本取引所グループ（JPX）

186 東日本高速道路（NEXCO東日本）

187 ゆうちよ銀行

188 ローソン

189 城南信用金庫

190 都市再生機構（UR）

191 年表・地域再生大賞のあゆみ

192 地域再生大賞事務局連絡先

第11回地域再生大賞実行委員長 光安 善樹

(南日本新聞社取締役編集局長)

全国の地方新聞46紙と共同通信社が運営する「地域再生大賞」は地域づくりに挑む団体を応援するために贈られます。2010年度に創設して以来、11回を重ね、表彰した団体は延べ550団体に達しました。ひとくちに地域づくりといってもその規模や手法、スタイルは実にさまざまです。ただ各団体の活動には共通点があります。一つは地域が抱える多様な課題に正面から向き合っていることです。そこに地元愛あふれる人たちがいます。そして地域の自然や文化、コミュニティーなど足元の資源を生かそうとするたゆまぬ営みがあります。飽くなき知恵と自在な工夫で大きな成果を上げているのです。

人口減少や担い手不足を背景に地域社会を取り巻く環境は厳しさを増しています。そんな中、新型コロナウイルスの直撃を受けました。しかし、住民主体の地域づくり活動は力強さとしなやかさを併せ持っています。コロナ禍を機に、ITを駆使して支え合いの輪を広げるといった新たな活動も始まりました。

地域活性化に魔法のつえはありません。地に足の着いた取り組みで一つ一つ困難を乗り越えていく。地域再生大賞はそんなチャレンジの軌跡を紹介しています。個別の活動が県境を越えたネットワークに発展するなど地域づくりの可能性は広がっています。地域再生大賞に蓄積された事例やノウハウは、地域を未来に引き継ぐヒントになると確信しています。

選考委員のことば



大桃 美代子
(タレント)

Profile 新潟県中越地震で魚沼市内の実家が被災。食育や農業に関心を持ち、復興や地域振興に取り組む。新潟食料農業大客員教授。

時代対応の「虎の巻」に

「地域再生大賞」の選考に携わらせていただき、10年。この期間、時代の大きなうねりのしわ寄せが地方に起こりました。自助、公助、共助のバランスを探し、わが町をより良くするヒントや人に出会い、日本の底力を感じます。「ここで出来ることはある」。粘り力が次の力へ。10年を迎え、時代対応の「虎の巻」的な本の完成にワクワクしています。10周年おめでとうございます。

仕事、暮らしを紡ぐ風土と文化

地域再生大賞を通じて、各地で多彩な活動に取り組む方々と出会いました。そのたびに、私たち一人一人がかげがえのない存在であり、創造性の源であることに気付かされます。そんな人と人がつながり、さまざまなコトやモノが豊かに生み出されるのが地域であり、独自の気候風土や文化を持った地域は、仕事や暮らしを紡ぐ豊かな場だと感じます。各団体の活動に対する敬意とともに、地域の営みが次世代に継承され、また地域を超えて新たなつながりが生まれていくことを祈ります。



沼尾 波子
(東洋大教授)

Profile 慶応大大学院修了。2017年から東洋大国際学部教授。地方財政で地域づくりを支える行財政システムを研究。千葉県出身。

持続可能性高める礎として

「地域とともに生きる」。地域再生大賞10年間で出会った数多くの団体や活動は、まさにこの言葉を体現するものばかりでした。厳しい状況から何とか光明を見いだそうとするもの、地域の資源を生かし未来につないでいこうとするものなどさまざまです。100年後に地域に暮らす人々のために、私たちは今いかに生きるべきなのか。各団体の取り組みは、地域の持続可能性を高める礎となり、未来の人々に引き継がれていくことでしょう。



藤波 匠
(日本総研研究員)

Profile 東京農工大大学院修了。日本総研に入り、2015年から上席主任研究員。地方活性化などが専門。神奈川県出身。

チャレンジの軌跡

受賞団体の取り組み紹介

地域再生大賞とは

地域再生大賞は、地方新聞46紙と共同通信社が、地域に活気を与え魅力を高める活動に取り組み、成果を上げた団体を表彰しようと2010年度に設けました。人口減少、高齢化、格差、災害など、地域の課題解決に挑む団体を応援する思いを込めました。

毎年度、秋に新聞社などが計50の団体を大賞候補として推薦。選考委員が書類審査、現地調査を経て年明けに大賞、準大賞、ブロンズ賞、優秀賞などを決定します。受賞団体の取り組みは新聞紙面やインターネットで多角的に報道します。第11回（20年度）は副賞として、大賞1団体に100万円、準大賞2団体に各15万円、ブロンズ賞6団体に各10万円などを贈呈しました。

表彰式は毎年2月です。第11回は新型コロナウイルス感染拡大のため、各地で個別に表彰しました。団体の活動の様子は公式フェイスブックページに連日、掲載しています。

主催

地域再生大賞実行委員会
（北海道新聞、室蘭民報、デーリー東北、岩手日報、河北新報、秋田魁新報、山形新聞、福島民報、福島民友新聞、茨城新聞、下野新聞、上毛新聞、埼玉新聞、千葉日報、東京新聞、神奈川新聞、新潟日報、山梨日日新聞、信濃毎日新聞、北日本新聞、北國新聞、福井新聞、岐阜新聞、静岡新聞、中日新聞、伊勢新聞、京都新聞、神戸新聞、奈良新聞、日本海新聞、山陰中央新報、山陽新聞、中国新聞、徳島新聞、四国新聞、愛媛新聞、高知新聞、西日本新聞、佐賀新聞、長崎新聞、熊本日日新聞、大分合同新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、沖縄タイムス、琉球新報、共同通信）

協賛・協力・後援

第1～11回の地域再生大賞で協賛、協力、後援をいただいたことのある企業、組織は次の通りです。ご支援に心から御礼申し上げます。（五十音順）
協賛 住友化学、第一生命保険、中日本高速道路、西日本高速道路、日本政策金融公庫、日本たばこ産業、日本取引所グループ、農林中央金庫、野村證券、東日本高速道路、三井住友海上火災保険、三井住友銀行、ゆうちょ銀行、ローソン、城南信用金庫（地域パートナー）
特別協力 全日本空輸、トヨタ自動車
後援 環境省、厚生労働省、国土交通省、財務省、全国市長会、全国知事会、全国町村会、総務省、地域経済活性化支援機構、中小企業基盤整備機構、都市再生機構、内閣府、農林水産省、文部科学省
制作協力 エフエム東京（横山茂）

NPOなど地域運営組織の活動が目覚ましい。少子・高齢化への対応や困窮者への支援といった課題への対応のほか、ゆとりある豊かな生活の実現に向けたまちづくりも担う。今後も大規模災害への備えや地球温暖化対策など幅広い分野での成果が期待される。地域運営組織の活動の根拠となる法制度の拡充に加え、資金や人材育成などでの国や地方自治体の支援も一層求められている。

自治体に代わりまちづくりの主役に 地域運営組織が創意工夫と気概で

地域再生大賞の各受賞団体には、歴史や伝統を継承しあるいは自然景観の保全などに努めながら、自分たちの手で地域を創造している。戦後の復興期はともかくとして、日本が世界第2位の経済大国への道をまい進した高度成長期、そしてバブル経済の崩壊と今日の低成長時代に至るまでの間に生じた、中山間地の過疎と都市の過密、少子化と高齢化そして困窮者の増加や格差の拡大といったひずみや課題を克服しようという取り組みが、日本列島の各地で続けられてきた。ひずみや課題に立ち向かうだけではなく地域の資源や特性を生かして、ゆとりのある豊かな生活が送れる地域をつくろうという果敢な挑戦もまた行われてきた。地域再生大賞の各受賞団体は日々創意工夫を積み

重ねる中から、とりわけ成果を上げた団体とすることができよう。社会的企業としての活動目立つ

地域の活動団体には、自治会・町内会のような地縁組織にNPOや組合組織を含むさまざまな非営利団体があり多岐にわたっている。地域運営組織と呼ばれるこれらの団体は、単独の活動だけでなく、目的や利害を共有する地域内外の他団体とネットワークを組んだり、中には海外に連携の輪を広げるケースも見られるようになった。

近年の地域運営組織は、NPOを中心に社会的企業（ソーシャル・ビジネス）としての活動が目立つようになった。その活動は一般の企業とあまり変わらないようにみえる場合

もあり、利益の追求もする。しかし得た利益は配当に回さず留保して、活動の拡大や新たな活動の費用に充てるところが一般の企業とは異なる。また福祉や教育、さらに環境や文化・芸術など利益を上げにくい、住民生活に不可欠な分野で活動するところに社会的企業の意義がある。

福祉や教育、環境それに文化・芸術といった分野での事業のサービスや運営は、高度成長期にはもっぱら地方自治体が担っていた。しかしバブル経済の崩壊後に相次いだ景気対策で借金がかさんで国や自治体の財政が大きく悪化したことや、小泉純一郎内閣で「官から民へ」が進められて以後、住民サービスや公共施設の運営などで民間への業務委託が広がった結果、自治体の役割は縮小・後退することになった。

こうした背景や経緯から、自治体の役割を引き受ける形で社会的企業の参入が急速に進んできた。一方で「ふるさと創生」や「地域再生」、そして現在も続く「地方創生」といった地域振興策が、時の内閣や政権の重要政策に掲げられたことを受けて、まちづくりや地域づくりへの住民の関心が高まった。また2000年の地方分権一括法の施行は、地域のことは住民自ら考え実践しているという「自治の機運」を高めることにもつながった。さらに、阪神大震災と東日本大震災をはじめ台風や豪雨などの大規模災害が相次ぐ中で、復旧・復興や防災対策でも自治会・町内会はじめ地域運営組織の活動が重みを増している。

自治体による支援の動き広がる

このように地域で存在感を高めている地域運営組織の活動の幅は今後一層広がるのが予想される。ただNPOなどの中には、活動に必要な

資金や担い手の確保に悩む団体が少なくない。

さまざまな課題を抱えるNPOなどを支援する動きが自治体の間で広がっている。活動資金の支援を目的に補助金や住民の寄付などで基金をつくったり、組織の運営や活動に必要な専門知識が得られるセミナーやボランティアへの研修を実施している自治体もある。ただ自治体が前面に出すぎると、「押しつけ」として反感を招きかねない。

地域運営組織の中には自治体の補助金を受けず、自己資金や寄付金で賄うなど自治体との関係に一線を引いている団体がある。一方で公共施設の運営を受託したりして、活動資金を補助金や委託費に依存しているNPOなどもある。いずれにしても自治体は、必要に応じ資金を支援するなど「黒子」に徹することが求められる。公民館などに所属する自治体職員が、地域運営組織の事務局を務めるといった支援があってもいいだろう。

2020年12月に国会で労働者協同組合法が成立した。一般の企業と異なり、住民が出資し同時に労働者として働きながら経営も担うのが特徴で、地域の多様な課題や需要に 대응するとともに、多様な働き方にも寄与すると期待されている。社会的企業を含めて、地域運営組織の活動を支える制度面の整備が一層必要だ。

日本の少子・高齢化は今後も止まらず、中山間地では「集落崩壊」や山野の荒廃が、都市部では独居の高齢者の介護、困窮者への生活支援などがさらに深刻化することが懸念されている。大規模災害への備えのほか、地球温暖化対策や平和への取り組みなど広い視野も求められている。新型コロナウイルスの世界的流行という異常事態に、活動の停滞や目標・計画の変更を余儀なくされるような厳しい状況も乗り越えながら、一人一人が安心してゆとりのある生活を送れる地域が日本列島に広がるよう、NPOをはじめ地域運営組織のこれからの10年に期待したい。

鎌田 司 (かまた・つかさ)

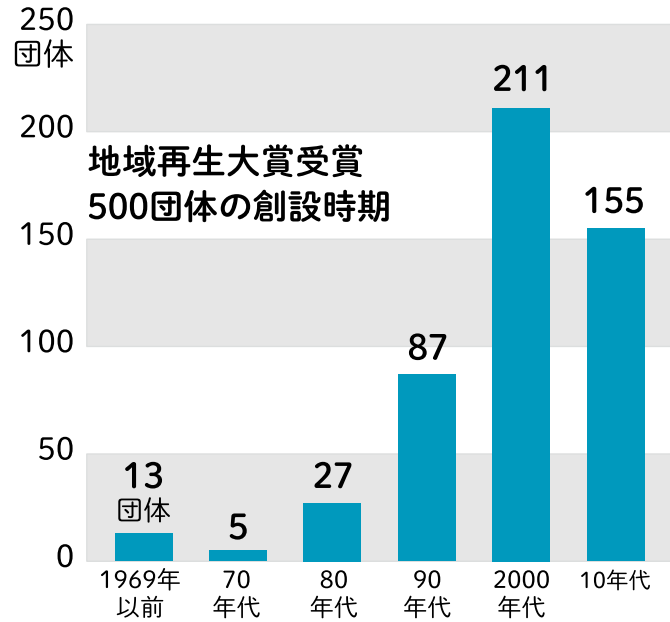
1949年生まれ。元共同通信編集委員兼論説委員。地方自治・分権改革など行政取材を主に担当した。第1回～3回の地域再生大賞で選考委員。総務省の地方財政審議会委員を務めた。共著に「フランスの地方分権改革」など。



【報告】500団体の活動や組織を分析

全受賞団体のうち、2000年以降に活動を開始した団体が7割を超す。中山間地での米や唐辛子、漆の特産品づくりのほか、I・Uターンや移住の促進、都市部での子育て支援や空き店舗対策などで成果を上げている。NPO法人が150団体など、法人格を持つ団体が増えているが、全体では任意団体が半数を超す。目的を達成して活動をやめるなど、20を超す団体が活動の休止や解散をしたり、検討中としている。

鎌田 司 (かまた・つかさ)



※2団体は時期不明

「陽気な母さんの店」(秋田県大館市)は、「農家の母さん」の視点で直売所を拠点に加工品づくりや郷土料理、農産物の宅配など幅広く活動している。

500団体の約7割が、発足後わずかな年月で成果NPO法人が150、休止・解散は約20

地域再生大賞の創設から10年間で表彰された500団体のうち、70%以上(364団体)が2000年以降に設立されている。組織化されて比較的日子が浅い団体が、地域の課題と精力的に向き合い成果に結び付けていったことは高く評価される。

最古の団体は「千葉之家花駒座」(福島県檜枝岐村)で1920年ごろの設立という。約500人が住む山深い村に270年以上続く、伝統芸能の檜枝岐歌舞伎を守り続けてきた。

組織化の動きを年代別にみると、1989年までは計45団体だったが1990～99年に87団体と増加し、2000年に入ると急増して09年までに211団体、さらに10～19年も155団体に上った(2団体は不明)。

グローバル化の進展により日本各地に大きな変化の波

1990年代以降はグローバル化の進展に伴う、経済・社会の大きな変化への新たな対応が全国的に求められた時期でもある。加えて2004、05年あたりから人口減少が現実化し、高齢者介護のほか空き家対策も浮上した。中山間地や離島では、小学校の廃校のほか商店・スーパーの撤退、さらにはバスや鉄道路線の廃止に直面し、食料品の確保も困難な「買い物難民」や通院・通学にも不便といった問題が各地で起き、対応が喫緊の課題となった。

高知県四万十市の「大宮産業」は、過疎化で撤退した店舗を住民出資の会社が引き継ぎ、日用品販売やガソリンスタンドも備えるなど、住民自

「かさおか島づくり海社」(岡山県笠岡市)は、瀬戸内海の七つの離島の住民有志が行政と連携し、介護事業や買い物支援のほか、地元産のノリを活用したせんべいなど特産品の開発にも力を入れる。「色川地域振興推進委員会」(和歌山県那智勝浦町)は、消滅の危機にあった集落の住民たちが移住者の定住に向けて地道な活動を展開した結果、移住者数が約320人と住民の半数を超す。「移住2世」が跡継ぎとなり「3世」も生まれている。

子育て支援や高齢者支援都市部の課題に取り組む

一方、都市部では中心市街地の空洞化や商店街の衰退・空き店舗の増加への対策のほか、子育て支援や「子ども食堂」を含めた困窮者への支援が急務となった。「匠の町しすわ・あきないプロジェクト」(長野県下諏訪町)は、商店街の空き店舗で若者にもものづくりの起業をしてもらう

ら暮らしの維持に立ち上がった。「ブルリバー」(広島県三次市)は、住民出資の有限会社が住宅を建設し移住者の若いファミリーに貸し出した。この結果、移住者の子どもたちが通学し始めて廃校寸前の小学校は維持され、今では地元の子どもの多いという。他方、廃校舎を映画祭や現代アートの会場に活用するといった団体もある。

過疎化する地方でI・Uターンや移住の促進

棚田や耕作放棄地での特産米づくり、唐辛子や漆など農林水産品を生かした取り組みをしている団体は約50、I・Uターンや移住促進に力を入れている団体は30近くあり、取り組みが双方にまたがる団体も多い。

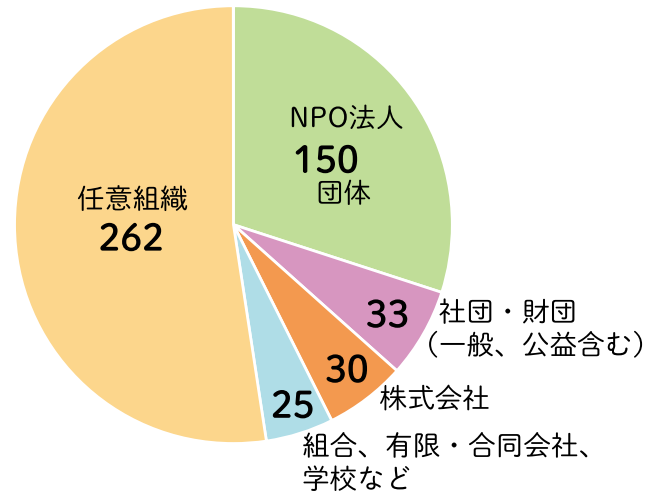


色川地域振興推進委員会(和歌山県那智勝浦町)

取り組みで、木製自転車店など延べ30店以上が開業した。商店街の空き店舗をカフェに改装して高齢者らが集う場になったり、閉館した古い旅館を含めてまちづくりの拠点に活用する団体も多い。

また「はやめ人情ネットワーク」(受賞当時の名称ははやめ南人情ネットワーク、福岡県大牟田市)は、高齢者の孤独死を出さないよう民生

第1～10回地域再生大賞
受賞500団体の内訳



委員や老人クラブなど地区挙げての見守り活動が、「大牟田方式」として全国に広がるきっかけをつくった。沖縄県浦添市の「ていーだこども食堂」(受賞当時の名称は浦添小學校PTA)は、子どもたちに無料で昼食を提供したり、経済的にゆとりのない家庭の子どもに「無料塾」を開いている。支援に関わるボラン

組織形態はさまざま

500団体のうちNPO法人が150ある。発足時に認証を受けた団体のほか、住民有志らの任意団体からNPO法人に切り替わったケースも多い。また一般社団・公益財団法人が33、株式会社が30ある。協同組合などの組合や自治会・町内会のような地縁団体、さらに信用金庫や高校もあるが、全体では半数以上が任意団体となっている。地域の多様な課題や新たな雇用形態にも対応できる労働者協同組合法が施行されると、法人格を取得する団体が増えることが予想される。

一方で、20を超す団体が活動を休止・解散、あるいは休止・解散を検討している。目的を達成して活動をやめた団体がある半面、活動資金に窮するなどして解散した団体もある。中には組織を解散した上で、これまででの活動で培ったネットワークを生かし新たな課題に挑戦している団体もある。

ティアには「生きがい」という効果を生んでいる。



はやめ人情ネットワーク(福岡県大牟田市)

時代とともに変化する
取り組みの目的、手段

環境への取り組みも自然環境だけでなく、宿場町や町家が建ち並ぶ伝統的な街並み、さらに鉄道などの近代産業遺産の保全にも広がっている。「京町家再生研究会」(京都市)は、居住者、研究者、技術者らが200軒を超す町家の再生に関わった。改修技術を伝えるため各地の団体とも

積極的に交流している。

にぎわいの創出や地域の活性化を目指した、映画祭や音楽祭などイベントの主催団体も多い。「山形国際ドキュメンタリー映画祭」(山形市)は海外作品が集まる映画祭として注目を集める。「湯涌ぼんぼり祭り実行委員会」(金沢市)は温泉地がアニメのモデルになり、場面を再現するイベントが今や「祭り」にまでなった。しかし、新型コロナウイルスの世界的感染拡大に伴い、多くのイベントが中止や延期、規模縮小のほかオンライン開催などへの変更を余儀なくされた。

東日本震災など災害後の復旧・復興や防災に関わる団体は20を超す。「多言語センターFACILE」(神戸市)は阪神大震災の際、在留外国人の支援に関わったのが始まりで、今では約1300人の登録通訳者や翻訳者が約60言語に対応して、各地の防災マップや就学通知などの多言語化に貢献している。

人口減に幅広い取り組み、
経済とSDGsのつながりも

地域再生大賞の1～10回までの全500団体を活動分野で分析してみた。1団体あたり三つまでのカテゴリを当てはめたところ、トップは「文化・スポーツ」で団体の34%が相当。2位「まちづくり」(30%)、3位「商工業・経済」

高齢化・若者誘致」で活動する91団体の30%が「まちづくり・環境」、25%が「農・魚・食」、22%が「商工業・経済」にも取り組んでおり、幅の広さが目立った。人口減に悩む地方の人々が知恵を絞り、力を尽くしている様子が浮かぶ。

「農・魚・食」(いずれも25%)、5位「過疎・高齢化・若者誘致」(18%)、6位「子ども・親・教育」(17%)、7位「連携」(14%)、8位「共生・福祉・医療」(10%)、9位「防災・復興」(7%)だった。活動の重なりでは「過疎・

一方「商工業・経済」に取り組む125団体の20%は「文化・スポーツ」、17%は「まちづくり・環境」に関わっており、企業メセナや、持続可能な開発目標(SDGs)とのつながりが感じられた。(橋田欣典)



得意分野を 組み合わせ成果



都岐沙羅パートナーズセンター（新潟県村上市）

「都岐沙羅パートナーズセンター」は1999年に発足、新潟県村上市を中心に着実に実績を重ねてきた。センターの枠にとどまらず行政や住民、企業を仲介し、さまざまなアイデアを吸い上げ、それぞれの力を生かして地域づくりを進めるのが最大の特色だ。

伝統の織物を体験・販売する施設や、廃校の食堂への活用、どぶろくの醸造など特色ある事業に取り組んできた。2019年に新潟県で開催された全国障害者芸術・文化祭の展示会コーディネート準備を担当したことがきっかけとなり、地元企業と提携、障害者アートを生かした商品開発プロジェクトを開始した。

住民が中心となって地域課題の解決に取り組む「地域運営組織」の支援にも力を入れる。国勢調査データを利用した地区単位の人口の推移と将来予測を「地域カルテ」として公

島の火山灰で余分な水分や臭みを吸収させて干物として販売、注文が相次いだ。

2019年6月には、アンテナショップ「島のコンシェルジュ」しまのこし」を笠岡市の市街地に立ち上げた。風景、食といった笠岡諸島の魅力を国内外に発信するほか、島に移動する玄関口として観光情報を提供。ただ、コロナ禍で当面、食事の提供は中止し、観光案内や特産品の販売などに特化している。

また「島の特産品を陸側で販売したい」という思いから、島行きの船が発着する港に特産品販売所「ゆめぼくと」も展開。土、日、祝日限定で職員を派遣し、魚のフライやたこ飯など、島のお母さんらの手作り総菜などが好評だ。鳴本浩二理事長は「コロナ禍でも、感染防止を徹底した上で、実施できるイベントはやっていきたい」と語る。

開。中学生以上の全住民を対象にしたアンケート、住民同士の対話を通じて生かすコーディネート術など、実践から培ったノウハウを各地で伝えていく。

14年からは林業体験プログラムをコーディネート、当初は高校生までが対象だったが、大学生に拡大して継続している。参加者から6年間に16人が林業関連の職に就いた。親子を対象にしたプログラムも人気だ。

また地元工務店と協力、モデルハウスを空いている時間にコミュニティスペースとして開放する取り組みで管理業務を担当している。子育てママのサロンや各種教室の場として地域に定着し、高い稼働率となっている。

コロナ禍では、20年夏に発足したフードバンクが、地域内で生活困窮者のための支援物資を調達できる仕組みづくりを後押ししてきた。20年

代表者のことば



鳴本 浩二 理事長

高齢化が進む島だが、1日でも長く人々が共生できるようにしたい。支え合う中で重要な問題は救急医療だ。医師の確保、救急ヘリコプター、救急艇の整備に取り組んでいる。生活物資や薬などを運ぶドローンに注目しているが、重いものを運ぶのが難しい。それなら海中を走る、水中ドローンも実用化できるのではないかと。若い人を呼ぶためには、仕事の場をつくることに尽きる。民家や施設、廃校を利用する作戦も立てていきたい。

以上にわたって培った「縁の下の力持ち」の伝統は多様な分野で息づいている。

代表者のことば



近 良平 理事長

全住民アンケートを通じて地域の課題をあぶり出す取り組みをしている。高齢者の見守りなど住民が困っていることを最初にやっていきたい。コミュニティビジネスと、地域課題の解決は同じことだ。そして地域に多くの人が来てもらいたいとグリーンツーリズムの取り組みもしている。コロナ禍を経てリモートが広がり、全国に地域を発信できるようになった。しゃがみ込んで蓄えた力を、これから出していきたい。



島の生活を 全面サポート



かさおか島づくり海社（岡山県笠岡市）

人口流出や高齢化の課題に直面する、瀬戸内海の七つの離島で危機感を持った島民が立ち上がった。保育園の運営や介護事業、買い物支援など島で暮らすために解決しなければならぬ問題を全面的にサポートする体制を構築している。行政と連携しNPO法人が主体となり、生活基盤を支える取り組みは全国の過疎地でも応用できそうだ。

七つの離島は、岡山県笠岡市の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島。1950年の人口は計約1万2千人だったが、現在は1600人に減少し、高齢化率は約7割に達している。

各島の住民のつながりを深めるため毎年5月「島の大会」を開催。島外に住む島出身者も集まり、地域の一大イベントに育っている。

特産品開発にも力を入れる。セロハンに包んだ瀬戸内海の魚を、三宅



地域と外国人 の懸け橋に



多言語センターFACIL（神戸市）

阪神大震災で経験を培った外国人被災者向けの支援が出发点だ。通訳派遣や翻訳をコミュニケーションビジネスとして展開、在留外国人に仕事や社会参加の場を提供しながら、多文化共生に向けた政策提言に取り組み。登録通訳・翻訳者は約1300人で、約60言語に対応。防災マップや就学通知など各地の行政情報の多言語化にも企画段階から携わってきた。20年の実績と当事者ならではの心配りで、情報の受け取り手に寄り添った提案ができるのが強みだ。

地域の拠点病院と連携し、医療通訳にも力を入れる。通訳を介するうちに日本人の患者も医師の説明が分かりやすくなるといい「多言語の環境を整え、やさしい日本語で情報を提供する」ことは、お年寄りや子どもにも喜ばれる」と吉富志津代理事長。「言葉の壁に配慮することは社会の寛容度を高め、成熟させる大きな種

になる」。多様な住民が暮らしやすい街づくりを目標に実践は続く。「必要な情報が届いていない人がたくさんいる」。コロナ禍でも動きは素早かった。在留外国人ら翻訳ボランティアの協力を得て、ホームページで特別定額給付金の申請方法や、新しい生活様式についての解説を最大16言語で公開。

利用が年間千件にまで増加し、遠隔通訳化が数年来の課題になっていた医療通訳のコーディネート事業では、オンライン診療の広がりもあり、2割程度だったテレビ電話による遠隔通訳が5割に上昇。「有効なツールを活用すれば、変革につながる」。スタッフや通訳者がリモートワークで働ける環境を整えつつ、多言語化事例のデータベース化や情報発信に当たり在留外国人のグループや支援団体と協働できるプラットフォームづくりにも取り組む。

代表者のことば



吉富 志津代 理事長

設立から21年となり、世代交代を準備している。成り立ちの契機となった阪神淡路大震災を経験していない世代への引き継ぎが大切だ。外国にルーツを持つ住民と一緒に生活者として暮らすようになった。社会が変わるのには時間がかかる。魔法のつえはない。次のステップに向け地道に活動を続けてほしい。

多言語、多文化、翻訳といった活動をコミュニケーション、ソーシャルビジネスにして社会的問題を解決してきた。社会変革、活動という意識と、ビジネスとして成り立つかということが大事だ。ITは活用できるし社会もそれに慣れた。プラスと捉え、柔軟に対応することが大事だ。



女性輝く 体験交流型直売所



陽気な母さんの店（秋田県大館市）

安売りや生産者の顔写真でPRしない。ひと味違う農産物直売所は客足が途切れない。「責任を持ちおいしさと安心を売っている」と石垣一子社長。生産者と消費者の気持ち

が分かる「農家の母さん」の視点で弁当宅配や民泊などを事業化、体験交流型直売所に育てた。リングなどの栽培が盛んな秋田県大館市は収穫期だけ開く直売所が主流。石垣さんの常設店には反対もあり、行政の補助金が得られなかった。しかし「嫁だからと遠慮せず、胸を張って農業を発信したい」との思いを共有する女性農業者88人が出資して、2001年に営業を始めた。全員が減農薬栽培に取り組み、買

校や福祉施設にも取引は広がり、15年に株式会社化した。21年に開業20年を迎えた。20年のコロナ禍では雪の影響で生鮮野菜が少なくなる3〜5月に、売り上げを下支えしていた修学旅行生や留学生との体験交流事業が軒並みキャンセルとなり、売り上げが25〜48%減に。一時は閉店も議論したが、住民から「続けてほしい」と強い要望を受け、

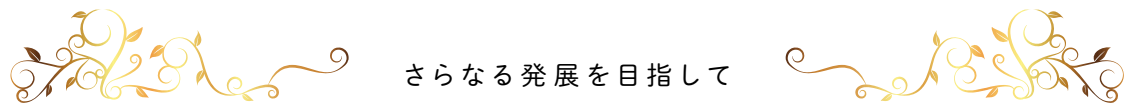
高齡化が最大の課題だ。集落の圃場整備が進み、野菜を栽培していた小さな農家がやめて直売所への出荷が少なくなっている状況もある。これからは集落営農の人たちともつながりたい。地場のそれぞれの産物で食卓が潤うようにしたい。若い人たちに売り場を提供し、販売や消費者との面白さを感じる交流型体験を進めてきたが、コロナ禍でその大切さをさらに感じた。農村のすてきな景観と心の潤い、人とのつながりを保っていき

代表者のことば



石垣 一子
代表取締役社長

たい。



さらなる発展を目指して

「第11回地域再生大賞 — コロナ禍を越えて」 受賞50団体が決定

新型コロナウイルス感染が広がる中での選考作業となった「第11回地域再生大賞」。2021年1月30日に決定した受賞50団体は、生活が苦しい世帯の子育てや医療現場、飲食店の支援に取り組む団体が目立った。



市民発、 現場目線で 支える



佐賀未来創造基金（佐賀市）

子どもの育ちや学び、災害復興、まちづくり、環境問題……。さまざまな地域課題の解決を目指す「市民コミュニティ財団」は2013年の発足から8年近くに、19年度までに400以上の団体を支援、助成総額は8400万円を超えた。

「お金を集めて配るだけの存在にはならない。現場の困り事を社会に伝え、地域でヒトやモノ、寄付者の思いが込められた『志金』、情報を循環させる」。山田健一郎代表理事は市民活動団体や行政、企業との意見交換で日々走り回る。時には水害の被災地で「泥かき」もする。

新型コロナウイルス対応で苦しむ医療従事者、学童保育関係者には、寄付を募る前に手持ちの資金を拠出。民間ならではの柔軟性とスピード感が強みだ。

市民活動への寄付を受け付けてい

異例の状況下、第11回地域再生大賞

第11回地域再生大賞は、新型コロナウイルスに対する地域の取り組みに着目し、「コロナ禍を越えて」という副題を特に設けた。また表彰対象を団体だけではなく、広域連携などのプロジェクトに拡大。コロナ関連の活動については過去の受賞歴を問わず、推薦できるようにした。2020年秋に推薦50団体が出そろったがコロナ禍は収まらず、選考委員の現地調査に代えてリモートで活動状況を聞き取った団体も多かった。そんな状況の中、各団体の事態打開に対する意欲は極めて高く、アイデアも斬新なものが目立った。

る佐賀県のふるさと納税を通じた資金集めに取り組む。休眠預金を民間の公益活動に生かす制度に基づく資金分配団体にも選ばれた。先行的に取り組む団体として、九州各県のコミュニティ財団立ち上げもサポートする。



民間の視点で 空き家対策



ふるさと福井サポートセンター（福井県美浜町）

全国的な懸案となっている空き家対策に民間の視点でアプローチし、社会福祉協議会や学校などを巻き込んだ再生・マッチング戦略のほか、有効活用的前提となる実態調査など各種支援システムの開発を積極展開している。

タブレット端末のアプリで効率的に空き家の状況をデータベース化する「ふるさぽマップ」を地方自治体向けにリリース。建物の状態の判定方法など実践的なノウハウを7項目に分けて整理した小冊子の調査マニュアルも作成した。

さらに「所有者の早期決断が空き家を救う」をスローガンに、住む人がいなくなつてからの「川下」の対策を前倒しして、将来の空き家の発生を見越した「川上」の対策で有効活用を図っている。

そんな問いに対する意思決定の緊急度を簡便に測る無料の診断サイトは、各地の空き家バンクへの登録促進も期待できる。

2020年には、空き家問題に向き合う活動家や団体が予防策とノウハウを共有できる「オンラインサロン空き家ラボ」を立ち上げた。全国各地のパンフレットやチラシの公開、先進的な取り組みのインタビューなどで、共通の課題に取り組む「同志」を相互支援している。

また、家庭用ゲーム機の人気ソフト「あつまれ どうぶつの森」を使った空き家予防のアドバイスや、解体が決まった家屋の古材を何らかの形で利活用する「古材救済プロジェクト」なども積極的に展開。こうした活動が評価され、総務省の「令和2年度ふるさとづくり大賞 団体表彰」にも選ばれた。

代表者のことば



北山 大志郎 理事長

空き家所有者の早期決断が前進している。LINE（ライン）を使って所有者とのコミュニケーションを密に取り、理解が深まった。一方で集落の人に所有者の思いが伝わらないことが多い。それでは移住者が空き家に来てでも理解が得られず、地域の発展につながらない。そこを今後やっていきたい。ほくらの活動は福井県美浜町に限られるがノウハウが蓄積され、やればやるほど地域のことが見えてくる。取り組みが各地に広がってほしい。



つばめいと (新潟県燕市)

企業に研修学生 受け入れ

洋食器など金属加工産業の中小企業が一緒になって学生をインターンシップで呼び込もうと2016年に経営者有志を中心に設立した。大学・学生が求める研修内容と、企業側が受け入れ可能な人材・コースをコーディネートがマッチング。年間300人前後の学生を県内だけでなく首都圏や海外の大学から受け入れる。現場に若者を迎えることは企業にも新たな気付きをもたらす。

地元商店街の一角に、学生十数人が寝泊まりでき、会議室も備えた交流施設を整備。大学関係者によるワークショップを開催するなど活動の幅が広がった。若者が滞在することで商店街にも活気が戻りつつある。



志摩市民病院 (三重県志摩市)

赤字解消、 開かれた病院に

人口減少を背景として、2015年度の赤字は約4億円に達した。診療所への規模縮小が検討され、医師3人が退職する事態に至る。そんな中、1人残された江角悠太医師が16年4月に34歳で院長に就任、さまざまな改革に乗り出した。どんな患者も拒まない「断らない医療」を理念に掲げ、手厚い医療を打ち出した結果、病床が埋まってきた。病院の収支は改善に向かった。医療系以外の大学生や地元中高生も実習生として受け入れ、高齢患者の心のケアを担当してもらうなど独自の取り組みが好評だ。毎年秋には住民を招いて「病院まつり」を開催。存続の危機にあった病院は、地域に開かれた場によみがえった。



東彼杵ひとこともの公社

地域の未来賞兼九州・沖縄ブロック賞

廃倉庫を改装した交流拠点施設を立ち上げてにぎわいを創出し、周辺エリアでの新店舗開業を支援。フレンドレストランやアンティークショップなど5年間に約20店がオープン、県内外からの移住につながった。



(長崎県東彼杵町)

小さな村総合研究所

関東・甲信越ブロック賞

「小さいから、できる」。村度ならぬ「ソクタク(村民タクシー)」や薬膳ビクルス開発に取り組み。「g7(小さな村サミット)」では全国7ブロックの村が連携。都内に7村共通の拠点となる特産品店舗を設けた。



(山梨県丹波山村)

三方よし研究会

近畿ブロック賞

病気になるっても住み慣れた地域で暮らせるように「患者よし、機関よし、地域よし」を掲げ医師や看護師、理学療法士、行政、消防隊員らが意見交換、顔の見える関係を築く。切れ目なく患者に寄り添うネットワークを目指す。



(滋賀県東近江市)

北海道・東北ブロック賞 BOOT(ブット)

山あいの小さな集落にある元中学校の木造校舎で「西会津国際芸術村」を運営。内外のクリエイターが活動拠点に使えるほか、各種交流イベントを企画。観光客も呼び込む。アーティストをはじめ多様な人材の「関係人口」を増やす。



(福島県西会津町)

東海・北陸ブロック賞 RENEW実行委員会

伝統工芸や地場産業が集積する丹南地域で、工房を開放して作り手と使い手が出会うイベントを開催。漆器、眼鏡、和紙、打刃物、箆笥、焼き物、織維と7産地を結び、80社前後が参加、3万人以上が訪れる。



(福井県鯖江市)

中国・四国ブロック賞 おかやま親子応援プロジェクト

コロナ禍で孤立や学習の遅れ、生活困窮、虐待など親子にさまざまな問題が起きた。30以上の民間団体・個人が結集。オンラインでの学習支援やワークショップ、生活情報提供に取り組む。



(岡山市)

近畿ブロック

KOKIN

(京都府舞鶴市)

町屋や空き店舗を改装した多目的スペースやゲストハウスを運営。地元企業と連携し地域商社も設立。



多文化共生センターひょうご

(神戸市)

在留外国人の支援へ日本語教室を開催、確実に医療を受けられるように仲介するボランティアも養成。



白浜レスキューネットワーク

(和歌山県白浜町)

観光名所として知られる一方、自殺志願者が後を絶たない断崖「三段壁」に「いのちの電話」を設置。社会復帰支援も。



九州・沖縄ブロック

uma u. (ウマウ)

(福岡県久米市)

母子家庭の女性らが合同会社を設立。約70のひとり親家庭とつながり食料など支援。



みさと

(熊本県芦北町)

地元の子もたちに豊かな里山の大切さや地域の伝統行事を伝える。炭焼き体験教室も。



水辺に遊ぶ会

(大分県中津市)

カブトガニやアオギスなどがいる遠浅の海を中津干潟と名付け、清掃や松林再生、自然体験活動。



宮崎がん共同勉強会

(宮崎市)

化学療法で生じる副作用など当事者にしか分からない悩みなどを語り合う。ビデオ会議も活用。患者同士が支え合う場に。



鶏の生食加工業者協議会

(鹿児島県南九州市)

食肉処理の衛生基準作りに取り組み、提供店の認証制度を創設、臨時観光列車で安全性をアピール。



出前市場

(那覇市)

観光客も多い旧牧志公設市場に隣接する商店街で始まった共同宅配。大手では真似できない魅力。



国頭村安田区

(沖縄県国頭村)

絶滅寸前と言われた国の天然記念物ヤンバルクイナ。区民を挙げた保護活動で1500羽まで回復した。



子どもアドボカシーセンター

OSAKA (堺市)

児童養護施設や障害児施設を訪問し、入所する子どもたちが言い出せない悩みや要望を施設側に代弁。



大和信用金庫

(奈良県桜井市)

桜井市のまちづくり、三郷町の観光活性化、奈良大和四寺の巡礼参拝客誘致協力などに取り組んだ。 ※第3回(2012年度)優秀賞



中国・四国ブロック

鳥の劇場

(鳥取市)

コロナ禍で感染防止策を講じ、リモートも活用。首都圏の若手劇団を招き、地方から芸術文化を発信。 ※第6回(2015年度)ブロック賞



石見銀山ガイドの会

(島根県大田市)

一見して往時の繁栄を伝える建造物がなく「価値が分かりにくい」とも評される鉱山の情報を発信し続ける。



上下まちづくり協議会

(広島県府中市)

白壁の町並みを生かしたにぎわいづくり。中国地方唯一の本格的な芝居小屋「翁座」の保存に取り組む。



学食ダイニング グランマ

(山口県下関市)

地域の大学生が対象の無料食堂。40～80代の女性有志が調理・提供する。



とくしまコウノトリ基金

(徳島県北島町)

コウノトリ定着に必要な餌場を確保するため休耕地にピオトープを整備、水生生物の繁殖を目指す。



ちちぶの会

(香川県三豊市)

干潮時に鏡面のような写真が撮れる父母ヶ浜で美化活動。夕日が美しく、インスタ映えと人気。



シアターねこ

(松山市)

元幼稚園園舎を活用した小劇場。地域と劇場の共存・融合を掲げ、周辺住民や子どもが楽しめる行事も。



食材応援隊

(高知市)

資金難に悩む子ども食堂代表者らが連携。流通外の野菜や果物を無料提供してもらう仕組みを構築。



関東・甲信越ブロック

長久保赤水顕彰会

(茨城県高萩市)

伊能忠敬より早く、経緯線の入った日本地図を世に送り出した赤水の顕彰活動を通じて地域を活性化。



益子WEB陶器市実行委員会

(栃木県益子町)

コロナ禍で「ピンチをチャンスに」と東日本を代表する陶芸の里で一大イベントをウェブで開催。



たかさぎコミュニティシネマ

(群馬県高崎市)

シネマコンプレックス隆盛の中、単館系の作品を上映し続け、「映画のまち高崎」の中心的存在に。



鳩山町コミュニティ・マルシェ

(アール・エフ・イー)(埼玉県鳩山町)

消滅可能性タウンの再生に建築や芸術の専門家らが乗り出した。子育て世代のアーティストらが移住。



おもちゃ図書館 Cafe Santa

(千葉県市川市)

障害児をはじめ、高齢者やシングルマザーなど幅広い世代の「居場所」を提供。子ども食堂も開催。



デリバリー三鷹

(東京都三鷹市)

電話などで注文を受け、飲食店の弁当などを大学生が自転車配達。配達料や手数料を取らない。



逗子フェアトレードタウンの会

(神奈川県逗子市)

フェアトレード食材を使った商品を開発。貧困地域の女性の手仕事を紹介するファッションショーも。



Hakuba SDGs Lab

(白馬SDGsラボ)(長野県白馬村)

自然環境を引き継ぎ、持続可能な観光地を目指す。高校生の活動を機に村は気候非常事態宣言を出した。



東海・北陸ブロック

テイクアウトマルシェ TOYAMA

実行委員会(富山市)

屋外テントに弁当や惣菜を持ち寄り、ドライブスルー形式で販売。飲食店の新型コロナウイルス対応として全国に広がる。



NPOみんなの畑の会

(金沢市)

伐採竹を使ったビニールハウスは、里山整備で大量発生する不要竹の有効活用方法として注目されている。



NPOママバトン

(静岡県掛川市)

子育てファミリー向けの物々交換会を開催。子育て情報の共有など多様な役割を担う催しに。



北海道・東北ブロック

箱バル不動産

(北海道函館市)

歴史的街並みを守るため、空き家を活用した移住体験イベントや伝統的建造物の改修に取り組む。



オコンシベの会

(北海道伊達市)

世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の国指定史跡で小学生に魅力を伝える。



田子町新田自治会

(青森県田子町)

転作物としてソバ栽培を進め、江戸時代から残る水車を活用。そばまつりを20年以上続ける。



釜石電機製作所

(岩手県釜石市)

ウイルス対策が注目される中、鉄のまちの伝統を生かした高効率光触媒技術を用いてウイルスを不活化する機器を開発。



まるオフィス

(宮城県気仙沼市)

首都圏の若者たちが移住、住民と共に復興を歩んできた。地域の存続に向け次代を担う人材の育成を目指す。



北前船寄港地フォーラム実行委員会・北前船交流拡大機構

(秋田ほか広域)

13年にわたって14道府県で開かれ、人と情報を行き来させる現代版「北前船」の役割を果たす。



やまがた福わたし

(山形市)

コロナ禍で生活に困っている世帯に食品を無償提供。仕送りが無くなるなどした学生も支援。



会津コンピュータサイエンス研究所

(福島県会津若松市)

AIを活用、旅館内の混雑状況を自動把握できるシステムを開発。個人は特定できないようにした。



ORGAN

(岐阜市)

岐阜和傘の産業再生を進める。産地ブランドを高め、利益率の高い産業への転換を目指す。



まちのエキスパネット

(愛知県春日井市)

まちづくり・障害福祉・広報事業のコミュニティビジネスを展開。コミュニティーカフェを運営。



多くの人々が想像することもなかった21世紀のパンデミック。日本全体が揺れる中、各地の人々が「何ができるか」を全力で考え、実践した。底力を発揮した地域再生大賞受賞団体の姿を追った。

橋田欣典（共同通信社企画委員）

2020年2月、第10回地域再生大賞の表彰式が東京都内で盛大に開かれた直後から、世間を新型コロナウイルスが覆い始めた。社会が自粛一色の中、まちづくりに取り組んできた人々は、何を思っているのか。現状を確認しようと同年春から夏にかけて、第1回から10回までに受賞した全500団体への電話取材を実施した。そこで明らかになったのはコロナ禍に心が折れることなく、自分たちが地域のために何ができるかを主体的に考え、実行する力強く、心温かい人々の姿だった。

20年5月末、東京都荒川区の路地を野菜や果物を載せた台車が走り回る。コロナ禍で仕事や収入を失ったシングルマザーら、困窮する家庭に食料を届ける人々だ。まとめ役は地域再生大賞第10回準大賞「あらかわ

子ども応援ネットワーク」だ。同ネットは子どもを支援する市民団体や行政、大学など30以上の組織が加わっている。4月の緊急事態宣言以降、多くの団体は身動きが取れなくなっていた。そんな中、青果卸業者が飲食店など売り先を失った食材を「子どもたちに役立ててほしい」と寄付。そこから「こんなに困っている家庭がある」という団体間の情報交換が急速に進み、食料配りが始まった。動きを知って個人、企業からの寄付が集まり、支援の動きが拡大。配布先を調整し、スタッフが街に運んだ。「情報が早く入り、早く対応できる。行政だけ、学校だけでは限界がある。連携して皆さんの思いを渡したい」と同ネットの大村みさ子代表は話していた。

食料を届ける動きは全国に広がっ

ていた。山形市の「やまがた福わたしフードバンク山形中央」（第11回優秀賞）は7月、農家から寄せられた米や、助成金で購入した食料を宅配で届けた。多くのスタッフが集まることができず、少人数で地道に箱詰めし、食料を求める家庭と直接、電話で話す機会も増えたという。福岡県久留米市で、ひとり親家庭の女性らが設立した合同会社「uma a.u.（ウマウ）」（第11回優秀賞）は困窮家庭に食料を提供してきた。1歳の子どもをもつシングルマザーが「財布に21円しかなくて粉ミルクを買えない」と助けを求めてきたことも。長年、ホームレス支援に取り組んできた北九州市の認定NPO法人「抱樸」（第5回優秀賞）は、コロナ禍の中で1億円を超える募金を達成、部屋を提供するなどの支援を加

コロナ禍打開に住民が主体的に行動 まちづくりから命を守る取り組みに

都市と地方、消費者と生産者の連帯が、被災地から全国に広がった

Q 準大賞受賞はどう感じたか。

自信になった。それぞれの地域が共通した課題をどう解決していくか知恵比べをしている。新しいことをやるってことは不安だ。評価は、一つの自信の要素になった。

Q この10年を振り返ると。

東日本大震災から世の中が変わっていくのではないかと感じていた。日本は少子高齢化で課題先進国となっている。震災の被災地はトップランナーともいえる。そんな中、被災地にボランティアとして多くの都市住民が訪ねた。人間には「外集団均質化効果」というものがあって、知らない人をひとくくりに考えてしまうところがある。ところが震災で、会うはずがない人々との出会いがあり、付き合いが始まった。生産者と消費者が共感し、支援に来た人が大切なものに気付き、元気になるって帰っていく。そこから、農山漁村を復興しなければと思った。

都市と地方、消費者と生産者の連帯が、被災地から全国に広がった。食べ

る人と作る人が直接付き合い、共に支え合って生きるモデルだ。あとはこれをちゃんと世の中に落とし込み、もっと多くの人に使ってもらおうことだ。まだ一部にとどまっており、全面的に展開したい。

Q 地方と都市のつながりを強めるには。

もう一つ仕組みが必要と思う。実現したいのは都市住民が、住民税を複数拠点に分散できる社会だ。週休3日や2週間に1回出勤する社会では、ずっと同じ場所にいる必要はない。平日は東京で働き、週末3日は地方で町内会活動や海岸のごみ拾い、森林整備、農家の収穫に参加したりすればいい。現役世代が、都市と地方を同時並行に生きる複線的な人生を歩めばいいと思

う。自分を生み、育ててくれた古里とか、転動してお世話になったところに納税する。そこにターゲットを絞っている。

Q この10年でうれしかったことは。

「コロナと震災で問われたのは、すべてを人間の思い通りにしようという人間中心の考え方の是非だ。人間中心主義を乗り越えていく突破口になるのは、食だと考える」という自分の記事が全国に流れたことだ。10年で社会は変わらなかったけど、自分たちの見方が間違いないという確信は持った。食を通じて、都会の人が地方の人とつながっていくことが、日本の未来をつくっていく。震災からの10年を通じて捨てたものではないな、日本は」と思った。この方向に自信をもって進みたい。



Profile
たかはし・ひろゆき 1974年岩手県生まれ。青山学院大卒。岩手県議会議員を務めた後、2011年岩手県知事選に出馬し落選。13年にNPO法人東北開墾を立ち上げ、情報誌「東北食べる通信」を創刊。16年、生産者と消費者を結ぶ直販アプリ「ポケットマルシェ」を始めた。都市と地方が共に生きる社会を目指し、コロナ禍の中、47都道府県を回った。

株式会社ポケットマルシェ
https://www.pocket-marche.com/

受賞団体データ集

第1～11回の受賞団体一覧 …… P.28

都道府県別・団体データ集 …… P.34

【受賞団体一覧の見方】

※団体名は受賞当時のものです。その後、名称が変更された場合は、現在の団体名を（ ）で示しました。
※青色の数字は、団体データの掲載ページを示しています。

【団体データ集の見方】

📄 受賞内容、🏠 ホームページあり、📘 フェイスブックページあり を表します。

※法人格をもつ団体は、受賞内容の横に種別を示しました。

※現在の団体名が受賞当時と異なる場合は、受賞当時の団体名を（ ）で示しました。

※第1～10回の受賞500団体すべての現在の状況を、2020年春から21年初めにかけ、取材しました。22団体については解散、休止などのため現状を掲載していません。

※地域再生大賞事務局では各団体の最新の活動状況、これまでの資料、連絡先などを、コンピューターでデータベース化しています。今後の地域づくりに役立てます。変更点、新たな情報がありましたら、事務局までご連絡ください。



野菜や果物を載せた台車を押し、配布先へ向かう「あらかわ子ども応援ネットワーク」代表の大村みさ子さん(左)ら＝2020年5月27日、東京都荒川区

ピンチをチャンスに 新たな取り組みで新境地開拓

ピンチをチャンスに変えようという取り組みもあった。農林水産物の

速させている。奥田知志理事長は共同通信の取材に「人との関わりや絆を強めることが特に大事です」と語る。

生産者と消費者をスマホでつなぐネット販売は急拡大した。富山市では飲食店が集まって、広い場所で日中に料理をドライブスルー形式で販売する「テイクアウトマルシェ」を4月にスタート。瞬く間に全国各地に広がった。先駆けとなった「テイクアウトマルシェTOYAMA実行委員会」は第11回優秀賞を受賞している。

さらには、密々を避けるための技術開発など、取り組みは工業にも広がった。そしてさまざまな団体に資金を効果的に配分し、活動を支える中間支援組織の一つ「佐賀未来創造基金」が第11回大賞に選ばれた。

苦境に屈しない人々の姿は、地方新聞社と共同通信が20年8月に始めた合同連載企画「現場からの再生 コロナを越える」でも伝えてきた。人々の生活、そして命を守るうとする団体の多くは普段からまちづくりに取り組んでいる。地域を支える人々の底力をしっかりと伝え、共感を広げていきたい。地域再生大賞

合同連載企画

「現場からの再生 コロナを越える」

新型コロナウイルスの感染拡大によって、全国各地で暮らし、産業、文化が大きな打撃を受けている。一方で現状を打開しようと地域の人々が情熱を傾け、前例にとらわれずに工夫を凝らし、新たな取り組みを繰り返している。そうした姿を、加盟新聞社と共同通信が現場ルポと、全国での状況を交えた連載企画で伝えている。

合同連載企画で取り上げた話題の例

スノーリゾート「脱・外国人頼み」(北海道)▽コロナ時代、光触媒に鉄の街の知恵(岩手)▽AIが旅館の「密」予防(福島)▽有事こそオンライン議事を(栃木)▽蔵の町をオンラインで構築(埼玉)▽地元貢献に懸ける劇場専属舞踊団(新潟)▽帰国した青年海外協力隊員が収穫支援(長野)▽高齢者に市民が100円弁当宅配(静岡)▽コロナで生まれた大家族、ベトナム人ら暮らす寺(愛知)▽ホテルで演劇体験、避難場所にも(京都)▽都会の若手俳優、地方公演に招く(鳥取)▽24時間困窮家庭の食を守る冷蔵庫(岡山)▽感染者、働く人に寄り添うシトラスリボン(愛媛)▽「まちの学食」若者を応援(長崎)▽地域FMが引きこもり当事者支援(鹿児島)▽緊張の中、伝統芸能の技を若手に継承(沖縄)

がそんな人たちの元気を社会に発信できる機会になればと願っている。

| | |
|-------|--|
| 優 秀 賞 | 日高川漁業協同組合日高川あゆ種苗センター（現日高川漁業協同組合）（和歌山） P.128 |
| | 智頭町森のようちえん まるたんぼう（現智頭の森こそだち舎）（鳥取） P.131 |
| | 斐伊川流域環境ネットワーク（島根） |
| | 吉備野工房ちみち（現かんなぎ）（岡山） P.136 |
| | みすゞ燦参SUN実行委員会（山口） |
| | 新町川を守る会（徳島） P.146 |
| | 瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」（現瀬戸内こえびネットワーク）（香川） P.149 |
| | 今治焼豚玉子飯世界普及委員会（愛媛） P.152 |
| | つづら棚田保全協議会（福岡） P.157 |
| | 嬉野市地域力開発プロジェクト会議・新ツーリズムチーム（佐賀） P.161 |
| | あづち大島たからもんの会（長崎） P.164 |
| | 二見わっしょいファーム（熊本） P.167 |
| | 豊後森機関庫保存委員会（大分） P.170 |
| | 小川作小屋村運営協議会（宮崎） P.173 |
| | 船浮音祭り実行委員会（沖縄） P.179 |
| | ※第3回（2012年度）近畿のブロック賞は見送られた |

| 第4回（2013年度） | |
|-------------|--|
| 大 賞 | はやめ南人情ネットワーク（現はやめ人情ネットワーク）（福岡） P.158 |
| 準 大 賞 | 大戸診療所（現坂上健友会 大戸診療所）（群馬） P.68 西粟倉・森の学校（岡山） P.137 |
| ブロック賞 | 果夢林ショップ運営協議会（現おんねゆ温泉「山の水族館」）（北海道） P.36 くらし協同館なかよし（茨城） P.62 丸岡文化財団（福井） P.98 山王自治会（兵庫） P.122 プロジェクトゆうあい（島根） P.134 |
| 特 別 賞 | ISHINOMAKI 2.0（宮城） P.47 郡山ベップ子育てネットワーク（福島） P.57 かみえちご山里ファン倶楽部（新潟） P.83 |
| 優 秀 賞 | 室蘭港立市民大学（北海道） P.36 八戸ハマリレーションプロジェクト（青森） P.41 釜石プラットフォーム（岩手） 大曲花火倶楽部（秋田） P.50 鶴岡織物工業協同組合（山形） P.53 山木屋太鼓（福島） P.56 那須苗取り田植唄保存会（栃木） P.65 まち遺し深谷（埼玉） P.71 ちば地域再生リサーチ（千葉） P.74 淡路エリアマネジメント（東京） P.77 日本ナポリタン学会（神奈川） P.80 NAP（山梨） 庄内ほたと水辺の会（長野） P.89 福野夜高祭連絡協議会（富山） P.92 神子の里（石川） P.95 ジオ・スペース・アドベンチャー実行委員会（岐阜） P.101 駿府ウェイブ（現静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウェイブ）（静岡） P.104 |

| | |
|-------|---|
| 優 秀 賞 | 丸亀市川西地区自主防災会（香川） P.148 俳句甲子園実行委員会（愛媛） P.151 あーすくらぶ（福岡） 水俣市久木野ふるさとセンター愛林館（熊本） P.166 ハットウ・オンバク（大分） P.169 のべおか天下一市民交流機構（宮崎） P.172 大隅横川駅保存活用実行委員会（鹿児島） P.175 栄町市場商店街振興組合（沖縄） P.179 なはまちづくりネット（沖縄） |
| | ※第2回（2011年度）中国・四国のブロック賞は見送られた |

| 第3回（2012年度） | |
|-------------|--|
| 大 賞 | 島の風（沖縄） P.179 |
| 準 大 賞 | 山形国際ドキュメンタリー映画祭（山形） P.53 京町家再生研究会（京都） P.116 |
| ブロック賞 | いわて子育てネット（岩手） P.44 匠の町しもすわあきないプロジェクト（長野） P.89 春蘭の里実行委員会（石川） P.95 黒潮実感センター（高知） P.155 さくらじま旬彩館（鹿児島） P.176 |
| 特 別 賞 | 仙台市福住町町内会（宮城） P.47 南相馬ジュニアコーラスアンサンブル（福島） P.56 共和の郷・おだ（現自治組織「共和の郷・おだ」）（広島） P.140 |
| 優 秀 賞 | アルテピアッツァびばい（北海道） P.35 ふくろうの会（北海道） P.35 Kyosokyodo（共創郷土）（青森） P.41 秋田クレジット・サラ金・悪徳商法被害をなくす会（現秋田なまはげの会）（秋田） P.50 会津エンジン（福島） P.56 カミスガプロジェクト（茨城） P.61 うずま川遊会（現蔵の街遊覧船）（栃木） P.64 本一・本二まちづくりの会（群馬） P.68 縁結びの街めぬま連絡協議会（埼玉） P.71 熱血!!勝浦タンタンメン船団（現ONE勝浦企業組合）（千葉） P.74 谷根千・駒込・光源寺隊（東京） P.77 河内川あじさいの会（神奈川） P.80 トキどき応援団（新潟） P.83 山梨ガバメント協会（山梨） P.86 福岡町づくりもんまつり実行委員会（富山） P.92 若狭熊川宿まちづくり特別委員会（福井） P.98 恵那市地域自治区地域協議会連絡会議（現地域自治区会長会議）（岐阜） P.101 山の手未来の会（現焼津市山の手未来の会）（静岡） P.104 矢勝川の環境を守る会（現矢勝川の彼岸花を守る会）（愛知） P.107 きほく里山体験笑楽校（現下河内の里山を守る会）（三重） P.110 富田人形共遊団（滋賀） P.113 Homedoor（大阪） P.118 コウノトリ湿地ネット（現日本コウノトリの会）（兵庫） P.121 大和信用金庫（奈良） P.125 |

| 優 秀 賞 | 筑紫野市商工会（福岡） P.157 蕨野棚田保存会（佐賀） P.160 長崎コンブラドル（長崎） P.163 まちづくりトントロン（川南町商工会）（宮崎） P.172 鳩間島音楽祭実行委員会（沖縄） P.178 |
|-------------|---|
| 第2回（2011年度） | |
| 大 賞 | ブルーリバー（広島） P.139 |
| 準 大 賞 | 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会（現協会）（宮城） P.46 大宮産業（高知） P.154 |
| ブロック賞 | 千葉之家花駒座（福島） P.56 那珂川町里山温泉トラフグ研究会（現夢創造）（栃木） P.64 夢未来くんま（静岡） P.103 秋津野（和歌山） P.127 まつうら党交流公社（長崎） P.163 |
| 特 別 賞 | 遠野まごころネット（岩手） P.43 浪江焼麺天国（福島） 富士山河口湖音楽祭実行委員会（山梨） P.85 水辺と生き物を守る農家と市民の会（福井） P.97 きびつとの杜（佐賀） P.160 |
| 優 秀 賞 | 江差塗工房（北海道） P.35 室蘭ルネッサンス（北海道） P.35 八戸せんべい汁研究所（青森） P.40 おおだて映像計画（秋田） P.49 レインボープラン推進協議会（山形） P.52 波崎未来エネルギー（茨城） P.61 安政遺足保存会（群馬） P.67 秩父アニメツーリズム実行委員会（埼玉） P.70 金谷ストーンコミュニティー（千葉） P.73 奥浅草観光まちづくり協会（現奥浅草観光協会）（東京） P.76 女性防災クラブ平塚ハワーズ（神奈川） P.79 山古志アルパカ村（新潟） P.82 大鹿歌舞伎保存会（長野） P.88 スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会（富山） P.91 JAPAN TENT 開催委員会（石川） P.94 ひとひとの会（岐阜） P.100 一宮市萩原商店街振興組合（現萩原チンドンまつり実行委員会）（愛知） P.106 兵吉屋（現海女小屋「はちまなかまど」の兵吉屋）（三重） P.109 大津の町家を考える会（滋賀） P.112 遊プロジェクト京都（京都） P.115 介護・住まい・防災ネットワーク（大阪） KOBÉ鉄人 PROJECT（兵庫） P.121 奈良中央信用金庫（奈良） P.124 二部地区活性化推進機構（鳥取） P.130 谷自治振興会（島根） P.133 勝山のお雛まつり実行委員会（岡山） P.136 麦川安全・安心みまもり隊（山口） P.142 徳島共生塾一歩会（徳島） P.145 |

第1～11回の受賞団体一覧

| 第1回（2010年度） | |
|-------------|--|
| 大 賞 | クラウドワーク三島（静岡） P.103 |
| 準 大 賞 | 県立柏原病院の小児科を守る会（兵庫） 倉敷町家トラスト（岡山） P.136 |
| ブロック賞 | たかはた共生塾（山形） P.52 伊参スタジオ映画祭実行委員会（群馬） P.67 三重県立相可高校調理クラブ（現まごの店）（三重） P.109 碧いびわ湖（滋賀） P.112 高松丸亀町商店街振興組合（香川） P.148 安心院町グリーンツーリズム研究会（大分） P.169 |
| 特 別 賞 | 大内宿保存会、大内宿結の会（福島） P.55 日本上流文化圏研究所（山梨） P.85 色川地域振興推進委員会（和歌山） P.127 阿蘇グリーンストック（熊本） P.166 種子島アクションクラブ（鹿児島） P.175 琉球在来豚アグー保存会（沖縄） P.178 |
| 優 秀 賞 | 羽幌みんなでつくる自然空間協議会（北海道） P.34 てつのまちぶろじょくと・ホルタ工房（現テツプロ）（北海道） P.34 南郷ジャズフェスティバル実行委員会（青森） P.40 体験村・たのはたネットワーク（岩手） P.43 鳴子の米プロジェクト（宮城） P.46 山内いぶりがっこ生産者の会（秋田） P.49 ノルテ・ハボン（福島） P.55 水戸藩開藩四百年記念「桜田門外ノ変」映画化支援の会（現いばらき映像文化振興協会）（茨城） 奥の院通り研究会（栃木） 鷲宮商工会（現久喜市商工会鷲宮支所）（埼玉） P.70 小野川と佐原の町並みを考える会（千葉） P.73 喜多見ボンボコ会議（東京） P.76 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会（神奈川） P.79 復興支援ネットワーク・フェニックス（現ネットワーク・フェニックス）（新潟） P.82 妻籠を愛する会（長野） P.88 瑞龍寺ライトアップ実行委員会（富山） P.91 かなざわ・まち博実行委員会（現開催委員会）（石川） P.94 三国湊魅かづくりプロジェクト（福井） P.97 飛騨小坂 200 滝（岐阜） P.100 表参道発展会（現豊川稲荷表参道発展会）（愛知） P.106 遊悠舎 京すずめ（現京すずめ文化観光研究所）（京都） P.115 にしよど にこネット（大阪） P.118 チャレンジ企業支援隊（奈良） P.124 若桜鉄道 隼駅を守る会（鳥取） P.130 萩の会（島根） P.133 工房おのみち帆布（広島） P.139 島スタイル（現ジブノオト）（山口） P.142 グリーンバレー（徳島） P.145 能島の里を発展させる会（現能島の里）（愛媛） P.151 四万十ドラマ（高知） P.154 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 優 秀 賞 | かほくイタリア野菜研究会 (山形) P.54 |
| | ふくしま飛行協会 (福島) P.58 |
| | コロッケクラブ龍ヶ崎 (茨城) P.62 |
| | 足利クリーンハイキングクラブ山和会 (栃木) P.65 |
| | 桐生再生 (群馬) P.69 |
| | 高麗 1300 (埼玉) P.72 |
| | 千住文化普及会 (東京) P.78 |
| | 小田原柑橋倶楽部 (神奈川) P.81 |
| | 信州富士見高原ファーム (長野) P.89 |
| | こぼ (富山) P.93 |
| | 湯涌ほんぼり祭り実行委員会 (石川) P.96 |
| | 国田家の芝桜を愛する会 (岐阜) P.102 |
| | 戸田塩の会 (静岡) P.105 |
| | 亀崎まちおこしの会 (愛知) P.108 |
| | みやがわ森選組 (三重) P.111 |
| | クロスオーバーネットワーク (京都) P.117 |
| | わが町にしなり子育てネット (大阪) P.120 |
| | ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会 (兵庫) P.122 |
| | 奈良まほろばソムリエの会 (奈良) P.126 |
| | 紀州農レンジャー (和歌山) P.128 |
| | 白鳳の郷地域活性化協議会 (鳥取) P.132 |
| | 神門通り甕りの会 (島根) P.134 |
| | てっちりこ (岡山) P.138 |
| | 寺領味野里 (広島) P.141 |
| | 大道理百笑倶楽部 (山口) P.144 |
| | とくし丸 (徳島) P.147 |
| | 砂浜美術館 (高知) P.156 |
| | 在宅ネット・さが (佐賀) |
| | 松原宿活性化協議会 (長崎) P.165 |
| | 開懐世利六菓匠 (熊本) P.168 |
| | 別府八湯ウォーク連絡協議会 (大分) P.171 |
| | 着物で出水武家屋敷を歩こう会 (鹿児島) P.176 |
| | フーカキサパニ (沖縄) P.181 |

第8回 (2017年度)

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 大 賞 | 陽気な母さんの店 (秋田) P.16, P.51 |
| 準 大 賞 | 豊島子どもWAKUWAKU ネットワーク (東京) P.78 |
| | おっちらボ (島根) P.135 |
| 奨 励 賞 | フィッシャーマン・ジャパン (宮城) P.48 |
| ブロック賞 | 小高ワーカーズベース (福島) P.59 |
| | ふらっとステーション・ドリーム (神奈川) P.81 |
| | シラミネ大学 (石川) P.96 |
| | 気張る!ふるさと丹後町 (京都) P.117 |
| | 尾道空き家再生プロジェクト (広島) P.141 |
| | 湯布院映画祭実行委員会 (大分) P.171 |
| 特 別 賞 | ワインツーリズム (山梨) P.87 |
| | 里山くらしLABO (静岡) P.105 |
| | がんばろう高山 (鹿児島) P.177 |
| 優 秀 賞 | 天売島おらが島活性化会議 (北海道) P.38 |
| | 有珠山周辺地域ゾオパーク友の会 (北海道) P.38 |
| | 湊日曜朝市会 (青森) P.42 |
| | いしがきミュージックフェスティバル実行委員会運営委員会 (岩手) P.44 |

| | |
|-------|---|
| 優 秀 賞 | はらんきょうの会 (現ヒューマンライツネット はらんきょうの会) (茨城) P.62 |
| | オオタカ保護基金 (栃木) P.65 |
| | 自然塾寺子屋 (群馬) P.68 |
| | 秩父百年の森 (埼玉) P.71 |
| | 大多喜みらい塾 (千葉) |
| | 目黒区民まつり実行委員会 (東京) P.77 |
| | サポーターみうら (神奈川) P.80 |
| | かつめま朝市会 (山梨) P.86 |
| | よっしゃ来い!! CHOUROKU まつり実行委員会 (現魚津祭組 よっしゃ来い!!CHOUROKU まつり) (富山) P.92 |
| | 西保希望の住処協議会 (石川) |
| | 谷汲ゆり園 (岐阜) P.101 |
| | 富士山御殿場かやの里企業組合 (静岡) P.104 |
| | 丸山千枚田保存会 (三重) P.110 |
| | 白王町集落営農組合 (滋賀) P.113 |
| | 葵プロジェクト (京都) P.116 |
| | 鳴く虫と郷町実行委員会 (兵庫) P.122 |
| | わかやまフレンZOOガイド (和歌山) |
| | 松江ツーリズム研究会 (島根) P.134 |
| | 新建自治会 (広島) P.140 |
| | 青海島共和国 (山口) P.143 |
| | 街角に音楽を@香川 (香川) P.149 |
| | 長浜高校水族館部 (愛媛) P.152 |
| | 室戸市木炭振興会 (高知) P.155 |
| | 藍の家保存会 (福岡) P.158 |
| | 鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会 (佐賀) P.162 |
| | 大地といのちの会 (長崎) P.164 |
| | 豊の国宇佐市塾 (大分) P.170 |
| | Lab蒲生郷 (鹿児島) P.176 |
| | 平久保サガリバナ保存会 (沖縄) P.180 |
| | 久米島ホテルの会 (沖縄) P.180 |

第7回 (2016年度)

| | |
|-------------------|---------------------------------|
| 大 賞 | 都岐沙羅パートナーズセンター (新潟) P.15, P.84 |
| 準 大 賞 | 東北開墾 (現ポケットマルシェ) (岩手) P.44 |
| | パーソナルアシスタント青空 (愛媛) P.153 |
| 選考委員長賞兼中国・四国ブロック賞 | アーケベラゴ (香川) P.150 |
| 奨 励 賞 | AIP (福岡) P.158 |
| ブロック賞 | 横手市共助組織連合会 (秋田) P.51 |
| | ひばりが丘高校うどん部 (山梨) P.87 |
| | 小原ECOプロジェクト (福井) P.99 |
| | しが農業女子100人プロジェクト (滋賀) P.114 |
| | 五ヶ村村おこしグループ (宮崎) P.174 |
| 特 別 賞 | ハッピーロードネット (福島) P.58 |
| | 船橋市時活村 (千葉) P.74 |
| | 浦添小学校PTA (現ていだこども食堂) (沖縄) P.181 |
| 優 秀 賞 | いわみざわ駅まるプロジェクト (北海道) |
| | キウシト湿原・登別 (北海道) P.38 |
| | 八戸前沖さばブランド推進協議会 (青森) P.42 |
| | 仙台秋保醸造所 (宮城) P.48 |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 優 秀 賞 | 手づくり公園まさごの会 (千葉) P.74 |
| | 旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会 (東京) P.77 |
| | 身延町商工会 (山梨) P.86 |
| | 諏訪サイクルプロジェクト (長野) |
| | 大野こまちなみ研究所 (石川) P.95 |
| | 武生国際音楽祭推進会議 (福井) P.98 |
| | 鶏ちゃん合衆国 (岐阜) P.101 |
| | 静岡県立伊豆総合高校自然科学部 (静岡) P.104 |
| | 愛岐トンネル群保存再生委員会 (愛知) P.107 |
| | 江北図書館 (滋賀) P.113 |
| | 姉小路界隈を考える会 (京都) P.116 |
| | D×P (ディーピー) (大阪) P.119 |
| | 奈良無双窯 (現奈良無想窯) (奈良) P.125 |
| | 岩倉流泳法保存会 (和歌山) P.128 |
| | 伯耆国たたら顕彰会 (鳥取) P.131 |
| | 矢掛ハッカ普及会 (岡山) P.137 |
| | 芸北せどやま再生会議 (現西中国山地自然史研究会) (広島) P.140 |
| | 浜崎しつちよる会 (山口) P.143 |
| | 四国こんびら歌舞伎大芝居推進協議会 (香川) P.149 |
| | 久礼大正町市場 (現久礼大正町市場協同組合) (高知) P.155 |
| | 抱樸 (福岡) P.158 |
| | 黒川町家連絡会 (佐賀) P.161 |
| | 南島原市冬のお祭り実行委員会 (長崎) P.164 |
| | くにさき七島蘭振興会 (大分) P.170 |
| | 伊佐みりよく研究所 (鹿児島) P.176 |
| | ハマスーキ (沖縄) P.180 |
| | 大城花咲爺会 (沖縄) P.180 |

第6回 (2015年度)

| | |
|--------|--|
| 大 賞 | かさおか島づくり海社 (岡山) P.14, P.137 |
| 準 大 賞 | 沼垂テラス商店街 (テラスオフィス) (新潟) P.83 |
| | 岡崎まちゼミの会 (愛知) P.107 |
| 選考委員長賞 | いろどり (徳島) P.146 |
| 奨 励 賞 | Minami こども教室 (大阪) P.119 |
| ブロック賞 | とびしま (山形) P.53 |
| | いいだ人形劇フェスタ実行委員会 (長野) P.89 |
| | うるしの里活性化推進事業実行委員会 (現学生との連携によるうるしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」) (福井) P.98 |
| | きみかげの森 (奈良) P.125 |
| | 鳥の劇場 (鳥取) P.131 |
| | どんぐり1000年の森をつくる会 (宮崎) P.173 |
| 特 別 賞 | 森の生活 (北海道) P.37 |
| | 天草市大浦地区振興会 (熊本) P.167 |
| 優 秀 賞 | 室蘭港を愛する会 (北海道) P.37 |
| | 山の楽校運営協議会 (青森) P.41 |
| | のんのりのだ物語 (岩手) |
| | 亘理いちごっこ (宮城) P.47 |
| | 小坂鉄道保存会 (秋田) P.50 |
| | ふるさとの川・荒川づくり協議会 (福島) P.58 |
| | ベテランママの会 (福島) P.58 |

| | |
|-------|---|
| 優 秀 賞 | とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会 (愛知) P.107 |
| | 伊賀忍者特殊軍団 阿修羅 (三重) P.110 |
| | 美しいマキノ・桜守りの会 (滋賀) P.113 |
| | 先斗町まちづくり協議会 (京都) P.116 |
| | 大阪を愛する100人会議 (大阪) P.119 |
| | 竹茗堂 左文 (奈良) P.125 |
| | 黒江の町並みを活かした景観づくり協定 (黒江ジャパン) (和歌山) P.128 |
| | 鳴り石の浜プロジェクト (鳥取) P.131 |
| | 油木高校ナマスプロジェクト (広島) P.140 |
| | 防府商工会議所 (山口) P.143 |
| | アニメまつり実行委員会 (徳島) P.146 |
| | 直島女文楽 (香川) P.149 |
| | 坊っちゃん劇場 (愛媛) P.152 |
| | 中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会 (高知) P.155 |
| | フォーラム鹿島 (佐賀) |
| | 平戸国際交流HIRAの会 (長崎) P.164 |
| | 芦北伽哩街道実行委員会 (熊本) P.167 |
| | BEPPU PROJECT (大分) P.170 |
| | 染ヶ岡地区環境保全協議会 (宮崎) P.173 |
| | エコ・リンク・アソシエーション (鹿児島) |
| | 嘉手納町商工会女性部 (沖縄) P.179 |
| | 津嘉山酒屋保存の会 (沖縄) |

第5回 (2014年度)

| | |
|--------|---|
| 大 賞 | てごねっと石見 (島根) P.134 |
| 準 大 賞 | ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 (福島) P.57 |
| | 酒谷地区むらおこし推進協議会 (宮崎) P.173 |
| 第5回記念賞 | 農音 (愛媛) P.152 |
| ブロック賞 | 小泉自然楽校 (現三陸復興観光コンシェルジェセンター) (宮城) P.47 |
| | 高齢化社会をよくする虹の仲間 (神奈川) P.80 |
| | てんき宇奈月プロジェクト (現てんき宇奈月) (富山) P.92 |
| | 神戸農村歌舞伎保存会 (兵庫) P.122 |
| | 伊座利の未来を考える推進協議会 (徳島) P.146 |
| | 網田教育の里づくり隊 (熊本) P.167 |
| 特 別 賞 | 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe (現 Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe) (埼玉) P.71 |
| | 十日町市地域おこし実行委員会 (現地域おこし) (新潟) P.83 |
| | 大杉谷自然学校 (三重) P.110 |
| 優 秀 賞 | これぞ小清水! 実行委員会 (北海道) P.36 |
| | 室蘭文学館の会 (北海道) P.36 |
| | 十和田バラ焼きゼミナール (青森) P.41 |
| | ふるさと体験学習協会 (現久慈市ふるさと体験学習協会) (岩手) P.44 |
| | 増田まちなみ保存会 (秋田) P.50 |
| | 村山そばの会 (山形) P.53 |
| | よつくらぶ (福島) P.57 |
| | 里山を守る会 (茨城) P.62 |
| | 太平山南山麓友の会 (栃木) P.65 |
| | 富岡製糸場を愛する会 (群馬) P.68 |

| | |
|-------|---|
| 優 秀 賞 | まるオフィス(宮城) P.22 |
| | 北前船寄港地フォーラム実行委員会・北前船交流拡大機構(秋田ほか広域) P.22 |
| | やまがた福わたし(山形) P.22 |
| | 会津コンピュータサイエンス研究所(福島) P.22 |
| | 長久保赤水顕彰会(茨城) P.22 |
| | 益子WEB陶器市実行委員会(栃木) P.22 |
| | たかざきコミュニティシネマ(群馬) P.22 |
| | 鳩山町コミュニティ・マルシェ(アール・エフ・イー)(埼玉) P.22 |
| | おもちゃ図書館 Cafe Santa(千葉) P.22 |
| | デリバリー三鷹(東京) P.22 |
| | 返子フェアトレッドタウンの会(神奈川) P.22 |
| | Hakuba SDGs Lab(白馬SDGsラボ)(長野) P.22 |
| | テイクアウトマルシェTOYAMA実行委員会(富山) P.22 |
| | NPOみんなの畑の会(石川) P.22 |
| | ORGAN(岐阜) P.22 |
| | NPOママバトン(静岡) P.22 |
| | まちのエキスバネット(愛知) P.22 |
| | KOKIN(京都) P.23 |
| | 子どもアドボカシーセンターOSAKA(大阪) P.23 |
| | 多文化共生センターひょうご(兵庫) P.23 |
| | 大和信用金庫(奈良) P.23 |
| | 白浜レスキューネットワーク(和歌山) P.23 |
| | 鳥の劇場(鳥取) P.23 |
| | 石見銀山ガイドの会(島根) P.23 |
| | 上下まちづくり協議会(広島) P.23 |
| | 学食ダイニング グランマ(山口) P.23 |
| | とくしまコウノトリ基金(徳島) P.23 |
| | ちちぶの会(香川) P.23 |
| | シアターねこ(愛媛) P.23 |
| | 食材応援隊(高知) P.23 |
| | umau.(ウマウ)(福岡) P.23 |
| | みさと(熊本) P.23 |
| | 水辺に遊ぶ会(大分) P.23 |
| | 宮崎がん共同勉強会(宮崎) P.23 |
| | 鶏の生食加工業者協議会(鹿児島) P.23 |
| | 出前市場(沖縄) P.23 |
| | 国頭村安田区(沖縄) P.23 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 優 秀 賞 | しずくいし軽トラ市実行委員会(岩手) P.45 |
| | ほやほや学会(宮城) P.48 |
| | 秋田人変身力会議(秋田) P.51 |
| | 葛力創造舎(福島) P.60 |
| | はじまりの美術館(福島) P.60 |
| | サクラサクプロジェクト(茨城) P.63 |
| | We are with you(群馬) P.69 |
| | 版画フォーラム実行委員会(埼玉) P.72 |
| | 松戸市に夜間中学校をつくる市民の会(千葉) P.75 |
| | 美しが丘「100段階」プロジェクト(神奈川) P.81 |
| | ソーシャルファームさんじょう(新潟) P.84 |
| | グレイス・ロード(山梨) P.87 |
| | 長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合(長野) P.90 |
| | 金屋町元気プロジェクト(富山) P.93 |
| | 七尾市たかしな地区活性化協議会(石川) P.96 |
| | かさまつMIRAI塾(岐阜) P.102 |
| | 愛知県立安城農林高校(愛知) P.108 |
| | 天満浦百人会(三重) P.111 |
| | びわこジャズ東近江実行委員会(滋賀) P.114 |
| | SEIN(サイン)(大阪) P.120 |
| | くさかんむり(兵庫) P.123 |
| | ゼロ・キャンペーン事務局(奈良) P.126 |
| | 紀州藤白 鈴木屋敷復元の会(和歌山) P.129 |
| | 川辺復興プロジェクトあるく(岡山) P.138 |
| | 敷信村農吉(広島) P.141 |
| | 福川こどもクラブ(山口) P.144 |
| | 大歩危・祖谷いってみる会(徳島) P.147 |
| | 肥土山農村歌舞伎保存会(香川) P.150 |
| | シクローリズムしまなみ(愛媛) P.153 |
| | のこのしまアイランドパーク(久保田観光)(福岡) P.159 |
| | 雪浦あんぱんね(長崎) P.165 |
| | くまもと☆農家ハンター(熊本) P.168 |
| | 庄内神楽座長会(大分) P.171 |
| | 川坂川を守る会(宮崎) P.174 |
| | 金吾様踊り活性化実行委員会(鹿児島) P.177 |
| | バリアフリーネットワーク会議(沖縄) P.182 |
| | 与那原大綱曳実行委員会支度係(沖縄) P.182 |

第 11 回 (2020 年度)

| | |
|-------------------|-------------------------|
| 大 賞 | 佐賀未来創造基金(佐賀) P.19 |
| 準 大 賞 | つばめいと(新潟) P.20 |
| | 志摩市民病院(三重) P.20 |
| 地域の未来賞兼九州・沖縄ブロック賞 | 東彼杵ひとこともの公社(長崎) P.21 |
| ブロック賞 | BOOT(ブット)(福島) P.21 |
| | 小さな村総合研究所(山梨) P.21 |
| | RENEW実行委員会(福井) P.21 |
| | 三方よし研究会(滋賀) P.21 |
| | おかやま親子応援プロジェクト(岡山) P.21 |
| 優 秀 賞 | 箱バル不動産(北海道) P.22 |
| | オコンシベの会(北海道) P.22 |
| | 田子町新田自治会(青森) P.22 |
| | 釜石電機製作所(岩手) P.22 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 優 秀 賞 | 日本カーシェアリング協会(宮城) P.48 |
| | 浅見内活性化委員会(秋田) P.51 |
| | TATAKIAGE Japan(福島) P.60 |
| | 元気アップつちゆ(福島) P.60 |
| | おらが湊鐵道応援団(茨城) P.63 |
| | キングオブバスタ実行委員会(群馬) P.69 |
| | みぬま福祉会工房集(埼玉) P.72 |
| | 行徳まちづくり協議会(千葉) P.75 |
| | 柴又まちなみ協議会(東京) P.78 |
| | 鴨居駅周辺まちづくり研究会(神奈川) P.81 |
| | 越前浜自治会(新潟) P.84 |
| | 小滝プラス(長野) P.90 |
| | ふるさと体験 in みやざき実行委員会(富山) P.93 |
| | 能登島観光協会青年部(現のとしま島おこし団)(石川) P.96 |
| | たがらす我袖倶楽部(福井) P.99 |
| | いき粋墨俣創生プロジェクト(岐阜) P.102 |
| | がんばらまいか佐久間(静岡) P.105 |
| | 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト(京都) P.117 |
| | Happy mam(ハッピーママ)(大阪) P.120 |
| | 奈良の食文化研究会(奈良) P.126 |
| | 玉津島保存会(和歌山) P.129 |
| | 三朝温泉かじか蛙保存研究会(鳥取) P.132 |
| | サウンドファイブ夢の音会(島根) P.135 |
| | 山口狛犬楽会(山口) P.144 |
| | 阿波農村舞台の会(徳島) P.147 |
| | サンポート高松トライアスロン大会実行委員会(香川) P.150 |
| | むろと廃校水族館(高知) P.156 |
| | 遠賀川源流サケの会(福岡) P.159 |
| | 牛津赤れんが会(佐賀) P.162 |
| | 平戸観光ウェルカムガイド(長崎) P.165 |
| | 阿蘇門前町商店街振興協会(熊本) P.168 |
| | ままのて(宮崎) P.174 |
| | 阿室校区活性化対策委員会(鹿児島) P.177 |
| | 地域サポートわかさ(沖縄) P.182 |

第 10 回 (2019 年度)

| | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 大 賞 | ふるさと福井サポートセンター(福井) P.18, P.99 |
| 準 大 賞 | あらかわ子ども応援ネットワーク(東京) P.78 |
| | 日高わのわ会(高知) P.156 |
| 選考委員長賞兼東海・北陸ブロック賞 | machimori(マチモリ)(静岡) P.105 |
| 第 10 回記念賞 地域・教育魅力化プラットフォーム(島根) P.135 | |
| ブロック賞 | 恵み野商店会(北海道) P.39 |
| | えんがお(栃木) P.66 |
| | アクトスター(京都) P.117 |
| | シーセブンハヤブサ(鳥取) P.132 |
| | さがクリークネット(佐賀) P.162 |
| 奨 励 賞 | 新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会(山形) P.54 |
| 優 秀 賞 | 知里森舎(北海道) P.39 |
| | 十和田きみがらスリッパ生産組合(青森) P.42 |

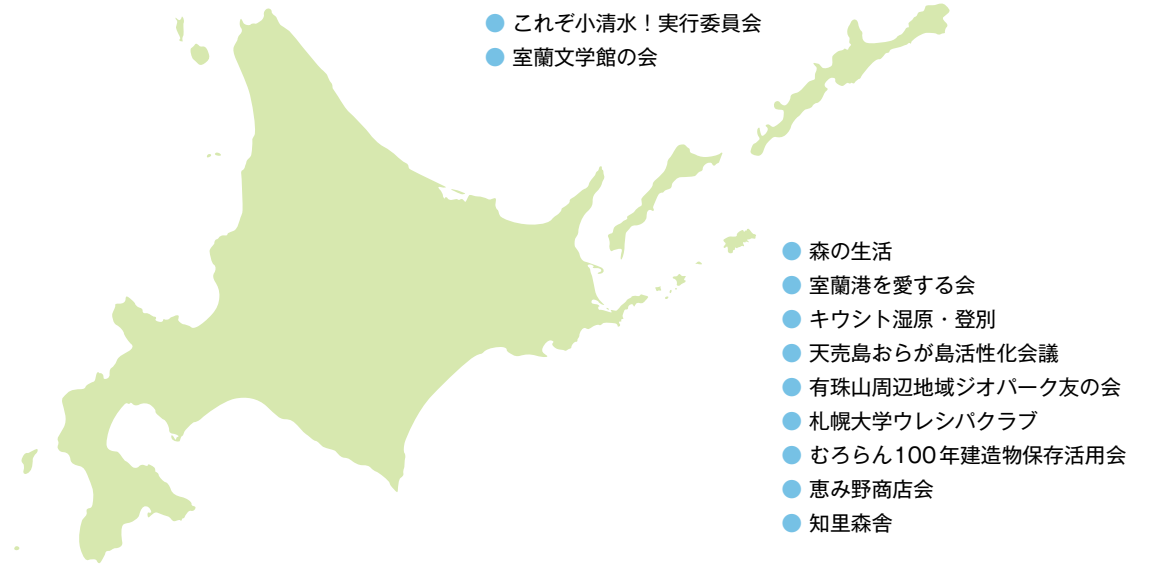
| | |
|-------|---------------------------------|
| 優 秀 賞 | スパイクファミリー(山形) P.54 |
| | 会津電力(福島) P.59 |
| | 茨城NPOセンター・コモンズ(茨城) P.63 |
| | 山本有三記念会(栃木) P.66 |
| | ながめ黒子の会(群馬) P.69 |
| | 川口自主夜間中学(埼玉) P.72 |
| | 報徳の会(現報徳の会・内田未来楽校)(千葉) P.75 |
| | 「燕三条 工場の祭典」実行委員会(新潟) P.84 |
| | WAKUWAKU やまのうち(長野) P.90 |
| | TOGA天空トレイル大会実行委員会(富山) P.93 |
| | 鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会(福井) P.99 |
| | 美濃歌舞伎保存会(岐阜) P.102 |
| | 花男子プロジェクト(愛知) P.108 |
| | 大内山動物園(三重) P.111 |
| | エナジーフィールド(滋賀) P.114 |
| | こえとことばとこころの部屋(ココローム)(大阪) P.120 |
| | フードバンク関西(兵庫) P.123 |
| | 南都銀行(奈良) P.126 |
| | 串本町トルコ文化協会(和歌山) P.129 |
| | 元気みなと(鳥取) P.132 |
| | タブララサ(岡山) P.138 |
| | 創生工房 仁保ヴィレッジ(山口) P.144 |
| | 鳴門「第九」を歌う会(徳島) P.147 |
| | 観音寺まちなか活性化プロジェクト Re:born.K(現ま |
| | ちづくりネットワーク Re:born.K)(香川) P.150 |
| | 和重次郎顕彰会(愛媛) P.153 |
| | 十和おかみさん市(高知) P.156 |
| | がんばりよるよ星野村(福岡) P.159 |
| | 栄町地域づくり会(佐賀) P.162 |
| | 神代小路まちなみ保存会(長崎) P.165 |
| | 小岱山菓業の会(熊本) P.168 |
| | はなどう(宮崎) P.174 |
| | にじの森文庫(現にじのはしファント)(沖縄) P.181 |
| | 首里まちづくり研究会(沖縄) P.181 |

第9回 (2018 年度)

| | |
|--------|------------------------------|
| 大 賞 | 多言語センターFACIL(兵庫) P.17, P.123 |
| 準 大 賞 | きりりよしまネットワーク(山形) P.54 |
| | いけま福祉支援センター(沖縄) P.182 |
| 選考委員長賞 | えがおつなげて(山梨) P.87 |
| 奨 励 賞 | ディーグリーン(三重) P.111 |
| | えひめ心のつばさ(現翼学園)(愛媛) P.153 |
| ブロック賞 | 八戸市中心街市民集団まちぐみ(青森) P.42 |
| | 那須まちづくり株式会社(栃木) P.66 |
| | 志民連いちのみや(愛知) P.108 |
| | 大野木長寿村まちづくり会(滋賀) P.114 |
| | UNOICHI実行委員会(岡山) P.138 |
| | 下郷村(大分) P.171 |
| 特 別 賞 | 札幌大学ウレシバクラブ(北海道) P.38 |
| | 川西郷の駅(広島) P.141 |
| 優 秀 賞 | むろらん 100 年建造物保存活用会(北海道) P.39 |
| | たきざわグリーンワークス(岩手) P.45 |

北海道

- 羽幌みんなで作る自然空間協議会
- テツプロ
- 江差塗工房
- 室蘭ルネッサンス
- アルテピアッツァびばい
- ふくろうの会
- おんねゆ温泉「山の水族館」
- 室蘭港立市民大学
- これぞ小清水！実行委員会
- 室蘭文学館の会



- 森の生活
- 室蘭港を愛する会
- キウシト湿原・登別
- 天売島おらが島活性化会議
- 有珠山周辺地域ジオパーク友の会
- 札幌大学ウレシバクラブ
- むろらん100年建造物保存活用会
- 恵み野商店会
- 知里森舎

アルテピアッツァびばい

賞 第3回優秀賞 認定NPO法人
〒072-0831 北海道美唄市落合町栄町
HP f

旧校舎を拠点に伊在住作家の彫刻展示や体験教室



美唄市出身でイタリア在住の彫刻家の作品を展示する「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」を管理・運営する。

安田氏と市によって1992年に開設、関わったメンバーや施設内のイベントを企画した人たちがつくった。アルテピアッツァとはイタリア語で「芸術広場」。

廃校になった小学校の校舎を含む7校の敷地に40点余りの作品が並ぶ。体験工房やカフェもある。美と自然が調和する空間に年間3万人が訪れ、心地よい時間の流れを楽しんでいる。

江差塗工房

賞 第2回優秀賞
〒043-0051 北海道江差町津花町42 (南)室谷塗料店内

古材を使い漆塗りの家具を製作。漆の木の植樹も



北海道で漆文化の普及に取り組む。江差は江戸時代から明治時代まで、北前船によるニシンやヒノキ材の交易で栄え、石川県・輪島の漆器も取り扱っていた。塗装職人が輪島で技術を学んだ。

家屋の解体現場にあった材木を使って漆塗りの家具や小物などを生産し、住宅内部の壁や柱、梁の塗装も行う。漆の木の植樹も続けている。町内に常設販売所があり、年に1回程度は函館市などで展示販売をしている。

ふくろうの会

賞 第3回優秀賞
〒051-0015 北海道室蘭市本町2丁目2番5号 市立室蘭図書館
HP

市民の寄付で美術書中心に収集。展示、講座も



市民がつくる市民文庫をつくろうと、寄付を呼び掛けて絵巻物、掛け軸、版画などの複製、美術書を中心に収集、市立室蘭図書館に寄贈し「ふくろう文庫」として管理している。5000万円を超える寄付で購入した7000冊近い蔵書は珍しいものも多く、北海道外からも研究者らが訪れる。一般公開やボランティアによる蔵書案内のほか、企画展も開催。会費500円で会の中心メンバーである元市立図書館長から専門的な話を聞く「ワンコイン美術講座」もある。

室蘭ルネッサンス

賞 第2回優秀賞 一般財団法人
〒051-0011 北海道室蘭市中央町2-8-10
HP

鉄塔ライトアップを柱に、市民の手で地域活性化



製鉄会社の高炉の廃止をきっかけに、まちの再生活動に取り組んでいる。

自動車産業の企業城下町だった米ピッツバーグの活動をお手本に始めた。1988年から山の頂に立つ鉄塔のライトアップを続ける。光源はLEDに進化、周辺の工場の夜景と併せ、観光スポットとなっている。町内会ごとに数多くあった祭りを一本化した「室蘭ねりこみ」の開催も呼び掛けた。室蘭市内の風景写真を載せたカレンダーを毎年発行する。

テツプロ

(受賞当時：てつのまちぶろじゅくと・ポルタ工房)

賞 第1回優秀賞 NPO法人
〒050-0085 北海道室蘭市輪西町1丁目32番6号
HP f

ポルトで人形製作、鉄をテーマにまちづくり



鉄のまち室蘭の輪西町地区で工場合理化による人口減少に危機感を抱いた地元商店主らが鉄をテーマにまちづくり。ポルト

やナットをはんだ付けしたポルト人形「ポルタ」を製作している。サッカーをしたり、バイオリンを弾いたり約130種類あり、工房や北海道内の土産店などで年間3万個が販売される。工房では人形の製作や鉄の鍛造などが体験できる。子どもたちを対象に、地域の産業への関心とまちへの愛着を育む「てついく(鉄育)」を産官学民で進める。

羽幌みんなで作る自然空間協議会

賞 第1回優秀賞
〒078-4116 北海道羽幌町北6-1 北海道海鳥センター内
HP

多様な生物が生息する昔の空間づくりを目指す



羽幌町で生き物と共生する空間「ピオトープ」づくりに取り組む。旧羽幌川河川敷に野鳥が生息する森や人口の池、川を備

える。生き物を捕って遊んでいた昔の空間を再現しようと、60～70代の地元の住民を中心に協議会を結成。確認された野鳥は80種類に及び、ガンやハクチョウが飛来する。北海道で初めて見られたものもあるという。トンボも数多く飛び回る。これまでミズナラやエゾマツなどを9600本植樹した。地元の高校生らと森づくりや生物の観察会も行っている。

まちづくりチャレンジの「いま」

コロナ禍でイベントに知恵絞る

2020年以降、新型コロナウイルスのまん延により、イベントや伝統的な祭りなどが中止や延期、規模縮小といった変更を余儀なくされている。一方、子育て支援団体では、職を失った人の相談が増えるなど支援の内容にも変化が起きている。受賞団体の大半が大なり小なりコロナ禍の影響を受けたことが想像される。

「南郷ジャズフェスティバル実行委員会」（青森県八戸市）は、毎年7月に開催してきた日本最大級のジャズフェスティバルの中止を決めた。代わりに過去の演奏を配信した。「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会」（富山県南砺市）も、来場者数などで日本最大規模の音楽イベントを中止した。本来なら30回の節目となり、市民参加のパレードなどが一層盛り上がるはずだった。

「富士山河口湖音楽祭実行委員会」（山梨県河口湖町）は海外オーケストラの演奏などを中止した上で、オンラインでの開催に切り替えた。「湯布院映画祭実行委員会」（大分市）は、期間を2日間に縮小、観客も半数に減らすなどして開催した。広告収入がゼロになるのは覚悟の上で、「人と人との交流の場に」という趣旨を貫いた。

「勝山のお雛まつり実行委員会」（岡山県真庭市）は城下町の風情が残る勝山地区の民家や商家約160軒が、工夫を凝らしておひな様を飾るイベントを中止した。「肥土山農村歌舞伎保存会」（香川県土庄町）も江戸時代から続く伝統の上演を中止した。「かつぬま朝市会」（山梨県甲州市）は毎月開催してきた県内最大の朝市を3月からやめ、安全確保策のリハーサルを重ねながら本格再開を期している。

子育て・生活相談をしている「わが町にしなり子育てネット」（大阪市）には、失業などによる生活資金の相談も目立ち、社会福祉協議会につながり役割を果たしている。400年以上続く伝統芸能でにぎわいを取り戻そうと活動する「金吾様踊り活性化実行委員会」（鹿児島県さつま町）は、動画サイトも活用して疫病退散を祈願する。

（鎌田 司）

森の生活

賞 第6回特別賞

NPO法人

〒098-1204 北海道下川町南町 477



森を生かして環境教育など幅広い取り組み



循環型森林経営と先進的な木質バイオマスエネルギー利用で知られる「森林未来都市」北海道下川町で、森の生活は森林文化の創造を担う「森林交流のバイオニア」として活動している。林業体験などの森林ツーリズムには年間2000人近い利用があり、人と森との新たな出会いになっている。また、市街地の雑木林で住民参加の「みんなの森づくり」を進めるほか、森林教育活動、工芸用木材販売など幅広い活動を展開している。

室蘭港を愛する会

賞 第6回優秀賞

〒051-0002 北海道室蘭市御前水町 3-5-7

客船を信号旗で歓迎、まちの魅力もアピール



室蘭港に入港、出港する客船、練習船を、埠頭で国際信号旗を振って歓迎・見送りをしている市民グループ。子どもたちに信号旗を教え、名前やアルファベットを表現する体験会も開いている。また、埠頭に着物着付けや和の小物作りなどの体験コーナーを設け、日本製鋼所室蘭製作所の瑞泉鍛刀所見学会を実施するなど、外国人や道外から来た乗客をさまざまな方法でもてなし、ものづくりのまち・室蘭の魅力を発信している。新たなフェリー航路の誘致についても側面から支援してきた。

これぞ小清水！実行委員会

賞 第5回優秀賞

〒099-3626 北海道小清水町小清水5区 ループドールカフェ内



特産のジャガイモでんぶんでまちおこし



特産のジャガイモでんぶんでまちおこしに取り組む。郷土料理の「でんぶん団子」を味わうイベントを毎年開催している。

1000人が訪れた第1回では、巨大でんぶん団子作りに挑戦し、ギネス世界記録に認定された。実行委員会のゆるキャラ「でん坊」もPRに一役買っている。こうした取り組みが、せんべいの原料に使うでんぶん不足で困っていた福岡市の会社の目に留まり、同社は小清水町内の廃校を買取って工場を稼働させた。雇用を生み、大きな経済効果も生まれている。

室蘭文学館の会

賞 第5回優秀賞

〒051-0022 北海道室蘭市海岸町1-1-9

室蘭ゆかりの文学館をボランティアが運営



公設・民営方式の「室蘭市港の文学館」をボランティアが運営している。地元の文学資料の展示会が開かれた際、貴重な

資料を散逸させてはならないと有志が団体結成を呼び掛け、市が建物を提供した。現在のスタッフは二十数人で、資料整理や来館者の案内、企画展の運営に当たる。展示している作家の説明会やライブ演奏、朗読会、地域の文学作品にまつわる名所の散歩などにも積極的に取り組んでいる。

おんねゆ温泉「山の水族館」

（受賞当時：果夢林ショップ運営協議会）

賞 第4回ブロック賞（北海道・東北）

〒091-0153 北海道北見市留辺蘂町松山1-4



道の駅で「山の水族館」を運営、イトウなど展示



道の駅で淡水魚を展示する「山の水族館」の運営に当たる。幻の魚といわれるイトウの数は国内有数、「四季の水槽」で

は、夏には上流へ向かって元気に泳ぎ、冬は厚い氷の下で静かに過ごす魚たちの姿が来場者を楽しませる。管理者をしている道の駅では土産物の売り上げが上昇、隣接する温泉地を訪ねる客も増えている。コロナ禍では水族館の様子を「北の大地の水族館」と題した動画チャンネルで配信、オンラインで飼育員が魚の知識を紹介した。

室蘭港立市民大学

賞 第4回優秀賞

〒051-0011 北海道室蘭市中央町 2-8-10

学習会や施設見学などを通じ港町への愛着を育てる



「まちづくりは人づくり」という観点に立ち、室蘭全域をキャンパスに「室蘭大好き人間」の養成を目指して活動。年10

回程度の講義や施設見学などの講座を通して室蘭の歴史や文化、産業について学び、多くの人に地元の魅力を伝える。石炭や製鉄の歴史を広く知るための市外へのバス研修や受講生有志で港周辺の美化活動も実施している。

知里森舎

賞 第10回優秀賞 NPO法人
〒059-0465 北海道登別市登別本町 2-34-7
HP f

「アイヌ神謡集」の著者、知里幸恵の記念館運営



アイヌ文化を継承させてきた先人の生涯と業績に学び、広く伝えている。アイヌ民族として初めてカムイユカラ（神謡）を

文字化した「アイヌ神謡集」の著者、知里幸恵の業績を顕彰する「銀のしずく記念館」を生家近くに開いた。神謡集を読んだ海外の読者がそれぞれの母語に翻訳する動きが続いている。2019年からは小学生向けのイベント「アイヌ文化たんでい団」を開催。今後、22年の幸恵没後100年などを記念した企画展がめじろ押しだ。

むろらん100年建造物保存活用会

賞 第9回優秀賞 一般社団法人
〒051-0035 北海道室蘭市緑町 2-1
HP f

石炭や製鉄産業の歴史伝える建物保存に取り組む



室蘭の歴史的価値の高い建造物等の保存活用、調査研究、情報収集及び観光事業等を行っている。約150年前の石炭

関連の商社である旧三菱合資会社が建造した木造洋館を、歴史的な保存空間として残そうという市民の機運で会を設立し、建物を買い取った。洋館は2019年「炭鉄港」の関連資産として日本遺産に認定された。円形のユニークな校舎で縄文遺跡の上にある旧絵鞆小学校もクラウドファンディングで買い取り、拠点として活用する。

有珠山周辺地域ジオパーク友の会

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒052-0101 北海道壮瞥町滝之町 384-1 そうべつ情報館i 2F
HP f

行政と連携し、過去に噴火した火山との共存活動に取り組む



北海道の南西部にある有珠山は2000年に噴火した。洞爺湖有珠山ジオパークは、温泉や美しいカルデラ湖が火山の恵

みだと宣言し、火山との共存をうたう。有珠山周辺地域ジオパーク友の会は、行政のバックアップを受けつつ、広域の民間団体として活動している。立ち入りが禁止されている昭和新山の登山会、観光客が訪れる有珠山散策路の草刈りをはじめ、ジオパークに含まれている秘境駅、小幌駅の存続応援や遺跡の踏査などにも取り組んでいる。

キウシト湿原・登別

賞 第7回優秀賞 NPO法人
〒059-0026 北海道登別市若山町 2丁目 21番地
f

貴重な動植物がすむ湿原を保全、管理



北海道登別市にある「キウシト湿原」には、レッドデータ種類（絶滅危惧種）の生物がすむ自然環境がある。2001年に

環境省の「日本の重要湿地500」に選定された。「NPO法人キウシト湿原・登別」は湿原を保全、管理、市民や来訪者に学習の機会を提供している。ミズバショウなど多彩な植物の開花状況や、エゾサンショウウオ、エゾホトケドジョウといった希少動物の生息状況を調査している。植物の定植や外来種駆除も実施している。

まちづくりチャレンジの「いま」

高校生が地域で活躍

地域の活性化に貢献する高校生たちの活動が光る。三重県多気町の「相可高校調理クラブ」が週末運営するレストラン「まごの店」は、調理科の生徒たちが高い調理技術を生かした定食が人気を集める。山梨県富士吉田市の「ひばりが丘高校うどん部」は麺の商品化・販売やうどん打ち講習会のほか、「子ども食堂」があるうどん店も運営する。

広島県神石高原町の「広島県立油木高校ナマズプロジェクトチーム」は、中山間地の耕作放棄地でナマズを養殖し、天井を提供する店舗も開設した。「愛媛県立長浜高校水族館部」（大洲市）は、かつて地元のシンボルだった水族館を校内に開設し、イソギンチャクの生態研究で高い評価を受けるなどして、高校そのものの存続にもつながった。愛知県立安城農林高校（安城市）は、独自の手法で卵の質を向上させるなどして地元を盛り上げる原動力になっている。

恵み野商店会

賞 第10回ブロック賞（北海道・東北）
北海道恵庭市
HP

商店街第2世代が花のまちづくり、イベント開催



約40年前にできた新興住宅地の商店街活性化を30～40代前半の若い理事たちがけん引。母親の代から続く花のまちづくりを受け継ぎ、歩道に700㎡にわたって個性豊かな36のミニ庭園を配置したガーデンギャラリーは、全国的に高い評価を受けている。さらに「子どもが楽しめる街」をコンセプトに、興味を引きそうな難易度が高い推理ゲームを夏祭りで開催。飲食店以外に理容店などが自慢の味を提供する屋台イベントも好評だ。

札幌大学ウレシバクラブ

賞 第9回特別賞 一般社団法人
〒062-8520 札幌市豊平区西岡 3条 7丁目 3-1 札幌大学内 7513号室
HP f

アイヌ研究に取り組む。イベントなどで広く情報発信



札幌大学ウレシバクラブはアイヌ文化の担い手育成を目的に、2010年4月に発足した。ウレシバはアイヌ語で「育て合い」

の意味で、学生18人が所属。普段はアイヌ文化を学び、17年の冬季アジア大会の採火式など各イベントで発信し続けている。毎年秋に学内で行う「ウレシバ・フェスタ」は、音楽家の坂本龍一さんを招いたり、人気漫画「ゴールデンカムイ」特集を行ったりと、多彩な内容で、市民から好評だ。

天売島おらが島活性化会議

賞 第8回優秀賞 一般社団法人
〒078-3955 北海道羽幌町大字天売字弁天 40-1
f

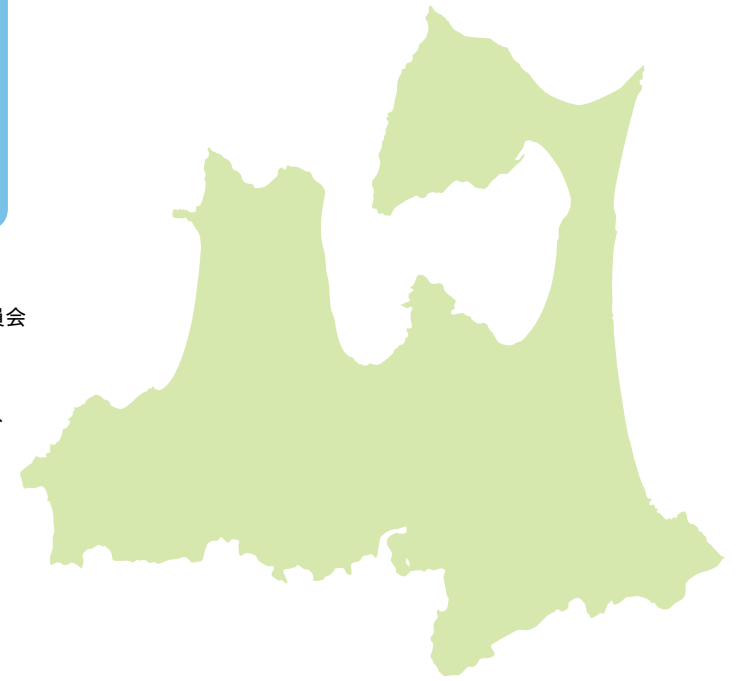
体験型観光の提案や地元海産物を用いた商品づくりを展開



北海道の北西、羽幌町の沖合に浮かぶ人口約270人（2020年3月末時点）の天売島で、島おこしに取り組む。過疎化

が進み、島の将来に不安を抱いた青年らが11年に立ち上がった。ウニなどの地元海産物をPRする商品づくりやシーカヤック、星空観察といった離島ならではの体験型観光の提案、海鳥と共生する環境保全一。おらが島の自慢を次々に発信する。漁業者や運送業者、役場支所職員ら30～50代の9人がメンバーで、高校生も活動に加わる。

青森



- 南郷ジャズフェスティバル実行委員会
- 八戸せんべい汁研究所
- Kyosokyodo (共創郷土)
- 八戸ハマリレーションプロジェクト
- 十和田バラ焼きゼミナール
- 山の楽校運営協議会
- 八戸前沖さばブランド推進協議会
- 湊日曜朝市会
- 八戸市中心街市民集団「まちぐみ」
- 十和田きみがらスリッパ生産組合

十和田バラ焼きゼミナール

賞 第5回優秀賞

〒034-0082 青森県十和田市西二番町 7-4

HP

名物料理を軸に「住んでみたい」まちづくり



牛バラ肉とタマネギを甘辛く味付けた名物料理を通じて十和田をPRする。メンバーは会社員や団体職員ら十数人で、県外

に実演販売などにも出掛ける。ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1グランプリ」に出場し、第9回でゴールドグランプリに輝いた。2015年の第10回は十和田市で開催し、5500人のボランティアが30万人以上の来客をもてなした。「食べてみたい」「訪れてみたい」に続く目標として「住んでみたい」をテーマに、高校生を巻き込んでまちづくりに取り組む。

Kyosokyodo (共創郷土)

賞 第3回優秀賞

〒034-0031 青森県十和田市東三番町 24-1 新渡戸記念館内

HP

新渡戸稲造の遺志継ごとボランティアが記念館運営



世界に通ずるローカル記念館を目指す新渡戸記念館を、基本的な博物館機能の面でサポートしつつ、十和田市の礎である

「三本木原開拓」の志を受け継ぐ地域づくり活動を行っている。ローカル面では、開拓の歴史と文化を後世に伝える活動(教育事業、地ブランドづくりなど)、グローバル面では稲造の精神を受け継ぐピースプロジェクト(アフガニスタン、エチオピア、ケニアなど)がある。

山の楽校運営協議会

賞 第6回優秀賞

〒031-0202 青森県八戸市南郷島守北ノ畑 6-2

HP

そば打ちや工芸品の講座で伝統文化を継承



青森県八戸市南郷区で、地域に建設されたダムにより水没した地域の住民たちが、閉校された小学校の校舎を利用して、自分たちの歴史と自然を後世に伝え、地域の活性化につなげようと奮闘している。スローガンは「やっぱり田舎って良いなあ」。徹底的に田舎文化にこだわり、お年寄りが講師となって、そば打ち体験、豆腐やみそづくり、民芸品づくりなど、地域の伝統・文化・自然をありのままの姿で伝えている。

自分たちの歴史と自然を後世に伝え、地域の活性化につなげようと奮闘している。スローガンは「やっぱり田舎って良いなあ」。徹底的に田舎文化にこだわり、お年寄りが講師となって、そば打ち体験、豆腐やみそづくり、民芸品づくりなど、地域の伝統・文化・自然をありのままの姿で伝えている。

八戸ハマリレーションプロジェクト(HHRP)

賞 第4回優秀賞

〒031-0822 青森県八戸市白銀町三島下 92 八戸缶詰株式会社内

HP

ブイヤベースなどイベント仕掛け水産品アピール



東日本大震災で被災した青森県八戸港で若手の水産業界有志が結成した。八戸港ではイカやサバをはじめとして、多くの種類の魚の水揚げがあり、価値向上と消費拡大を目指す。市内の料理店の協力を得て、魚介類を使ったオリジナルのスープ料理を提供する「八戸ブイヤベースフェスタ」を2012年から開催、特に若い女性からの支持が集まり例年1万食以上が売れる。テーブルマナーを学ぶ親子教室、教育委員会と連携した食育にも取り組む。

市内の料理店の協力を得て、魚介類を使ったオリジナルのスープ料理を提供する「八戸ブイヤベースフェスタ」を2012年から開催、特に若い女性からの支持が集まり例年1万食以上が売れる。テーブルマナーを学ぶ親子教室、教育委員会と連携した食育にも取り組む。

八戸せんべい汁研究所

賞 第2回優秀賞

〒039-1114 青森県八戸市北白山台 2-4-23

HP

地元独特の料理を名物に。ご当地グルメの先駆け



肉や野菜のだし汁に鍋用の南部せんべいを入れ煮込む郷土料理、八戸せんべい汁。地元独特の味を全国に発信し、まちおこしにつなげようと飲食店と関係のない市民ボランティア団体を結成。現在のメンバーは三十数人で、取扱店の紹介、ホームページ運営のほか、県内外のイベントなどで八戸をPRしている。市内の小中学生対象のまちおこし講座や、修学旅行にも対応する。ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」の設立に携わり、第1回大会を八戸市内で開催した。

肉や野菜のだし汁に鍋用の南部せんべいを入れ煮込む郷土料理、八戸せんべい汁。地元独特の味を全国に発信し、まちおこしにつなげようと飲食店と関係のない市民ボランティア団体を結成。現在のメンバーは三十数人で、取扱店の紹介、ホームページ運営のほか、県内外のイベントなどで八戸をPRしている。市内の小中学生対象のまちおこし講座や、修学旅行にも対応する。ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」の設立に携わり、第1回大会を八戸市内で開催した。

南郷ジャズフェスティバル実行委員会

賞 第1回優秀賞

〒031-0111 青森県八戸市南郷市野沢黒坂 11-10 南郷事務所内

HP

日本有数の野外ジャズイベントを実施

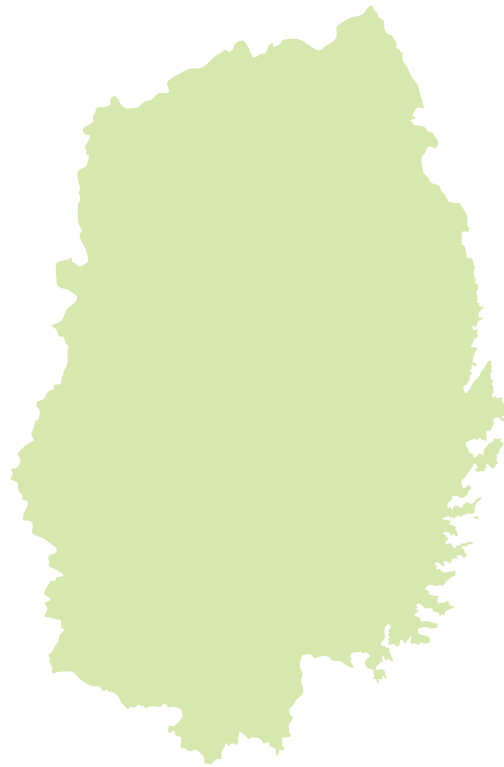


葉タバコやソバが主な産業で、過疎化が深刻だった青森県南郷村(現在は八戸市と合併)のまちおこしをしようと、ジャズ好きだった元村長がフェスティバルの開催を呼び掛け、若い住民らが呼応して運営に当たる。毎年7月に野外ステージで開催し、有名なミュージシャンが演奏を披露する。2019年で30回目となった。毎年約2千人のファンが訪れ、全国的に知られるジャズフェスティバルに成長した。アーティストのジャンルを広げ、多くの人が聴きやすいイベントを目指している。

葉タバコやソバが主な産業で、過疎化が深刻だった青森県南郷村(現在は八戸市と合併)のまちおこしをしようと、ジャズ好きだった元村長がフェスティバルの開催を呼び掛け、若い住民らが呼応して運営に当たる。毎年7月に野外ステージで開催し、有名なミュージシャンが演奏を披露する。2019年で30回目となった。毎年約2千人のファンが訪れ、全国的に知られるジャズフェスティバルに成長した。アーティストのジャンルを広げ、多くの人が聴きやすいイベントを目指している。

岩手

- 体験村・たのはたネットワーク
- 遠野まごころネット
- いわて子育てネット
- 久慈市ふるさと体験学習協会
- ポケットマルシェ
- いしがきミュージックフェスティバル実行委員会運営委員会
- たきざわグリーンワークス
- しずくしい軽トラ市実行委員会



遠野まごころネット

賞 第2回特別賞 NPO法人
〒028-0521 岩手県遠野市材木町 2-21
HP f

ボランティアや団体を束ね、沿岸部の被災者支援



岩手県内陸部の遠野市は東日本大震災で被災した陸前高田市、大槌町、大船渡市など海沿いのまちに向

かう交通の拠点。復興、復旧のために全国から駆け付けたボランティアの受け入れ拠点となり、10万人以上を現場に送った。地元有志の呼び掛けで遠野市民らを中心に結成し、活動を支援、バジル、ラベンダーの栽培や、祭りやイベントの手伝いも。障がい者のための「まごころ就労支援センター」を釜石市と大槌町に開設。工芸や農業、ワイナリーの苗木の手入れなどの仕事に就いてもらっている。

体験村・たのはたネットワーク

賞 第1回優秀賞 NPO法人
〒028-8402 岩手県田野畑村北山口 9-10
HP f

三陸海岸の立地生かし、海と山の体験型観光推進



漁師が寝泊まりする「番屋」が並ぶ海岸沿いの立地を利用して観光客や教育旅行の受け入れによるエコ

ツーリズムに取り組む。地元漁師が小型漁船「サツパ船」を操り、三陸海岸の景観やふれあいを楽しむクルーズが人気。灯台や展望台を巡るトレッキング、貝殻を使った工作体験など多くの体験メニューを備える。来訪者は年間約7千人。教育旅行の民泊の窓口にもなっている。近くの酪農農家などと連携し、海と山とが一体となった観光による地域振興を探る。

八戸市中心街市民集団「まちぐみ」

賞 第9回ブロック賞（北海道・東北）
〒031-0075 青森県八戸市内丸 1-3-16
HP f

市内外の多彩な人が参加、店の改装や新名物に挑戦



中心街を「まちぐみ」で元気にする市民集団。小学生から高齢者まで市内外の約500人が、空き

店舗を拠点に商店会との連携や、地元の伝統・文化に光をあてる企画「入りづらい店」徹底調査、「開運手袋」の考案などを展開している。各自の興味や都合に合わせて自由に参加する「なんか楽しそう」な場を目指す。コロナ禍では手づくりの旗を店頭に掲げ、医療従事者への感謝を表す「ブルーフラッグプロジェクト」を展開した。

八戸前沖さばブランド推進協議会

賞 第7回優秀賞
〒031-8511 青森県八戸市堀端町 2-3
HP f

サバのブランド化を目指し関係団体が協力



八戸前沖で漁獲されるサバの価値と認知度の向上、地域ブランドの形成を目指し、地元の水産、観光、飲食、行政など

50を超える団体が集まり、2008年7月に発足した。ブランドとして認定する漁獲期間は水揚げ状況、脂肪分、重量等を参考に協議会が毎年判断し決定している。アイデア料理コンテストやPRイベント等を開催し、今後は首都圏向けにもPR事業を展開する予定だ。

十和田きみがらスリッパ生産組合

賞 第10回優秀賞
〒034-0051 青森県十和田市伝法寺字平窪 37-2

トウモロコシからスリッパ、デザイン向上、後継育成



馬の街・十和田市で育てられた飼料用トウモロコシのデントコーンで大量廃棄された皮を再利用し、加工して作った「き

みがらスリッパ」。農閑期の収入源として、農家の女性たちが生産に励み約50年前に組合が発足した。一つ一つ手作りで受け継いできたが、そうした伝統や形式にこだわらずデザイン性を向上させながら、商品の付加価値を高めている。最近では地元高校生とも交流を図りながら後継者育成や地域貢献につなげている。

湊日曜朝市会

賞 第8回優秀賞 協同組合
〒031-0072 青森県八戸市城下4丁目1 加山珈琲内
HP

八戸港岸壁で朝市運営、地元の商業発展目指す



2004年3月から八戸市の八戸港館鼻岸壁での朝市を運営。組合設立は10年3月26日。出店者の親睦と融和、総合的朝

市会の市としての繁栄に向けた事業を展開し、商業上の発展を目的に掲げる。会員数は約360店。館鼻岸壁朝市は現在、毎年3月中旬から12月下旬まで毎週日曜開催（お盆、年末には臨時開催も）。営業時間は日の出から午前9時ごろまで。出店数は約300に上る。

まちづくりチャレンジの「いま」

フランス、英国の地域運営組織

フランス東部、オーベルニュ・ローヌ・アルプ州のオワン村は、ボージョレ・ヌーボーとして世界的に知られるワイン産地の一角に位置する。中世の城跡が残り「フランスの最も美しい村」の一つになっている。住民組織の「友人組合」が村と連携して、「黄金の石」と呼ばれる地元産の黄色い石で城跡周辺の家並みや教会、役場などを整備した。また、ゼンマイや手回しなどで音楽を奏でる楽器を展示する機械音楽博物館の運営とその国際フェスティバルの開催、さらにキリスト降誕の情景を飾る冬のイベントの運営にも携わる。これらを目当てに、国内はじめヨーロッパなどから多くの観光客が訪れる。博物館の入場料やイベントでの飲食販売などの収益は、村の予算に組み入れられて街並みの維持・修理費に充てられる。「友人組合」は、外からのお金を村内で循環させる大きな役割を果たしている。周辺の村が寂れる中で、オワン村には観光客目当ての高級レストランやアクセサリー店などもできて、1980年代に350人だった村の人口は、現在2倍近くに増加した。

英スコットランドの首都エディンバラに、社会的企業の「サイレニアン」の本部がある。約半世紀前にホームレス支援をする学生の活動が組織の始まりで、今では引きこもりや拒食症などの若者や困窮者、さらに孤独な高齢者も対象に幅広い支援活動をしている。保有する農場に銀行や企業の若手社員を派遣してもらい、ホームレスや引きこもりの若者らとの共同作業でお互いの交流・理解が進むようにしているほか、企業からの経済支援にもつなげている。賞味期限が迫った食品をスーパーなどから提供を受けてチャリティーバザーに出したり、期限切れ食品を堆肥にするリサイクルも行う。食品の回収作業などを含めて、こうした事業を雇用の場としている。食料や住宅の支援にとどまらず、自立するまで寄り添うことに徹していて、資格取得などの訓練の場も提供する。2019年は1万人以上を支援。活動資金の約60%は自治体の補助金を中心とした公的資金で、残りを独自の収益や企業の寄付などで賄っている。

(鎌田 司)

たきざわグリーンワークス

賞 第9回優秀賞

〒020-0664 岩手県滝沢市鶴飼笹森 140



若手農家が力を合わせ、販路拡大や就農支援継続



岩手県滝沢市で40歳以下の若手農業者が組織する「たきざわグリーンワークス」は農業の担い手不足が深刻化する中、新規

就農者定着、生産加工販売、食育などでチャレンジ精神旺盛な農業を展開している。「滝沢スイカ」と岩手の文化「チャグチャグ馬コ」を守るため馬ふん堆肥でスイカを栽培し、販売益金を馬の飼育費に役立てる活動にも乗り出し、地域ブランドと歴史伝統の両立を図るユニークな取り組みとして注目を集める。

しずくいし軽トラ市実行委員会

賞 第10回優秀賞

〒020-0527 岩手県雫石町中町 7-4 雫石商工会内



軽トラックを使った「軽トラ市」を全国に先駆けて開催



5～11月の毎月1回、雫石町中心商店街「よしゃれ通り」で開催するしずくいし軽トラ市は、2005年に始まり、100

回を超えた。軽トラックの荷台に農林水産物などを陳列し販売するスタイルを全国に先駆けて確立。参加者にとって移動や出店、退店の負担が軽いのが特長だ。同様の手法は広がり、今では全国に100を超す軽トラ市が生まれた。14年には軽トラ市の発祥地として全国軽トラ市を開催、空洞化が進む中心市街地の地域再生モデルになっている。

ポケットマルシェ

(受賞当時：東北開墾)

賞 第7回準大賞

株式会社

〒025-0096 岩手県花巻市藤沢町 446-2



全国の食材「つくる人」「食べる人」をつなげる



2013年に設立された「東北開墾」が、「つくる人」と「食べる人」をつなげる食材付き情報誌「東北食べる通信」を発刊

したことがスタート。各地で同趣旨の雑誌が創刊され統括・運営体として「日本食べる通信リーグ」が発足した。16年にはスマホのアプリを使った産直プラットフォーム「ポケットマルシェ」の事業が始まる。生産者と消費者が顔の見える関係になることを目指す軸はぶれない。20年5月にこれらの事業は「ポケットマルシェ」に統合、新たな生産・流通の実現を図る。

いしがきミュージックフェスティバル実行委員会
運営委員会

賞 第8回優秀賞

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通 2-12-14



野外音楽イベントで中心市街地を活性化



野外音楽イベント「いしがきミュージックフェスティバル」を旧盛岡城址「岩手公園」を主会場に年1回開催している。

若手・中堅世代の市民が運営、資金は市内の民間企業の協賛金がメイン。市や県からの補助金も得て入場無料を貫く。人気バンドなどゲスト出演は約30組。地元からロックバンド、民謡歌手、高校生バンド、障害者団体など約70組が出演する。盛岡駅から公園までの約1kmに10ステージを設け、街中に音楽があふれる。

いわて子育てネット

賞 第3回ブロック賞(北海道・東北) 認定NPO法人

〒020-0022 盛岡市大通1丁目9-12 第8大通ビル3階



祖父母まで3世代、地域ぐるみの子育てサポート



盛岡市を拠点に、4カ所の施設で子育て支援に取り組む。子育てサークルの連絡協議会が前身で、東

日本大震災後には被害が大きかった沿岸部に遊び場を提供する事業に取り組んだ。現在は、自然遊びの場づくり、祖父母を含む3世代や地域ぐるみで子育てを支援する講座・フォーラムの開催、女性医師の育児支援などに取り組み、年間5万6000人が利用している。新型コロナウイルスの流行では、家の中のできる親子遊びなどの情報をSNSで発信している。

久慈市ふるさと体験学習協会

賞 第5回優秀賞

一般社団法人

〒028-0051 岩手県久慈市川崎町 1-1 久慈市観光交流課内



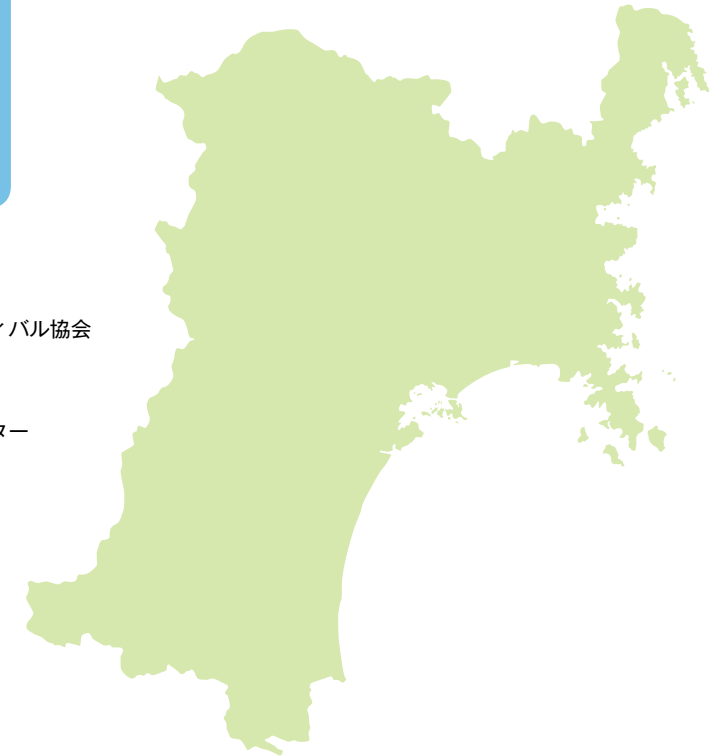
体験型教育旅行の受け入れ



地元と首都圏の小中学生の交流を目的とした自然体験キャンプの開催をきっかけに、中高生らの体験型教育旅行を受け入れ

る専門組織を結成した。会員は約50名8団体。小型漁船「サツハ船」に乗船しての漁業体験、郷土食の「まめぶ」や豆腐を作る郷土料理づくり体験、沢登り、カヌー・カヤック体験など体験メニューは豊富だ。一般客も体験に参加できる。白樺林をトレッキングし、昼食には栄養バランスのとれた「白樺べっぴん弁当」、最後は白樺樹液のジェルでハンドマッサージを受けることができる「ヘルスツーリズム」にも力を入れている。

宮城



- 鳴子の米プロジェクト
- 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会
- 仙台市宮城野区福住町町内会
- ISHINOMAKI 2.0
- 三陸復興観光コンシェルジュセンター
- 亘理いちごっこ
- 仙台秋保醸造所
- フィッシャーマン・ジャパン
- 日本カーシェアリング協会
- ほやほや学会

三陸復興観光コンシェルジュセンター

(受賞当時：小泉自然楽校)

賞 第5回ブロック賞（北海道・東北）

〒986-0766 宮城県南三陸町黒崎 99-17 南三陸ホテル
観洋気付

コンシェルジュとして三陸復興観光国立公園紹介



「東日本大震災
沿岸部被災地にボ
ランティアとあわ
せて地元の語り部
ガイドから学びた
い」人々を受け入
れている。「被災

地を見て学んで次の災害に備えたい」「東北の海の幸、
おいしいものを食べてゆっくり温泉に入りたい」「東北
の四季折々の景観や観光を楽しみたい」。すべての想
い、その時にしかできない思い出。全国からのボラン
ティアと地元の想いをつなぐ“志縁”を現地コンシェル
ジュが調整、訪れる人々と地元の人々との笑顔を育み、
元気に触れ合える復興観光を推進する。

仙台市宮城野区福住町町内会

賞 第3回特別賞

〒983-0033 仙台市宮城野区福住町 2-14 菅原動物病院

災害対策進め食料・器具を準備、他地域も支援



東日本大震災の
発生後、町内の
400世帯のほか、
岩手県大船渡市や
気仙沼市など
240カ所以上に
支援物資を手渡し

た。まちは自分たちで守るという発想の下、炊き出し
用の調理器具や備蓄米などを豊富に保管していた。防
災マニュアルや緊急名簿を備え、山形県尾花沢市など
と災害時の相互協力協定も結んでいた。取り組みは「仙
台福住町方式」と呼ばれ、全国で講演に招かれる。
自分や地域の人命を守る「自助」「共助」に加え、他
の地域を支援する「他助」の概念を広めている。

亘理いちごっこ

賞 第6回優秀賞

NPO法人

〒989-2351 宮城県亘理町南町東 10-1



交流イベント通じ被災地支援、学習支援や音楽家育成も



東日本大震災の
直後に設立。町外
の民間アパートなど
「みなし仮設住宅」
で暮らす住民を支
援する交流イベン
トや、コミュニ

ティーカフェの経営、子どもたちの学習サポートなどに
取り組んできた。2018年には家庭的な保育園を設置。
同じ年、地域に音楽を根付かせようと「陽だまり弦楽
アカデミー」を立ち上げ、幅広い年代に音楽を指導、
プロも交えたコンサートを開いている。全国各地で起き
る地震や台風などの被災地でも支援活動を展開、他の
NPOや公益法人との連携を強めている。

ISHINOMAKI 2.0

賞 第4回特別賞

一般社団法人

〒986-0822 宮城県石巻市中央 2丁目 10-2



イベント、学び、移住で被災地バージョンアップ



東日本大震災で
最も犠牲者が多
かった石巻市で
「世界で一番面白
い街づくり」を掲
げ「震災前の状況
に戻すのではな

く、新しいまちへバージョンアップする」との思いから
「2.0」とした。市街地活性化のため、夏の野外映画
上映会などのイベントを開き、情報をネット発信する。
市から委託された移住促進事業に力を入れており「い
しのまき学校」として高校生に地域の魅力を知ってもら
う授業や、県外での移住フェア、オンライン発信を展
開する。移住者は数十人になっている。

定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会

(受賞当時：定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会)

賞 第2回準大賞

公益社団法人

〒980-0803 仙台市青葉区国分町 3-8-3 新産業ビル
304

ボランティアで誰もが参加できる音楽祭を開催



仙台市定禅寺通
りを中心に市中
心部各所の屋外
ステージで催さ
れる無料の音楽
祭で地元の音楽
家や商店街の人
たちが始め

た。毎年9月に開かれる。2日間で70万人以上を動員。
開催が危ぶまれた東日本大震災の年も盛況だった。ジャ
ズのほか、ロック、ゴスペル、和楽器演奏などさまざま
なミュージシャンが参加する。参加バンド数は国内最大
級だ。市民らから広くカンパを募り、運営費に充て
ている。定禅寺通りの一部を歩行者天国にして客は思
い思いに音楽を楽しむ。

鳴子の米プロジェクト

賞 第1回優秀賞

NPO法人

〒989-6832 宮城県大崎市鳴子温泉字星沼 77-84



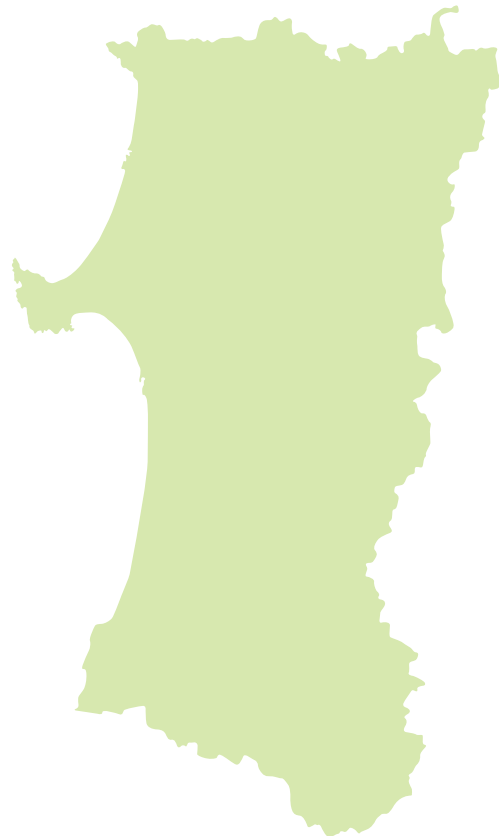
山間地の農家と消費者が交流、米作りに取り組む



鳴子温泉地域の
鬼首地区は山間
地で農業の疲弊
が進み、遊休地
や耕作放棄地が
目立っていた。
昔ながらの景
観を守るために

も地域の産業を支えようと、農家や旅館経営者らで団
体を立ち上げた。寒さに強い品種を「ゆきむすび」と
名付け、シンボル米とした。作り手を応援しようと、比
較的高い価格に設定している。もちもち感があり、冷
めてもおいしいと評判で例年予約段階で完売する。鳴
子で生まれたコメが人と人を結んでほしいと、食に関す
る講演会も定期的に行っている。

秋田



- 山内いぶりがっこ生産者の会
- おおだて映像計画
- 秋田なまはげの会
- 大曲花火倶楽部
- 増田まちなみ保存会
- 小坂鉄道保存会
- 横手市共助組織連合会
- 陽気な母さんの店
- 浅見内活性化委員会
- 秋田人変身力会議

おおだて映像計画

賞 第2回優秀賞
〒017-0044 秋田県大館市御成町 2-15-22
HP

地元舞台に住民参加で映画製作、廃線活用に波及



大館市や北秋田市を舞台にした映画「ハナばあちゃん!!～わたしのヤマのカミサマ～」を製作した。地元の若手経営者らが出資して有限責任事業組合を設立。地元企業の寄付もあった。2011年2月に公開し、県内外で数多く上映。著作権を団体が保有しているのが特徴で、独自の商品開発も。映画に出る廃線を使ったレールバイクを実験的に始めたところ人気を呼び、設備を運営するNPO法人が結成されて19年には8500人が利用、外国人の姿も多く見られた。

山内いぶりがっこ生産者の会

賞 第1回優秀賞
〒019-1108 秋田県横手市山内土淵字二瀬 8 番地 4 横手市山内庁舎

いぶした大根で作る特産漬物のブランド商品開発



ダイコンをいぶし、糶（こうじ）や玄米、砂糖などを使った調味料に漬けた秋田の味、いぶりがっこ。もともとは自分たちで食べる分しか作っていなかったが、近くに直売所ができたことをきっかけに地元の生産者が団体を結成。ブランド商品「金樽」を売り出し、品質の維持に努めている。会員は16人。首都圏を中心に人気を呼び、年間1万5000～1万6000本を出荷している。売り上げに加え、出来栄を競う「いぶりんピック」を毎年開催し、生産者の意欲向上につなげている。

日本カーシェアリング協会

賞 第9回優秀賞
〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り1丁目5-23
HP f

大震災の経験から自動車共同利用の仕組み構築



東日本大震災直後の2011年5月、車1台の提供を受けて石巻市で活動を始めた。仮設住宅の入居者有志が車を管理し、共同利用する仕組みを構築。現在は寄付された約250台を預かり、地域コミュニティの再生・発展を支援するためのカーシェアリングを展開している。活動は岡山、鳥取などにも拡大。熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨など各地で相次ぐ大規模災害でも車を貸し出した。コロナ禍では収入が減少し車検ができない人や、マイカーを手放した人に車を無料で貸す取り組みを行った。

ほやほや学会

賞 第10回優秀賞 一般社団法人
〒986-0822 宮城県石巻市中央 2-5-7 (ピースポートセンター石巻)
HP f

ホヤ消費拡大を目指し漁師や消費者らが魅力発信



全国有数のホヤ生産地、宮城県で、消費拡大を目指し漁師や水産加工会社、県内外の消費者らが連携した。東日本大震災で輸出が打撃を受けたことに発奮、首都圏の消費者と漁師をつなぐツアーやイベント、調理法などを学ぶワークショップを開催し、ホヤの魅力国内に発信してきた。コロナ禍ではオンラインショップを開設し、漁師のさばき方講座や、料理人の楽しみ方講座を開催。遠隔地により新鮮なホヤを届ける手段も研究している。

仙台秋保醸造所

賞 第7回優秀賞
〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元枇杷原西 6
HP f

宮城県産ワインの先駆け、ブドウの自社栽培も



仙台市の奥座敷、秋保温泉郷で創業し、2015年にワインの製造、販売を開始。東日本大震災で宮城県唯一のワイナリーが流されて以来、最初のワイン生産施設となった。ブドウの自社栽培にも取り組む。代表の毛利親房さんは脱サラして起業。大学生と連携し、オリジナルシードルの販売も開始した。秋保地区では16年のG7財務相・中央銀行総裁会議が開催されたのを契機に地域振興の動きが加速。秋保ワイナリーでは担い手の育成を行っており、県内はワイナリーが増えている。食材とのマリアージュを楽しむ動きが広がっている。

フィッシャーマン・ジャパン

賞 第8回奨励賞 一般社団法人
〒986-0827 宮城県石巻市千石町 8-20
HP f

震災で被害を受けた水産業の再生と未来へのバトン



東日本大震災で被害を受けた宮城県沿岸を拠点に、漁師・魚屋が地域や業種を超えてチームを組み、漁業のイメージをカッコ良く、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案している。2024年までに多様な能力をもつ新しい職種「フィッシャーマン」を千人増やすというビジョンを掲げ、新しい働き方の提案や業種を超えた関わりによって水産業に変革を起こすことを目指す。担い手育成事業と水産物販売事業に取り組み、日本各地、海外へと活動範囲を広げている。

浅見内活性化委員会

賞 第9回優秀賞

〒018-1851 秋田県五城目町内川浅見内字後田 86-1



住民がスーパー運営、生活を支え合い交流の場に



高齢化と過疎化が深刻な五城目町の浅見内集落に日々、笑い声があふれる場所がある。買い物弱者支援を目的に2016

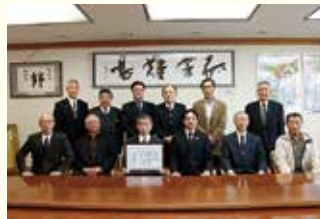
年に開店したスーパー「みせつこあさみない」。住民でつくる共助組織「浅見内活性化委員会」がボランティアで運営する。暮らしに欠かせない食品や日用品をそろえた地域のよろず屋であり、食事や喫茶を楽しめる憩いの場、交流の場ともなっている。住民たちはこの店を拠点に地域を元気にしようと奮闘している。

横手市共助組織連合会

賞 第7回ブロック賞（北海道・東北）

〒013-0046 秋田県横手市神明町 1-9

豪雪地帯の共助組織が高齢者の暮らしを支援



全国でも有数の豪雪地帯で2012年に誕生した共助組織が、地域の高齢者の暮らしを支えている。屋根の雪下ろし支援を皮

切りに、買い物支援、野菜生産の後押しと、活動内容は年々、拡大した。同様の共助組織は県内各地に広がりつつある。21年の横手は観測史上最大の積雪となったが各組織の支え合いの積み重ねがあらためて評価される年となった。人口減少、少子高齢化が進む過疎地域で、住民が生き生きと暮らし続けるため、行政だけに頼らない「共助」という活路を開いた。

増田まちなみ保存会

賞 第5回優秀賞

秋田県横手市増田町

建物内に蔵を構えた雪国の商家の伝統的建造物群を保存



秋田県南部に位置する横手市増田は、雪から守るため家の中に「内蔵」を構える独自の文化がある。増田まちなみ保存会

は地域の86世帯で発足し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された一帯で、歴史的町並みの景観を保存し、まちづくりを進めている。毎年10月に内蔵を一齐に公開する「蔵の日」を実施しており、マンガの原画を集めた「横手市増田まんが美術館」が2019年にリニューアルオープンした効果と相まって、年間数万人がやって来る観光スポットに成長した。町並みを守る防災訓練も欠かさない。

秋田なまはげの会

(受賞当時：秋田クレジット・サラ金・悪徳商法被害をなくす会)

賞 第3回優秀賞

〒010-0951 秋田市山王 6-22-6 ラポール山王郷A-1



多重債務の相談受け付け、反貧困に国際連帯も



貸金業法改正により「多重債務」の相談は減少したが、失業や収入の減少、パチンコ等の依存症が原因で、1社だけでも

返せない、住宅ローンが支払えないという相談は後を絶たない。週3回の事務所での相談のほか、県内各地で出張相談を行っている。2019年に第10回東アジア金融被害者交流集会在秋田市で開催され（全国クレサラ・生活再建問題被害者連絡協議会主催）、日本・韓国・台湾から140人が参加した。共催団体として現地実行委員会を組織、運営をサポートした。

秋田人変身力会議

賞 第10回優秀賞

〒010-0851 秋田市手形字山崎 16-4 永井健宅

“粘り強いが口べた”から変身するリーダー応援



秋田県民は真面目、粘り強いと評される一方で、「しょがり（恥ずかしがり）」ともいわれる。自己主張せず、考えがあっ

ても言わない内気、口べたな“県民性”が外への販路拡大の支障になってきたともされる。秋田人変身力会議は、さまざまな「変身」を成し遂げ、地域や組織を元気にしてきた人たちにエールを送ってきた。会議に参加した主婦から、地元の菓子を改良する食品コンサルタントや、古着販売のリサイクル事業といった起業家も出てきている。

陽気な母さんの店

賞 第8回大賞

株式会社

〒018-5603 秋田県大館市曲田字家ノ後 97-1



農産物直売所を拠点に収穫体験や宅配



生産者と消費者の気持ち分かる「農家の母さん」の視点で弁当宅配や民泊などを事業化、体験交流型直売所に育った。

加工品づくりや郷土料理、収穫体験、農産物宅配と幅広い活動に取り組んでいる。「嫁だからと遠慮せず、胸を張って農業を発信したい」と女性農業者が出資して、2001年から営業。減農薬栽培に取り組み、個人別に生産量や収穫時期をデータ化し、緻密な販売計画を立てて業績を伸ばしている。

小坂鉄道保存会

賞 第6回優秀賞

〒017-0202 秋田県小坂町小坂鉱山字古川 20-9 小坂鉄道レールパーク気付



鉄道テーマパークをサポート、交流を進める



「明治百年通り」の一角にある旧小坂鉄道の駅舎や線路を利用した体験型テーマパーク「小坂鉄道レールパーク」の運営

をサポートしている。2009年に廃線となった鉄道を産業遺産として伝えようと、ディーゼル機関車の運転体験などの際に鉄道員姿で運行支援や座学の講師役を務める。来園者の案内、車両・鉄道機器類の解説も。寝台特急「あけぼの」の車両を利用した列車ホテルもオープン。「次は終着、上野、上野～」といった車内アナウンスなどを担っている。

大曲花火俱樂部

賞 第4回優秀賞

NPO法人

〒014-0073 秋田県大仙市内小友字山根 89-31



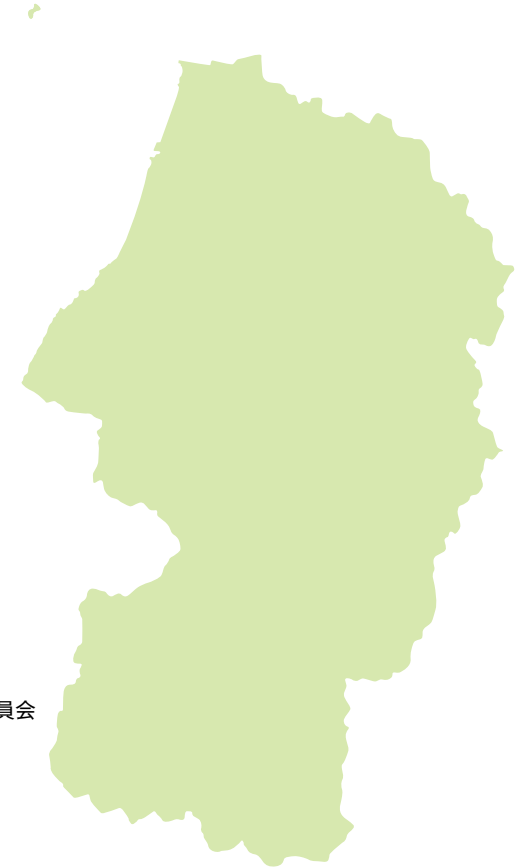
花火に詳しい「鑑賞士」制度を創設、地域活性化



毎年夏に70万人を超す観客を集める大曲の花火大会。一時的な盛り上がりで終わらせるのではなく、花火のまちとして年

間を通じた集客を目指し、大仙市民や全国の花火ファンが1991年に組織した。これまで若手花火師が技術を競う大会づくりなどに取り組んできた。2003年度からは花火の歴史や工程に詳しい「花火鑑賞士」の認定資格試験を創設、これまで約1300人が取得した。今後、さらに上級の「マイスター」試験も検討している。

山形



- たかはた共生塾
- レインボープラン推進協議会
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭
- 鶴岡織物工業協同組合
- 村山そばの会
- とびしま
- かほくイタリア野菜研究会
- スバイクファミリー
- きらりよじまネットワーク
- 新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会

村山そばの会

賞 第5回優秀賞

〒995-0041 山形県村山市大字河島元杉島 1315-1

HP

郷土料理と食文化の保存、伝承に取り組む



そばを食文化として伝承し、村山市を「板そばの里」として広くPRしようと地元の有志で発足した。市内で開催される祭りに合

わせて長さ60m、幅90cmの長い板に盛り付けて振る舞う「日本一の長板そば二十間堂」は評判で、700人分が出る。そば打ちの技術を審査し、「そば匠」の称号を与える制度を設定。そば打ちを体験できる施設もある。NPO法人「村山蕎麦の会」と連携し、そばの食文化に興味のある高校生らを対象に「そば甲子園」も開催した。

山形国際ドキュメンタリー映画祭

賞 第3回準大賞

認定NPO法人

〒990-0044 山形市木の実町 9-52-201

HP

世界の優れたドキュメンタリーをコンペ形式で上映・表彰



アジア初の国際ドキュメンタリー映画祭が山形で誕生してから30年を超えた。隔年で10月に開催している。世界から作

品が集まるインターナショナル・コンペティションでは、大賞に賞金200万円、最優秀賞には100万円を授与する。期間中の入場者は2万人余りに達する。政治的な圧力等により、自国で上映が難しい作品の、世界に向けた発表の場としての役割も果たす。近年では通年で若年層に対する映像教育を積極的に進める。また東日本大震災に関する記録映画を保存し、作品情報を世界に発信するアーカイブも設置している。

とびしま

賞 第6回ブロック賞（北海道・東北） 合同会社

〒998-0281 山形県酒田市飛島勝浦乙 132-19

HP

若者が魚の加工品などを手掛けて島おこし



山形県唯一の離島・飛島で6次産業化に取り組み、雇用創造につなげている。定期船発着所近くで運営するカフェスペース

は、島の食材を利用したメニューやお土産を販売し、島民と観光客をつなぐ拠点。島内に整備した加工所ではお土産となる商品を製造している。岸を歩いたり、シュノーケリングをしたりするツアーも。島の伝統文化継承に取り組み、映画作りにも力を貸した。島の人口は約200人、高齢化率約7割に達するが、島に戻ったり、渡ったりした若い力が社員となって島を活気づけている。

鶴岡織物工業協同組合

賞 第4回優秀賞

〒997-0017 山形県鶴岡市大宝寺字日本国 223-5

HP

地域で一貫生産できる絹織物をブランド化



鶴岡市周辺は養蚕、製糸、織物作りなどが盛んだ。明治時代から続く絹産業の再生と活性化を目指し、地元の関連

会社で組織。組合が協力する市の「鶴岡シルクタウンプロジェクト」では地元高校生「シルクガールズ」が自作ドレスのファッションショーを開き、小学生は蚕の飼育を体験している。蚕が繭を作る際に最初に出す糸「キピソ」は、均一な糸ではないため織物には使用されてこなかったが、希少性などが見直され kibiso ブランドとしてストールやバッグに使用されている。

レインボープラン推進協議会

賞 第2回優秀賞

〒993-0002 山形県長井市屋城町 1-40

HP

生ごみの堆肥化などを通じ消費者と農業をつなぐ



レインボープランとは「台所と農業をつなぐ・ながい計画」で、食と農の安心をテーマに住民が支え合う取り組みを進め

る。市内中心部の約5千世帯から出た生ごみを分別回収し、堆肥化して農地に投入。生産されるコマや野菜などを市民が消費する仕組みを構築した。若者が自分たちが住む市のランドデザインをする事業として考案された。「大規模で珍しい取り組み」「循環型社会のモデル」などと国内外での評価が高い。

たかはた共生塾

賞 第1回ブロック賞（北海道・東北）

〒999-2179 山形県高島町蛇口 314

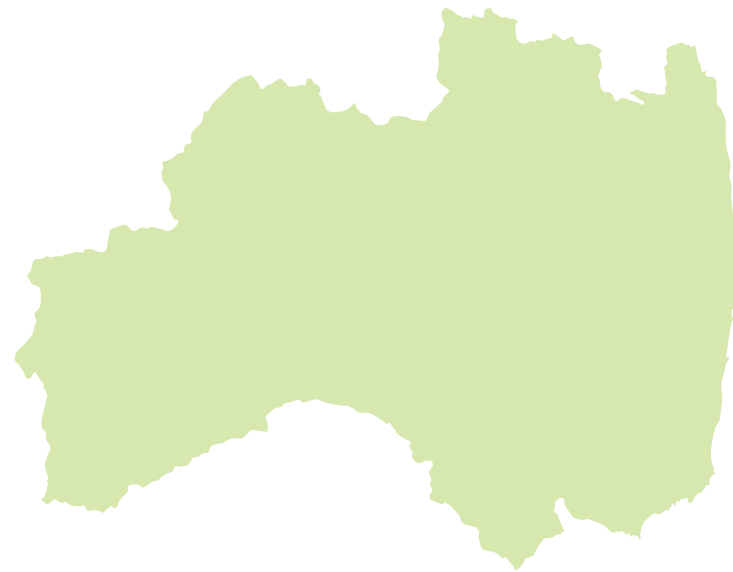
有機農業運動を情報発信、公開講座で自立を目指す



食の安全や農村社会崩壊の危機が叫ばれる中、地域の農業者が手を取り合い、有機農業の実践と、自給ができる地域づくり

に取り組んでいこうと1990年に設立した。これまで農業体験を通じて生き方を学ぶ「まほろばの里農学校」などを開き、地域に人々が移住するきっかけをつくってきた。現在は公開講座を中心に活動している。講座では、協同組合、信用組合などの組織の在り方や、地域の発電会社づくりなどを学び、地域の自立を目指す。

福島



- ノルテ・ハボン
- 大内宿保存会、大内宿結の会
- 千葉之家花駒座
- MJCアンサンブル
- 会津エンジン
- 山木屋太鼓
- 郡山ベップ子育てネットワーク
- ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
- よつくらぶ
- ふるさとの川・荒川づくり協議会
- ベテランママの会
- ふくしま飛行協会
- ハッピーロードネット

- 小高ワーカーズベース
- 会津電力
- TATAKIAGE Japan
- 元気アップつちゆ
- 葛力創造舎
- はじまりの美術館

大内宿保存会、大内宿結の会

賞 第1回特別賞

〒969-5345 福島県下郷町塩生大石 1000 下郷町役場教育委員会

江戸時代から残るかやぶき屋根の家並みを守る



江戸時代からのかやぶき屋根の家並みを守り続けてきた。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定、47戸が一定間隔で整

然と立ち並ぶ。東日本大震災で大きな被害はなく、保存物件の建築技術の高さを証明。建物保存や景観維持管理等のハード面は保存会が、地域の環境整備、イベントなどのソフト面を結の会と担当を分けて活動してきた。震災で落ち込んだ観光客は2019年には年間約80万人に回復。そばや餅など地場産品を使ったもてなしをさらに充実させ、20年からは新たに組織された大内宿保存整備財団と連携し活動に取り組んでいる。

ノルテ・ハボン

賞 第1回優秀賞

〒960-1426 福島県川俣町字日和田 17-4



日本最大級の中南米音楽祭に国内外から多数出演



南米アンデス山脈の先住民を中心に伝わる民俗音楽「folklore」を愛する人々が縦笛、ケーナの生演奏に感動し、

1975年から音楽祭「コスキン・エン・ハボン」を始め、国内最大級の中南米音楽祭になった。3日間の日程で、初日は演奏者や住民が町内でパレードを繰り広げる。南米の食べ物を提供する店も出る。すべてをボランティアが運営する。北海道から沖縄まで、さらにチリ、アルゼンチンなど海外からも含めて毎年約200チームが出演している。

きらりよしじまネットワーク

賞 第9回準大賞

NPO法人

〒999-0214 山形県川西町大字吉田 5886-1



全世帯が加入して防災や教育などで幅広く活動を展開



川西町吉島地区の約720の全世帯が加入、高齢化が進む地域の課題解決に取り組む。スマートスピーカーのようなITを

活用した高齢者の見守りや買い物支援、農産物直売所のネットショップ化、世代を超えた交流ができる食堂、居酒屋開店など事業は多彩だ。若手農家グループを組織、都市との交流ビジネスも展開し、アイデアを形にする。高齢者向け体操教室や、那覇市の公民館との文化交流も続ける。独自に構築した合意形成や人材育成プロセスは地域再生のモデルとなっている。

かほくイタリア野菜研究会

賞 第7回優秀賞

〒999-3511 山形県河北町谷地月山堂 654-1



行政などと連携し、野菜の共同生産・販売に取り組む



農家、商工業者、行政、金融機関、商工会が連携し、トレヴィーゾをはじめとするイタリア野菜の共同生産・販売、加工

品開発などを通じた地域活性化に取り組んでいる。生産者18人が、国内では先行事例のない各種イタリア野菜の栽培方法を研究。著名なイタリア料理のシェフらに品質を高く評価され、ブランド化が進んでいる。マルシェや料理教室、産地訪問ツアーなどイタリア野菜を通じて地域に人を呼び込む事業にも力を注いでいる。また山形県版GAPの認定を受け、東京五輪の食材調達基準も満たした。

新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会

賞 第10回奨励賞

〒996-8501 山形県新庄市沖の町 10-37



広大な旧蚕糸試験場を活用、マルシェや芸術祭



国の蚕糸試験場だった緑豊かな広大な敷地と歴史的建物群を活用して、農産物や手作り品を販売する「キトマルシェ」を

地域の団体やデザイナーが協力して実施している。5月から11月まで毎月40ほどの店舗が出展し、年間1万数千人が来場する。コミュニティーカフェ、ゲストハウスもオープンし、農村と都市の交流人口を増やしている。

スパイクファミリー

賞 第8回優秀賞

〒993-0084 山形県長井市栄町 3-5 けん玉ひろばスパイク内



「けん玉のまち」アピール、ギネス記録挑戦も



競技用けん玉生産量日本一を誇る長井市で、子どもからお年寄りまで幅広く参加し、ギネス世界記録に挑戦する催しなど

「けん玉のまち」をアピールしている。学童・児童センター、公民館などで教室を開催、観光や交流事業でのパフォーマンスなど年間イベント出演は100回を超える。商店街と連携、けん玉の技に挑戦してスタンプを獲得、賞品がもらえる企画も。コロナ禍では「オンラインけん玉検定」を開催。動画投稿で技を披露するキャンペーンも実施した。

よつくらぶ

賞 第5回優秀賞 NPO法人
〒979-0201 福島県いわき市四倉町字5丁目218-1
HP f

太平洋を一望する漁港内の道の駅を交流拠点に



いわき市の漁港内にあり、海水浴場も近い「道の駅よつくら港交流館」を運営する。東日本大震災の津波の影響で全壊した

が、2012年に再オープンして復興のシンボルとなっている。直売所は地場の野菜、海産物などが人気で、フードコートも備える。月1回、生産者が対面販売する市を開催している。震災で親を亡くした子どもへのケアをサポートする「チャイルドハウスふくまる」をNPO法人「ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会」と共同で運営、心理療法士らが相談にあたる。

郡山ベップ子育てネットワーク

賞 第4回特別賞 認定NPO法人
〒963-8803 福島県郡山市横塚1-1-3 ベップキッズこおりやま内
HP f

子どもに寄り添った成育環境の実現を目指して



子どもにとって遊びは生活のインフラだ。原発事故後の子育て応援・遊び場運営から始まった団体だが現在のコロナ禍において

も子どもたちの遊びを保障すべくプレイラーターやスタッフ一同、地域の子どもの笑顔に絶やさぬよう努力を重ねている。また、遊び場運営の他、市内の幼稚園児から中学生までを対象とした健康調査等研究事業や臨床心理士を招いての心のケア事業等も行っている。

会津エンジン

賞 第3回優秀賞 NPO法人
〒965-0042 福島県会津若松市大町1-1-41
HP f

本物の体験で子どもたちが育つ！



若者の文化度の向上と、将来の可能性を広げることを目的として、多くの文化人や地元の人たちとの交流事業を開始して

いる。若者がたくさんの機会に触れ、鼓動が高鳴り、感動を覚え、自ら心のエンジンを始動させ、また、そこに関わった全ての大人もエンジンをかけることができる。中学生向け「よしもと×自己実現＝漫才授業」、「感動プロジェクト高校生が結婚式を創る！」など、アウトプット重視のキャリア教育を行っている。

千葉之家花駒座

賞 第2回ブロック賞（北海道・東北）
福島県檜枝岐村

270年の歴史ある村の伝統歌舞伎を住民が守る



人口約550人の檜枝岐村で、270年余りにわたって守られてきた伝統芸能、檜枝岐歌舞伎に取り組み。職業や

年齢もさまざまな約30人の座員が伝統を守ってきた。冬場に練習を重ね、公演には村の人口を上回る千人余りが詰め掛ける。村外でも招かれて上演しており、村を代表する「顔」となっている。かやぶき屋根の趣ある舞台も雰囲気盛り上げる。過疎化や高齢化は進むが、地域を挙げて次代に手渡そうと地道な活動が続いている。

まちづくりチャレンジの「いま」

国連の持続可能な目標に重なる

国連が2030年を目標とする持続可能な開発目標（SDGs）を定めている。「貧困をなくす」「持続可能な農業」「福祉の促進」「生涯学習を促進」「水と衛生の管理」「働きがいのある雇用」「安全な都市・人間居住の実現」といった17の目標達成に向けて169の基準と232の指標も掲げられている。これらは地域の諸課題に取り組む受賞団体のそれぞれの活動と重なるところが少ない。

福岡県八女市の「がんばりよるよ星野村」は、12年の九州北部豪雨災害に遭った棚田などから、都市住民の応援を得て大量の泥をかき出して営農再開を支えた。今はSDGsを受け30年を目標に環境保全、空き家・耕作放棄地の利用計画を作り実践につなげている。SDGsの目標や基準・指標は、各受賞団体が次の10年の活動のあり方を考える際には目安や参考になるとみられる。

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

賞 第5回準大賞 NPO法人
〒964-0111 福島県二本松市太田字下田2-3
HP f

農家が「道の駅」拠点に里山再生、移住を支援



養蚕が盛んだった阿武隈山系の中山間地域で里山再生に取り組む。人口減、高齢化、市町村合併による行政サービスの低下

に危機感を抱いた農家ら約250人が会員となり発足、山林や農地を守る活動を始めた。さらに市から「道の駅ふくしま東和」の運営を受託し、活動拠点に。桑畑の荒廃が深刻だったが、桑の葉の茶を商品化するなど6次産業化を進める。技術指導や農地、空き家紹介といった支援を通じて、約30人が移住した。震災後、農家民宿も推進し地域の特色をアピールしている。

山木屋太鼓

賞 第4回優秀賞
〒960-1501 福島県川俣町山木屋川芎10-1
HP

原発事故乗り越え、故郷への思いを和太鼓に



2001年に結成、和太鼓の演奏を通じて故郷への思いを伝え続けている。拠点の川俣町山木屋は原発事故で15年まで住

民避難を余儀なくされたが活動を続け、絆を守った。今は川俣町内のほか福島市からも新しく子どもたちが加わり、世代を超えた仲間と共に練習、演奏している。伝統的な演奏のほか、故郷の自然をテーマに作った曲を披露、祭りや各種イベントに出演。21年には20周年記念公演を予定している。

MJCアンサンブル
(南相馬ジュニアコーラスアンサンブル)

賞 第3回特別賞
〒975-0001 福島県南相馬市大町2-13-3 MJCアンサンブル事務局

震災慰霊祭などで歌を披露、海外でも公演活動



東日本大震災から10年を経て活動の基本はこれまで変わらず、国内外での演奏活動を継続、演奏回数は230回となる。

小・中・高校の女子生徒が主力メンバーとなり年長児、育成メンバーも加わった。震災の記憶が薄れる中、子どもたちが「歌」により震災を地域と共に学び、音楽を通して先輩のお姉さんたちが生きてきた激動の体験を共有できればと精力的な活動を継続している。演奏活動を通して得られた心の絆を大切にしながら、地元で愛される合唱団を目指して歌い続ける。

まちづくりチャレンジの「いま」

グッズ販売などで財源に工夫

地域の課題を解決し社会に貢献しようと活動する地域運営組織にとって、「先立つもの」の確保は人材の確保と並ぶ大きな課題である。自治体の補助金で資金を賄う団体がある一方で、過度に自治体の補助金に頼らないよう工夫を凝らしている団体もある。

自治体の支援を受けながら活動しているのは「亀崎まちおこしの会」（愛知県半田市）。同市のモデル事業として多額の補助金を受けて、伝統行事の復活など旧市街地のにぎわいの創出に貢献している。「有珠山周辺地域ジオパーク友の会」（北海道壮瞥町）も行政のバックアップを受けながら、2000年に噴火した有珠山散策路の草刈りや立ち入り禁止区域の昭和新山の登山会など多彩な活動をしている。「いしがきミュージックフェスティバル実行委員会運営委員会」（盛岡市）は、旧盛岡城址の公園で野外音楽イベントを開催。岩手県や盛岡市の補助金も得て入場は無料で行っている。

一方で、「とよはしまちなかスロートウン映画祭実行委員会」（愛知県豊橋市）は自治体の補助金を一切受けず、地元企業などからの協賛金で運営費を賄う。「白鳳の郷地域活性化協議会」（鳥取県琴浦町）は、国特別史跡などの歴史遺産の掘り起こしなどで地域の連帯の場づくりをしているが、耕作放棄地でモチ米やソバを栽培・販売して、過度に補助金に頼らない財政モデルを確立した。地元特産の「鳥取県芝」発祥の地であることを知ってもらうためのゴルフ大会も開催する。

「びわこジャズ東近江実行委員会」（滋賀県東近江市）は19年にプロ・アマ約210組が出演、約3万人を集めた実績があるが、広告収入を運営費に充てて入場は原則無料。「庄内神楽座長会」（大分県由布市）は、市内庄内地域の各神楽座の集まりで、定期公演や神楽祭り、出張公演などを行っているが、グッズ販売や公演の有料化で自主財源を確保したという。高齢者と若者や学生の交流が目的の「えんがお」（栃木県大田原市）は、クラウドファンディングで空き店舗を再生して拠点とし、高齢者の茶飲み話の場のほか2階の自習スペースには中高生も集う。（鎌田 司）

小高ワーカーズベース

賞 第8回ブロック賞（北海道・東北） 株式会社
〒979-2124 福島県南相馬市小高区本町 1-87 小高パイオニアヴィレッジ



工房や共同オフィスを開設、帰還住民の生活再建



原発事故で避難指示が出ていた南相馬市小高区で、帰還した住民の暮らしを支える事業の創出を目指し2014年に設立

した。スーパーが再開するまで日用品や食料品を提供する店舗を運営。現在はゲストハウス付きのコワーキングスペース「小高パイオニアヴィレッジ」や、起業型地域おこし協力隊事務局などの運営に当たっている。雇用創出に向けて開設した女性の職人が働くガラス工房では、ハンドメイドのブランド「iriser ーイリゼー」を立ち上げた。

会津電力

賞 第8回優秀賞 株式会社
〒966-0014 福島県喜多方市関柴町西勝字井戸尻 48-1 七福神ホール 2F



エネルギー自給による地域の経済活性化、雇用創出を実現



会津電力は、東京電力福島第1原子力発電所の事故を機に、安全で持続できる再生可能エネルギーの推進が地域課題になる

中で、太陽光や水力、森林など地域資源を活用するため、市民有志が地域再生の運動を起し、住民らに出資を求めて設立。エネルギー自給と売電による地域経済の活性化、雇用創出を実現するため、まず太陽光発電所を相次いで整備した。子どもたちへの再生可能エネルギーの普及啓発活動にも力を入れる。

ふくしま飛行協会

賞 第7回優秀賞
〒960-8251 福島市北沢又日行壇 7 番地 48



農道空港を航空公園とし、航空イベントを開催



福島市の山あいにある農道空港「ふくしまスカイパーク」。総事業費約30億円をかけて1998年に完成したが、利用

は進まず“赤字飛行”が続いていた。NPO法人「ふくしま飛行協会」は2006年に指定管理者となり、農道空港を航空公園としてよみがえらせた。一般の空港では難しい各種航空イベントを次々に開催。副理事長の室屋義秀さんはここを拠点に「空のF1」とも言われるエアレースで活躍し、子どもたちに夢を与えている。

ふるさとの川・荒川づくり協議会

賞 第6回優秀賞
〒960-2156 福島市荒井字地藏原乙 1-21

市民が力を合わせ清流を取り戻し憩いの場に



福島市を東西に流れる荒川が、国土交通省の水質調査で10年連続日本一に輝いた。偉業達成の背景には、古里の川を愛

する住民の力があつた。1998年に設立された「ふるさとの川・荒川づくり協議会」は、毎回約800人が参加するクリーンアップ作戦をはじめ、自然と触れ合い、地域の歴史を紹介する事業などを展開している。古里の清流は、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故からの復興の道を歩む県民に潤いを与え、心のよりどころとなっている。

ハッピーロードネット

賞 第7回特別賞 NPO法人
〒979-0407 福島県広野町広洋台 2-1-5



復興に若い世代が意見交わす場づくり、桜植樹も



原発事故で避難を強いられた福島県双葉郡を中心に相双地域、浜通り地域の子どもたちや若い世代に呼び掛け、国内外の同

世代の若者と意見を交わす「ハイスクールサミット」「ハイスクール世界サミット」を開催してきた。さらにベラルーシや英国など海外に高校生を派遣し、放射線や廃炉について学ぶ「ハイスクールアカデミー」を実施、報告書を各地に配布している。幹線道路に桜を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」も展開、子どもたちが植えた1万2000本が育っている。

ベテランママの会

賞 第6回優秀賞
〒975-0033 福島県南相馬市原町区高見町 2-91-4



医師との放射線教室や学習支援などを続ける

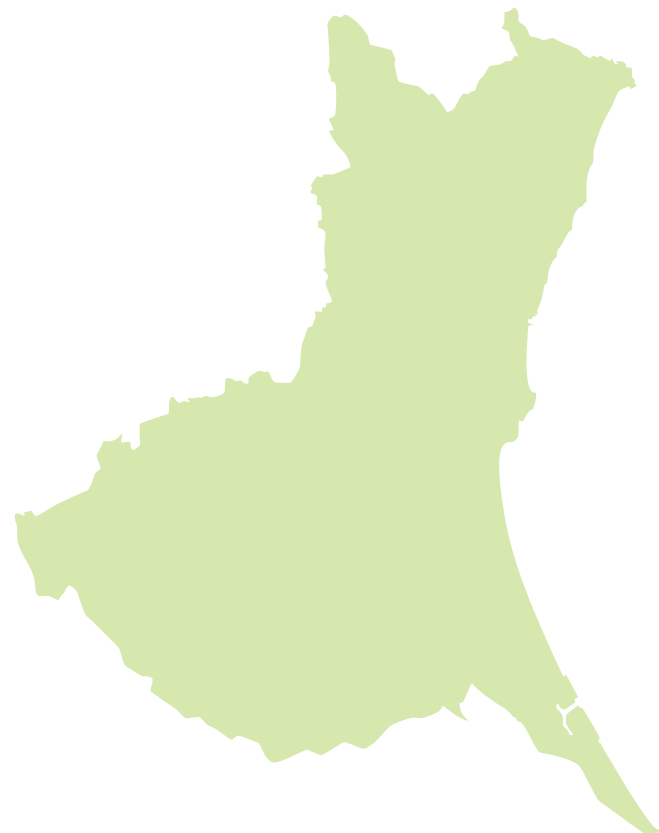


癒やしの空間づくりを目指そう、と活動をスタートした。2011年4月から医師とともに市民向けの「放射線教室」を開催

し、英語版を含む冊子も発行してきた。このほか子どもたちの学習支援や、子育て相談会などにも取り組んできた。最近は高齢者の独り暮らしや、老夫婦で暮らす世帯が増えたことから、認知症予防講座として手仕事になるニットのサークルや、専門家を招いた嚙下障害予防講座などを開催している。

茨城

- 波崎未来エネルギー
- カミスガプロジェクト
- 暮らし協同館なかよし
- 里山を守る会
- ヒューマンライツネット はらんきょうの会
- コロケクラブ龍ヶ崎
- 茨城NPOセンター・ commons
- おらが湊鉄道応援団
- サクラサク里プロジェクト



カミスガプロジェクト

賞 第3回優秀賞 一般社団法人
〒319-2102 茨城県那珂市瓜連 1243
HP f

駅前の活性化や沿線PR、映画発信に取り組む



那珂市のJR水郡線上菅谷駅を中心とした活性化を進める。駅前通りを歩行者天国にシtentによる商店街をつくるイベント

を隔月で展開、2万人以上が訪れる。東日本大震災後、地域を元気づける取り組みとして始まった。本線と支線が分岐する上菅谷駅を「観光ハブ駅」と位置付けPR。沿線などを舞台に製作した映画は、これまで5作品。出演者は全て地元の人で、撮影も団体のスタッフが当たった。毎回黒字を達成し、東京都内でも上映された。2017年には客席31のミニ映画館「瓜連あまや座」開設にも参画した。

波崎未来エネルギー

賞 第2回優秀賞 一般社団法人
〒314-0254 茨城県神栖市太田 705-11
HP f

市民による風力・太陽光発電推進、被災地支援も



市民による風力・太陽光発電事業を進め、地球温暖化の防止や、安全なエネルギーの供給を目指す。市民ファンドで資金

を集め、市民風車「なみまる」(1500^{キロワット})を設置。太陽光発電も800^{キロワット}に及び、月額計800万円の売電収入がある。ボランティア活動やシンポジウム、映画会、東日本大震災の被災地支援などに資金提供もしている。清掃活動や青少年育成事業に取り組んでいた団体が発展した。別会社で電気の小売りにも取り組む。

葛力創造舎

賞 第10回優秀賞 一般社団法人
〒979-1603 福島県葛尾村大字野川字十良内 118-2
HP f

避難解除の村で米作、商品開発、移住者受け入れ



通常ならば持続不可能と思われる人口数百人単位の過疎の村でも、住民が幸せに暮らせる仕組みを考える。原発事故による全村避難が解除されたとはいえ帰村率は低い中、メンバーは米作りから地域づくりを始めた。甘酒「ノマツシエ」を開発、さらに日本酒「でれすけ」を発売した。空き家を利用したゲストハウス「ZICCA」を整備。移住者も受け入れ、村に連綿と続く助け合いの文化「結(ゆい)」に新たな息吹を吹き込む。県内外の高校生との商品開発やツアーも企画中だ。

はじめりの美術館

賞 第10回優秀賞
〒969-3122 福島県猪苗代町新町 4873
HP f

障がいのある方を含む誰もが集える場づくり



障がいのある方や現代美術家らの表現を紹介する福島県内にある小さな美術館。築約140年の酒蔵を改修し、2014年、猪苗代町にオープンした。企画展をはじめ、マルシェなどのイベントも展開。地域住民らが集う「寄り合い」を定期的に開催するなど、地域コミュニティの場にもなっている。福祉とアートが同居するこの場所が寛容で創造的な社会が開かれていくきっかけになることを目標としている。

TATAKIAGE Japan

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒970-8026 福島県いわき市平字白銀町 2-10 夜明け市場 2階
HP f

住民の起業支援し地域に活気、地元団体とも連携



2015年から、浜通りの活性化に向けて学生や社会人がアイデアを市民に呼び掛けていく「浜魂(ハマコン)」を随時、開催している。企画の実現可能性などを来場者と共に考え、実際に事業化や課題解決に結び付けている。震災後、JRいわき駅前にある復興飲食店街「夜明け市場」の発足に携わり、にぎわいを創出した。いわき市や商工会議所、地元大学、他の民間団体などと連携、若者を地域に呼び戻す活動にも力を入れている。

元気アップつちゆ

賞 第9回優秀賞 株式会社
〒960-2157 福島市土湯温泉町字下ノ町 17 番地
HP

地熱と小水力発電を柱に温泉街再興、エビも養殖



東日本大震災、原発事故による風評被害からの復興再生を目指し2012年に設立。「エコタウン」形成に向け、地域資源である温泉を生かした地熱発電所と、温泉街を流れる河川を活用した小水力発電所を建設、15年に運転を開始した。16年からは地熱発電で出る水を二次利用したエビ養殖を始め「つちゆ湯愛(ゆめ)エビ」として新たな名物に。その場で試食できるエビ釣り堀も開設している。20年度からはシードルやどぶろくづくりにも取り組む。

サクラサクリプロジェクト

賞 第10回優秀賞

〒309-1214 茨城県桜川市東桜川 1-21-1 桜川市商工会内



里山の桜を保全、展望台整備やガイド、出前授業



国の天然記念物「桜川のサクラ」を守る活動から始まり、かつて「西の吉野、東の桜川」と称された市の魅力として売り

出そうと、地元商工会青年部の有志で結成した。苗木の育成・植樹、下草刈りや展望台の整備、ホームページによる開花状況の発表、観光客向けの現地ガイド、市内小学校での出前授業などを展開している。市役所にヤマザクラ課が設置されるなど行政にも影響が及んでいる。県の樹木医会と協力、さらに保全を進める。

茨城NPOセンター・ commons

賞 第8回優秀賞

認定NPO法人

〒310-0031 水戸市大工町 1-2-3 トモスミとビル 4F



被災地復興に挑み、空き家活用、防災にも取り組む



2015年の関東・東北豪雨で鬼怒川が決壊、水害に見舞われた茨城県常総市で、空き家を、外国人の子どもたちも集う「多

文化保育園」に変えるなど被災したまちを復興させる事業に挑む。NPO法人の中間支援団体として発足し20年。東日本大震災の被災者支援にも取り組んできた経験や幅広いネットワークを生かし、空き家活用、移動支援、防災、多文化共生、障害者就業支援、コミュニティ再生などの要素を絡めた、多様な世帯が互いに支え合える地域づくりを目指す。

ヒューマンライツネット はらんきょうの会

賞 第6回優秀賞

NPO法人

〒300-4517 茨城県筑西市海老ヶ島 1468



平和、男女共同参画への理解訴える



茨城県西・筑西市の農村地域で、朗読劇を通して平和を訴え、男女共同参画の理解を促す活動に取り組む。1998年から

毎夏、ヒロシマ・ナガサキの被爆体験手記を読み継ぐ朗読劇を上演。男女共同参画では、日常生活の中の男女差別を井戸端会議仕立ての茨城弁寸劇にアレンジ。さらに発展途上国の児童労働や、女兒が学校に通わせてもらえない実情を知らせる映画会も開く。夫の海外赴任先でDV被害に苦しむ女性がメールで相談できる窓口設置など、活動は国際化している。

くらし協同館なかよし

賞 第4回ブロック賞

(関東・甲信越) NPO法人

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡 2525-498



買い物難民化を防ごうと主婦らが店舗や交流の場



生協の閉店をきっかけに、主婦らが中心となって買い物だけでなく、お茶を飲んだり交流したりする場をつくろうと、

2005年に運営を始めた。専従職員は置かず住民が交代で働く。スタッフは約100人。得意分野に応じて総菜など10チームをつくり支え合う。レストランを開業、体操や手芸などの教室もあり、住民が気軽に集まる「たまり場」に。買い物の代行や家事の支援など、高齢者を支えるサービスも実施。最近では子育て支援に力を入れ、育児相談や交流、居場所づくりに取り組んでいる。

まちづくりチャレンジの「いま」

中間支援団体の役割増す

被災者や困窮者を直接、支援する組織を、資金や情報提供、関係団体の連携調整などを通じて応援するのが中間支援団体(中間支援組織)だ。社会福祉協議会内に設置されるボランティアセンターや、市町村などが設ける市民活動支援センターといった公設に加え、阪神大震災以降は民設の中間支援団体も増えている。

地域再生大賞でも第7回大賞「都岐沙羅パートナーズセンター」(新潟県村上市)、第8回優秀賞「茨城NPOセンター・commons」(水戸市)、そして第11回大賞「佐賀未来創造基金」(佐賀市)などが、中間支援団体として活動している。これらの団体は、住民が地域での貢献活動に関わる一歩を手助けする役割を担っているともいえる。

おらが湊鉄道応援団

賞 第9回優秀賞

〒311-1222 茨城県ひたちなか市海門町 2-8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所



ローカル鉄道を守ろうと観光案内や情報発信



2006年に廃線の危機に直面した茨城交通湊線(勝田—阿字ヶ浦、全長14.3km)の存続を求め沿線住民を中心に立ち上

がった。第3セクター方式の「ひたちなか海浜鉄道湊線」として再出発後は、週末に拠点駅で観光案内を行い、沿線商店街でサービスが受けられる「乗車証明書」の発行をはじめ、さまざまな利用促進策を提案。沿線風景や「駅猫」の様子をSNSで発信するなど「マイルール意識」醸成に取り組んでいる。

コロッケクラブ龍ヶ崎

賞 第7回優秀賞

〒301-0012 茨城県龍ヶ崎市上町 4264-1



全国フェス開催などコロッケで街を活性化



2000年に茨城県龍ヶ崎市商工会女性部有志が子どもたちのために手作りコロッケを販売した。その後、評判となってコ

ロッケクラブ龍ヶ崎が03年に発足。精肉店やレストランなど18店が加盟する。同じコロッケで街おこしをしている富山県高岡市や静岡県三島市と連携し、全国コロッケフェスティバルを開催。14年に「ご当地メシ決定戦」で龍ヶ崎コロッケが日本一に。オリジナル品の開発にも余念がなく、コロッケで街を活性化させている。

里山を守る会

賞 第5回優秀賞

NPO法人

〒308-0122 茨城県筑西市関本上 619-6



雑木林の自然体験で子どもの豊かな人間性を育む

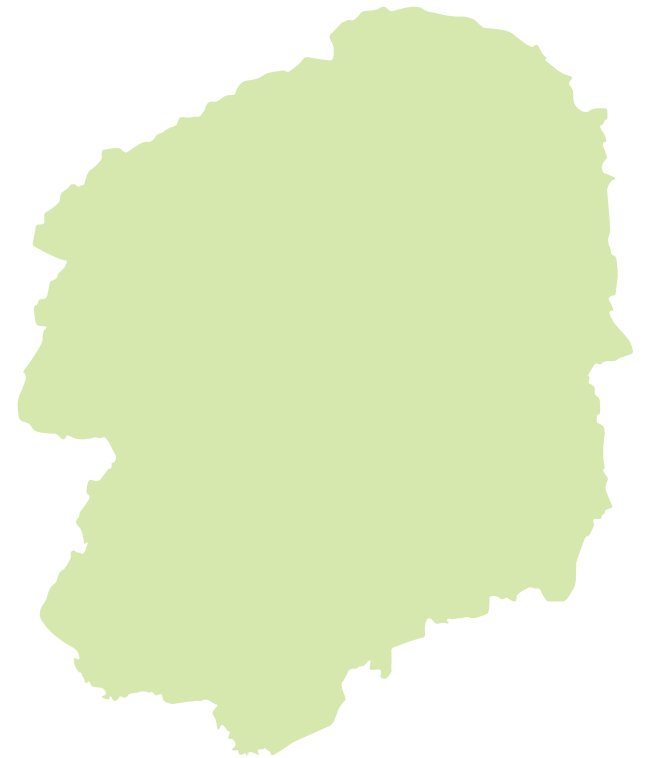


下草刈りや間伐などで里山の雑木林を整備、子どもたちに自然体験、外遊びの場所を提供し、心豊かな若者を育てることを目指す。野外学

習での動植物の観察や、落ち葉で焼き芋を作り、野草の天ぷらを味わうことも。学校行事と団体のイベントを合わせ、年間3千人以上の小中学生が訪れる。小学校高学年を対象とした自然塾では、ホテルを放つたり、流しそうめんを楽しむ。秋には里山フェスティバルで森の中のコンサートを開催。企業・行政と連携した落ち葉拾いの催しも開いている。

栃木

- 夢創造
- 蔵の街遊覧船
- 那須苗取り田植唄保存会
- 太平山南山麓友の会
- オオタカ保護基金
- 足利クリーンハイキングクラブ山和会
- 山本有三記念会
- 那須まちづくり株式会社
- えんがお



オオタカ保護基金

賞 第6回優秀賞 NPO法人
〒320-0027 宇都宮市埴田 2-5-1
HP f

繁殖調査や環境保護を続けワシタカ類を守る



猛きん類の保全を通じて生態系を守り、生物の多様性が豊かな社会を目指す。繁殖状況のモニタリングや、生態研究などの調

査活動、自然観察会、森や里山づくりなどの普及に取り組む。このほか、トラスト地の確保と管理、密猟防止などの保全活動、森林施業計画への提言、開発計画との調整といった政策提言もしている。2016年度からは市貝町の古民家を拠点に「サンバの里自然学校」を運営。米作りや里山での生き物観察や自然体験などを通じ、自然を学ぶ体験の場になっている。

那須苗取り田植唄保存会

賞 第4回優秀賞
〒329-2751 栃木県那須塩原市東三島 3-40
HP

伝統の唄とともに昔ながらの米作りを伝える



70年ほど前から地域で歌われていた「苗取り田植唄」の保存、伝承に努める。40代から90代までの地元の民謡好き

が参加している。笠をかぶった昔の姿で小学生たちと田植えをして、歌声を披露。田んぼの周りには、かつて代かきで活躍していた馬をかたどった張りぼてが登場し、雰囲気を盛り上げる。子どもたちは、歌のほかにおはやしも習う。卒業後も保存会の活動に参加し続ける子どもたちも少なくない。

足利クリーンハイキングクラブ山和会

賞 第7回優秀賞
栃木県足利市
HP

里山のクリーンハイキングを行う



栃木県足利市を中心に活動を展開している足利クリーンハイキングクラブ山和会は1995年に設立、「決して無理せず、

安全で楽しいクリーンハイキング」「ゴミのないきれいな足利」を合言葉に、年10回、足利市内山地のクリーンハイキング(ゴミ拾いハイク)を行っている。その他、足利花火大会後の清掃作業、尾瀬でのごみ拾い作業にも参加している。クリーンハイキング以外でも、視覚障がい者の富士山登山の支援活動等を行っている。2020年で26年目だがマンネリ化せずに今後も続けたいという。

太平山南山麓友の会

賞 第5回優秀賞 NPO法人
〒329-4405 栃木県栃木市大平町西山田 1771 かかしの里
HP

山里でハイキングコース整備やトレッキング案内



太平山の南山麓地帯で里山を守り、地域活性化を進める。高齢化が進み、農業の後継者不足により耕作放棄地が増えたこ

とに危機感を抱いて結成した。「おおひらぶどうまつり」を復活させ、地元の農産物を販売し、約3500人の来場者でにぎわう。春にはヤマザクラを觀賞し、季節の野草などを食べるイベントも開く。富士山やスカイツリーを望む景観が自慢で、草刈りや倒木を撤去してハイキングコースを整備している。無料のトレッキングのガイドも務める。

蔵の街遊覧船

(受賞当時：うずま川遊会)

賞 第3回優秀賞 NPO法人
〒328-0037 栃木県栃木市倭町 2-6
HP

白壁土蔵の街で小舟運行、江戸時代の水運を再現



江戸時代、巴波川は利根川などと結ばれ、部賀舟で材木や麻などを運ぶ物流で栄えた。往來の様子を再現しようと、地

元の会社経営者らが団体を発足した。巴波川で春に約千匹の鯉のぼりを泳がせ、冬には竹あかりを並べ、光で彩るなど多くのイベントを開催。川沿いには数多くの白壁土蔵が残り、「蔵の街栃木」もPRする。船を操る際は船頭歌を披露しており、年間3万人が訪れる。2019年の台風、20年のコロナ禍で打撃を受けたが、再興に向けて取り組みを進める。

夢創造

(受賞当時：那珂川町里山温泉トラフグ研究会)

賞 第2回ブロック賞(関東・甲信越) 株式会社
〒321-0602 栃木県那須烏山市大桶 1929-7
HP f

海のない町で温泉利用しトラフグ養殖、特産品に

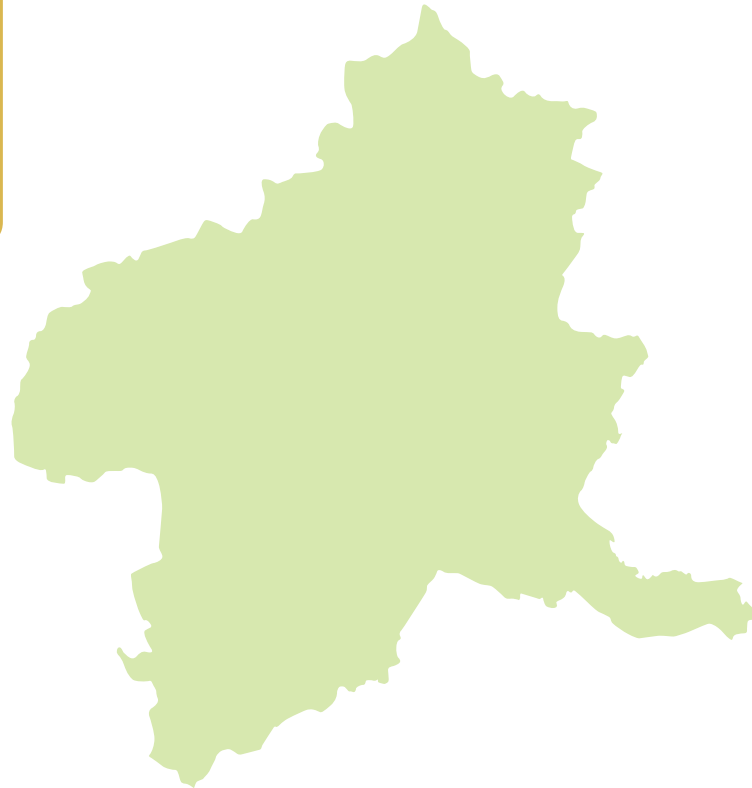


海のない町で高級魚、トラフグを養殖する斬新なアイデアが産官学の協力で実現、地域に活力を与えている。塩分を含む地

元の温泉水で育てたトラフグは成長が早く、特産品に育った。廃校プールなどを利用し、2010年度から本格的に事業を開始、現在は年間25トンを出荷している。地元の旅館などでも人気メニューだ。さらに「温泉トラフグ」の技術を全国にフランチャイズ、北海道から九州まで十数施設に広がった。地下海水や焼却炉廃熱などを利用した養殖にも取り組む。

群馬

- 伊参スタジオ映画祭実行委員会
- 安政遠足保存会
- 本一・本二まちづくりの会
- 坂上健友会 大戸診療所
- 富岡製糸場を愛する会
- 自然塾寺子屋
- 桐生再生
- ながめ黒子の会
- キングオブパスタ実行委員会
- We are with you



安政遠足保存会

賞 第2回優秀賞

〒379-0116 群馬県安中市安中 1531-1 安中市教委 体育課内



江戸時代の史実を基に藩士の長距離走イベント化



「安政遠足」は1855年に安中藩主、板倉勝明公が藩士の心身鍛錬に始めたとされる。団体は市民や学識経験者、行政関係者らで結成され、1975年に遠足を復活させ、2019年に45回を迎えた。安中城址から旧中山道を経て熊野神社までの29*のコースを侍衣装などのランナーが疾走する。出場するのは1800人で県外からの参加者も多い。安中の季節の風物詩となっている。同じコースを逆に歩く「峠下り」も行っており、多くの市民らが参加する。

伊参スタジオ映画祭実行委員会

賞 第1回ブロック賞（関東・甲信越）

〒377-0494 群馬県中之条町中之条町 1091



廃校の木造校舎で山の中の映画祭、監督や俳優も



人口およそ1万6000人の山あいの町で、撮影に使われる廃校の木造校舎を軸に地域発の映画文化を発信しようと、2001年から始まった。年1回の映画祭は、地元で撮影された映画を中心に上映、監督や俳優らもゲスト登場する。全国から多くの作品が寄せられるシナリオコンテストには、中編と短編の2部門があり、大賞には賞金を贈り映画化を支援する。作家横山秀夫さん、歌手山崎まさよしさん、映画監督篠原哲雄さんが映画祭で対談したことをきっかけに、19年には映画「影踏み」が全国公開された。

えんがお

賞 第10回ブロック賞（関東・甲信越）一般社団法人
〒324-0051 栃木県大田原市山の手 2-14-2（コミュニティハウスみんなの家）



空き店舗を拠点化、高齢者・若者・学生が交流



「えんがお」の名は「笑顔」と「縁側」、「顔の見える円の関係」から。高齢者の孤立を防ぐため、買い物や掃除など日常生活

の困り事を解決していく中で若者との交流を促す。クラウドファンディングを活用、空き店舗を再生した拠点「みんなの家」では高齢者が茶飲み話し、2階の自習スペースには地元の中高大学生が集う。空き家を活用した学生向けシェアハウスの運営や、空き店舗を活用し「地域食堂」「地域居酒屋」の営業、貸店舗として挑戦しやすい環境作りも行う。

山本有三記念会

賞 第8回優秀賞

NPO法人

〒328-0015 栃木県栃木市万町 5-3



読書感想文、俳句教室など文学コンクール開催



「真実一路」「路傍の石」で知られる作家、山本有三（1887～1974年）は栃木県栃木市出身。市内の「山本有三ふるさと記念館」を拠点として、有三が生涯にわたって情熱を傾けた人づくり、ことに青少年の育成を柱に据えた活動を展開する。読書感想文、読書感想画、俳句教室などをはじめとする各種文学コンクールや、文学散歩、文学講座などを開催し、地域文化の向上を目指している。

と記念館」を拠点として、有三が生涯にわたって情熱を傾けた人づくり、ことに青少年の育成を柱に据えた活動を展開する。読書感想文、読書感想画、俳句教室などをはじめとする各種文学コンクールや、文学散歩、文学講座などを開催し、地域文化の向上を目指している。

まちづくりチャレンジの「いま」

頑張る自治会・町内会

地縁、血縁の組織として祭りなどの伝統行事の中核を担ってきた自治会・町内会が、地域の課題に積極的に取り組むケースが広がっている。山形県川西町の「きらりよしまネットワーク」は、同町吉島地区の約720の全世帯が加入する全国でもまれなNPOだ。IT活用による高齢者の見守りや買い物支援のほか、都市との交流ビジネスなど多彩な活動を続けながら30年先を見据えた地域づくりに励む。

宮崎県日南市の「酒谷地区むらおこし推進協議会」は全世帯が加入、年1200円を負担し道の駅を拠点に名物料理や新鮮な野菜を提供する。鹿児島県日置市の「がんばろう高山」は、約150人の住民全員が田植えや山菜狩りなどグリーンツーリズムに関わる。長野県南木曾町の「妻籠を愛する会」は、約230戸の全世帯で発足し50年を超す。財産を「売らない、貸さない、こわさない」の3原則の下、旧中山道の宿場の景観維持に努めている。

那須まちづくり株式会社

賞 第9回ブロック賞（関東・甲信越）

株式会社

〒329-3225 栃木県那須町豊原丙 1340



廃校を拠点に過疎地に「コンパクトシティー」



2015年に廃校となった旧朝日小学校を「那須まちづくり広場」と名付け、「那須町を“生涯活躍のまち”にする」「小学校

跡地を、少子高齢社会の新しい学びと実践のコミュニティの場にする」という2つの目的を掲げる。コミュニティカフェ、マルシェ、よろず相談室、地域づくりのセミナーやアート展示、料理、パソコン、介護の勉強会など幅広く活用。住居やデイサービス、宿泊施設、オフィスも設ける計画で、過疎地での新しいコンパクトシティー、統合医療社会モデルの構築を目指す。

キングオブパスタ実行委員会

賞 第9回優秀賞
〒370-0849 群馬県高崎市八島町 265 番地
HP f

県産食材パスタを競うイベントで地元の味をPR



独自のパスタ文化を育んできた高崎市でパスタを愛する地元の中小企業経営者らが集まり結成。市内飲食店が自慢の味を競

い合うイベント「キングオブパスタ」を開催し、「パスタのまち高崎」の発信に大きな役割を果たしてきた。出場店は県産食材を使い工夫を凝らしたメニューを提供、来場者の投票でナンバーワンを決める。埋もれかけていた食文化に再び光を当て、地域のにぎわいやブランド力を向上。コロナ禍の2020年は一カ所に集まらず店ごとに開催した。

桐生再生

賞 第7回優秀賞 株式会社
〒376-0053 群馬県桐生市東久方町 2 丁目 1 番 45 号
HP f

電動バスを用い歴史的建物が集積する市街地案内



織物業の街に観光産業を創出した。群馬大などが開発した環境配慮の低速電動バスを用い、観光客を動物園や遊園地、歴

史的な建物が集積する市街地に案内するのが主要事業の一つ。低速走行で景色をゆっくり楽しむ。平日は買い物弱者のお年寄りや乗せて走り、コロナ禍でも継続した。工場を案内する「産業観光」にも先駆的に取り組む。古民家のお店で名物「おっきりこみうどん」も。歴史的建造物を維持できない所有者と、有効活用できる事業者の仲介でも成果を上げる。

富岡製糸場を愛する会

賞 第5回優秀賞 NPO法人
群馬県高崎市
HP f

講演やイベントで世界遺産への住民意識を高める



富岡製糸場の価値を認識し、共有するための学習会が発端。世界遺産登録に向けて価値を伝える活動に多くの人が加わって

発展し、会員は1300人ほどになった。製糸場の清掃や、場内で講演会やシャンソンなどのコンサート、観桜会などを開催した。近くのイベント会場などでは製糸場の歴史をまとめた紙芝居「赤煉瓦ものがたり」を披露。はかま姿の約200人の女性がまちを練り歩くイベントも好評だった。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は世界遺産に登録された。

本一・本二まちづくりの会

賞 第3回優秀賞 NPO法人
〒376-0031 群馬県桐生市本町 1-3-10
HP f

織物産地のまちなみを守り、市街地の再生に挑む



織物が盛んだった桐生市を元気にしようと本町1、2丁目の住民が結成。江戸時代末期からの建物を活用したまちづくりを

目指す。月1回青空マーケット「買場紗綾市」を開催し、織物や日用雑貨などを販売。県外からも含め千人ほどが訪れる。酒類卸業を営んでいた商店の倉庫群や神社などを回るまち歩きも人気だ。電気自動車を導入して観光客を無料で乗せ、環境保全もPR。焼失した明治初期の長屋を拠点とする若い世代のまちづくりも応援している。

We are with you

賞 第10回優秀賞
〒370-0532 群馬県大泉町古氷 21 ジェンテ・ミウダ

日系ブラジル人らが道路、川の清掃、児童生徒健診



外国人住民の割合が18%超の群馬県大泉町で、日系ブラジル人らが立ち上げたボランティア団体。道や河川の清掃のほか、

ブラジル人学校の児童生徒の健康診断事業などを展開している。15人いる会員は日系ブラジル人社会のキーパーソンで、外国人住民と行政、地域社会をつなぐ役割も果たしている。入管難民法改正により国内各地で外国人住民の増加が見込まれる中、共生を円滑に進める取り組みが注目されそうだ。

ながめ黒子の会

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒376-0101 群馬県みどり市大間々町大間々 2373 番地 3 シイナ内

大衆演芸場を保存、落語会など通じ歴史文化伝える



戦前に建てられた大衆演芸場「ながめ余興場」の保存と利活用を目的に1993年に発足した。当時、ながめ余興場を取り壊す声も上がったが、会員は余興場の価値と存続を訴え、伝統を守った。2016年のみどり市市制10周年に合わせ、世話人たちが中心となり、地域の偉人を取り上げた「みどり市創生落語」も制作。市内小学校で勉強会と落語会を行うなど、次世代に地域の歴史文化を伝える活動にも積極的に取り組んでいる。

自然塾寺子屋

賞 第6回優秀賞 NPO法人
〒370-2202 群馬県甘楽町小幡 7 番地
HP f

青年海外協力隊の研修や海外の技術者支援



青年海外協力隊員の研修を受け入れる傍ら、地元住民や行政などと国際交流や農村

振興、定住・交流人口増に取り組む。「資源は人」と農村の人々の純朴な魅力を引き出し、都市住民や学生、外国人を積極的に招いて交流。地域をPRする活動を通じて、町を気に入りにターンする人も。国際協力活動を経験した人の思いを市民に広める窓口にもなっている。また来日技術者の言葉の援助や、病気の際などに支援する「グローバル人材生活安心パック」サービスをNPO、企業と連携して実施している。

坂上健友会 大戸診療所

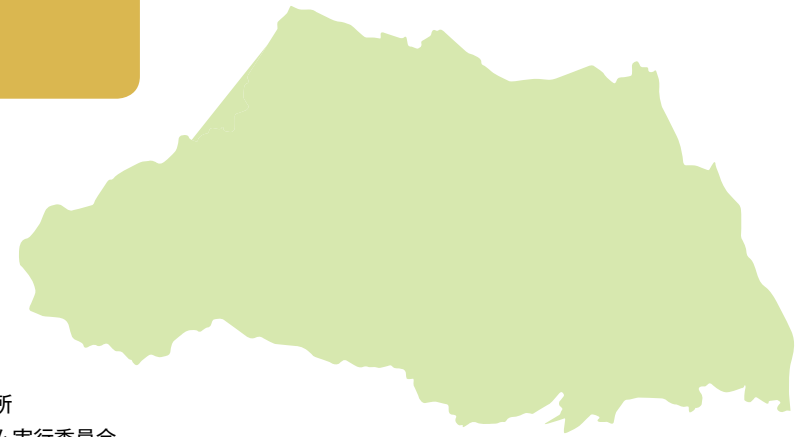
賞 第4回準大賞 医療法人
〒377-0931 群馬県東吾妻町大戸 13-1
HP

医師や住民が出資・運営し、過疎地域の医療守る



地元の医療拠点の廃止に直面した住民が医療法人を設立、1994年以来、診療所の運営を続けてきた。2000年から介護事業、04年から訪問介護ステーション、05年から居宅介護支援事業所も開設。11年にはデイサービスセンターを開いた。事業所には地元出身の看護師や介護士が働き、雇用の場にもなっている。町全体が通路で結ばれた病棟で、中心の診察室の役割をこの診療所が担うポリシーの下、現在も変わらず高齢者を無料で送迎するサービスを続けている。

埼玉



- 久喜市商工会鷲宮支所
- 秩父アニメツーリズム実行委員会
- 縁結びの街めぬま連絡協議会
- まち遺し深谷
- Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe

- 秩父百年の森
- 高麗1300
- 川口自主夜間中学
- みぬま福祉会工房集
- 版画フォーラム実行委員会

Moonlight Project 太鼓集団「響」HIBIKI Cafe

賞 第5回特別賞 一般社団法人
〒363-0015 埼玉県桶川市南 2-4-13
HP f

カフェ、太鼓通じ不登校の若者に居場所づくり



埼玉県立浦和商業高定時制の卒業生や教師が、不登校の経験を分かち合い、学校に行きづらい子どもたちの居場所をつくつ

てきた。2014年に桶川市に開いた拠点のカフェと、本庄市を稽古場とする太鼓の演奏活動の2本立てだ。カフェでは子どもたちが宿題や身近なイベント企画に取り組む。太鼓は英国での公演を実現した。これらの活動成果を土台に今後、不登校や経済的な悩みを持つ子どもたちのため通信制の「新しい学校」づくりを目指す。

縁結びの街めぬま連絡協議会

賞 第3回優秀賞
〒360-0201 埼玉県熊谷市妻沼 1982-3

寺本堂の国宝指定を機にまちおこし活動が結集



国宝に指定された妻沼聖天山本堂は縁結びのご利益があるとされる。本堂の「平成の大修理」が完了したのを機に、まち

おこしを進めようと、ボランティア観光ガイドや市民グループ、文化、商工団体など地元の団体が結成した。聖天山周辺を門前町風にしようと、景観美化に取り組み2020年に整備が完了した。空き家を探して入居者を募集。まちなかに四季の写真を飾り、まち歩きガイドも務める。お見合いパーティーのサポートも。

秩父百年の森

賞 第6回優秀賞 NPO法人
〒368-0035 埼玉県秩父市上町 3-6-6
HP f

山・里・街が連携して取り組む、未来へつなぐ森づくり



市域の87%が森林の埼玉県秩父市。地元の緑豊かな森を受け継いでいこうと、2000年から活動を開始。森林整備活動

や森とまちをつなぐ交流活動、森に学ぶことを主題とした環境教育支援活動、森を活用した地域活性化事業に取り組む。森林再生は時間がかかるため、100年先を見通して活動し、未来を担う子どもたちに森林の大切さを伝え、成長しても森林と関わり続けられる環境づくりに力を入れる。中国からの輸入が多かった薬用樹木（薬木）について、日本薬科大の教授や学生と共に育成の研究会を開いている。

まち遺し深谷

賞 第4回優秀賞 一般社団法人
〒366-0825 埼玉県深谷市深谷町 9-12
HP f

廃業した酒蔵にシアターや店舗開設、地域拠点に



深谷の持つ歴史資源、景観、産業資源などを生かした地域づくりを市民が中心になって進める。十数年前に廃業し、土堀

や屋根瓦が特徴的な酒蔵を再利用している。ミニシアターや古書店、アニメ工房、カフェ、居酒屋など15店舗が入り、年3万人以上が訪れる。キャッチフレーズの「まち遺し」は、ミニシアター名誉館長を務める映画監督の大林宣彦さんが「あるものを生かしていこう」という考えから使っている言葉だ。まち歩きガイドも務める。

秩父アニメツーリズム実行委員会

賞 第2回優秀賞
〒368-8686 埼玉県秩父市熊木町 8-15
HP

地元が舞台の人気アニメでPR、観光客呼び込む



アニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」「心が叫びたがってるんだ。」「空の青さを知る人よ」の三部作の

舞台となった秩父。行政と、アニメ製作者とファン、住民が力を合わせ、地域活性化を実現してきた。観光客は大幅に増加、春や秋の祭りでは作品のキャラクターのポスターで盛り上げ、スタンプラリーなども開催している。独自につくったグッズも人気だ。コスプレイベントも開催し、数多くの若者が訪れる。

久喜市商工会鷲宮支所

(受賞当時：鷲宮商工会)

賞 第1回優秀賞
〒340-0217 埼玉県久喜市鷲宮 4-8-8
HP

人気アニメで始まったまちおこしが広域に展開

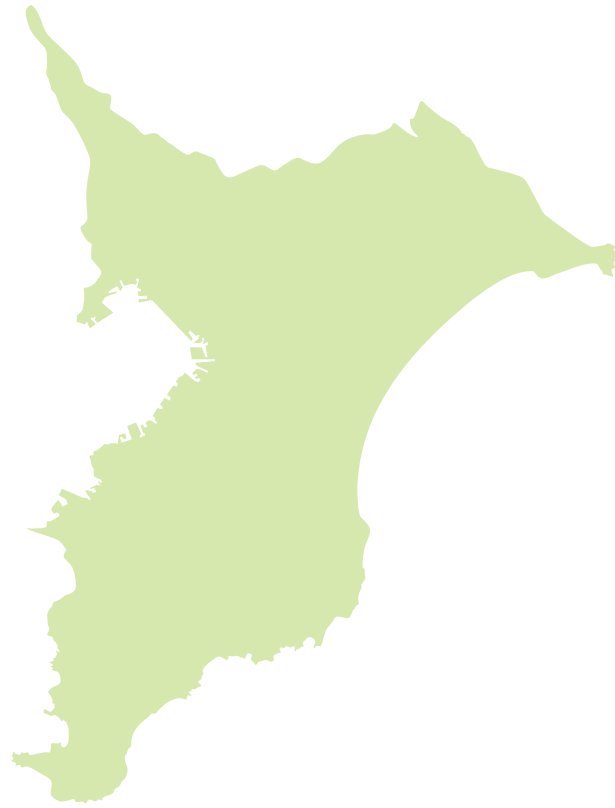


人気アニメ「らき☆すた」の登場キャラクターが鷲宮在住という設定がきっかけで、全国から訪れるようになった多くのファ

ンをもてなそうと、アニメによるまちおこしを始めた。地元の祭りにはキャラクターが描かれた「らき☆すた御輿」が登場。鷲宮神社の初詣客は数十万人規模となり、アニメの舞台となった神社脇の大西茶屋に立ち寄りたり、まち歩きを楽しんだりする人も多い。久喜市全体でアニメの街として取り組み、スリッパ産地である行田市の商工会と連携してグッズをつくるなど広域連携を進めている。

千葉

- 小野川と佐原の町並みを考える会
- 金谷ストーンコミュニティー
- ONE勝浦企業組合
- ちば地域再生リサーチ
- 手づくり公園まさごの会
- 船橋市時活村
- 報徳の会・内田未来楽校
- 行徳まちづくり協議会
- 松戸市に夜間中学校をつくる市民の会



金谷ストーンコミュニティー

賞 第2回優秀賞
〒299-1861 千葉県富津市金谷 2288
HP f

特産の房州石を生かしモニュメントやシンポ開催



富津市金谷地区は房州三名山の一つ鋸山の麓に位置し目前に東京湾が広がる。加工しやすく耐熱性に優れた房州石が切り出

され、石材業で栄えたが、コンクリートの普及などに押されて産業は衰えた。石で栄えた地域の歴史や文化を再認識し活性化を進めようと結成。「石と芸術のまち」をテーマに活動。石切場などの調査を進めるとともに、彫刻作品の設置やシンポジウム、地域産品を扱う店などを展開する。石窯ピザの店もでき、1ターンなどで若者ら定住者も出始めている。

小野川と佐原の町並みを考える会

賞 第1回優秀賞 NPO法人
〒287-0003 千葉県香取市佐原イ 1903-1 佐原町並み交流館
HP

利根川物流拠点の歴史的建造物保存、街を活性化



江戸時代に利根川の物流拠点として舟が行き来し、中心部を流れる小野川沿いは醸造業や問屋街で栄えた。昭和30年代

以降、自動車物流に押され衰退。メンバーは数多くの歴史的建物に着目し、町並みを保存してPR、活性化を進めている。川の清掃や除草作業を続け水質が浄化、サケが遡上するまでになった。ボランティアガイドも務める。骨董市なども開催。東日本大震災で建物は大きな被害を受けたが、全国そして世界からの支援で復旧した。旧川崎銀行佐原支店（三菱館）赤れんがの建物を保存修理中。電線無柱化も進む。

みぬま福祉会工房集

賞 第9回優秀賞
〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂 1445
HP f

知的障害者のアート創作を支援、ギャラリー併設



障害者アートの拠点「工房集」を社会福祉法人「みぬま福祉会」が運営する。養護学校高等部を卒業した重度の知的障

害を持つ子どもの家族や教員らが「どんな障害があっても受け入れる施設を」と1984年、福祉会を設立した。「工房集」は通所施設でもあり、アートプロジェクトでもある。自由な発想に基づく絵やステンドグラス、書などの作品は国内外で展示、ファッションブランドとコラボするなど高い評価を受ける。施設にはギャラリーが併設され、展覧会が開かれる。

高麗1300

賞 第7回優秀賞 一般社団法人
〒350-1243 埼玉県日高市新堀 855-3
HP

朝鮮半島からの渡来人が旧高麗郡を築いた記念事業



朝鮮半島の高句麗からの渡来人が現在の埼玉県に旧高麗郡を築いてから、2016年で1300年。建郡1300年を地域

活性化の契機と捉え、記念事業を打ち出した。活動は旧高麗郡地域から、関東、全国へと拡大している。「地域」「渡来文化」をキーワードに講演会やシンポジウム、歴史ウォークに加え、古代渡来文化研究の高揚を目的に「渡来文化大賞」を設け、さらに歴史を掘り起こす活動を続けている。

版画フォーラム実行委員会

賞 第10回優秀賞
〒355-0374 埼玉県東秩父村安戸 87
f

無形文化遺産の和紙広めようと小さな村で全国展



埼玉県唯一の村、東秩父村を中心に活動。版画にも用いられる地元の和紙は1300年の歴史を持ち、ユネスコ無形文化

遺産に登録されている。そんな特産の和紙をもっと知ってもらおうと、村民の呼び掛けで2004年に設立され、小さな村で全国公募展を開催している。会派やジャンルを超えて誰もが参加できるのが特徴。海外とも交流し、村内とギリシャでそれぞれ作品展を開催した。

川口自主夜間中学

賞 第8回優秀賞
〒355-0008 埼玉県東松山市大谷 3209-31

誰でも無料で授業受けられる夜間中学を運営



公立夜間中学がなかった埼玉県で市民グループが1985年から自主夜間中学を運営している。川口市で週2回、公民館など

で教室を開く。学びに来るのは不登校の子や十分に勉強できないまま学校を卒業してしまった人、日本語が不得意な在日外国人ら。誰でも無料で、いつでも通い始めることができる。ボランティアで教えているのは元教諭や社会人、学生ら。教室で大切にしていることは「互いに学び合うこと」。教える側も教えられる側も真剣なまなざしだ。

松戸市に夜間中学校をつくる市民の会

賞 第10回優秀賞 NPO法人
〒271-0092 千葉県松戸市松戸 1879-24 ほくとビル5階

学ぶ機会を失った約2千人に学習の場を提供



貧困や不登校、障害などの理由で学ぶ機会を失った人たちに学習の場を提供する夜間中学校。松戸市内に公立夜間中学校の

開設を目指す人たちが1983年、「市民の会」を結成し「松戸自主夜間中学校」を開講した。それ以来、学んだ人は約2千人に上る。授業料は無料。退職した教員らがボランティアの講師として活動を支える。現在は外国人の子どもも多い。学びたい人が一人でもいる限り活動を続ける考えだ。

報徳の会・内田未来楽校

(受賞当時：報徳の会)

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒290-0503 千葉県市原市宿 174 番地 8
HP

卒業生を中心に廃校した小学校を地域の交流の場に



廃校の利活用が各地で進む中、報徳の会は卒業生らが主体となり、旧内田小学校を「内田未来楽校」に再生。朝市や作品展の開催などで地域住民の交流を促し、人口減少や

少子高齢化・過疎化が進む市原市の南部地域に活力を与えている。地域の魅力を引き出し、人のつながりを強める仕掛けづくりを目指し、常に新たな試みに挑戦。母校を地域の宝として後世に伝えようとする卒業生らの活動は、廃校の利活用の新たな形として注目される。

手づくり公園まさごの会

賞 第5回優秀賞
〒261-0011 千葉県美浜区真砂 5-12-1
HP

住民が提案、自分たちの力で公園手作り、管理



市の財政難で30数年間放置されていた4千平方メートルの公園用地を自分たちの手で整備、管理しようと市に提案して1年

余りでオープンした。真砂地区の自治会連絡協議会のメンバーら約30人で構成。週2回、自発的に花の植栽、草刈りなどを続ける。ベンチや椅子は手づくりだ。人間と生き物が共生するビオトープづくりを目指し、池を作ったり、井戸を掘ったりした。高齢者が活動できる「居場所」の役割も果たしている。2019年には市内の別の地区にも、住民による手づくり公園が誕生した。

ONE勝浦企業組合

(受賞当時：熱血!!勝浦タンタンメン船団)

賞 第3回優秀賞 企業組合
〒299-5225 千葉県勝浦市墨名 657-2 勝浦市商工会館内
HP f

漁師ゆかりの「勝浦タンタンメン」を全国発信



勝浦市は観光と漁業のまちで、半世紀以上前から独特のタンタンメンが食べられてきた。漁師や海女さんが海仕事で冷え

た体を温めるため、しょうゆベースのスープに真っ赤なラー油、具材にタマネギを使うのが特徴で、辛さの中に甘みも感じられる。このソウルフードをブランド化し全国に発信しようと、まちおこし団体「熱血!!勝浦タンタンメン船団」を結成。全国各地でのイベント出展等で食を通じた地域PR活動を実施。食品や菓子など監修商品の開発も積極的に行う。

地域再生大賞の 選考委員

大賞・準大賞
選考の決め手

選考委員は地域づくりに造詣が深い有識者から成る。毎年秋、各新聞社などからの推薦書の審査を経て現地を調査。地域のために行動する人々の話を聞き、各賞を決定する。

第11回の選考委員のうち、第1回からのメンバーはタレントの大桃美代子氏、藤波匠・日本総研研究員の2人。沼尾波子東洋大教授は第4回から参加した。第1回はあん・まくどなるど氏(現上智大大学院教授)、第2～3回はジャーナリストの三神万里子氏が選考委員に加わった。

国内外のまちづくりに詳しく第1回から第10回まで選考委員長を務めた岡本義行法政大特任教授は「地域の人々が具体的な行動を起こすことが重要だ。世の中は変わっている。男性も女性もかつての意識を転換し『自分がやってみる!』と引張ってほしい」と呼び掛けている。

行徳まちづくり協議会

賞 第9回優秀賞
〒272-0104 千葉県市川市本塩 2-3 中台製作所内
HP

みこし作りなど産物や歴史を生かし地域づくり



地域の産業である、みこしを切り口として景観・地域づくりにつなげようと、2017年5月、地域の自治会長をはじめ、まち

づくり団体、市川市などが参加して設立。07年に廃業したみこし店の店舗兼住宅を市川市が改装し18年7月にオープンした「行徳ふれあい伝承館」で展示と管理・運営業務を担っている。会長の中台洋さんが経営するみこし店がみこしの製作過程等を紹介する「行徳神輿ミュージアム」との2施設を活用しながら活動を展開する。

船橋市時活村

賞 第7回特別賞 NPO法人
〒274-0063 千葉県船橋市習志野台 1-11-1 八田ビル2F
HP

退職後の生き方を考え、実践する仲間・場づくり



65歳から85歳までの20年間に、睡眠などを除き自分で過ごし方を選べる「自遊時間」10万時間を「どうはずんで生

きていくか」を考え、実践する仲間と場づくりを進めている。発足から26年、会員は男女約300人に上り、花見、料理、遠足などの主催イベント、会員が自発的に始めた行事は合わせて約40に達した。年間延べ参加者は約1万人。活動を通じて退職者が地域社会にソフトラディングすることを目指す。

ちば地域再生リサーチ

賞 第4回優秀賞 NPO法人
〒261-0004 千葉県美浜区高洲 2-3-14
HP f

高齢化が進むニュータウン再生に大学・住民挑む



高度成長期に東京湾を埋め立て誕生した千葉市の海浜ニュータウン。入居が始まってから50年近くが経過し、高齢化や建

物老朽化が深刻だ。地元大学の教官や学生が核となり、団体を結成。住民の力で団地を再生させようと、リフォームや買い物代行、文化講座の運営など幅広く活動する。世代間の交流を図る憩いの居場所にはキッズスペースを備え、学童保育事業も。一日店長によるショップなどを開く。アトリエやギャラリーを立ち上げ、イベントを開催している。

東京

- 喜多見ボンポコ会議
- 奥浅草観光協会
- 谷根千・駒込・光源寺隊
- 淡路エリアマネジメント
- 旧東海道品川周辺まちづくり協議会
- 目黒区民まつり実行委員会
- 千住文化普及会
- 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
- 柴又まちなみ協議会
- あらかわ子ども応援ネットワーク



旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

賞 第5回優秀賞

〒140-0001 東京都品川区北品川 2-28-19



旧東海道の土地柄や特有の「細い道幅」を守る



旧東海道宿場町の歴史と文化を受け継ぎ、人情の厚い「品川宿」を守ろうと、旧東海道沿いの8商店街で設立した。宿場

町の雰囲気を残す景観づくりに取り組む。運営する品川宿交流館では散歩する人や観光客、地元の人たちとの交流、地元の人同士の情報交換の場を提供している。古いビジネス旅館をゲストハウスにリニューアルするのを応援し、現在では若い外国人旅行者の拠点となっている。かつて道しるべだった街道松を植え、次の世代に継承する活動も続けている。

谷根千・駒込・光源寺隊

賞 第3回優秀賞

〒113-0023 東京都文京区向丘 2-38-22 光源寺

地域の若者らがほおずき市を開催、被災者支援も



文京区にある光源寺境内で夏に開かれる「ほおずき市」を通じて地域の交流を深め、地域の若者らが手弁当でテント張りや

食事の提供に汗を流す。東日本大震災の発生直後から地域の店主や主婦、縁日の参加者が自発的に寺に集まり、食料や鍋や道具を被災地に届けた。被災者との縁は続き、復興のためのパン工房づくり応援、ペットの支援などに取り組む。ほおずき市には約50店が並ぶが、うち5店ほどは震災関連だ。

目黒区民まつり実行委員会

賞 第6回優秀賞

〒153-8573 東京都目黒区上目黒 2-19-15 目黒区役所文化・スポーツ部 文化・交流課



落語にちなみサンマを振る舞い、被災地も支援



今や東京の秋を代表する人気催事「目黒のさんま祭」を、目黒区民まつりの中のメインイベントとして実施し、地域活性化、

都市間交流に多大な実績を上げている。古典落語「目黒のさんま」にちなみ、1996年に開始。毎年9月、宮城県気仙沼市から届く5千匹の新鮮なサンマを、目黒区内の公園で炭火焼きにして、無料で振る舞う。会場の温かな雰囲気もあって、長蛇の列がおなじみの光景に。震災復興にも尽力している。

淡路エリアマネジメント

賞 第4回優秀賞

一般社団法人

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-105 ワテラスアネックス 1311



再開発地域で学生や企業と住民交流を進める



神田淡路町の再開発で小学校跡地にオフィスやマンションなどを備える複合施設「ワテラス」ができたのをきっかけに神田

の文化を残しながら新旧住民、就労者、学生の交流を進めようと、デベロッパーの安田不動産などで団体を設立した。無料の屋外ジャズや冬季イルミネーション、マルシェ等の定期イベントを開催し地域を盛り上げ、コミュニティの形成・活性化を図る。有名な神田祭にもワテラスに居住する学生会員と参加。フェイスブックやインスタグラムに加え、地域情報誌を年3回発行して情報発信にも努めている。

奥浅草観光協会

(受賞当時：奥浅草観光まちづくり協会)

賞 第2回優秀賞

一般社団法人

〒111-0031 東京都台東区千束 3-19-3 グリーンビル 2F



江戸時代からの地域資源を発信、オンラインツアーも



浅草寺観音様の裏側、言問通り以北の一带にあたる「奥浅草」には、江

戸の頃より芝居や遊郭が栄え庶民文化の発信地となる一方、歴史ある寺社、名所、旧跡を多数有する。商店街や町会、産業界が連携し、観光資源を活かした地域活性化と情報発信、観光振興を目的とする。また、本地区には浅草見番もあり、浅草花柳界の伝統の振興・継承を支える取り組みも行う。恒例の写真展・写真コンテスト開催のほか、コロナ禍においてはオンラインツアーを開催し、浅草の魅力を広く発信する。

喜多見ボンポコ会議

賞 第1回優秀賞

東京都世田谷区



地域活性化から分野横断的な提案まで

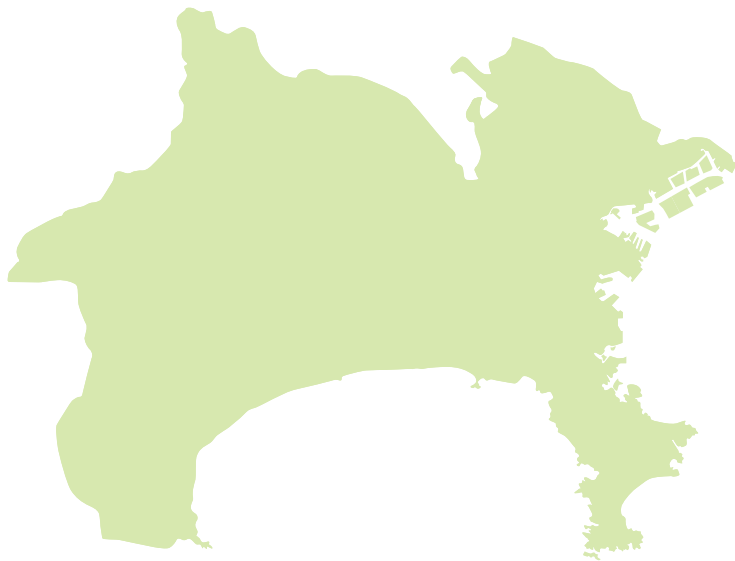


東京都世田谷区喜多見はかつて自然豊かで地域の中で人も自然も上手に循環していた。地域の歴史や文化、人や店、環

境資源を掘り起こし、地域活性化を目指す。発足当時、野川でタヌキを見たときよく聞いたことからボンポコと名付けた。その野川にどんな生きものがどのくらいいるのかを季節ごとに調べている。外環道計画の研究から、行政の中に眠るデータを引き出して一般提供し、また現場やデータを見てきた経験から分野横断的な提案もやっている。

神奈川

- 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会
- 女性防災クラブ平塚パワーズ
- 河内川あじさいの会
- 日本ナポリタン学会
- 高齢化社会をよくする虹の仲間
- サポーターみうら
- 小田原柑橘倶楽部
- ふらっとステーション・ドリーム
- 鴨居駅周辺まちづくり研究会
- 美しが丘「100段階」プロジェクト



女性防災クラブ平塚パワーズ

賞 第2回優秀賞
神奈川県平塚市
HP

主婦らを中心に防災訓練や出張講座、ノウハウ集も



防災活動に取り組む女性グループ。「自分の命は自分で守り、地域を守ろう」を合言葉に阪神

大震災翌年の1996年にスタートした。段ボールを使った簡易トイレの作り方の出張講座は、材料集めから保管の仕方までをレクチャーしている。応急手当てや災害時の食べ物の作り方などの講座を開くほか、ポリ袋を使用した簡易防護服作りも行っている。ノウハウをまとめた冊子「防災減災パワーズブック」を作成し、視覚障害者たちにも分かるように点字版、音訳版も発行した。

初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

賞 第1回優秀賞
〒231-0054 横浜市中区黄金町1-4 先 高架下スタジオサイトB
HP

生活環境を改善、安心して暮らせるまちづくり



三つの町内と小学校PTAなどで結成。性風俗の違法営業で悪影響を受けた生活環境を改善するため、警察、行政、周

辺地域や大学、企業、アーティストと連携し、「安全・安心のまちづくり」に取り組む。毎月27日にはパトロールを行いながら歩道を清掃する「防犯パトロール」を実施。また、国内外のアーティストを招聘し、まちに滞在しながら作品を制作・発表するアートフェスティバル「黄金町バザール」を毎年開催。「防犯」「防災」「賑わい」の三つを柱とした活動を継続している。

柴又まちなみ協議会

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒125-0052 東京都葛飾区柴又7丁目7番4号

“寅さん”の街並み守るガイドライン、魅力発信



映画「男はつらいよ」の舞台、葛飾柴又地区の景観を守る「街並み景観ガイドライン」を策定、「変えない開発」「一店一

品主義」「おもてなし」を掲げ、下町情緒豊かな帝釈天の門前町のイメージを保っている。変わらない昭和の街並みは、若者や外国人観光客にいまだに人気。取り組みが功を奏し、国の文化審議会は2018年2月、地区を東京都内で初めて「重要文化的景観」に選定、保護の対象。国、都、区、地元の4者が新たな取り組みを話し合っている。

千住文化普及会

賞 第7回優秀賞 NPO法人
〒120-0037 東京都足立区千住河原町21番8号702

HP

千住宿の豊かな歴史と文化を子どもたちに伝承



日本橋から日光街道の最初の宿場町であり、「江戸四宿」の一つが置かれた千住は、松尾芭蕉「奥の細道」の旅立ちの地

でもある。都市部にあって少子化、世代間隔絶が進む中、郷土の豊かな歴史と文化を子どもたちに伝承、地域に誇りを持ってもらおうと2006年に発足した。小学校での出前授業、奥の細道を追体験するクルージング、街歩きなどの催し、地元伝承の物語の絵本化などに積極的に取り組む。お気に入りの風景の写真展や街歩きガイドブックも実現した。

あらかわ子ども応援ネットワーク

賞 第10回準大賞
〒116-0003 東京都荒川区南千住1-13-20 荒川区社会福祉協議会ボランティアセンター内
HP

市民団体と行政が連携、子どもの情報共有し支援



「子どもを真ん中にみんなで手をつなごう」。区の社会福祉協議会を事務局に多くの支援団体のネット

ワーク化と区、教育委員会との緊密な連携で、きめ細かい活動を展開している。3か月に1度、30を超える組織や子ども食堂など市民団体と、行政の担当者が一堂に会して活動の在り方を議論し、全国でもまれな大きい支援の輪を構築。窓口の一本化で啓発・広報が効率化、寄付を受けやすくなったことも支援を活性化させている。

豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

賞 第8回準大賞 NPO法人
〒171-0014 東京都豊島区池袋3丁目52番21号
HP

地域を変える、子どもが変わる、未来を変える



2012年設立。「子どもの貧困」をテーマに、子どもを地域で見守り、育てることをコンセプトとして活動している。

遊びサポート、学びサポート、暮らしサポートの3本柱で有機的なネットワークをつくり、貧困の連鎖を断つことを目指す。13年に始めた「要町あさやけ子ども食堂」は全国で反響を呼び、普及を後押しするための講演会やシンポジウムなども各地で開催している。コロナ禍の中では食材配布に力を入れた。

鴨居駅周辺まちづくり研究会

賞 第9回優秀賞
〒226-0003 横浜市緑区鴨居 2-19-3
HP

駅の清掃やコンサート開催で交流の場づくり



1962年に請願駅として開設されたJR横浜線の鴨居駅周辺に住む78人が会員。毎週日曜日の駅の清掃や、自由通路を

使ったミニコンサートの開催を主体に、行政や自治会など地元の45団体と協働し、年100回もの活動が続ける。女性が多くなりがちな地域活動団体で、会員の8割が男性で20年を迎える団体はかなり珍しい。息の長い活動に表彰状・感謝状の数も2桁になった。後継者育成も着実に続けている。

小田原柑橘倶楽部

賞 第7回優秀賞 株式会社
〒250-0014 神奈川県小田原市城内 8-10
HP

かんきつ類栽培の農家を応援し、農商工連携で活性化



小田原市片浦地区の柑橘農家を応援する活動をしている。「人・もの・金を地域に循環させる」を合言葉に、地元の偉人、二

宮尊徳が提唱した「報徳思想」を運営理念に据える。企業や行政など約20社・団体の協力を得ながら、農商工連携で地域活性化を实践、耕作放棄地でのレモン栽培にも取り組む。特産物を生かした片浦レモンサイダー、ジェラート、はちみつなどを開発・販売。地元和菓子店とつくれた「片浦レモンの生ようかん」は2020年に神奈川県指定銘菓になった。

高齢化社会をよくする虹の仲間

賞 第5回ブロック賞（関東・甲信越）
〒225-0023 横浜市青葉区大場町 930-66
HP

新興住宅地の高齢化に向け住民が支え合いネット



地縁・血縁の薄い横浜市の新興住宅地で支え合う仲間をつくろう

と1983年から住民ネットワークづくりを進めてきた。会員約100人は介護などの学習会やサークル活動、喫茶店を運営。生き生きとした老後や最期の時を迎えるために考えることをまとめたノートも出版し「終活」の先駆けとして注目を集めた。お元気ですかコール、困り事相談窓口など助け合いの輪を広げる。ペースは毎月の例会。気軽に話し合い、メンバーの理解を深める場となっている。

河内川あじさいの会

賞 第3回優秀賞
〒254-0901 神奈川県平塚市纏 313-28
HP

よみがえった川にアジサイ、環境保全に取り組む



平塚市を流れる河内川で清掃や草刈りを行っており、メンバー約60人。川沿いの1.4kmにわたってアジサイを植えた。川はかつて

ごみの不法投棄などで悪臭を放っていたが、県や市に働き掛け近隣の川からの年間取水が可能になったことで水質が大幅に改善、アユが泳ぎ、カワトンボやカワセミも見られるようになった。6月には「あじさい祭り」を開催し、約3千人が来場している。7月には小学生とアジサイを剪定し、花びらを使った万華鏡づくりにも取り組んでいる。

美しが丘「100段階」プロジェクト

賞 第10回優秀賞
〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘 1-23-8 美しが丘中部自治会内
HP

殺風景な階段カラフルに。遊歩道ネットワーク化



50年前に造られた殺風景な「100段階」を多世代の住民が参加してカラフルに塗り替え、愛着の持てるランド

マークによみがえらせた。まちのとおきおきの場所に「たまプラ遺産」タイルを設置し、同じ標高の階段のプレートとひも付けることで丘のまちの高低差を実感。地区内の遊歩道ネットワーク活性化の一環として住民参加の「まち歩き」にも取り組む。マップの作成配布、大学との環境調査、ランニングコースの紹介などを通じ、持続可能な郊外住宅地を目指す。

ふらっとステーション・ドリーム

賞 第8回ブロック賞（関東・甲信越） NPO法人
〒245-0067 横浜市戸塚区深谷町 1411-5
HP

郊外団地の空き店舗を借り住民がカフェ運営



都市郊外団地「ドリームハイツ」で、空き店舗を借りて住民が主体的にコミュニティーカフェを運営している。主婦スタッフ

が調理室で手作りする日替わりランチが人気で、独り暮らしの高齢者らの健康管理を支えている。学び、作品発表や、3か月に1度配信する「ふらっと通信」など地域情報の収集・発信機能も果たしている。住民らがサービスの担い手にも受け手にもなる交流拠点として、高齢化が加速する地域の課題を共有し、解決に取り組む。

サポーターみうら

賞 第6回優秀賞
〒238-0243 神奈川県三浦市三崎 2-11-3
HP

空き店舗の改装施設を拠点に地元情報を発信



かつて遠洋漁業の基地として栄え、今も「マグロのまち」として観光客を魅了する神奈川県三浦市。その下町「三崎」

のにぎわいを取り戻そうと、往事の生活ぶりを伝える資料館「チャッキラコ・三崎昭和館」が2010年に開館。チャッキラコは三崎に伝わる伝統芸能で、ユネスコ無形文化遺産にも登録された。サポーターみうらは、同館の運営に携わる傍ら、地域の文化や歴史を独自に資料収集して分かりやすく展示し、市内外に向け発信している。

日本ナポリタン学会

賞 第4回優秀賞
〒224-0001 横浜市都筑区中川 1-4-1-107
HP

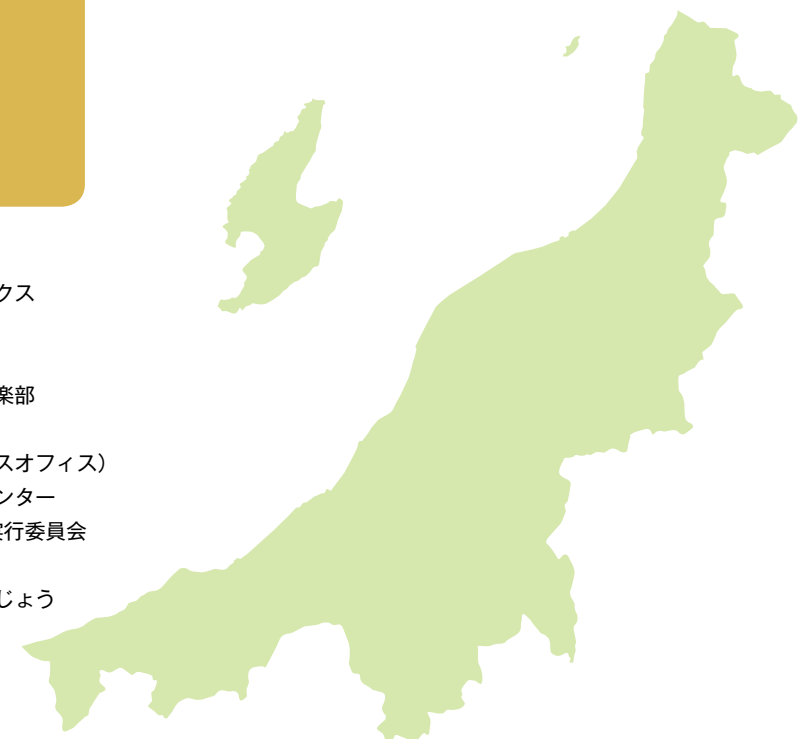
横浜伝統のスパゲティナポリタンで地域活性化



日本独自の味「スパゲティナポリタン」。戦後、全国に広まっていく発信地となったのが横浜とされ、SNSを通じて知り

合った市民有志が横浜開港150周年に合わせて結成した。各地の祭りでナポリタンを提供するほか、ソースの味やパッケージデザインなどで新商品開発に協力している。会員は約30人。麵工場の見学に行くなど研究を重ねている。横浜周辺のおいしいナポリタン、約30店を「認定店」として紹介している。

新潟



- ネットワーク・フェニックス
- 山古志アルパカ村
- トキどき応援団
- かみえちご山里ファン倶楽部
- 地域おこし
- 沼垂テラス商店街（テラスオフィス）
- 都岐沙羅パートナーズセンター
- 「燕三条 工場の祭典」実行委員会
- 越前浜自治会
- ソーシャルファームさんじょう

地域おこし

(受賞当時：十日町地域おこし実行委員会)

賞 第5回特別賞 NPO法人

〒949-8613 新潟県十日町市中条庚 939-2 やまのまなびや



地震で危機迎えた集落を活性化、若い世代に継承



中越地震で被災した十日町市の池谷集落で、ボランティアの支援を受けて活動に取り組む。コメの販売や

研修生の受け入れなどを進めており、家族で移住する人も現れた。農作業体験交流イベントなどで訪れる人は千人を超える年もあり、後継者向け住宅やライスセンター（米の乾燥施設）も建設した。一時は13人にまで減った集落だが、農業の組織化で、高齢者から若い世代への農地の引き継ぎが徐々に進んでいる。

トキどき応援団

賞 第3回優秀賞 NPO法人

〒952-0823 新潟県佐渡市浜河内 109



ビオトープでトキと共生、探鳥会や勉強会も開催



トキと共生できるビオトープを実現する活動に市民ら約130人が取り組む。トキや佐渡島に関するテーマで勉強会やバー

ドウォッチングを開いている。餌場となるビオトープづくりは企業や大学と連携して取り組んでいる。次世代への普及啓発活動として島内外の子どもたちを対象にした自然学校も運営。島では430羽を超える野生のトキが確認され、事務所近くでヒナが誕生するほどに。生息環境整備に取り組む団体でつくる「トキの水辺づくり協議会」のメンバーにもなっている。

沼垂テラス商店街（テラスオフィス）

賞 第6回準大賞 株式会社

〒950-0075 新潟県中央区沼垂東 3-5-22



古い建物を買い取り新たな商店街として再生



昭和の雰囲気を色濃く残す沼垂市場通りに活気を取り戻そうと地元住民が設立。老朽化が著しいシャッター店舗の長屋と

土地を買い取り、2015年、レトロ調漂う「沼垂テラス商店街」として再生した。街の古さを生かして魅力的な交流の場に変える考え方に多くの若手起業家が共鳴。カフェ、陶芸・ガラス工房、総菜店、雑貨店、古本屋などの個性的な店が並び、ノスタルジックな雰囲気の中で買い物や体験が楽しめる。周辺地区にサテライト店も。16年には人気のご当地菓子「沼ネコ焼」が誕生した。

かみえちご山里ファン倶楽部

賞 第4回特別賞 NPO法人

〒949-1734 新潟県上越市増沢 962-1



住民と県外出身者が協力、地域づくり戦略を練る



上越市で、山あいの集落の伝統と暮らしを守ろうと奮闘を続けている。水車づくりなど地域に残る技術をリストアップし映

像などで記録。途絶えがちになった行事の復活も進めてきた。中心は県内外からやって来たスタッフ。高齢者の多い住民と協力して地域の元気を高める。廃校を拠点に環境教育の学校も運営。稲作を学ぶ「棚田学校」や古民家を改装したレストランも開き、活動は広がる。交流人口は年間約1万人に及んでいる。

山古志アルパカ村

賞 第2回優秀賞 株式会社

〒947-0204 新潟県長岡市山古志竹沢乙 169

アンデス原産のアルパカを育て多角的ビジネスに



中越地震の後、米コロラド州から寄贈されたことをきっかけに、アンデス原産のアルパカの飼育が始まった。2011年に

株式会社を設立し、血統書をつくりながら増やした約60頭を飼育。牧場での展示や、毛糸の供給、全国の動物園などへの販売、リースといった多角的なビジネスに成長させた。住民が運営する直売所では野菜なども販売している。小学校にアルパカを長期間貸し出し、子どもたちから「人なつっこい」と親しまれている。

ネットワーク・フェニックス

(受賞当時：復興支援ネットワーク・フェニックス)

賞 第1回優秀賞 NPO法人

〒940-0062 新潟県長岡市大手通 1-5-9



フェニックス花火で中越地震からの復興を推進



2004年、長岡市などを襲った新潟県中越地震からの復興を祈願し、毎年8月に開かれる長岡まつり大花火大会のプロ

グラムの一環として、フェニックス花火を打ち上げる。歌手平原綾香さんの曲「Jupiter」に合わせて約3分間、ワイドスターマインなど華やかな光の演出が来場者を魅了する。活動は市民を中心に集められた協賛金などによって支えられている。震災の記憶がない子どもたちへの出前事業を実施。19年には花火の打ち上げ開始15年を記念してシンポジウムを開催した。

山梨

- 日本上流文化圏研究所
- 富士山河口湖音楽祭実行委員会
- 山梨ガバメント協会
- 身延町商工会
- かつぬま朝市会
- ひばりが丘高校うどん部
- ワインツーリズム
- えがおつなげて
- グレイス・ロード



富士山河口湖音楽祭実行委員会

賞 第2回特別賞
〒401-0301 山梨県富士河口湖町船津 5577
HP f

野外ホールで音楽祭、一流の演奏、子どもも参加



旧河口湖町が建設した3千人収容の野外音楽ホールを活用しようと2002年から始まった。世界的指揮者、佐渡裕さんが協力、一流アーティストが出演し、ボランティアの住民が運営に携わっている。ホール以外にも美術館や電車内、富士山5合目等でも演奏会を開き、期間中の観客は2万人を超えることも。中学校の吹奏楽部員によるバンド演奏など「地域発」プログラムがそろっているのが特色だ。指揮を学ぶ教室、小学生の音楽授業、地元のショッピングセンターからホールまでのパレード演奏会など、街全体が音楽であふれる。

日本上流文化圏研究所

賞 第1回特別賞 NPO法人
〒409-2727 山梨県早川町葉袋 430 早川町交流促進センター内
HP f

南アルプスの小さな町を住民、移住者が活性化



小さな町で、明日を探る試みが続く。町役場の一部署として始まり、2006年にNPO法人となった。スタッフの半分は県外、町外からの移住者で、30代が中心となって知恵を絞っている。町民が企画したコミュニティービジネスの支援に取り組み、ネーチャーガイドなど小規模だが多彩な取り組みが広がる。「やまびと講座」として町内の川や道、食をテーマにした勉強会を開いている。移住者の受け入れに力を入れ、住居のあっせんや住民の紹介、地域で暮らす心構えの伝授にも取り組んでいる。

越前浜自治会

賞 第9回優秀賞
〒953-0012 新潟市西蒲区越前浜 5367
HP f

共有地や空き地に宅地を整備、移住者受け入れ



新潟市郊外の農村で、2009年から県内外の移住者を増やそうと息の長い自治会活動が続いている。大きなきっかけは地元小学校が統廃合の危機にあったこと。移住者受け入れのため、空き家を活用したり、子育て世代向けの宅地分譲を行ったりした。この10年で約75世帯が移住。子どもの数も20人ほど増え、学校は守られた。保育園も増えている。取り組みが評価され、16年に市の「移住モデル地区」の第1号に指定された。

新潟市郊外の農村で、2009年から県内外の移住者を増やそうと息の長い自治会活動が続いている。大きなきっかけは地元小学校が統廃合の危機にあったこと。移住者受け入れのため、空き家を活用したり、子育て世代向けの宅地分譲を行ったりした。この10年で約75世帯が移住。子どもの数も20人ほど増え、学校は守られた。保育園も増えている。取り組みが評価され、16年に市の「移住モデル地区」の第1号に指定された。

ソーシャルファームさんじょう

賞 第10回優秀賞 NPO法人
〒955-0141 新潟県三条市荒沢 1198-3
HP f

「半農半バスケット」で子ども指導、プロ競技も



三条市の緑濃い下田地域で、農業を営みバスケットもプレーする「半農半バスケット」に各地の若者が集い、3人制プロリーグにチームを送る。農業・スポーツ・交流を柱とした「人づくり」の郷づくりを進め、あらゆるスポーツの選手がここで子どもたちを指導、セカンドキャリアを送る構想を描く。目標はスポーツ合宿の聖地。小中学校での地域活性化や新しい球技の授業、コロナ禍で自炊が増えた人向けのレシピ紹介、ペットと楽しむドッグラン開設など前向きに取り組む。

三条市の緑濃い下田地域で、農業を営みバスケットもプレーする「半農半バスケット」に各地の若者が集い、3人制プロリーグにチームを送る。農業・スポーツ・交流を柱とした「人づくり」の郷づくりを進め、あらゆるスポーツの選手がここで子どもたちを指導、セカンドキャリアを送る構想を描く。目標はスポーツ合宿の聖地。小中学校での地域活性化や新しい球技の授業、コロナ禍で自炊が増えた人向けのレシピ紹介、ペットと楽しむドッグラン開設など前向きに取り組む。

都岐沙羅パートナーズセンター

賞 第7回大賞 NPO法人
〒958-0261 新潟県村上市猿沢 1238
HP f

住民、企業、資源を結び付け地域づくり



豊かな自然や伝統資源に恵まれる新潟県の村上・岩船地域で、住民、企業、行政をつなぎ、得意分野を組み合わせたまちづくりを進める。地域から募った事業を公開審査して資金支援をする試みなどを通じ、縄づくりや、まゆ玉の工芸品をビジネス化するなど地元の資源を生かしたユニークなビジネスが生まれた。若者がアイデアを持ち寄る場となるカフェづくりも。少子高齢化が進む地域でまちづくり協議会などを支援、交通の確保など課題の解決を目指す。

豊かな自然や伝統資源に恵まれる新潟県の村上・岩船地域で、住民、企業、行政をつなぎ、得意分野を組み合わせたまちづくりを進める。地域から募った事業を公開審査して資金支援をする試みなどを通じ、縄づくりや、まゆ玉の工芸品をビジネス化するなど地元の資源を生かしたユニークなビジネスが生まれた。若者がアイデアを持ち寄る場となるカフェづくりも。少子高齢化が進む地域でまちづくり協議会などを支援、交通の確保など課題の解決を目指す。

「燕三条 工場の祭典」実行委員会

賞 第8回優秀賞
〒955-0092 新潟県三条市須頃 1-17 (公財) 燕三条地域産業振興センター企画推進課
HP f

中小企業が集まる工場を開放し、見学できるイベントを開催



新潟県の燕三条地域は中小企業が集まる日本有数のものづくりのまちだ。打刃物や洋食器などの企業が工場（こうば）を開放し、見学できるイベント「燕三条 工場の祭典」を開く。祭典は産業観光の目玉であるだけでなく、企業間の取引につながっている。地域課題の人材、後継者不足に対し、地元企業の就職に結びつく一定の効果も挙げている。参加企業は年々増え、対象地域も拡大、農業や、購入できる場にも焦点を当てるなど取り組みは広がっている。

新潟県の燕三条地域は中小企業が集まる日本有数のものづくりのまちだ。打刃物や洋食器などの企業が工場（こうば）を開放し、見学できるイベント「燕三条 工場の祭典」を開く。祭典は産業観光の目玉であるだけでなく、企業間の取引につながっている。地域課題の人材、後継者不足に対し、地元企業の就職に結びつく一定の効果も挙げている。参加企業は年々増え、対象地域も拡大、農業や、購入できる場にも焦点を当てるなど取り組みは広がっている。

えがおつなげて

賞 第9回選考委員長賞 NPO法人
〒408-0313 山梨県北杜市白州町横手 2910-2
HP f

企業と連携し耕作放棄地を農地再生、人材も育成



2001年に設立、不動産や食品などの大企業と連携して農地を開墾、再生し、農作物を栽培して収穫する「企業ファーム」に取り組む。企業は社員研修や社内食堂の食材としての活用、顧客の体験ツアー、商品開発などの場として活用している。地元の蔵元で日本酒を醸造する取り組みも。都市と農村を結ぶ事業モデルを全国へ広げるため、交流をコーディネートできる人材を育成する研修会を各地で開いている。

2001年に設立、不動産や食品などの大企業と連携して農地を開墾、再生し、農作物を栽培して収穫する「企業ファーム」に取り組む。企業は社員研修や社内食堂の食材としての活用、顧客の体験ツアー、商品開発などの場として活用している。地元の蔵元で日本酒を醸造する取り組みも。都市と農村を結ぶ事業モデルを全国へ広げるため、交流をコーディネートできる人材を育成する研修会を各地で開いている。

ひばりが丘高校うどん部

賞 第7回ブロック賞（関東・甲信越）
〒403-0032 山梨県富士吉田市上吉田東 4-3-1
HP

「吉田のうどん」の食文化情報を発信



機織りを担う女性に代わり、力の強い男性が打ったため硬い麺になったとされる山梨県富士吉田市の「吉田のうどん」。市内に50店以上ある食文化をフリーペーパーやホームページを通じて発信。県内外のイベントに出店し、自分たちが商品化した麺を販売、振る舞うなどしている。地域の店舗を借りてうどんを提供することも。人材を育むため、うどん打ち体験講座も開く。そんな「うどん部の野望」は知名度で讃岐うどんを追い抜くこと。月額制のサブスクリプションサービスや、子ども食堂運営にも取り組んでいる。

機織りを担う女性に代わり、力の強い男性が打ったため硬い麺になったとされる山梨県富士吉田市の「吉田のうどん」。市内に50店以上ある食文化をフリーペーパーやホームページを通じて発信。県内外のイベントに出店し、自分たちが商品化した麺を販売、振る舞うなどしている。地域の店舗を借りてうどんを提供することも。人材を育むため、うどん打ち体験講座も開く。そんな「うどん部の野望」は知名度で讃岐うどんを追い抜くこと。月額制のサブスクリプションサービスや、子ども食堂運営にも取り組んでいる。

かつめま朝市会

賞 第6回優秀賞
〒409-1315 山梨県甲州市勝沼町等々力 2328-8
HP

毎月の朝市を10年余り続け地域に活気呼ぶ



毎月最初の日曜日、山梨県甲州市塩山の公園は、お祭りのようににぎわいを見せる。「かつめま朝市」は10年以上前、地元

の男性らが3店舗だけの小さな市を開いたのが始まりだ。市町村合併や人口減少、高齢化が進む中、「顔が見える」地域の関係がなくなる前に、人々が集う場所づくりを目指す。野菜や花、クッキーにおもちゃ、包丁研ぎに楽器演奏。敷居が低く「何でもあり」の空間は、単なるモノのやりとりで終わらず、弾む会話が人と人をつなぎ、地域に元気を与えている。

山梨ガバメント協会

賞 第3回優秀賞 NPO法人
〒405-0018 山梨市上神内川 1259-2
f

都市住民を招いて山梨アピール、2地域居住へ



秩父多摩甲斐国立公園もある山梨県で2地域居住による田舎暮らしやU、Iターンの促進に取り組む。メンバーは観光ブドウ園経営者や果樹の専業農家、学生ら約30人。都会の人たちが参加する「田舎暮らしちょこっと体験ツアー」では農作業の手伝いのほか、地元の人や移住者から話を聞く場も設けている。農業に関わる女性のコンテストなども開催。シェアオフィスの運営も行っている。最近はキャンプをテーマにしたアニメ「ゆるキャン△」のブームに合わせた企画、イベントにも力を入れる。

秩父多摩甲斐国立公園もある山梨県で2地域居住による田舎暮らしやU、Iターンの促進に取り組む。メンバーは観光ブドウ園経営者や果樹の専業農家、学生ら約30人。都会の人たちが参加する「田舎暮らしちょこっと体験ツアー」では農作業の手伝いのほか、地元の人や移住者から話を聞く場も設けている。農業に関わる女性のコンテストなども開催。シェアオフィスの運営も行っている。最近はキャンプをテーマにしたアニメ「ゆるキャン△」のブームに合わせた企画、イベントにも力を入れる。

グレイス・ロード

賞 第10回優秀賞 一般社団法人
〒400-0857 甲府市幸町 9-23 山梨回復支援センタービル2階
HP f

ギャンブル依存回復を目指す人々が地域活動参加



ギャンブル依存回復支援施設の入所者が、回復プログラムに取り組む傍ら、自治会の祭りや運動会、清掃など地域活動に参加している。高齢化で人口減が進む地域にとって、入所者は活力をもたらす存在になっている。国内でのカジノ解禁の動きの中、回復支援施設の必要性が高まっているが、こうした取り組みは「山梨モデル」として注目を集めている。2020年7月からはネットゲーム依存症の支援を開始。働きながら参加できる夜間プログラムも始めた。

ギャンブル依存回復支援施設の入所者が、回復プログラムに取り組む傍ら、自治会の祭りや運動会、清掃など地域活動に参加している。高齢化で人口減が進む地域にとって、入所者は活力をもたらす存在になっている。国内でのカジノ解禁の動きの中、回復支援施設の必要性が高まっているが、こうした取り組みは「山梨モデル」として注目を集めている。2020年7月からはネットゲーム依存症の支援を開始。働きながら参加できる夜間プログラムも始めた。

ワインツーリズム

賞 第8回特別賞 一般社団法人
〒400-0031 甲府市丸の内 1-16-13 ヤマサビル1F
HP f

地場産業を地域体験コンテンツに「ワインツーリズム®」



紅葉したブドウ畑が広がる風景に点在するワイナリーを巡り、育んだ風土に触れながら食と文化を丸ごと味わう「ワインツーリズム」。勝沼をはじめワイナリーのある地域を回るバスを走らせ、参加者が作り手との交流を楽しむイベントの定着は、地元では当たり前だと思っていた環境を貴重な地域資源として見直すことにつながり、ワイナリー側の意識も変え、産地全体でもてなす機運を醸成した。活動範囲は山形、岩手にも拡大。コロナ禍ではネット動画サイトも使い、ツーリズムの魅力伝えた。

紅葉したブドウ畑が広がる風景に点在するワイナリーを巡り、育んだ風土に触れながら食と文化を丸ごと味わう「ワインツーリズム」。勝沼をはじめワイナリーのある地域を回るバスを走らせ、参加者が作り手との交流を楽しむイベントの定着は、地元では当たり前だと思っていた環境を貴重な地域資源として見直すことにつながり、ワイナリー側の意識も変え、産地全体でもてなす機運を醸成した。活動範囲は山形、岩手にも拡大。コロナ禍ではネット動画サイトも使い、ツーリズムの魅力伝えた。

大賞・準大賞
選考の決め手

第1回（2010年度）

大賞「グラウンドワーク三島」（静岡県三島市）は水辺環境の再生を目指すNPO法人で「日本のナショナルトラストの先駆け」と高い評価を集めた。準大賞「県立柏原病院の小児科を守る会」（兵庫県丹波市）は、医師と患者との理解を深める地道な活動による地域医療への貢献が認められた。準大賞「倉敷町家トラスト」（岡山県倉敷市）は伝統の町家を中心にしたまちづくりが優れているとの声が高かった。



身延町商工会

賞 第5回優秀賞
〒409-2531 山梨県身延町梅平 2483-36
HP

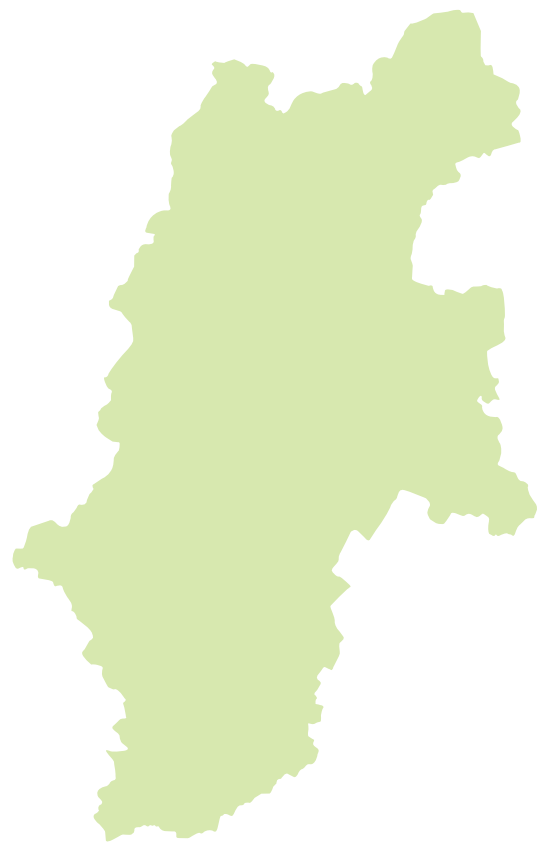
名所ぞろいの地の食材使い「身延どんぶり街道」



日蓮宗総本山の身延山久遠寺や下部温泉、世界文化遺産富士山の構成資産の本栖湖など、名所が多い地域で、特産品を使い「身延どんぶり街道」を展開する。最近はキャンプをテーマにしたアニメ「ゆるキャン△」の「聖地巡礼」でも人気だ。湯葉、シイタケ、大豆、ワカサギなど地元になんだ井、さらに定番の井ものを和洋中の十数店が提供、食を通じた活性化を図る。2019年秋からはアニメの再現メニューや、コースター配布などの企画も。

日蓮宗総本山の身延山久遠寺や下部温泉、世界文化遺産富士山の構成資産の本栖湖など、名所が多い地域で、特産品を使い「身延どんぶり街道」を展開する。最近はキャンプをテーマにしたアニメ「ゆるキャン△」の「聖地巡礼」でも人気だ。湯葉、シイタケ、大豆、ワカサギなど地元になんだ井、さらに定番の井ものを和洋中の十数店が提供、食を通じた活性化を図る。2019年秋からはアニメの再現メニューや、コースター配布などの企画も。

長野



- 妻籠を愛する会
- 大鹿歌舞伎保存会
- 匠の町しもすわ・あきないプロジェクト
- 庄内ほたと水辺の会
- いいだ人形劇フェスタ実行委員会
- 信州富士見高原ファーム
- WAKUWAKU やまのうち
- 小滝プラス
- 長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合

いいだ人形劇フェスタ実行委員会

賞 第6回ブロック賞（関東・甲信越）

〒395-0051 長野県飯田市高羽町 5-5-1 飯田文化会館内



国内最大規模の人形劇の祭典を企画・運営



長野県飯田市を主会場に開く国内最大規模の人形劇の祭典。1979年に前身の「人形劇カーニバル飯田」がスタートし、

99年に現在の形になった。海外からも劇人が集い、準備段階から開催期間中まで市民が運営に携わる。幼児によるウインドー人形劇や、中高生らのボランティア参加もある。人形劇のワークショップ、バックステージ見学を通じた演者と観客の交流や、障害者や高齢者が安心して観劇できるよう取り組みを広げる。リニア中央新幹線開業も見据え、飯田発の文化の核として期待が大きい。

匠の町しもすわ・あきないプロジェクト

賞 第3回ブロック賞（関東・甲信越） NPO法人

〒393-0061 長野県下諏訪町御田町下 3209-1



商店街空き店舗に職人の工房を誘致、起業も支援



約30店が並ぶ商店街で、ものづくりに携わる若者を呼び込み、空き店舗で起業してもらおうと取り組む。約20年間に延べ

30店以上が開業、空き店舗はなくなった。商店のおかみさんらが、おかずを差し入れたり、おせっかいを焼く細かな配慮が魅力。こだわり素材の高級スピーカーや木製自転車などユニークな店が集まる。第2世代、第3世代、さらにそれ以上の3.5世代が登場。ゲストハウス、コミュニティスペース開設など新しい動きをするグループがフラットにつながる。

信州富士見高原ファーム

賞 第7回優秀賞

〒399-0101 長野県富士見町境 7823-3



ニホンジカやイノシシを駆除し、ジビエとして販売



農作物を食べて農家に多額の被害をもたらす八ヶ岳連峰のニホンジカやイノシシを駆除し、ジビエとして販売している。農林水産省の国産ジビエ認証を取得。料理講座や解体講習のほか、調理学校の生徒への講習も。小売店や都内の複数のフランス料理店にも卸し、ネット販売も手掛けている。ジビエを大切な資源と捉え、皮革も装飾品などに活用。肉の無駄を無くすため、山中で冷凍処理可能な車両の開発にも参画して普及を図る。ロッテリアなど外食チェーンへの供給も。こうした活動にひかれ、地元猟友会に入る若者も増えている。

庄内ほたと水辺の会

賞 第4回優秀賞

〒390-0311 長野県松本市水汲 25-6



豊かな自然の蛍水路の管理と市民の輪



都市開発に伴い消失するはずのヘイケボタルを生息環境丸ごと、新たな水路予定地に移設保全させた。「ホタルもすめる良い自然」を目指し、豊かな自然が残るよう配慮した水路管理を実施。その後「松本市の生物多様性保全活動のモデル地区」に認定され、学習の場としても高く評価される。良い自然を残すため、蛍水路管理だけでなく、蛍の学習会や観察会の他、近隣河川や野山でも生き物観察会などを実施し、市民、特に未来を見据えて子どもたちへの教育活動にも力を入れている。

大鹿歌舞伎保存会

賞 第2回優秀賞

〒399-3502 長野県大鹿村大河原 391-2 大鹿村教育委員会



300年の伝統ある地芝居で地域振興、映画にも



300年の伝統と独特の演目があり、2017年に国の重要無形民俗文化財に指定された「大鹿歌舞伎」の保存、継承を担

う。活動の柱は子どもたちへの伝承と春と秋の定期公演だ。地元の中学校では授業の一環として取り組んでいる。1回の公演で千人以上が訪れる。俳優・原田芳雄さんの遺作映画「大鹿村騒動記」に全面協力、エキストラとして850人の住民が出演した。全国に村の魅力が発信された。

妻籠を愛する会

賞 第1回優秀賞

公益財団法人

〒399-5302 長野県南木曾町吾妻 2159-2



住民主体で中山道宿場町の歴史的景観を保全

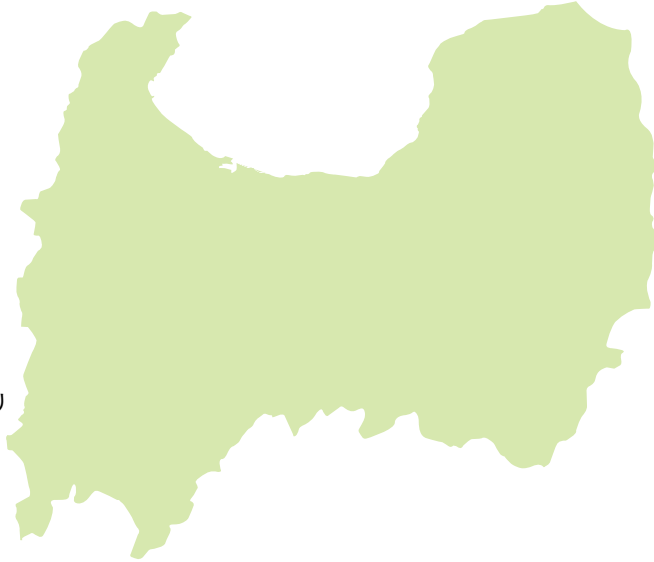


旧中山道の宿場、妻籠宿がある地区の住民でつくる財団法人。景観保全と地域振興に取り組もうと約230戸の全世帯

が加入、2017年に設立50年を祝った。地区内の財産を「売らない、貸さない、こわさない」の3原則を盛り込んだ住民憲章を制定。江戸時代を再現する行列のほか、冬には住民の勉強会を開催、有識者を呼び文化財や集落保存の在り方など幅広い分野を学ぶ。街道の植栽や花木の手入れ、説明板の設置にも取り組む。欧米の訪問客からは「タイムスリップしたようで、日本らしい日本を体験できる」と人気だ。

富山

- 瑞龍寺ライトアップ実行委員会
- スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会
- 福岡町つくりもんまつり実行委員会
- 福野夜高祭連絡協議会
- でんき宇奈月
- 魚津祭組 よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり
- こば
- TOGA天空トレイル大会実行委員会
- ふるさと体験 in みやざき実行委員会
- 金屋町元気プロジェクト



スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会

賞 第2回優秀賞
〒939-1576 富山県南砺市やかた 100 南砺市福野文化創造センターヘリオス内
HP

地方から世界に発信する大規模音楽イベント開催



毎年8月、南砺市で開かれる日本最大規模のワールド・ミュージック・フェスティバル。3日間で1万人が来場する。坂本九さんが歌った「上を向いて歩こう」の英語タイトルにちなみ、新たな文化を世界に発信しようとの思いを込めた。ボランティアスタッフが企画、運営を担当、アーティストは子どもたちの指導にも当たる。市民参加のパレードも盛り上がる。東京、名古屋、沖縄でもイベントを開催してきた。第30回はコロナ禍で2021年に持ち越しになり、CDやオリジナルグッズが付いた応援チケットなどを先行販売。

瑞龍寺ライトアップ実行委員会

賞 第1回優秀賞
〒933-0806 富山県高岡市赤祖父 598 協和総商内
HP

国宝の寺院をライトアップ、観光イベントを開催



4月末に国宝瑞龍寺をライトアップし、地元産品を売り出す門前市を開く。3日間で1万5000人が訪れる。市内で5月1日に開かれ、多くの人でにぎわう高岡御車山祭との相乗効果も狙っている。地元の青年会議所と企業が企画したのが始まり。LED照明を用い、音楽に合わせて壁に動画を映し出すプロジェクションマッピングが人気で規模を拡大。写真展や絵画展も実施している。夏には別の団体によるライトアップもあり、観光客だけでなく、住民が地域の歴史や文化を再認識するきっかけになっている。

長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合

賞 第10回優秀賞
〒391-0001 長野県茅野市ちの 7017

機械式時計技術者に独自資格、高級腕時計も発売



長野県の伝統、精密機械産業の象徴とも言える時計産業では、クォーツ式の普及に伴い機械式を修理できる技術者が減少した。これに危機感を持ち2004年、独自資格「信州匠の時計修理士」を創設した。毎年、検定を行い、知識や技能の習得に役立つ講座も開設。全国の若手技術者が集まる場となっており、最近では移住外国人の姿も見られるようになった。オリジナルの高級腕時計を発売し、時計産業のPRやブランド力向上に寄与している。

長野県の伝統、精密機械産業の象徴とも言える時計産業では、クォーツ式の普及に伴い機械式を修理できる技術者が減少した。

大賞・準大賞
選考の決め手

第2回(2011年度)

大賞「ブルーリバー」(広島県三次市)は、行政や企業に頼らず住民が出資や計画をまとめ、若者に割安な賃貸住宅を提供するなどユニークな事業を展開。準大賞「定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会」(現協会、仙台市)は市民ボランティアが中心となって、誰もが参加できる音楽祭を実現した。準大賞「大宮産業」(高知県四万十市)は山間地の集落が自ら買い物の拠点を守る取り組みが評価された。



WAKUWAKU やまのうち

賞 第8回優秀賞
株式会社
〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町平穏 2997-4
HP

温泉の空き店舗を再生しレストランやカフェ運営



信州・湯田中温泉の空き店舗を再生し、ビアバー・レストラン、カフェ、ホステルを運営するまちづくり会社。地元住民を主体に設立、関連の不動産会社がファンドの投融資を受けて建物の所有・賃借、改修に取り組む。施設はほかの企業にもサブリース(転貸)するビジネスモデルを確立。既存の観光資源を生かしつつ、外国人を含む誘客を見据え、温泉街に欠けていた魅力を創出。若者を積極的に取り込み、地域の担い手を育てている。松本の浅間温泉の活性化にも取り組む。

小滝プラス

賞 第9回優秀賞
合同会社
〒389-2703 長野県栄村堺 6114-1
HP

特産米をボトルに詰めブランド化、被災集落を再建へ



2011年、東日本大震災翌日に起きた長野県北部地震で、栄村は全半壊202棟の被害を受け、村の存続すら危ぶまれた。再生を目指し、千曲川沿いの小滝地区で集落の全戸が出資して立ち上げた合同会社だ。特産「小滝米」のブランド化を目指し、東京・銀座の高級子ども服店「ギンザのサエグサ」と連携、ワインボトル入りの米を販売する。古民家で地区外の人々と交流したり、SNSで情報発信も。最近では林を整備しながらヤマツツジを植栽するなど「誰もがいいな、と思える里山づくり」に取り組んでいる。

ふるさと体験 in みやざき実行委員会

賞 第9回優秀賞

〒939-0703 富山県朝日町宮崎 1234



小中学生の漁業などの体験旅行を柱に各地と交流



人口減少と高齢化が進む漁村で、ありのままの「暮らし」を県内外の子どもたちや観光客が体験する交流体験を受け入れて

いる。初めはボランティアとしての活動だったが、体験メニューの企画を増やしながらツアー商品化も行い、リピーター増につなげている。体験交流を6次産業として楽しみながら、住民自身が「地域の宝」を見直し、ファンづくりにつなげる好循環が生まれた。コロナ禍では富山県内のホテルと協力、釣りや魚をさばく体験を企画している。

こば

賞 第7回優秀賞

NPO 法人

〒939-2232 富山市小羽 279



閉校した小学校の空き校舎を住民主体で維持管理



児童数減少を理由に閉校した旧富山市小羽小学校の空き校舎を維持管理する住民主体の団体。趣ある木造校舎で自然体験イ

ベントやカフェ、カルチャー教室など多彩な企画を繰り広げている。ノウハウを東日本大震災で被災し、人口減少のため閉校した宮城県気仙沼市にある旧小学校舎の活用を目指す住民グループにも提供。健康麻雀などによる高齢者の予防介護、不登校生との居場所や音楽スペースづくりなどの新たな取り組みにも関わっている。

でんき宇奈月

(受賞当時：でんき宇奈月プロジェクト)

賞 第5回ブロック賞(東海・北陸) 一般社団法人

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 633-1



電気バス、小電力発電、バイオマスを観光に活用



北陸有数の温泉地、宇奈月温泉を、スイスの観光地ツェルマツをモデルとして環境に配慮したリゾートにしようと産学官が結

成した。2013年から本格運行している10人乗り電気バス「EMU」は定期的に温泉街を周回運転する。ルート内は乗り降り自由で無料。小水力発電を行い電気バスの充電に利用。山林の間伐材、黒部川の流木を木質バイオマスとして熱利用するなど、エネルギーの地産地消も目指す。

福岡町つくりもんまつり実行委員会

賞 第3回優秀賞

〒939-0132 富山県高岡市福岡町大滝 12 高岡市産業建設課内



野菜でつくった人形を飾る伝統の祭りを守る



毎年9月の2日間、秋の収穫を祝い、五穀豊穡に感謝する「福岡町つくりもんまつり」は300年余りの歴史を持つ。収穫

したカボチャや瓜などの野菜や果物を使って「つくりもん」と呼ばれる人形を作り、各所に飾る。動物や人物、風景などだけでなく、その時代の出来事を反映した飾りがお目見えし、毎年10万人以上が訪れる。実行委員会は市や観光協会、地域の自治会などで組織され、つくりもんを審査するコンクールが毎年、開催されている。

金屋町元気プロジェクト

賞 第10回優秀賞

NPO法人

〒933-0841 富山県高岡市金屋町 1-5 高岡市鑄物資料館



石畳、町家の地区への定住支援、移住体験施設も



石畳の通りに千本格子の町家が並ぶ高岡市金屋町。2012年に国重要伝統的建造物群保存地区に選定されたが、近年は人

口が減っている中、町に人を呼び戻すべく住民が主体となって設立した。定住希望者の情報を共有・支援するとともに、町の魅力や空き家情報をSNS等で発信している。18年5月には、空き家を移住体験施設に改装した。外国人を集めた意見交換会を企画するなど、インバウンド需要にも対応している。

TOGA天空トレイル大会実行委員会

賞 第8回優秀賞

〒939-2507 富山県南砺市利賀村 178-1 (株)野原組内



廃止スキー場に代わる振興策に山野駆けるイベント



廃止されたスキー場に代わる過疎振興策として、山野を駆けるトレイルランを開いている。多くの住民が沿道で声援を

送ったり、休憩場所で郷土料理を提供したりする地域ぐるみのもてなしが評判を呼んでいる。2017年に大規模な地滑りがあり、開催が危ぶまれたもののコースの安全性を高めるなどの工夫をして実施、過去最高の出場者を呼び込み、住民の励みとなった。以来、毎回850人以上が出走する国内有数の大会に育っている。

魚津祭組 よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり

(受賞当時：よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり実行委員会)

賞 第6回優秀賞

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂 1-12-18 魚津商工会議所内



ダンスやグルメの祭りを開き活性化を目指す



魚津商工会議所青年部、新川青年会議所など魚津市内の青年有志でつくる団体で、毎年5月に「よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり」を開催している。魚津駅前通りを会場に、

地元伝統の踊りを現代風にアレンジしたダンスのコンテストを繰り広げる。活力がみなぎる新しいイベントを生み出し、地域活性化につなげようと2013年にスタートさせた。大勢の観客が訪れ、認知度は高まっている。

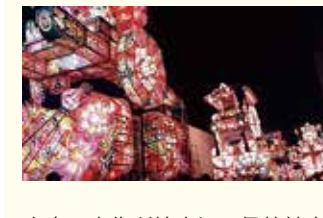
福野夜高祭連絡協議会

賞 第4回優秀賞

〒939-1507 富山県南砺市二日町 1545-13 福野中部交流センター内



360年続く祭りを守り、被災地や海外でも活動



毎年春、南砺市福野でまちの繁栄と安寧を祈って開催される神事、福野夜高祭を守る。1652年に

大火で市街が焼失し、伊勢神宮の御分霊を守り神にお迎えした際、多くの手持ち行燈や松明で出迎えたことが由来とされる。優雅な夜高行燈の練り回しは360年にわたって伝承され、県の無形民俗文化財になった。2011年にはフランスに招かれ披露、東日本大震災後は福島県南相馬市で支援活動をした。日本ユネスコ協会の「プロジェクト未来遺産」に選ばれている。

大野こまちなみ研究所

賞 第5回優秀賞

〒920-0331 金沢市大野町 1-53 直源醤油株式会社



しょうゆ蔵や町屋を生かしたイベントを企画



北前船としょうゆ醸造で栄えた歴史ある港町ににぎわいを取り戻そうと、20～50代の写真家、工芸家、デザイナー、

農家らが集まり、築100年の町家を拠点に活動している。しょうゆ蔵や町屋を生かした年2回のイベント「こまちなみナート」では陶芸、ガラス工芸、木工などの体験ができる。まちぐるみで朝顔と絆を育てる「明後日朝顔プロジェクト」も実施。整備が進むレンタサイクルを利用したイベントづくりに今後取り組む。地域資産の魅力再発見と担い手育成を目指す。

春蘭の里実行委員会

賞 第3回ブロック賞（東海・北陸）

〒927-0322 石川県能登町宮地 16-9



山村生活を体験する農家民宿運営、内外客に人気

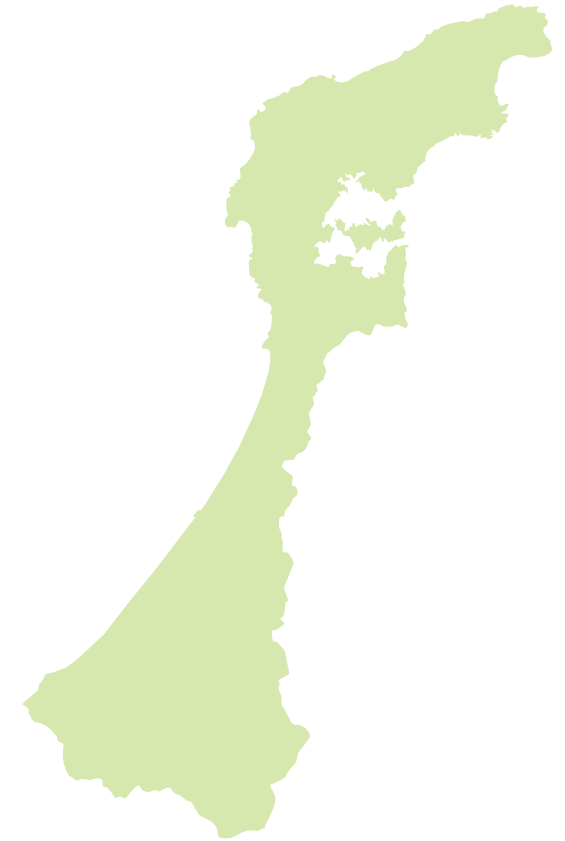


若者が減る現状を打破しようと、7人のメンバーでスタート。民宿事業を柱に据え、輪島塗のお膳を使うことや、料理

に化学調味料を使わず地元の食材を生かすことなどを申し合わせた。ゆったりとくつろげる雰囲気が、内外から人を引きつける。廃校を改装した宿泊施設もオープン、宿泊客は海外からも訪れるようになり年間で1万人を超えた。行政の諸制度も活用、事業を軌道に乗せて若者が働けるようにし「月収40万円」「赤ちゃんの音が響く地区」にすることが目標だ。

石川

- かなざわ・まち博開催委員会
- JAPAN TENT 開催委員会
- 春蘭の里実行委員会
- 神子の里
- 大野こまちなみ研究所
- 湯涌ぼんぼり祭り実行委員会
- シラミネ大学
- のとじま島おこし団
- 七尾市たかしな地区活性化協議会



大賞・準大賞
選考の決め手

第3回（2012年度）

大賞「島の風」（沖縄県伊是名村）は古民家を改装した宿泊施設で、島のもてなしを提供。地元産品販売も手掛け、自立経営を目指す姿が評価された。準大賞「山形国際ドキュメンタリー映画祭」（山形市）は、ドキュメンタリーという専門性の高い分野に地道に取り組み、海外評価も高い映画祭に育てたことが認められた。準大賞「京町家再生研究会」（京都市）は町家再生を通じた文化保全活動が支持された。



神子の里

賞 第4回優秀賞

株式会社

〒925-0608 石川県羽咋市神子原町は 190



ローマ教皇に献上したコシヒカリを軸に農業再建



石川と富山の県境近くにある羽咋市神子原地区には100畝の棚田が広がる。雪解け水で育ったコシヒカリ「神子原米」はもちもち感があり、冷めてもおいしいと評判だ。ブランド化を目指し、ローマ教皇に献上したところ、注目を浴びた。住民約130人が出資して農業法人・株式会社を設立。神子原米は地区内にある直売所やネット販売で400俵ほどが毎年完売している。野菜なども直売所で扱い、農家の生産意欲が高まった。クラウドファンディングを利用、酒造りにも取り組む。

外国人留学生約300人が集い、一般家庭にホームステイしながら輪島塗や九谷焼、茶道、座禅など地域に根付く文化を体験する。2019年で32回となった。受け入れ留学生は世界168の国と地域から1万人を超えた。留学生によるトークフォーラムも開催され、一部の学生は「JAPAN TENT 大使」となり、交流が続いている。

JAPAN TENT 開催委員会

賞 第2回優秀賞

〒920-0961 金沢市香林坊 1丁目2番24号 香林坊プラザ6階



留学生を受け入れ、伝統文化に触れる機会を提供



毎年8月、石川県内の全市町を会場に留学生を招いて「JAPAN TENT」を開催している。国内各地で留学生を送る

外国人留学生約300人が集い、一般家庭にホームステイしながら輪島塗や九谷焼、茶道、座禅など地域に根付く文化を体験する。2019年で32回となった。受け入れ留学生は世界168の国と地域から1万人を超えた。留学生によるトークフォーラムも開催され、一部の学生は「JAPAN TENT 大使」となり、交流が続いている。

かなざわ・まち博開催委員会

（受賞当時：かなざわ・まち博実行委員会）

賞 第1回優秀賞

〒920-0919 金沢市南町 2-1



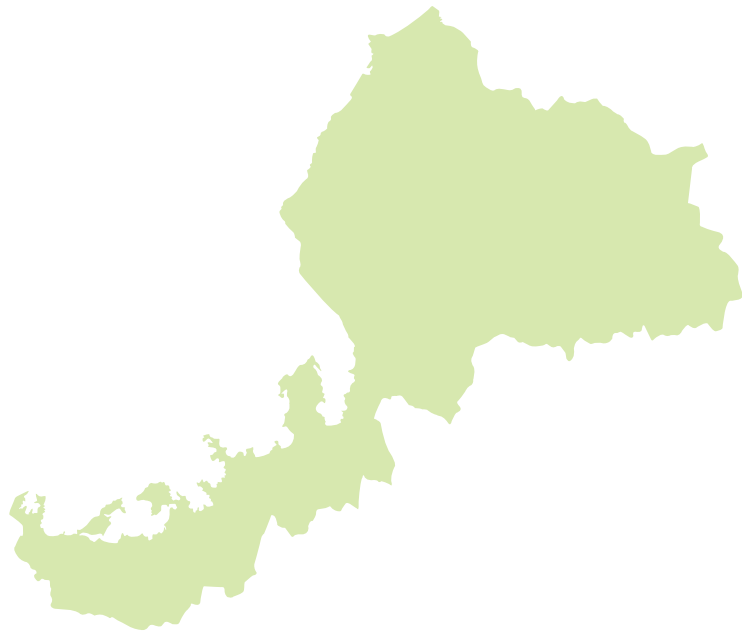
各地区を博覧会場に見立て、文化・歴史イベント



毎年夏、金沢の各地区を博覧会場に見立て、魅力を紹介するかなざわ・まち博を開催する。会場を巡る「金沢散歩学」で

は歴史や伝統文化などを体感できる。非公開の名所旧跡や歴史的建造物などを見ることができる「限定公開」は、尾山神社の神門や成巽閣のお茶席などが対象。大学研究者のほか、老舗の店主らが講師になる「屋台大学」も人気だ。講座など事前申し込みが必要なものもある。子ども向けの体験講座「こどもまち博」の充実を図る。コロナ禍ではオンライン講座も開催、自宅からも参加できるよう工夫した。

福井



- 三国湊魅力づくりPJ
- 水辺と生き物を守る農家と市民の会
- 若狭熊川宿まちづくり特別委員会
- 丸岡文化財団
- 武生国際音楽祭推進会議
- 学生との連携によるうしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」
- 小原ECOプロジェクト
- 鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会
- たがらす我袖倶楽部
- ふるさと福井サポートセンター

水辺と生き物を守る農家と市民の会

賞 第2回特別賞
〒915-1204 福井県越前市都辺町 36-84 しらやまいこ館内
HP f

アベサンショウウオやコウノトリがすむ生態系を守る



豊かな里山に囲まれた越前市の白山・坂口地区で、アベサンショウウオなど希少生物が生息する環境を守ろうと、農家や住

民、行政や企業関係者など約60人が参加している。自然環境整備に加えて無農薬栽培や魚道の設置などの成果が表れ、複数年にわたりコウノトリが産卵、2020年には巣立ちを迎えた。地区外の住民と田んぼファンクラブを結成し、無農薬のコメづくり体験を通して環境保全の必要性を知ってもらい、農家と交流を深める機会もつづけている。

三国湊魅力づくりPJ

賞 第1回優秀賞 NPO法人
〒913-0062 福井県坂井市三国町陣ヶ岡 26-10-27
HP

北前船の里で食と環境を融合させた活動を展開



北前船の寄港地として繁栄した歴史、文化や東尋坊に代表される美しい海岸線、丘陵地での有機農業や海の恵みなど豊富な

地域資源を生かす地域づくり活動の中で、特に森の環境保全、森の学習を通じて子どもたちを育成する分野を担っている。街中の活性化を担うため2012年に発足した一般社団法人「三国会所」と役割を分担しながら地域貢献に取り組む。

のとしま島おこし団

(受賞当時：能登島観光協会青年部)

賞 第9回優秀賞
〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町 118-1-1 島宿せがわ内
HP f

ユニークな体験旅行「島流し」で能登島PR



能登半島の東に浮かぶ能登島の青年らが結成。江戸時代の流刑地だった歴史を逆に島の暮らしを都市の人々が体験する

「島流しツアー」を四半期に1度実施したところ、大勢の人が訪れた。祭礼や農作業に加わり、新鮮な魚介を味わいながら能登の人情に触れるツアーはリピーターを生み、移住者を呼び込むなど成果を挙げている。コロナ禍の2020年には「オンライン島流し」としてホタテ、ネギ、味噌などの食材を発送し、オンラインで料理をレクチャーして楽しんだり、伝統の雨乞い太鼓のたたき方を教えたりする企画を開催。

湯涌ぼんぼり祭り実行委員会

賞 第7回優秀賞
〒920-1123 金沢市湯涌町イ1番地
HP

地元の住民や行政、企業がアニメの聖地でイベント



「金沢の奥座敷」湯涌温泉がモデルのアニメの一場面を再現しようと、2011年に祭りを開催、全国のコアなファンを

引き寄せた。「アニメの聖地」イベントは住民や行政、企業が一体となった地域の祭礼へと発展。アニメ放映終了後も参加数は増え続け、歴史ある温泉街に新風を吹き込む。イベントを手伝った若者が、その後も温泉街活性化の助っ人になるなど人の輪も広がっている。今後一層、参加者とのつながりを重視、歌と踊りを開発し、参加体験を提供する。

七尾市たかしな地区活性化協議会

賞 第10回優秀賞
〒926-0836 石川県七尾市町屋町ホ部 55番地
HP f

習わしをまとめた「集落の教科書」で移住促進



人口減少に歯止めをかけようと2014年から空き家のデータベース化や移住者受け入れ、郷土料理の普及、廃校舎を利用したイベントなどを行ってきた。地元行事や風習をまとめて心のハードルを下げる「集落の教科書」も作製、移住者が増え始めている。コロナ禍ではたかしな地区独自の「緊急事態宣言」を発表、予防対策を呼び掛けた。地区内の企業が提供したマスクも配布。中止となった祭りに代わり、ドライブインシアターを開催するなど自由な発想で地域を元気にしている。

シラミネ大学

賞 第8回ブロック賞(東海・北陸)
〒920-2501 石川県白山市白峰口 104
f

Uターンの若者が生活文化を学び催しを自主企画



霊峰・白山の山懐に抱かれる白山市白峰地区(重要伝統的建造物群保存地区)にUターンした20~30代の若者十数

人が、古来の生活文化を学び、催しを自主企画、過疎の一途だった集落に活気をもたらしている。地区のPR動画作成や外国人モニターツアーなどを通して交流人口拡大に努め、2017年には白山開山1300年の節目に伝統の「かんこ踊り」を1300人で踊るイベントに尽力した。白峰林泊推進協議会の事務局も担い、民泊による旅行者誘致にも力を入れている。

たがらす我袖倶楽部

賞 第9回優秀賞

〒917-0101 福井県小浜市田島 90-3



伝統のすし販売、棚田のイベントで魅力発信



若狭湾を望む小さな漁村。少子高齢化が進む集落に活気を取り戻そうと、住民有志が立ち上がった。海に面した美しい棚田にキャンドル

を並べるイベントを展開するなど、手作りの多彩な企画を繰り広げている。また地域の伝統食材「サバのへしこなれずし」を伝えるとともに、まちづくりの活動費を捻出しようと、廃校校舎を活用した製造・販売事業に着手。全国発信とともに、自活した取り組みを実現している。

小原ECOプロジェクト

賞 第7回ブロック賞（東海・北陸）

〒911-0031 福井県勝山市長山町 2-2-21



集落維持を目指し、古民家修復やツアー企画を展開



福井県でも有数の豪雪地、勝山市北谷町。その中の集落の一つ、小原の人口はわずか1人。それでも都市部からの交流人

口は、年間1300人に上る。集落維持を目指し、古民家の修復や豊かな自然を活用したエコツアーを企画し、にぎわいをつくり出している。修復された家屋を拠点に、建築を学ぶ学生や環境保全に取り組む人々、ボランティアの外国人らが集う。2020年秋には若手芸術家とコラボレーション、地元で展示会を開いた。

ふるさと福井サポートセンター

賞 第10回大賞

NPO法人

〒919-1131 福井県美浜町木野 21-4-17



空き家活用に支援システム、希望者をマッチング



空き家対策に民間の視点でアプローチ。社会福祉協議会や学校などを巻き込んだ再生・マッチング戦略、活用の前提となる

実態調査などの支援システムを開発した。タブレット端末で空き家の状況をデータベース化できる「ふるさぽマップ」を自治体向けにリリース。住む人が消えてからの“川下”対策を前倒しし、将来の空き家の発生を見越した所有者の早期決断による“川上”対策を目指す。コロナ禍では動画サイトで地元の風景を紹介、空き家問題を語るオンラインサロンを設けた。LINE（ライン）を使った相談窓口のオンライン化も進めている。

鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会

賞 第8回優秀賞

〒916-0025 福井県鯖江市旭町 1 丁目 6-6 Hana 道場内



全国の大学生が鯖江の活性化策を提案



まちから活気が失われつつあった鯖江市。東京暮らしを経験し、課題はまちに対する若者の無関心にあると気付いた竹部美

樹さんが、全国の大学生が鯖江のまちを歩いて活性化のアイデアを競うコンテストを2008年から開催している。学生が本気でプランを作る様子に刺激を受け、地元の学生たちの意識は変化。行政、地域住民や高校生らを巻き込み、たくさんのプランを実現させている。13年目を迎えた今も、オンラインも活用しながら、地元学生が主体的に運営している。

武生国際音楽祭推進会議

賞 第5回優秀賞

〒915-0832 福井県越前市高瀬 2-3-3 越前市文化センター内3



ボランティアによる音楽祭を30年以上続ける



和紙、刃物、箆笥などの伝統工芸で知られる福井県越前市を舞台にボランティアの市民の手で毎年、音楽祭を開催している。

2020年で31回となり、来場者は毎回6千人。1週間前後の期間中、主会場の同市文化センターだけでなく、学校や寺社、カフェなど至るところで演奏会が開かれ、まち全体が音楽に染まる。演奏家と作曲家が長期間滞在することで市民を交えての交流や刺激も多い。また同時開催される演奏の指導や作曲のワークショップは若手音楽家にとって貴重な機会となっている。

学生との連携によるうるしの里活性化推進事業「河和田アートキャンプ」(受賞当時：うるしの里活性化推進事業実行委員会)

賞 第6回ブロック賞（東海・北陸）

〒916-1222 福井県鯖江市河和田町 15-12-1 cominka



学生が滞在しアート制作、住民と長い交流



2004年の福井豪雨で被害を受けた鯖江市河和田地区の復興支援のため翌年から京都の学生らを中心に始まった。

毎年100人以上が古民家に長期滞在し、廃材を利用したアートを制作展示。08年からは伝統産業、農業、林業など地区の課題を住民と考え作品に反映している。参加学生が地区に移住したり、町歩きイベントに深く関わったりするなど地区のにぎわい創出、活性化に貢献。20周年に向けてOB・OG主催の企画も立案中だ。

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

賞 第3回優秀賞

〒919-1532 福井県若狭町熊川 30-4-2 宿場館



宿場町の景観を保全、イベントや空き家の有効活用も



1996年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「熊川宿」の景観保全をはじめとするまちづくりに取り組む

地元住民の団体。江戸時代の面影を残す宿場の町並みを生かした「熊川いっぶく時代村」をはじめ、花いっぱい運動や七夕飾り、まちかど陶の灯り展、熊川宿のひな祭りなど多くのイベントとともに、町並み通信「鯖街道熊川宿」を定期発行している。「空き家の活用ガイド」「暮らしと出店のガイド」も作成、空き家の有効活動に取り組み、古民家を活用したカフェやショップ、忍者道場などがオープンし、にぎわいが創出されている。

丸岡文化財団

賞 第4回ブロック賞（東海・北陸） 公益財団法人

〒910-0298 福井県坂井市丸岡町霞町 3 丁目 10-1



一筆啓上賞を中心に手紙文化をまちづくりに活用



国の重要文化財・丸岡城を中心に歴史に育まれた福井県丸岡町（現坂井市）で、質の高い文化の創造とまちおこしを目的に、町文化振興事業団として発足した。日本一短い手紙コンクール「一筆啓上賞」を手掛ける。手紙は40字以内で「春夏秋冬」「先生」「母へ」などをテーマに国内外の幅広い年齢層から応募がある。世界で初という手紙だけを収集した「手紙の館」も建設し、手紙を通してまちの魅力を発信する。譲渡された大阪・道頓堀の劇場「中座」の破風などを活用し、児童による歌舞伎の上演も手掛ける。

鶏ちゃん合衆国

賞 第5回優秀賞

〒500-8361 岐阜市本荘西 3-180 酒井設計事務所内



古くからの郷土料理を掘り起こし、普及図る



鶏ちゃんは岐阜県の南飛騨、奥美濃地方で古くから食べられてきた。みそやしょうゆなどのたれに漬け込んだ鶏肉をキャベツ

と炒めるシンプルな料理で、地域や店、家庭によって味が異なる。扱う店やメーカーは「州」とされ、90以上。サポーターの「国民」は約千人だ。鶏ちゃんを楽しみながら、岐阜をPR。食べ比べや鶏ちゃんの歴史を学習する100人規模の交流会を年数回、開催している。鶏ちゃんがテレビや雑誌で紹介される機会が増加、東京などで料理講習会も開催している。

恵那市地域自治区会長会議

(受賞当時：恵那市地域自治区地域協議会連絡会議)

賞 第3回優秀賞

〒509-7203 岐阜県恵那市長島町正家 1-1-1 恵那市役所地域振興課

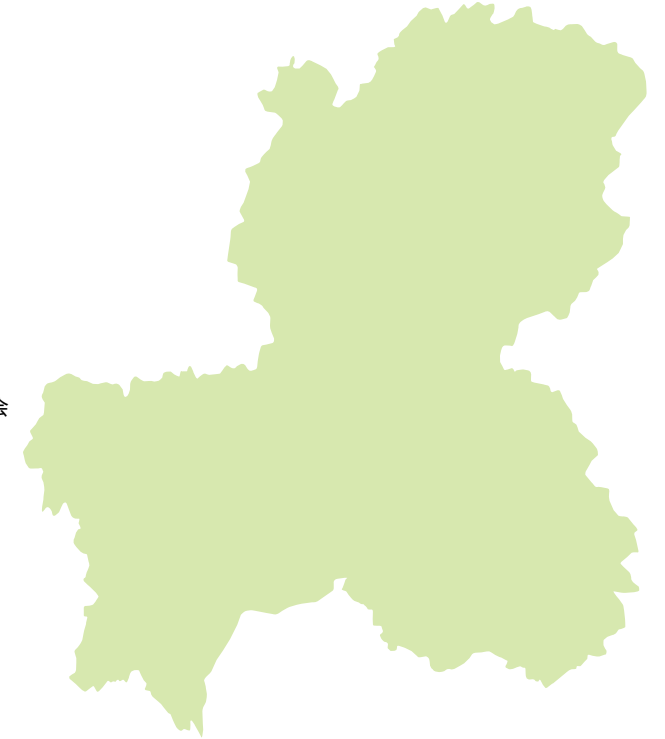
課題解決目指し、まちづくり活動の調整役を担う



13の地域自治区の会長が、人口減少対策や地域活性化に関する情報共有をする場。空き家対策や伝統文化の継承、地域の

パトロール、人材育成、高齢者支援などテーマは多岐にわたる。祭りや棚田の保存、特産品の売り込みなど独自の取り組みによって成果を出しているところが多く、成功例として参考にする。市町村合併を契機に、行政に地域の声が届かなくなる恐れがあるとして始めた。毎年1回、市長が地域に出向き、抱える課題について話し合いを行っている。

岐阜



- 飛騨小坂200滝
- ひとひとの会
- 恵那市地域自治区会長会議
- ジオスペースアドベンチャー実行委員会
- 鶏ちゃん合衆国
- 谷汲ゆり園
- 国田家の芝桜を愛する会
- 美濃歌舞伎保存会
- いき粋墨俣創生プロジェクト
- かさまつ MIRAI 塾

谷汲ゆり園

賞 第6回優秀賞

〒501-1312 岐阜県揖斐川町谷汲大洞長旗

住民が手づくりの公園を運営、観光地に発展



谷汲ゆり園は、地域活性化を願い、1996年のオープン以来20年間、山間地の振

興や雇用の創出を目指して頑張っている住民グループだ。年間の開園期間は6月初旬から7月中旬までの40日間程度だが、冬季の作業は大変な苦労があり、その成果によりきれいなゆりの花の園を鑑賞できる。その数は50種類30万球といわれ、ヒノキ林の中で木漏れ日を浴びながら観光客の目を楽しませている。進む過疎高齢化の中、住民は継続の道を模索している。

ジオスペースアドベンチャー実行委員会

賞 第4回優秀賞

〒506-1100 岐阜県飛騨市神岡町夕陽ヶ丘 6 番地



スーパーカミオデンテがある坑道をイベント活用



神岡鉱山茂住坑の地下千メートルで「GSA(ジオスペースアドベンチャー)」を開催、素粒子「ニュートリノ」観測で知ら

れる東大のスーパーカミオカンデを見ることができ、研究者の説明も受けられる。毎年7月開催で25回を超え、サイエンスファンら800人でにぎわう。採掘に使う大型重機も見学できる。住民もボランティアで手伝う。イベントにあわせ天文学や物理学のセミナーも開かれる。会場前の売店ではお土産に鉱石やグッズも売っている。

ひとひとの会

賞 第2回優秀賞

〒500-8876 岐阜市日ノ出町 1-14-1



イベント、ゆるキャラ、金の御朱印で繁華街再生



「柳ヶ瀬ブルース」で歌われた繁華街の再生に取り組む。「人で人を呼ぶ」がモットーで店主らがそれぞれのファンを増

やす必要があると考える。若者が生み出したゆるキャラ「やなな」は話題を集め、2013年の引退式では15万人が別れを惜しんだ。路上アーティストやご当地タレントが出演するイベントも開く。織田信長の岐阜入城450年を記念した「岐阜市信長公450プロジェクト」や、毎月最終金曜日に地元の寺社で「金の御朱印」を押してもらおう企画など、多彩な発想と行動力が売り物だ。

飛騨小坂200滝

賞 第1回優秀賞

NPO法人

〒509-3114 岐阜県下呂市小坂町赤沼田 811-1



多数の滝を資源としてガイド、初級から上級まで

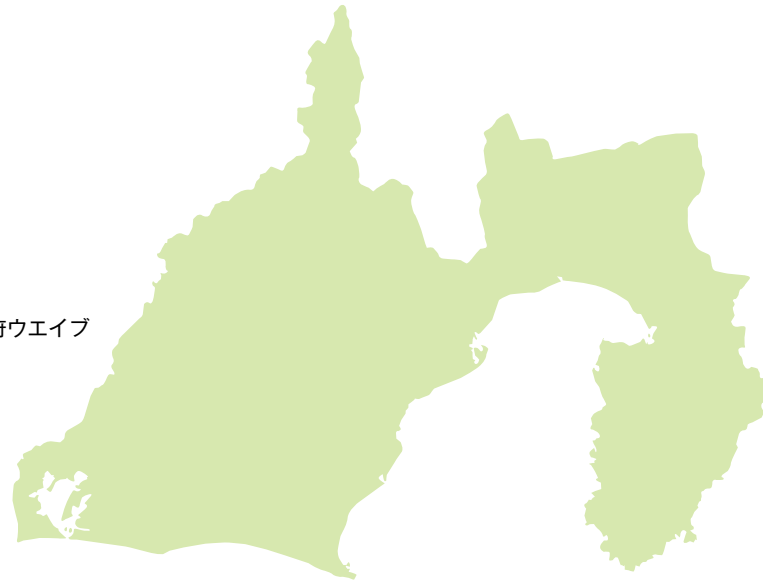


御嶽山麓の小坂町内にある多数の滝を観光資源とした「滝めぐり」を企画、運営している。100人以上いる会員の約4分

の1がガイドとなり、初級から上級までの14のコースを案内して人気を集め、年間約4万人が訪れている。春から秋にかけ、沢登りや里山歩きを幅広い世代が楽しんでいる。近くに日本三名泉に挙げられる下呂温泉があり、相乗効果も出ている。

静岡

- グラウンドワーク三島
- 夢未来くんま
- 焼津市山の手未来の会
- 静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウエイブ
- 静岡県立伊豆総合高校自然科学部
- 富士山御殿場かやの里企業組合
- 戸田塩の会
- 里山くらしLABO
- がんばらまいか佐久間
- machimori (マチモリ)



夢未来くんま

賞 第2回ブロック賞 (東海・北陸) NPO法人
〒431-3641 浜松市天竜区熊 1976-1
HP f

道の駅、弁当宅配など運営、500人集落に活気



人口500人強。全住民が参加し高齢化が進む地区に元気を与えようと取り組みが続く。水車小屋がシンボルの道の駅を拠点

とし、地元食材を使った農産加工品が好評だ。そばやみそなど商品の種類は50を超えるまでになった。一人暮らしの高齢者に弁当を届けるサービスや、介護認定を受けていない元気なお年寄りと交流する「生きがいデイサロンどっこいしょ」、子ども向けの体験教室などにも力を入れる。地域づくりに関心を持つ大学生らとの交流も広がってきた。

グラウンドワーク三島

賞 第1回大賞 NPO法人
〒411-0857 静岡県三島市芝本町 6-2
HP f

水辺自然環境の再生を目指し、市民団体が団結



市内を流れる川をきれいにしようと市民団体が合同で設立、行政との連絡・調整を進めるなどの役割を担い、活動を発展させた。参加は当初の8団体から約20団体に。川の自然を守るため周辺の土地を買い取るトラストにも成功した。清流を取り戻した川を巡るコース開設など経済効果も。まちづくりリーダーや起業家育成、遊休農地を利用した耕作支援や農産加工品の製造・販売にも取り組む。さらにネパールへのバイオトイレ設置や英国との交流など活動は国境を越えている。

市内を流れる川をきれいにしようと市民団体が合同で設立、行政との連絡・調整を進めるなどの役割を担い、活動を発展させた。参加は当初の8団体から約20団体に。川の自然を守るため周辺の土地を買い取るトラストにも成功した。清流を取り戻した川を巡るコース開設など経済効果も。まちづくりリーダーや起業家育成、遊休農地を利用した耕作支援や農産加工品の製造・販売にも取り組む。さらにネパールへのバイオトイレ設置や英国との交流など活動は国境を越えている。

いき粋墨俣創生プロジェクト

賞 第9回優秀賞
〒503-0102 岐阜県大垣市墨俣町墨俣 271
HP

古い町並みに手作り「つりびな」飾って活性化



宿場町の面影を残す大垣市墨俣町で、つりびな約200飾りを約30カ所に飾るイベント「つりびな小町めぐり」を開く。期間中は県内外から約1万7千人が来場し、他団体の協力も得てさまざまな催しも開催。2008年に設立され、現在は40～80代の女性28人で活動。年間を通して、つりびな作りや町内の「お休み処」の運営などに取り組んでいる。手作りの温かみあるつりびなと町並みの地域資源で交流人口増加につなげる。コロナ禍では「アマビエつりびな」も作った。

宿場町の面影を残す大垣市墨俣町で、つりびな約200飾りを約30カ所に飾るイベント「つりびな小町めぐり」を開く。期間中は県内外から約1万7千人が来場し、他団体の協力も得てさまざまな催しも開催。2008年に設立され、現在は40～80代の女性28人で活動。年間を通して、つりびな作りや町内の「お休み処」の運営などに取り組んでいる。手作りの温かみあるつりびなと町並みの地域資源で交流人口増加につなげる。コロナ禍では「アマビエつりびな」も作った。

かさまつ MIRAI 塾

賞 第10回優秀賞
〒501-6052 岐阜県笠松町下本町 87
f

40～80代が仕事の知識を基に最先端技術を提供



「笠松の未来に光を子どもたちに夢を」を理念に掲げ町民有志が2015年に結成、拠点となる町歴史未来館の活動を支援している。40～80代の会員約40人が所属し、仕事などで培った知識や技術を基に、最先端の科学技術について学び合い、同館などでの講座や体験教室を通して町民に学びの機会を提供している。同館の企画展にも協力するほか、町によるまちづくりの取り組みにも積極的に関わっている。

「笠松の未来に光を子どもたちに夢を」を理念に掲げ町民有志が2015年に結成、拠点となる町歴史未来館の活動を支援している。40～80代の会員約40人が所属し、仕事などで培った知識や技術を基に、最先端の科学技術について学び合い、同館などでの講座や体験教室を通して町民に学びの機会を提供している。同館の企画展にも協力するほか、町によるまちづくりの取り組みにも積極的に関わっている。

国田家の芝桜を愛する会

賞 第7回優秀賞
〒501-4304 岐阜県郡上市明宝奥住 2813

地元住民で花を守り、一大観光地に発展



国田家の芝桜は、毎年4月下旬から5月にかけて、ピンクの花が一面に咲き誇り、大勢の観光客の心を和ませている。も

もとは1人のおばあちゃん、国田かなさん60年前に自宅裏に花を植えたのがきっかけだった。かなさんが亡くなった後も、地元住民で花を守るため「国田家の芝桜を愛する会」を結成し、毎年草刈りや雑草取りをして景観整備に努めている。遊歩道や駐車場の確保、整備も実施、受け入れ態勢を整え、一大観光地に発展させた。温暖化でピークが早くなっているが、多くの人に見てもらえるよう努力している。

美濃歌舞伎保存会

賞 第8回優秀賞
〒509-6133 岐阜県瑞浪市明世町戸狩 331 ミュージアム中仙道内
HP f

芝居小屋を移築・復元、歌舞伎を定期公演



美濃歌舞伎保存会は1972年に設立。県内2カ所の芝居小屋を移築・復元した「相生座」(瑞浪市日吉町)を中心に、

地歌舞伎の定期公演を年2回開催。地歌舞伎衣装は約4千点所有し、保存管理を行いながら、県内外の他団体にも修理技術や保存方法を伝えている。後継者の育成を行う「子どものための美濃歌舞伎伝承教室」を2001年から開催。役者のしぐさや三味線、化粧法などを1年間通して伝え、役者から裏方までの人材育成に努めている。

がんばらまいか佐久間

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒431-3901 浜松市天竜区佐久間町佐久間 429-1
HP

タクシー運行やアワビ養殖に挑み山間地活性化



浜松市北部の過疎地「佐久間町」の住民の約7割が加入し、地域おこし福祉、世代間交流など町づくり全般に関する事業

で行政の隙間を埋めている。交通インフラが脆弱な中山間地域のため、格安のNPOタクシーを運行。ソバの地産地消、アワビ陸上養殖事業などを通じて「佐久間を訪れなければ、味わえない」特産品づくりを目指す。廃校舎で木材を利用したバイオマス発電を計画、周辺に足湯やビニールハウスをつくる構想も。

戸田塩の会

賞 第7回優秀賞 NPO法人
〒410-3402 静岡県沼津市戸田 3705-4
HP

漁村シニア世代の女性らが伝統的な塩づくり



駿河湾に面した旧静岡県戸田村（現沼津市）で1995年に設立。2001年に県からNPO法人の認定を受けた。漁村の

シニア世代の女性を中心に、海水だけを使った伝統的製法で塩づくりを行う。約1*沖合の水深15~20から取水した海水を平らな塩焼き釜で約15時間煮詰め、約1週間熟成する。発足から20年を超え、沼津市を代表する地域商品として認知されている。近年は塩あめや化粧水、麩菓子など関連商品の開発にも積極的に取り組む。

machimori (マチモリ)

賞 第10回選考委員長賞兼ブロック賞（東海・北陸）
株式会社
〒413-0013 静岡県熱海市銀座町6-6 サトウ椿ビル2F
HP

空き店舗を再生しゲストハウスやシェアオフィス



空洞化が目立っていた中心市街地の銀座通り商店街で古いビル・空き店舗を再生、おしゃれなカフェや小さなホテル、名産の干物を自分で焼いて食べられるゲストハウスやシェアオフィスなどを運営している。若者や訪日外国人など新しい客層を呼び込む。市と協働してリノベーションや創業支援の講座も展開。移住・起業希望者との勉強会や、家主との仲立ちも手掛ける。熱海の街歩きイベントなどに取り組むNPO法人と役割を相互補完している。

里山くらしLABO

賞 第8回特別賞
静岡市
f

市と連携し、山間地の町内会サポート



静岡市の山間部に位置する奥蘆科地域で、空き家を使った子育て世帯の誘致や、

母親グループ「奥わらママ」の結成、多過ぎる町内会行事の削減など、住民発の活動を支援してきた。現在は、市と連携し、山間地に限らず市内全域の町内会サポートに変化している。各町内会の情報を共有する「しずおか自治取組発表会」を年1回開催。また地域課題をデータで可視化して住民と共有する講座を開いている。

静岡県立伊豆総合高校自然科学部

賞 第5回優秀賞
〒410-2401 静岡県伊豆市牧之郷 892
HP

伊豆半島ジオパークの研究、PRに取り組む



2010年の開校以来、「伊豆半島ジオパーク」づくりの先駆けとなる活動をしてきた。以前は地域の人を案内するジオガイ

ドや、小学校に出向く活動などをやっていたが、地域のガイドが育ったことから、通常の部活動に立ち返った。ジオサイトのフィールドワークや、火山活動の実験、これまでに作った「ジオかるた」「ジオすごろく」の手直しに取り組んでいる。

富士山御殿場かやの里企業組合

賞 第6回優秀賞
〒412-0048 静岡県御殿場市板妻 465 番地
HP

古民家に使うカヤの産地を育て新商品も開発



富士山麓に広がる東富士演習場一体に植生するカヤ「富士がや」は、世界遺産の白川郷などに古くから活用されている。全

国でカヤ場が消える中、貴重な地域資源として生かすとともに、担い手不足の解消につなげるために地元カヤ業者を中心に2012年に設立した。カヤを使った新商品の開発などを通じて富士がやの価値の発信を図るほか、収穫期以外の仕事創出に向けた取り組みも進め、新規雇用を実現。カヤ採取の技術は20年にユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」の一つに登録。後継者の育成も期待されている。

焼津市山の手未来の会

(受賞当時：山の手未来の会)

賞 第3回優秀賞
〒425-0006 静岡県焼津市関方 118 山の手会館

「花と香りの郷づくり」で植栽、山里を活性化



海と港が有名な焼津で、内陸部の山の手地区で活性化の取り組みを続ける。「花と香りの郷づくり」を合言葉に、川沿いに

2*にわたって早咲きのサクラ200本やスイセンを植えた。サクラが満開となる2月下旬に桜祭りが開かれる。黄色い花が咲き、香りが良いロウバイを地区の家々に植え、花や香りを楽しむイベントも。地元の高草山の登山道に案内看板を設置し、散策用マップを作成した。戦国時代の城跡があることからのろしを再現するイベントも続けている。

静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウエイブ

賞 第4回優秀賞 NPO法人
〒420-0034 静岡市葵区常磐町1丁目8-6 常磐町アイワビル5F
HP

静岡市の歴史、文化、自然をガイド、魅力伝える



徳川家康が晩年暮らした歴史と文化にあふれる地の観光ボランティア団体

で約90名が在籍する。2018年に創立20周年を迎え、活動は「静岡市ボランティア等善行功労賞」を受賞した。19年度は駿府城公園、静岡浅間神社、久能山東照宮、駿府匠宿などの定点ガイドの他、一般ガイド、企画ガイド、学校ガイドなど年間計約6万4千人を案内した。「行ってみたい」「来てよかった」「また来たい」と思ってもらえるよう励んでいる。

愛岐トンネル群保存再生委員会

賞 第5回優秀賞 NPO法人
〒463-0032 名古屋市守山区白山 1-708 村上方
HP f

忘れられたトンネル買い取り、地域の名所に



岐阜県多治見市と名古屋市を結ぶ旧国鉄の廃線で山中に忘れ去られた、明治時代のれんが造りのトンネル群保全に取り組む。

お年寄りの記憶を基に再発見した。観光資源につなげようと周辺の民有地を買い取るため募金活動を展開。全国約1万1000人から1500万円超が集まり、2014年にトンネル4基と土地16万平方メートルを買い取った。春秋の年2回、見学会を実施。全国から年間3万人、延べ30万人が訪れている。夏には涼しいトンネル内でビアホールも開く。

矢勝川の彼岸花を守る会

(受賞当時：矢勝川環境を守る会)

賞 第3回優秀賞
〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町 1-10-1 新美南吉記念館
HP

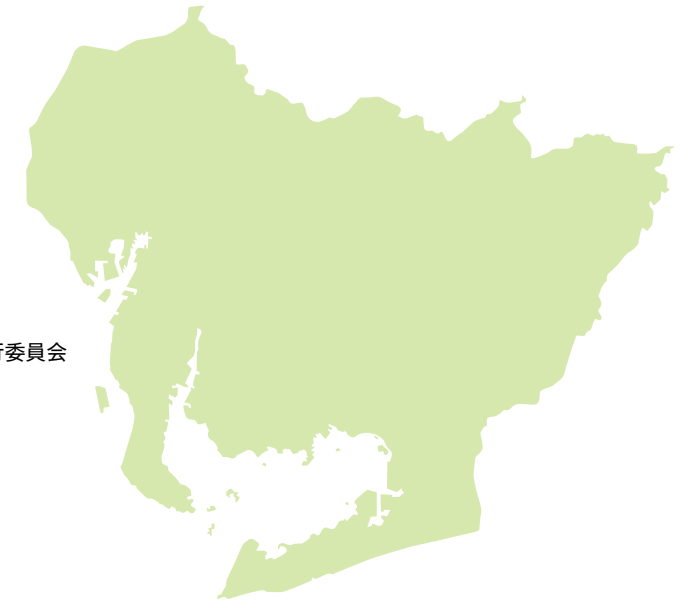
新美南吉「ごんぎつね」にちなみ童話の里づくり



半田市出身の童話作家、新美南吉の代表作「ごんぎつね」に登場する川沿いの景観美化に取り組む。地元有志らで「童話

の里づくり」を合言葉に1995年に発足。雑草を刈り取り、作品の中にも描写されているヒガンバナの球根を長年植え続け、秋には約300万本の花が咲き誇る。周辺では「ごんの秋祭り」が毎年開催され、ヒガンバナに加え、地元の物産品などを楽しみに、市内外から約13万人が訪れている。

愛知



- 豊川稲荷表参道発展会
- 萩原チンドンまつり実行委員会
- 矢勝川の彼岸花を守る会
- とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会
- 愛岐トンネル群保存再生委員会
- 岡崎まちゼミの会
- 亀崎まちおこしの会
- 花男子プロジェクト
- 志民連いちのみや
- 愛知県立安城農林高校

岡崎まちゼミの会

賞 第6回準大賞
〒444-0045 愛知県岡崎市康生通東 1-21
HP

培った商品知識を伝え商店街への関心高める



年に2回、商店街の各店が、商品やサービスに関する知識や技術を無料で伝授する講座を催す「得する街のゼミナール（まちゼミ）」を開く。全国400地域に広がった「まちゼミ」の元祖。個人商店それぞれのノウハウを生かした多彩な講座により、地元の消費者の関心を集めている。また3年ごとに全国の事業者が岡崎に集い、互いのノウハウを発表する場を設けている。さらに小学校と連携、子どもたちの商店街に対する理解を深める取り組みもしている。

空

とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会

賞 第4回優秀賞
〒440-0075 愛知県豊橋市花田町石塚 42-1 豊橋商工会議所内
HP f

中心市街地の活性化目指し1カ月かけて映画祭



空洞化が進む中心市街地を活性化しようと、閉館した映画館を豊橋青年会議所が活用、2002年に映画祭を始めた。03

年には有志による実行委員会での運営に切り替えた。現在はホールなどを会場に、毎年1~2月の1カ月間の土日に10~20本を上映している。俳優のゲスト招待や、音楽ライブ、屋外上映会など関連イベントも開き来場者は6千人を超える。自治体の補助金を一切受けず、地元企業からの協賛金などで運営費を賄う。

萩原チンドンまつり実行委員会

(受賞当時：一宮市萩原商店街振興組合)

賞 第2回優秀賞
〒491-0353 愛知県一宮市萩原町萩原 22 番地
HP f

全国規模のチンドンイベント開き商店街を活性化



一宮市萩原商店街振興組合のメンバーらが、地元を盛り上げようと、春と秋に「チンドン祭」を開催している。毎年5月の

第4日曜日に開かれる春の祭りには、全国からプロのチンドン屋さんを迎え、商店街の特設ステージで芸を競い合い、その後、まちを練り歩く。来場者は2万人を超え、「チンドンの街」として定着しつつある。秋にはアマチュアを対象にした「素人チンドン大会」も開く。地元の中学生在が会場の背景画を描くなど、子どもたちも巻き込み、地域密着を目指している。

豊川稲荷表参道発展会

(受賞当時：表参道発展会)

賞 第1回優秀賞
〒442-0034 愛知県豊川市西本町 22

レトロな商店街を景観整備、イベントで活性化

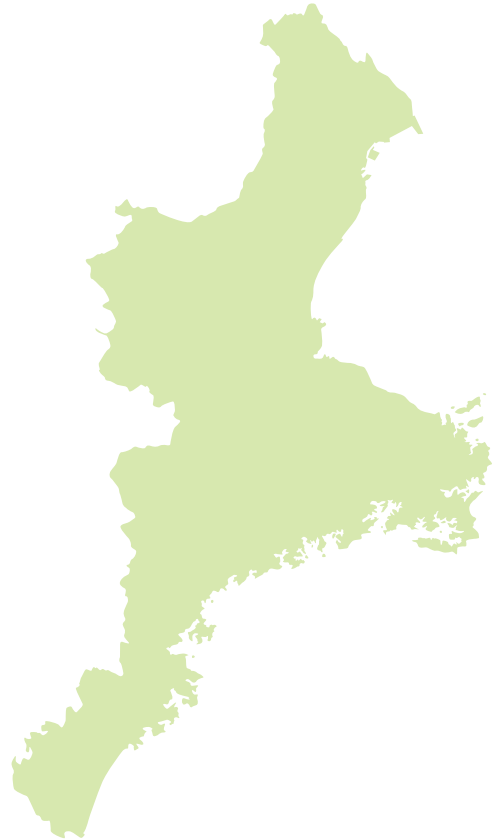


豊川稲荷門前のレトロな町並みを生かした景観整備に商店主らが取り組む。2003年から開いてきたチンドン屋、大道芸、

狐のお面などのイベント「いなり楽市」に加え、クラフトを販売する「豊川てしごと市」を実施、多くの出展者、来客を集めている。B級グルメ全国大会に名物のいなり寿司を出し、入賞したことも。商店街のにぎわい回復を目指し、若手の活動参加も進める。

三重

- 相可高校調理クラブ まごの店
- 海女小屋「はちまんかまど」の兵吉屋
- 下河内の里山を守る会
- 伊賀忍者特殊軍団阿修羅
- 大杉谷自然学校
- 丸山千枚田保存会
- みやがわ森選組
- 大内山動物園
- ディーグリーン
- 天満浦百人会



海女小屋「はちまんかまど」の兵吉屋

(受賞当時：兵吉屋)

賞 第2回優秀賞 有限会社
〒517-0032 三重県鳥羽市相差町 1094
HP f

海女と交流、魚介味わうツアーで海外客にも人気



地元の海女さんが集う「海女小屋」で、素潜り漁の話聞きながらアワビやサザエなど新鮮な魚介類を味わうツアーで、年間2万人超が訪れる。日本の伝統文化に触れられると外国人にも人気。2016年の伊勢志摩サミットを通じて知名度が上昇、伊勢・志摩の名所に育った。出入口の段差をなくし福祉車両で送迎するなどバリアフリーを進める。ムスリムのため敷地内に男女別礼拝室を設けるなど国際化にも対応。コロナ禍には海女料理の通販や、海女の写真集頒布で立ち向かった。

相可高校調理クラブ まごの店

(受賞当時：三重県立相可高校調理クラブ)

賞 第1回ブロック賞（東海・北陸）
〒519-2174 三重県多気町五桂 956 五桂池ふるさと村施設内
HP

食物調理科の高校生が人気レストランを運営



県立相可高校の食物調理科の生徒でつくる調理クラブが、土曜、日曜日や祝日のみ営業するレストランを運営している。多気町が設置した「五桂池ふるさと村」の一角にある。できる限り地元の食材を利用し、高い調理技術でつくられる定食などがおいしいと県内外から評判を集め、130～150食を完売する。伊勢志摩サミットの際には、首脳の配偶者を料理でもてなし大好評だった。ドレッシング、焼き肉のたれなどの商品開発にも取り組み、成果を上げている。

志民連いちのみや

賞 第9回ブロック賞（東海・北陸） NPO法人
〒491-0859 愛知県一宮市本町 4-12-7
HP f

クラフト作家市、地ビール製造など幅広く活動



愛知県一宮市で東海圏のクラフト作家などが集う「杜の宮市」やまちなかアート展を企画・運営し、中心市街地の活性化に取り組む。地ビールを再興した「一宮ブルワリー」、空き店舗を利用したコミュニティカフェ「三八屋」の開設などまちづくり事業も展開する。「一宮市市民活動支援センター」を受託運営し、市民活動講座も多数開催する。コロナ禍で杜の宮市は中止となったが、疫病よけの「アマビエ」の旗120本を掲げ、再開を目指している。

亀崎まちおこしの会

賞 第7回優秀賞 NPO法人
〒475-0023 愛知県半田市亀崎町 4-141
HP f

伝統行事を保存、拠点施設で高齢者と子どもの交流を図る



地元の伝統行事の保存・復活や、拠点施設で高齢者と子どもの交流を図るなど旧市街地のにぎわい創出に大きく貢献。とりわけ空き家対策では、既に古い料亭を改装して複数のショップの入居にこぎ着けた。大学生や若手建築家、デザイナーらを巻き込んで空き家再生などに知恵を結集している。市の期待も大きく、モデル事業として助成を受け、数軒の空き家所有者の理解を取り付けて店舗に生まれ変わった。若者や子どもを主軸として活性化を図っている。

愛知県立安城農林高校

賞 第10回優秀賞
〒446-0066 愛知県安城市池浦町茶筌木 1
f

独自手法で卵の質向上、ミツバチや地場野菜育成



高校生のアイデアでさまざまな事業を生み出し、地元を盛り上げる原動力になっている。「Anno 健幸卵」プロジェクトは、独自の方法で卵の質を向上させている。さらに特産の鶏「岡崎おうはん」の普及を岡崎市と提携して推進する。貴重なニホンミツバチを守るプロジェクトも実施。愛知県の野菜「金俵マクワウリ」の復活を目指すチームも活動中だ。「あま酒つくりプロジェクト」は地元メーカーと甘酒をつくって販売に取り組む。

花男子プロジェクト

賞 第8回優秀賞
〒441-8077 愛知県豊橋市神野新田町ワノ割 93-3
HP f

地場産の花を贈る文化広めるパフォーマンス



日本一の花生産地である愛知県東三河地方から「花を贈る」文化を日本中に広めようとパフォーマンスを続ける。花の仲卸をしていた近藤祐司さんが代表となって仲間と始めたプロジェクト。合言葉は「花贈る！男アガルッ！」。音楽にのってブーケを作り、カップルに花を贈り合ってもらったり、男性は1人で花屋に入りにくいのではとLINE（ライン）で注文を取ったりとアイデアを実現する。コロナ禍では医療関係者に花を贈り、売り上げの一部を寄付する活動に取り組んだ。

ディーグリーン

賞 第9回奨励賞 株式会社
〒519-3204 三重県紀北町東長島 2399-1
HP f

新鮮・安全な地元の魚で作った離乳食を全国発信



紀伊半島の漁村にあるウェブ制作会社が、新鮮・安全な魚を子どもたちに食べてほしいと離乳食材の通販「mogcook（モグック）」に乗り出した。

地元の主婦らが小骨を抜き、丁寧に下処理した魚を調理、真空パックして全国に発送する。栄養豊富で食べやすく添加物不使用。月齢別に商品をそろえ、都市部でも評判を呼んでいる。1・Uターンの若者と住民が力を合わせ、新たな特産品に成長している。

地元の主婦らが小骨を抜き、丁寧に下処理した魚を調理、真空パックして全国に発送する。栄養豊富で食べやすく添加物不使用。月齢別に商品をそろえ、都市部でも評判を呼んでいる。1・Uターンの若者と住民が力を合わせ、新たな特産品に成長している。

みやがわ森選組

賞 第7回優秀賞 NPO法人
三重県大台町
HP f

山村に移住した林業従事者が森の担い手を育成



旧宮川村に移住、林業に従事するメンバーが都市農山村交流を通じ地域活性化、遊休農地回復、放棄山林活用、生態系保全への貢献を目指す。林業移住をバックアップする「もりびと養成講座・森つなぎプロジェクト」を大台町、イオンと実施。大学生向けの米作インターンや、子どもに生物の楽しさを知ってもらう「かえる道場」も開催している。環境整備で企業と連携する「安濃の森プロジェクト」（中日本高速道路）、「百五の森プロジェクト」（百五銀行）にも取り組む。

旧宮川村に移住、林業に従事するメンバーが都市農山村交流を通じ地域活性化、遊休農地回復、放棄山林活用、生態系保全への貢献を目指す。林業移住をバックアップする「もりびと養成講座・森つなぎプロジェクト」を大台町、イオンと実施。大学生向けの米作インターンや、子どもに生物の楽しさを知ってもらう「かえる道場」も開催している。環境整備で企業と連携する「安濃の森プロジェクト」（中日本高速道路）、「百五の森プロジェクト」（百五銀行）にも取り組む。

大杉谷自然学校

賞 第5回特別賞 NPO法人
〒519-2633 三重県大台町久豆 199
HP

地域の自然、人、文化を生かした環境教育



廃校となった小学校を拠点として、地域を生かした環境教育を展開する。地域に残る生きる知恵や豊かな自然を体験する

活動を町内外の人たちに提供している。特に力を入れるのが、故郷を愛する子どもたちの育成だ。アユの伝統漁法や地域の人と関わる機会など故郷を実感できる機会を学校教育に取り入れている。他にも「森のようちえん」、移住促進、環境に配慮した公共工事の促進など多岐にわたり地域をより良くする事業を展開する。

下河内の里山を守る会

(受賞当時：きほく里山体験笑楽校)

賞 第3回優秀賞
〒519-3201 三重県紀北町十須 829

古い旅籠を改装した拠点で里山暮らし体験、交流



三重県南部に位置する紀北町下河内地域で、景観にほれ込んだ町内外の会員が築120年の旧旅籠「旭屋」を自分たちの

手で改装、地域を紹介する拠点として活動している。毎月第2土曜日は「下河内の日」として農家レストランを開き、打ちたてのそばや山菜の天ぷらなど地元食材の料理が人気だ。また「きほく里山体験笑楽学校」として、そば打ちやこんにやくづくりなどが体験できるプログラムを提供、里山の魅力を伝えている。

天満浦百人会

賞 第10回優秀賞 NPO法人
〒519-3602 三重県尾鷲市大字天満浦 161
f

元別荘を津波防災拠点に活用、交流・学習の場に



約30年前「天満浦を元気にしよらい!」を合言葉に主婦を中心に結成。1944年の東南海地震で大きな被害を受けた天満浦は津波対策が課題だった。高台にあり地域のシンボリック的存在だった別荘「天満荘」の取り壊しが浮上したが、南海トラフ地震の防災拠点として買い取った。その後カフェや文化講座、体験活動などの場としても活用。三重大学東紀州サテライトにも認定され、勉強会「よるしゃべ」などで老若男女が集まり、にぎわう。

約30年前「天満浦を元気にしよらい!」を合言葉に主婦を中心に結成。1944年の東南海地震で大きな被害を受けた天満浦は津波対策が課題だった。高台にあり地域のシンボリック的存在だった別荘「天満荘」の取り壊しが浮上したが、南海トラフ地震の防災拠点として買い取った。その後カフェや文化講座、体験活動などの場としても活用。三重大学東紀州サテライトにも認定され、勉強会「よるしゃべ」などで老若男女が集まり、にぎわう。

大内山動物園

賞 第8回優秀賞
〒519-3111 三重県大紀町大内山 530-4
HP f

殺処分から保護された動物が集まる動物園



全国でも珍しい個人経営の動物園。存続危機に陥った動物園を建設会社の経営者が引継ぎ、再建した。動物約700匹が飼育されており、その7割は閉園される動物園から引き取ったり、殺処分寸前で保護されたりした動物だ。“新顔”の動物が

来るたびに土地を購入、飼育舎を増設するため、園は3倍の広さになった。自然に恵まれた地の利を生かし、保護された動物も、来園客も癒される動物園を目指している。

丸山千枚田保存会

賞 第6回優秀賞
〒519-5413 三重県熊野市紀和町板屋 78 熊野市ふるさと振興公社内
HP

住民挙げて伝統の棚田の保存・復活に挑む



丸山千枚田は、日本の棚田百選にも選ばれた紀和町丸山地区の山の斜面に幾重にも描かれた棚田。かつて2240枚あったと

記されていたが、昭和50年代以降、過疎・高齢化の波を受けるなどして、平成初期には530枚に減少。自分達の世代で、この貴重な文化遺産を失うのは惜しいという地元の人々の強い思いがあり、1993年に丸山千枚田保存会を結成。保全活動が始まった。オーナー制度などを取り入れるなどして、2020年時点で1340枚まで復元されている。

伊賀忍者特殊軍団 阿修羅

賞 第4回優秀賞 株式会社
〒512-1203 三重県四日市市下海老町 1776
HP

年間1200回の実演で伊賀流忍術の里を発信



伊賀流忍術の発祥の地、伊賀市の「忍者」文化を三重県と伊賀市の観光大使として国内外に発信している。伊賀流忍者博

物館を拠点に本物の忍術を披露。実演では忍者が使用していた忍具について、使い方や効果などを分かりやすく解説し、忍者の魅力を伝えている。海外からの公演のオファーも多く、外務省日本ブランド事業では北米ツアーも行うなど、「NINJA」ブランドの普及を図る。世界で人気が高まっており、海外のツアー客に対して英語での説明も取り入れるなど国際化に対応している。

江北図書館

賞 第5回優秀賞 公益財団法人
〒529-0425 滋賀県長浜市木之本町木本 1362
HP f

貴重な和漢洋書備えた伝統ある私設図書館



長浜市出身で弁護士だった杉野文弥が1902年、私財を投じて設立した「杉野文庫」が前身。1907年に伊香郡役所の

支援を得て法人化された（2011年から公益財団法人）。現存する滋賀県最古の図書館。私立図書館は図書館法により、公的資金を受けることができず、敷地内の駐車場収入、篤志家や市民からの寄付で運営。木造2階建てのスペースには蔵書5万冊があり、中には極めて貴重な洋書や和・漢書、文書の他、旧伊香郡役所資料一式が残されており、研究者から高い評価を得ている。

富田人形共遊団

賞 第3回優秀賞
〒526-0131 滋賀県長浜市富田町 935
HP f

人形浄瑠璃を守り海外公演、留学生や子ども指導



長浜市富田町に江戸時代後期から伝わる人形浄瑠璃「富田人形」（県選択無形民俗文化財）を、まちづくりに活用しようと、

地元有志で結成された。年2回の定期公演に加え、海外を含めた出張公演も積極的に行う。海外からの留学生十数人を毎年受け入れ、地元で約2カ月間、ホームステイをしながら人形浄瑠璃の基礎と日本文化を学ぶようにしている。住民との交流活動も盛んだ。地元の小中学生向けのジュニアクラスを開催、子どもにも人気だ。

白王町集落営農組合

賞 第6回優秀賞 農事組合法人
〒523-0803 滋賀県近江八幡市白王町 1652-2

琵琶湖の内湖に浮かぶ島状の水田を守る



琵琶湖の内湖に浮かぶ島状の水田「権座」。農地に恵まれない周辺住民が耕し、受け継いできたが、船で渡るしかなく、近年は「手間がかかる土地」と敬遠されていた。だが一帯の水郷風景が「重要文化的景観」に指定されると、「農業で景観を守ろう」と住民が奮起。共同耕作で生産コストを下げ、幻の酒米や単価の高い大豆を作った。日本酒「権座」は町外のファンを獲得し、秋にはコンサート「収穫感謝祭」で観客を集める。風景を守るロマンとそろばん算用、外部との交流がかみ合う農業振興が進む。

美しいマキノ・桜守りの会

賞 第4回優秀賞
〒520-1811 滋賀県高島市マキノ町海津 2275

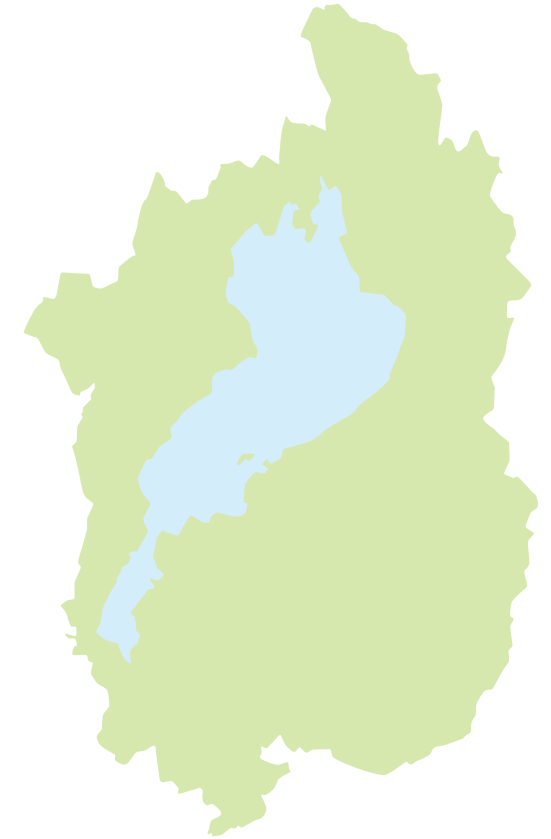
寿命で枯れ始めた桜を市民が復活、名所に



1936年に琵琶湖北部に位置する海津大崎のトンネルが完成したことを記念し、住民が桜の植樹を始め「日本さくら名所100選」と評価されるまでになった。しかし、その桜が寿命で枯れ始めたことから景観を守ろうと住民が立ち上がり、会を設立し植栽・管理・周辺環境の整備などに積極的に取り組んだ。湖岸周辺などに約900本が植えられ、春になると見事な桜並木の花見に約10万人が訪れている。

滋賀

- 碧いびわ湖
- 大津の町家を考える会
- 富田人形共遊団
- 美しいマキノ・桜守りの会
- 江北図書館
- 白王町集落営農組合
- しが農業女子100人プロジェクト
- エナジーフィールド
- 大野木長寿村まちづくり会
- びわこジャズ東近江実行委員会



大津の町家を考える会

賞 第2回優秀賞
〒520-0043 大津市中央 1-8-13
HP f

町家の保存と活用で市街地活性化、若者巻き込む



大津市に残る町家の保存と活用を通して、まちの活性化につなげようと有志が立ち上げた。空いた町家を借り「まちづくり

大津百町館」として公開、落語会、講演会、津軽三味線ライブなど多様なイベントを開催し、拠点としている。大津百町の歴史や町家を紹介した「大津百町物語ー暮らしの昔と今を歩く」も発刊。昔の暮らしの様子を知ることを目的とした小学生の社会科見学も多く受け入れる。市内では若い世代による町家を使ったホテルなどユニークな取り組みが広がっている。

碧いびわ湖

賞 第1回ブロック賞（近畿） NPO法人
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 3
HP f

琵琶湖と流域で自治を育み、持続可能な暮らしをつくる



琵琶湖での赤潮発生をきっかけに、合成洗剤ではなくせっけんを使うことを広めた「せっ

けん運動」と生協運動を原点に、市民の協同自治を育み、持続可能な暮らしをつくることに取り組んでいる。これまで廃食油や牛乳パックのリサイクル、再生品等の共同購入、身近な自然とつながる住まいづくり、自然の中で子どもが遊び、学ぶ場づくりなどをしてきた。現在は琵琶湖のプラごみ問題や気候危機などの社会課題に向き合いながら「子どもと湖が笑ってる未来へ」とつながる暮らしとコミュニティーづくりを目指す。

京都



- 京すずめ文化観光研究所
- 遊プロジェクト京都
- 京町家再生研究会
- 先斗町まちづくり協議会
- 姉小路界隈を考える会
- 葵プロジェクト
- クロスオーバーネットワーク
- 気張る！ふるさと丹後町
- 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト
- アクトスター

遊プロジェクト京都

賞 第2回優秀賞 NPO法人
〒604-0022 京都市中京区室町通御池上ル御池之町
305 遊子庵内
HP f

中心街の町家を拠点として伝統の魅力をアピール



京都の中心街にある町家「遊子庵」を拠点に伝統の魅力を伝えるとともに、遊びを通して、文化や暮らしの知恵を学び、

その素晴らしさを紹介する事業を展開している。装束、風呂敷、京菓子などの老舗の人々を呼んで話を聞く勉強会や、京都のまちづくりに活躍する人を紹介する書籍の出版にも携わる。遊子庵では計10の団体が活動しており、緩やかなつながりで運動を展開している。

京すずめ文化観光研究所

(受賞当時：遊悠舎 京すずめ)

賞 第1回優秀賞 一般社団法人
〒600-8175 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町
680-1 第八長谷ビル2階231
HP

暮らしの視点から京都のこころを継承し研究・発信



創立から20年を経過し、日常の暮らしから京都に宿る文化、歴史、伝統、町衆のこころを次世代へ継承する活動を続けてきた。公募事業「京都への恋文」や「おくどさんサミット」「京すずめ大学校」の開催など、京都の魅力を深掘りして発信している。研究会の冊子も7冊発行。コロナ禍の観光、飲食、宿泊、交通の各企業とも連携して未開の地域資源を掘り起こし、奥深い京都ツアーを要請に応じて企画立案している。今後は京名産などの企業とも連携して全国、世界へアピールできるツアーの開発にも取り組む。

大野木長寿村まちづくり会

賞 第9回ブロック賞(近畿) 一般社団法人
〒521-0244 滋賀県米原市大野木 1090 大野木たまり場
「よりどころ」
HP

高齢者の会員たちが楽しみながら地域の課題に挑戦



インフォーマル(形式ばらずに)、有償、インクルーシブ(分け隔てなく)にこだわり、無理をせず、楽しみながら集落の課題に挑戦している。主たる活動は、高齢者の困りごと支援(小修理、草刈り、枝切り、畑の管理など)、荒地対策に「借り貸し農園」、付き添い移送サービス、たまり場「よりどころ」での交流ランチ・認知症予防教室・宅配弁当・子ども食堂など。元気な高齢者の会員たちは、趣味を兼ね特産物づくりにも精を出している。

主たる活動は、高齢者の困りごと支援(小修理、草刈り、枝切り、畑の管理など)、荒地対策に「借り貸し農園」、付き添い移送サービス、たまり場「よりどころ」での交流ランチ・認知症予防教室・宅配弁当・子ども食堂など。元気な高齢者の会員たちは、趣味を兼ね特産物づくりにも精を出している。

しが農業女子100人プロジェクト

賞 第7回ブロック賞(近畿)
滋賀県
HP f

滋賀の食と農をつなぐ新しいかたち



栽培、商品開発、マーケティングなど、あらゆる分野で協力する滋賀の女性農業者のネットワーク。2018年に会員

制度を設けて団体をリスタートした。「農業を通じて『おいしい』『楽しい』を分かち合う社会をつくる」ことをミッションとし、滋賀での新しい食と農のプラットフォームづくりを目指している。

びわこジャズ東近江実行委員会

賞 第10回優秀賞
〒527-0074 滋賀県東近江市市辺町 2886
HP f

約3万人を集め原則無料、地元産品マーケットも



びわこジャズ東近江は、滋賀県東部の東近江市中心市街地を会場に2009

年から毎年4月に開催している。19年はプロやアマチュアの約210組が出演、約3万人を集めた。入場は原則無料で、運営には広告収入を充てている。同時に地元産品のマーケットなどを開催して地域活性化に貢献している。20年はコロナ禍で中止となったが、21年の開催を目指し会議を重ねている。

エナジーフィールド

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒523-0846 滋賀県近江八幡市博労町上 17
HP f

現代アートの国際芸術祭。空き家に展示も



2001年から現代アートの国際芸術祭「BIWAKOピエンナーレ」を2~3年間隔で計8回開催している。20年10~11

月には「森羅万象~COSMIC DANCE」をテーマに、これまで開催していた近江八幡市に加えて彦根市にも会場を設けた。市街地に点在する商家だった古い空き家などで展示し、会場空間も含めて作品を輝かせる点に特徴がある。京都のアートイベント「ニュー・ブランシュ」との連携展示も実現した。

毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト

賞 第9回優秀賞

〒620-0322 京都府福知山市大江町毛原 288



棚田オーナーや地域通貨を活用、都市住民と交流



「日本の棚田百選」にも選ばれた地域で、住民らが棚田保全と移住促進を目指して設立した集落再生プロジェクト。「1000

年つづく里」を住民憲章に掲げ、特産品加工所や、ピザ窯でのピザ作り体験など地域の魅力を発信する。住民と来訪者をつなげる地域通貨「けーら」を考案。民家が交代で客人をもてなす「縁側喫茶」や、動画チャンネル「毛原放送局」、地域の問題を共有するアプリ開発など多角的な取り組みを進める。

クロスオーバーネットワーク

賞 第7回優秀賞

〒604-8241 京都市中京区三条通新町西入ル釜座町11-4 クローカス三条2号 伊藤弥生公認会計士事務所内



働く女性が意見交換、よい仕事環境をつくる



「女性の社会進出の推進」が声高に唱えられているが、政府や行政に頼るばかりではなく、働く女性たちがそれぞれの場で

感じている不満や課題を率直に意見交換し、より良い仕事環境を具体的に作り出してゆくことを目指している。職種の幅広さと柔軟な思考を標榜し、孤立しがちな女性たちを横に結び、助け合うことで輝こうという意欲に満ちている。女性の起業を専門家がサポートする「ブルームマネジメント」に力を入れる。定期的に持続可能な開発目標（SDGs）の勉強会も開いている。

アクトスター

賞 第10回ブロック賞（近畿）

〒623-0007 京都府綾部市星原町堂前 6-4 岡田邦久方

西日本豪雨をきっかけに先進的な防災に取り組む



2018年7月の西日本豪雨被災をきっかけに、中山間地・綾部市星原町で自主防災組織として結成、先進的な防災に取り組む。

集落を歩いて土砂災害の危険箇所を洗い出し、古道を「第2の避難路」として再生。住民が避難と避難所生活を体験する訓練も実施した。住民が避難のきっかけをあらかじめ決めておく「タイムライン」「スイッチ」の概念もいち早く導入。複数のメンバーが防災士資格を取得。高齢化を念頭に、災害弱者の視点で土砂災害に備える。

気張る！ふるさと丹後町

賞 第8回ブロック賞（近畿）

NPO法人

〒627-0201 京都府京丹後市丹後町間人 2026 番地



住民マイカーをタクシー代わり、地域の足に



人口減少、過疎・高齢化が進む地域では、住民の足の確保が大きな課題。「気張る！ふるさと丹後町」はマイカーをタクシーに見立てて、住民や観光客を有償運送する取り組み「ささえ合い交通」を2016年に始めた。ボランティアの住民18人がドライバーとなり、年中無休で走らせる。利用希望者はスマートフォンなどで即時予約できる。公共交通空白地の新たな移動手段として、他自治体などからも注目を集めている。

人口減少、過疎・高齢化が進む地域では、住民の足の確保が大きな課題。「気張る！ふるさと丹後町」はマイカーをタクシーに見立てて、住民や観光客を有償運送する取り組み「ささえ合い交通」を2016年に始めた。ボランティアの住民18人がドライバーとなり、年中無休で走らせる。利用希望者はスマートフォンなどで即時予約できる。公共交通空白地の新たな移動手段として、他自治体などからも注目を集めている。

姉小路界隈を考える会

賞 第5回優秀賞

〒604-8102 京都市中京区姉小路通柳小路東入菊屋町569



京都の歴史・文化を継承し、景観を守る



京都中心部の姉小路界隈は老舗、小さな商店、町家が建ち並ぶ職住共存の東西700mの街だ。1995年のマンション建

設計画を機に住民が立ち上がった。歴史、文化の豊かさを再発見する「姉小路界隈町式目」を策定。行政と協働し建築協定、街なみ環境整備事業、地区計画、5年前より地域景観づくり協議会制度を活用。約100件の建築（営業）行為に関する事前意見交換会を実施した。幼稚園、中学校、博物館、地元企業とも協力し、自動車通行止めイベント等も開催。誰の目にも見える新旧同居のまちづくりを四半世紀以上継続中だ。

葵プロジェクト

賞 第6回優秀賞

一般財団法人

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 339 上賀茂神社社務所内



葵祭に使うフタバアオイ保護の輪を広げる



1400年の歴史を持つ京都三大祭りの一つ「葵祭」。毎年1万本以上の葵（フタバアオイ）が牛車や供奉者の衣冠を飾

り、華麗な王朝文化を現代に伝える。祭りに不可欠な葵が激減していることに危機感を持ち、京都府内外の小学校や企業などに葵を育成してもらう活動を通じて伝統祭事への参加を促す。静岡の駿府城に葵を運ぶ「葵使」の再現行事も。「葵文化サロン」として文化講座やサミット、フォーラムを開催。伝統工芸展や縁日も開いている。

京町家再生研究会

賞 第3回準大賞

NPO法人

〒604-8214 京都市中京区新町通錦小路上ル百足屋町384



京町家の再生を通じて暮らしの文化と技術をつなげる



古都・京都のまちなかにある京町家を保全、健全に改修して未来につなげていく目的で、居住者や研究者、技術者らが立

ち上がり、1992年から活動している。再生に携わった町家は200軒を超えた。改修技術を若手に継承する「京町家設計塾」、町家の暮らしを子どもたちや家族に楽しみながら知ってもらう「親子体験教室」などのプロジェクトも展開している。各地の団体との交流も重ね、まちなかにある木造建築の保全の考え方、現代の在り方を変化させ続けている。

先斗町まちづくり協議会

賞 第4回優秀賞

〒604-8016 京都市中京区先斗町通四条上ル下樵木町207 番地



古都にふさわしい風情ある景観の復活に取り組む



「かつての伝統ある風情を取り戻したい」との思いから、自治会を母体にして設立。道幅2m前後、南北約450mの通り

で、国内外から多くの観光客が訪れる。近年、お茶屋が減る一方、道をふさぐようにはみ出た看板やたばこのポイ捨てなどが横行していた。京都市とも連携しながら、違法看板の撤去を進めた。まちなみ保全を目的とした「界わい景観整備地区」の指定を実現した。無電柱化や、火災を教訓にした防災活動にも積極的に取り組んでいる。

Minami こども教室

賞 第6回奨励賞

〒544-0034 大阪市生野区桃谷3丁目1-21 3F



外国にルーツのある子どもたちの学習支援



大阪の繁華街・ミナミの一角で、毎週火曜の夜、さまざまな国から来日した子どもたちに無料

の学習教室を開く。ひとり親や再婚家庭など環境はさまざまだが、通っているのは経済的に苦しい子どもたちがほとんど。教室は飲食店などで夜遅くまで働く親を待つ居場所、さらには地域の小学校と協力して家庭環境の相談に乗るなど、ソーシャルワークの場でもある。コロナ禍では、子どもたちへの食事配布や、受験生を中心にオンラインの学習指導も実施した。

大阪を変える100人会議

賞 第4回優秀賞

〒541-0045 大阪市中央区道修町3-4-11 新芝川ビル500号



企業や大学、行政の多彩な人が大阪の課題を論議



大阪の多様な社会問題の解決を目指すNPO法人、行政の実務者、地元企業らで構成する。「ラウンドテーブル」と呼ばれる

会議を定期的に関き、日ごろ出会う機会がない実務者同士を引き合わせている。通信制高校生のキャリア支援をするNPO法人と、ココナツのフェアトレード事業を通じフィリピンの貧困問題に取り組む会社が協力し、通信制高校生のフィリピン研修ツアーを実現するなどコラボ企画が次々と生まれている。

大阪

- にしよど にこネット
- Homedoor
- 大阪を変える100人会議
- D×P (ディーピー)
- Minami こども教室
- わが町にしなり子育てネット
- こえとことばとこころの部屋 cocoroom
- Happy mam (ハッピーママ)
- SEIN (サイン)



第4回 (2013年度)

大賞・準大賞
選考の決め手

大賞「はやめ南人情ネットワーク」(現はやめ人情ネットワーク、福岡県大牟田市)は高齢者の徘徊を町ぐるみで見守る体制を構築。小学校から事業者まで、幅広い組織や年代層が活動を支える点が評価された。準大賞「大戸診療所」(現坂上健友会 大戸診療所、群馬県東吾妻町)は住民自らが出資して設立、地域の医療を守る取り組みに支持が集まった。準大賞「西栗倉・森の学校」(岡山県西栗倉村)は若者も参加して木材を生かした新産業づくりを目指す試みが認められた。



D×P (ディーピー)

賞 第5回優秀賞

認定NPO法人

〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町1-27 ファラン天満橋33号室



通信制・定時制高校生たちの中退率改善や進路決定を目指す



不登校やいじめ・発達障害などさまざまな事情を抱えた高校生が通信制・定時制高校に集まっている。通信制高校卒業生の約半数が進学も就職もしないまま卒業していると考えられ、D×Pは高校生本人が納得のいく進路を選択できるようになるためのプログラムを提供している。社会人ボランティアが過去の経験や「なぜ今の仕事を選んだのか」を語り、生徒自身の進路に置き換え、考えてもらう授業を展開する。また教室の一角に安心してスタッフと話ができる場を設置。LINE(ライン)を使ったオンラインの相談「ユキサキチャット」も実施している。

Homedoor

賞 第3回優秀賞

認定NPO法人

〒531-0074 大阪市北区本庄東1丁目9-14



自転車修理・貸出事業で就業支援、団らんの場も



ホームレスの人や生活保護受給者の雇用創出を目的としたシェアサイクル事業「HUBchari(ハブチャリ)」を運営する。大阪市内の200カ所以上に自転車の貸し出し拠点を設け、ホームレスの人や生活保護受給者が自転車の管理や修理を担う。路上生活から抜け出すことにつながることを目指した施設「アンドセンター」もオープンし、ホームレスの人が団らんスペースで談笑したり、昼寝ができる和室を用意したり、宿泊できたりと安心して過ごせる場の提供をしている。

にしよど にこネット

賞 第1回優秀賞

NPO法人

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田6-3-29



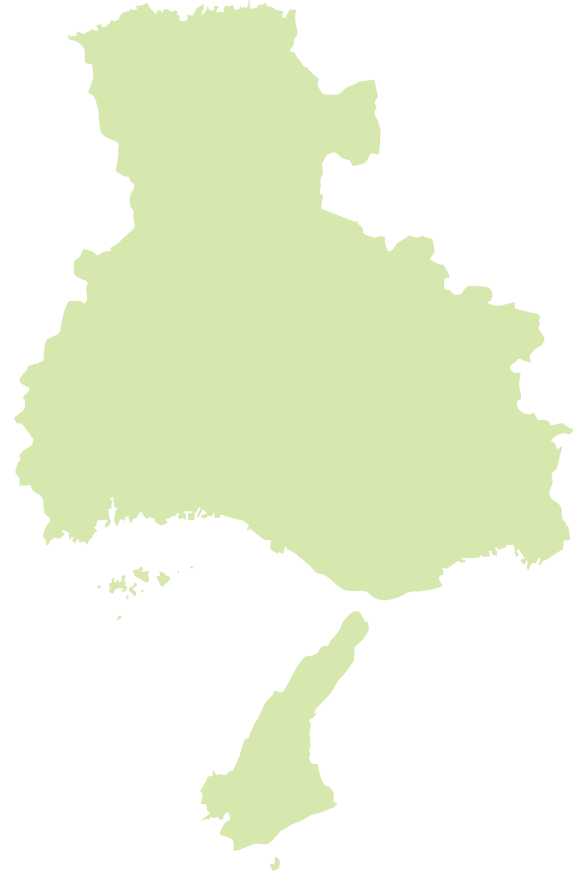
つどいの広場、ネットワークづくりで子育て支援



地域の中で豊かな環境を整え、子育てを応援する。大阪市委託事業で主に3歳までの子どもと、保護者がゆったりと過ごせる無料のつどいの広場や、西淀川区委託事業の区役所にある「に～よんステーション」を開設。子育て経験のあるスタッフとおしゃべりを楽しみ、保護者の子育て不安の解消などにつなげる。「大人も子どもも育ちあい、誰もが誰かのサポーターになれるまちに」のビジョン、「日々の子育てに寄りそい、わかりあえる関係をつくることを大切に」がミッションだ。

兵庫

- 神戸鉄人プロジェクト
- 日本コウノトリの会
- 山王自治会
- 神戸農村歌舞伎保存会
- 鳴く虫と郷町実行委員会
- ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会
- フードバンク関西
- 多言語センター FACIL (ファシル)
- くさかんむり



日本コウノトリの会

(受賞当時：コウノトリ湿地ネット)

賞 第3回優秀賞
〒669-6103 兵庫県豊岡市城崎町今津 1362
HP f

コウノトリの餌場の湿地をつくり保全続ける



国の特別天然記念物コウノトリは1971年、野外で姿を見ることができなくなった。国内最後の生息地とされる豊岡市で

は2007年、人工増殖した個体の野生復帰事業に着手し、野外で初のヒナが誕生した。「コウノトリ湿地ネット」として市民らがコウノトリの餌場となる湿地づくりとその保全に取り組んできた。耕作放棄地を湿地に変える事業のほか、湿地周辺のごみ拾いなど環境整備も。活動は全国的に広がり16年に「日本コウノトリの会」が結成された。20年に活動を一本化した。

神戸鉄人プロジェクト

賞 第2回優秀賞 NPO法人
〒653-0041 神戸市長田区久保町 6-1-1-401
HP f

鉄人28号のモニュメントを核に復興に取り組む



阪神大震災で大きな被害を受けた神戸市のJR新長田駅南地区の活性化のため、地元商店主らが結成した。神戸市出身で漫画家・横山光輝氏の代表作「鉄人28号」の実物大モニュメント(高さ

18m)を、復興とまちおこしのシンボルとして全国からの寄付を基に造った。また横山氏の歴史漫画「三国志」の資料を集めたギャラリーも開設した。年間約40のイベントを開催、にぎわいを見せている。

Happy mam (ハッピーママ)

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒571-0031 大阪府門真市古川町 2-2, 1F
HP f

ひとり親家庭に食材などを提供、悩み相談も



困窮するひとり親家庭に支援者から寄付された食材や洋服を送っている。6カ月に1度は必ず面談を実施し、子育てなどの

悩み相談に乗る。支援している家庭は12世帯で、重病を抱える親もいる。クラウドファンディングで出資を募り、団体を設立した。手作りクッキーを販売し売上げの一部は支援金に。ユーチューブには「ハピママチャンネル」を開設、活動内容や生活の知恵を動画で分かりやすく伝えている。

SEIN (サイン)

賞 第10回優秀賞 NPO法人
〒590-0115 堺市南区茶山台 2-1-21-302
HP f

高齢化のニュータウンに総菜店開設、交流の場に



高度経済成長期に整備されたニュータウンが高齢化で、空き部屋増加、買い物難民、独居者の孤立に直面している。

課題を解決しようと、空き室を改装した総菜店「やまわけキッチン」をオープン、100円程度に小分けしたおかずを組み合わせ、店内で仲間と食事ができる交流の場になっている。団地で生まれ育った湯川まゆみさんが代表理事を務めるNPOと府住宅供給公社が連携。コロナ禍で弁当の配達を開始、高齢者の見守り機能も果たしている。

わが町にしなり子育てネット

賞 第7回優秀賞
〒557-0033 大阪市西成区梅南 1-2-6 西成区子ども・子育てプラザ
HP f

「いつでも どこでも みんなで子育て」



わが町にしなり子育てネットは2000年に創立。「いつでも どこでも みんなで子育て」を合言葉に、すべての子どもた

ちが地域の中で自分らしく育つことと、安心して子育てをできる町づくりを目指す緩やかで温かなつながりを紡ぐ公私協働のネットワークだ。子育て中の保護者やサークルを中心に、保育所(園)、施設、行政、NPO、子ども食堂、地域のボランティアなど約70の団体・個人・行政が加盟。子育て・子育て支援活動を通して子どもの権利擁護と自己実現に取り組み、虐待ゼロの町づくりや、子どもの最善の利益の実現を目指す。

こえとことばとこころの部屋 cocoroom

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒557-0002 大阪市西成区太子 2-3-3
HP f

日雇い労働者らが参加できる学びの場開催



日雇い労働者の街として知られる大阪市西成区の釜ヶ崎で、2012年から「学びたい人が集まれば、そこが大学」として

「釜ヶ崎芸術大学」を開催する。困窮者は無料。運営は寄付や助成金で賄う。炊き出し会場や施設の談話室などで年間100講座を開く。日雇い労働者の中で培われてきた互助精神や生き延びる知恵と技術も学び合う。元労働者を先生にスコップで井戸を掘ったり、外国人旅行者との交流も生まれたりした。コロナ禍ではオンラインを併用して開講を続ける。

くさかんむり

賞 第10回優秀賞

〒651-1603 神戸市北区淡河町淡河 1447



かやぶき職人らがワークショップ、海外と交流も



全国でも屈指のかやぶき民家数を誇る神戸市北区を中心にカヤの葺き替え作業の傍ら、かやぶきの魅力を伝えるワークショップ

や海外の職人との交流も手掛ける。職人7人。1棟の葺き替えに1カ月~1カ月半かかるため、年間に作業できるのは8棟ほど。葺き替えは遠方から取り寄せる材料の調達費が課題で、神戸市も地元グループに数年がかりでスキを育成し、収穫する「茅場」を作ってもらい、その活動費を補助するなど支援に動く。2019年には同名の株式会社も設立した。

フードバンク関西

賞 第8回優秀賞

認定NPO法人

〒658-0021 神戸市東灘区深江本町1丁目8-16 バレル芦屋 101



企業から食料譲り受け福祉団体などに無償提供



商品として扱えなくても安全性や味に問題のない食料を、企業や個人から無償で譲り受け保管。ホームレス支援団体、母子生活支援施設などに無償提供している。市役所と協働で生活困窮者に食料を提供する「食のセーフティネット」や「子ども食堂」にも力を入れる。最近では「子ども元気ネットワーク事業」として母子家庭に月1回、食料を詰めた箱を配送。コロナ禍では収入が激減した人々に向け、ホームページに必要事項を書き込めば、数日分の食料を届ける緊急食支援を実施した。

鳴く虫と郷町実行委員会

賞 第6回優秀賞

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前1-1-3 伊丹市立文化会館内



市街地で虫の音を楽しむユニークな行事開く



江戸時代から酒造業などで栄えてきた人口20万人の伊丹市で、秋の虫の音を楽しむイベント「鳴く虫と郷町」を毎年実施している。江戸時代の庶民の風習「虫聴き」をテーマに、伊丹市昆虫館で実施された展示を、市街地の国指定重要文化財旧岡田家住宅を中心とした伊丹郷町界隈に拡大。約15種、3千匹が展示され、関連イベントは60を超える。スズムシを越冬させる「里親制度」など、準備から市民が深く携わる。口コミで広がり、京阪神から2万人以上が訪れている。

山王自治会

賞 第4回ブロック賞(近畿)

〒669-4273 兵庫県丹波市春日町国領 2038

小集落が太陽光発電で運営費捻出、特産品販売も



兵庫県丹波市の山あいにある約10世帯でつくる自治会。高齢者世帯にとって負担になる自治会費を、共有地に設けた太陽光発電の売電収入で賄おうと発案、収入によって自治会費の負担はゼロになり、公民館にエアコンを付け、トイレの改装もできた。耕作放棄地を利用したサンショウや小豆栽培、和菓子やサバ寿司づくりにも挑む。人口減が進む状況は厳しいが、新たな挑戦への機運が生まれ、小さな自治会の空気は明るくなってきた。

第5回(2014年度)

大賞・準大賞
選考の決め手

大賞「てごねっと石見」(島根県江津市)は、ビジネスプランコンテストなど、移住と起業を組み合わせる支援する取り組みが評価を受けた。準大賞「ゆうきの里東ふるさとづくり協議会」(福島県二本松市)は道の駅を活動拠点にした6次産業化や新規就農者の受け入れに注目。準大賞「酒谷地区むらおこし推進協議会」(宮崎県日南市)は地域挙げて農村を守る取り組みが、他の地域の参考になるとされた。



多言語センター FACIL (ファシル)

賞 第9回大賞

NPO法人

〒653-0052 神戸市長田区海運町3-3-8 たかとりコミュニティセンター内



地域社会と外国人コミュニティをつなぐ「コーディネーター」



阪神・淡路大震災を契機に、地域住民である外国人が必要とする情報の翻訳、生活現場で必要な通訳者の派遣など、地域の多言語環境を促進し、社会的課題の解決に向けた提言も行う。また、外国人を含む地域住民や行政、医療機関、地域企業などからの多言語・多文化ニーズにさまざまな形で応えるための企画を立案、実施する。登録通訳・翻訳者は約1300人で約60言語に対応する。

ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会

賞 第7回優秀賞

〒679-2111 兵庫県姫路市山田町多田 249



ジャコウアゲハをまちづくりに活用



兵庫県姫路市の市蝶・ジャコウアゲハをまちづくりに活用するため2013年に開かれた「ジャコウアゲハサミット」を

機に結成された。まちづくりグループ、民間企業など約30団体が加入。えさとなるウマノスズクサを市内各地で増やす活動や写真展、観察会などに取り組み、姫路駅前や街中でチョウが確認されるまでに。小学生向けにジャコウアゲハの卵・餌の観察キットを配布、依頼があれば小学校で講義をすることも珍しくない。桜を植え、憩いの場をつくる計画もある。

神戸農村歌舞伎保存会

賞 第5回ブロック賞(近畿)

〒651-1221 神戸市北区緑町3-2-42



農村歌舞伎を復活、普及に取り組む



神戸市の有志が1990年ごろから、子どもたちに歌舞伎を教えた活動が発点となった。阪神大震災で一時中断したが、

神社の境内などに残る古い歌舞伎舞台を再評価し、保存や活用にも力を入れてきた。回り舞台や花道などを備えたものもある。活動に共感した住民が舞台を新築し、住民のダンスなどの活動発表も行われるようになったケースも。市内で開く子ども歌舞伎講座や、女性中心の歌舞伎集団「神戸はこら座」、幼稚園児の歌舞伎衣装での豆まきなど親しみやすい歌舞伎の普及を進め、各地で喝采を浴びている。

奈良無想窯

(受賞当時：奈良無双窯)

賞 第5回優秀賞

〒633-0423 奈良県宇陀市室生田口元角川 394

地元の鉄分の多い土にほれ込み、窯を開く



室生寺などがある旧室生村（現宇陀市）に1993年に移住し、茶碗、花器といった焼き物の創作活動に取り組む。ここで採

れる鉄分の多い土にほれ込んだことが移り住むきっかけとなった。作風は奇をてらうことなく日常使いにこだわり、使えば使うほど心地よい風合いが出るという。県内外のギャラリーや百貨店で展示会を開催し、人気を博している。地元の小中学生らを工房に招き、陶芸体験教室を開くなど、地域活動にも積極的に取り組む。宇陀市のふるさと納税に返礼品として参加している。

大和信用金庫

賞 第3回優秀賞

〒633-0091 奈良県桜井市桜井 281-11



金利上乘せの定期預金など通じ河川浄化を支援

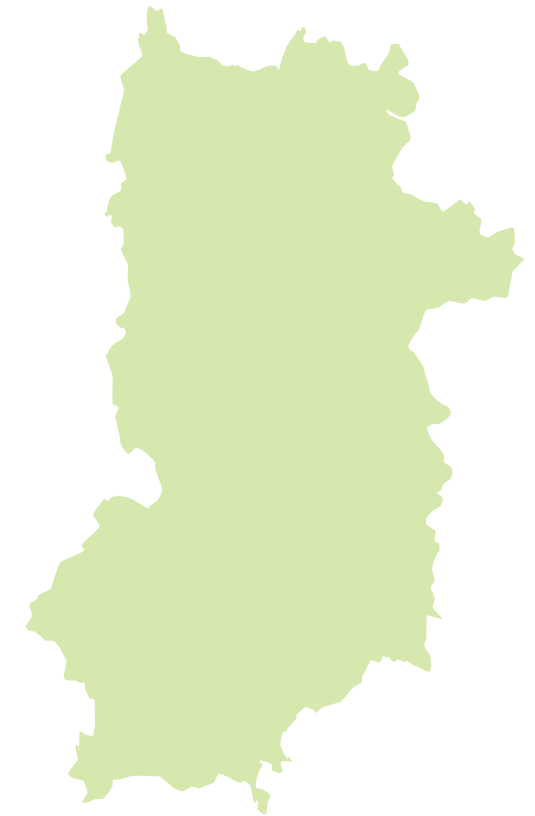


奈良盆地を流れる大和川は、全国でもとりわけ深刻な水質汚濁の問題を抱える。水質悪化は家庭からの生活排水が主な原因

で、排水量の削減が求められていた。このため、市民の意識向上につながれば、という思いから、水質の改善度合いに応じて金利を上乗せする「大和川定期預金」を創設。定期預金の預入総額の0.01%相当と役員員の寄付で基金を設け、大和川の源流体験ツアーなども開催している。

奈良

- チャレンジ企業支援隊
- 奈良中央信用金庫
- 大和信用金庫
- 竹茗堂 左文
- 奈良無想窯
- きみかげの森
- 奈良まほろばソムリエの会
- 南都銀行
- 奈良の食文化研究会
- ゼロ・キャンペーン事務局



きみかげの森

賞 第6回ブロック賞（近畿）

NPO法人

〒632-0113 奈良市都祁馬場町 566 番地



山林に広場を整備、音楽会など交流を進める



奈良市の北東部大和高原、都祁地域を拠点に豊かな自然環境と地域の文化に触れながら農山村と都市との交流を図り、耕

作放棄地や荒れた山林を蘇らせ、その過程を通じ、子どもや障がいのある人々に生きる力と希望を与えることを目指す。特産品をつくり販売、独自ブランドの開発に力を入れる。山林の谷間にステージを設けた「森のフェスタ」での会員らのコーラス披露、子ども向けの木工教室も。フェスタでの高校生の発表や、農業科で飼育している動物との触れ合いも予定している。

竹茗堂 左文

賞 第4回優秀賞

〒630-0101 奈良県生駒市高山町 6439-3



茶道に欠かせない茶せんを伝統技法でつくる



茶道において抹茶をたてるのに使う茶道具の一つである、茶せんづくりの老舗。茶せんは湯を加えた抹茶を茶碗の中でかき

回し、お茶を泡立てる道具で、繊維が細く、強くてよくしなる竹を用い作られている。比較的安価な中国製のものが大量輸入されていた時代もあったが、日本産の竹にこだわり、伝統的な工法を守ってきた。県内の奈良先端科学技術大学院大と竹の共同研究を行っている。

奈良中央信用金庫

賞 第2回優秀賞

〒636-0300 奈良県田原本町 132-10



中小企業向け助成金で地域経済を活性化



県内の中小企業を支援することで、地域経済の活性化に貢献することを目的とした「ちゅうしん地域中小企業振興助成金

制度」（愛称・グッドサポート）を2008年に創設。これまでの12年間で1263件の応募があり、117の企業などに総額8940万円の助成を行った。今では、進取の取り組みに熱心な受賞企業同士が連携し、近畿経済産業局の仲介による開放特許制度を利用した商品開発を進める事例も出てきている。

チャレンジ企業支援隊

賞 第1回優秀賞

NPO法人

〒630-8037 奈良市中町 5142-10



中小、ベンチャー企業のビジネスを専門家が支援

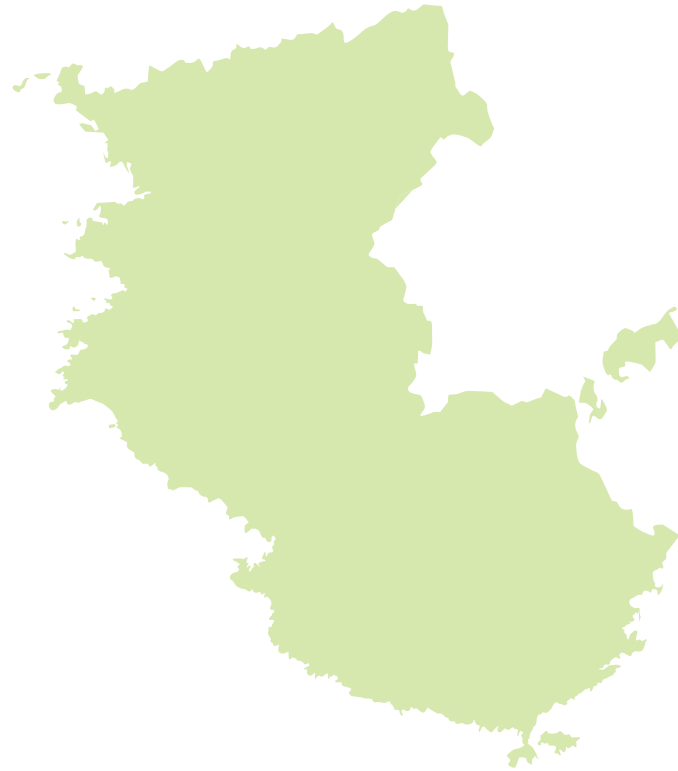


地元の中小企業やベンチャー企業などの支援を通じて、地域経済の活性化につなげようと、大手電機メーカーの退職者や、現役経営者らで立ち上げた。経営戦略、商品開発、IT技術などメンバーの実務経験に基づく専門性を生かし、きめ細かく相談に乗っている。奈良

県からの業務委託で支援隊として複数の女性を雇用し、女性の就業率向上にも貢献したことも。企業の経営者を招いた講演会など、学びにも力を入れている。

和歌山

- 色川地域振興推進委員会
- 秋津野
- 日高川漁業協同組合
- 黒江の町並みを活かした景観づくり協定
- 岩倉流泳法保存会
- 紀州農レンジャー
- 串本町トルコ文化協会
- 玉津島保存会
- 紀州藤白 鈴木屋敷復元の会



秋津野

賞 第2回ブロック賞(近畿) 農業法人株式会社
〒646-0001 和歌山県田辺市上秋津 4558-8
HP

かんぎつのまちで廃校活用しグリーンツーリズム



農家や住民ら500人近くが出資して設立した。特産のかんぎつ類を中心にソーシャルビジネスを進める。廃校を利用した

体験型グリーンツーリズム施設は、独立した直売所と合わせ、年間計12万人を集める。農業体験などでも県外から訪れる人も多く、地域経済を支える柱に育ってきた。大学や行政、さらには情報通信技術(ICT)企業と連携。人材育成や高齢化、交通インフラなど地域の問題を考える場づくりを進める。小水力発電、農業法人の確立など取り組みは幅広い。

色川地域振興推進委員会

賞 第1回特別賞
〒649-5461 和歌山県那智勝浦町大野 2228 番地 1
HP

山村のありのまま伝え定住体験、移住者を迎える



住民らが移住者の受け入れ組織を立ち上げ、地道に活動を展開。移住者は約320人の住民の半数を超えた。早くから集落

消滅の危機に向き合い、年1、2家族ずつ移住者を積み上げてきた。新しい住民は農林業に加え、民泊など起業に取り組む。路線バスは少なく小さな店しかない、空き家に住むには修理が必要などありのままを伝え、定住体験などを通じ、抱える課題を共に考える仲間として移住者を迎えてきた。“移住2世”が後を継ぎ、“3世”が生まれる家も始めている。

奈良の食文化研究会

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒630-8115 奈良市大宮町6丁目6-11
HP

奈良の郷土料理や地元食材を研究、県内外に発信



歴史文化が深く「和食の発祥の地」とも言える奈良の食文化を研究し、県内外に発信している。奈良の食は「奈良にうま

いものなし」とまで言われ、本来のおいしさがまだまだ知られていない。郷土料理の発掘と研究、地域の料理講習、食文化に関する講演会、食育シンポジウム、食文化に関する催しや、PRイベントへの参加などに取り組んでいる。奈良新聞に月1回、地域の食文化について取り上げたコラムを掲載しており、それらをまとめた本をこれまでに2冊出版した。

奈良まほろばソムリエの会

賞 第7回優秀賞 NPO法人
〒630-8217 奈良市橋本町3-1 きらっ都奈良2F
HP

奈良に精通し歴史・文化・観光の振興を図る



奈良を愛する会員が歴史・文化・観光に関する知識・経験を生かし、ガイドや講演など、さまざまな社会貢献活動を行う団体。

会員のほとんどが奈良のご当地検定「奈良まほろばソムリエ検定」(奈良商工会議所主催)の最上級資格「奈良まほろばソムリエ」の有資格者。2019年には寺院の情報をコンパクトにまとめた「奈良百寺巡礼」を出版。21年には奈良県内で詠まれた歌を紹介する「奈良万葉の旅百首」を出す予定だ。

ゼロ・キャンペーン事務局

賞 第10回優秀賞 一般社団法人
〒636-0246 奈良県田原本町千代 828
f

歯ブラシメーカー母体に、むし歯予防や出前指導



奈良県の中心に位置する田原本町で40年以上の歴史をもつ歯ブラシメーカーを母体とし、2019年に地域の子どもたち

のむし歯ゼロを目指して誕生した。地域のイベントへ参加、むし歯予防、口腔衛生に関する啓発、啓蒙活動やスポーツ少年団への歯磨きの出前指導、高校や大学の学生らとの意見交換や共催イベントの開催など地元を中心に活動が続いている。

南都銀行

賞 第8回優秀賞 株式会社
〒630-8677 奈良市橋本町 16
HP

地銀として観光業をはじめ地域産業活性化に努める



80年以上の歴史を持つ銀行で、奈良県に本店を構える唯一の地方銀行。2014年、政府の地方創生の動きに呼応し「公務・地域活力創造部」を新設、20年に「地域事業創造部」に改編。さまざまな活動を通じ、創業支援や企業誘致、観光業をはじめ地域産業の活性化に努める。古民家などの歴史的建築物を活用したまちづくり支援を行っているほか、20年には「NPO法人奈良まほろばソムリエの会」と連携協定を締結し、協同で観光振興に取り組んでいる。

紀州藤白 鈴木屋敷復元の会

賞 第10回優秀賞

〒642-0034 和歌山県海南市藤白 448 藤白神社内



「鈴木」姓ルーツの史跡復元に神社、財界が奮闘



2015年に「鈴木屋敷」を含む藤白神社境内が国史跡に指定されたことをきっかけに、文化的にも、観光資源としても貴重な

「鈴木屋敷」を守ろうと、同年、神社、地元経済界、商工会議所が協力して「鈴木屋敷復元の会」を設立した。「鈴木」の姓を持つ企業や個人を中心に、全国に復元への協力を呼び掛けている。22年には建物の建築に取りかかる予定で、準備を進めている。

串本町トルコ文化協会

賞 第8回優秀賞

和歌山県串本町



トルコとの友好図り舞踊や料理などの文化伝える



串本町は1890年に沿岸で起きたトルコの軍艦エルツールル号の遭難事故で、地元住民の懸命の救助、介抱により多くの乗員が帰国できたのを機に、トルコとの友好が続く。協会は両国を結んだ真心を次世代につなぐことを目的に設立され、トルコの民族舞踊や料理、手芸、言葉を学んでいる。両国友好のテーマの下、イベント開催時はもちろん、日頃から協会を中心に町民一丸となって盛り上がり、地域の活性化に貢献している。

命の救助、介抱により多くの乗員が帰国できたのを機に、トルコとの友好が続く。協会は両国を結んだ真心を次世代につなぐことを目的に設立され、トルコの民族舞踊や料理、手芸、言葉を学んでいる。両国友好のテーマの下、イベント開催時はもちろん、日頃から協会を中心に町民一丸となって盛り上がり、地域の活性化に貢献している。

岩倉流泳法保存会

賞 第5回優秀賞

〒640-8343 和歌山市吉田 778



武術が起源で、300年余り続く泳法を継承



江戸時代、紀州藩士の岩倉重昌が生み出した岩倉流泳法を継承する。日本水泳連盟が公認する日本泳法の一つだ。保存会のメンバーが伝統泳法の普及活動に取り組んでいる。さまざまな大会にも参加し、技術を磨いている。心身の鍛錬に加え、溺れないことを基本とし、海の波や川の水の流れに応じた泳法がそれぞれ楽しめる。幼稚園児からお年寄りまで計約100人が参加、遠泳や寒中水泳に取り組んでいる。傘下団体にNPO法人WISCがある。

江戸時代、紀州藩士の岩倉重昌が生み出した岩倉流泳法を継承する。日本水泳連盟が公認する日本泳法の一つだ。保存会のメンバーが伝統泳法の普及活動に取り組んでいる。さまざまな大会にも参加し、技術を磨いている。心身の鍛錬に加え、溺れないことを基本とし、海の波や川の水の流れに応じた泳法がそれぞれ楽しめる。幼稚園児からお年寄りまで計約100人が参加、遠泳や寒中水泳に取り組んでいる。傘下団体にNPO法人WISCがある。

日高川漁業協同組合

(受賞当時：日高川漁業協同組合日高川あゆ種苗センター)

賞 第3回優秀賞

〒649-1444 和歌山県日高川町松瀬 310



アユやアマゴの種苗を供給し、和風おかず商品化



1951年設立の漁協が、県内全域にアユとアマゴの種苗を供給している。地元の特産品にしようと、アユとアマゴの一夜干しの生産を始めた。観光客らに支持され、売り上げが伸びてきたが、製造現場の通年での雇用は難しかった。このため、常温で長期保存できるレトルトパックの和風おかずの開発に乗り出し、甘露煮や塩焼きなどの商品化につなげた。地域の販売所や旅館などで販売し、地元の雇用拡大に貢献している。

1951年設立の漁協が、県内全域にアユとアマゴの種苗を供給している。地元の特産品にしようと、アユとアマゴの一夜干しの生産を始めた。観光客らに支持され、売り上げが伸びてきたが、製造現場の通年での雇用は難しかった。このため、常温で長期保存できるレトルトパックの和風おかずの開発に乗り出し、甘露煮や塩焼きなどの商品化につなげた。地域の販売所や旅館などで販売し、地元の雇用拡大に貢献している。

第6回(2015年度)

大賞・準大賞
選考の決め手

大賞「かさおか島づくり海社」(岡山県笠岡市)は介護や買い物支援で島の暮らしを支える。準大賞「沼垂テラス商店街(テラスオフィス)」(新潟市)は衰退しシャッター街となった市場を若者が集まる場所に再生。準大賞「岡崎まちゼミの会」(愛知県岡崎市)は店主が化粧の仕方や工作などそれぞれの技術を伝え、消費者の関心を集める活動を広げた。いずれも地域づくりのモデルになると評価された。



玉津島保存会

賞 第9回優秀賞

〒641-0035 和歌山市関戸 3-5-12



イベントや講座、写真展重ね地元の名勝アピール



和歌山市の南部にある玉津島をはじめとする和歌の浦一帯は、京に住む貴族たちのあこがれの景勝地であり、歌枕ともなっている。伝統ある美しい景観を地元の人たちが誇りにし、いつまでも守っていこうと、清掃活動やイベントの開催など地道な取り組みを続けている。地域の文化財を守る3団体が協力して「NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構」を設立。高校生に間伐や木工体験をってもらう体験会も開いている。

和歌山市の南部にある玉津島をはじめとする和歌の浦一帯は、京に住む貴族たちのあこがれの景勝地であり、歌枕ともなっている。伝統ある美しい景観を地元の人たちが誇りにし、いつまでも守っていこうと、清掃活動やイベントの開催など地道な取り組みを続けている。地域の文化財を守る3団体が協力して「NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構」を設立。高校生に間伐や木工体験をしてもらう体験会も開いている。

紀州農レンジャー

賞 第7回優秀賞

〒649-6416 和歌山県紀の川市上野 92-14



無農薬・有機栽培の高付加価値農業に取り組む



レッドにピンク、深緑にブラウン…。それぞれが自分のカラーを持ち、未来の地球を守る正義の味方、それが紀州農レンジャーだ。無農薬・有機栽培の高付加価値の農業を行う。中には、蜂を使ってカメムシを駆除する天敵農法など先進的な農業に挑戦する人も。ブランド野菜に取り組み、「レンジャー野菜」と名付けて親しんでもらう。30代が中心となり、農業を襲う高齢化・過疎化とも戦っている。地域のイベントや、子どもたちへの食育にも積極的に取り組む。

レッドにピンク、深緑にブラウン…。それぞれが自分のカラーを持ち、未来の地球を守る正義の味方、それが紀州農レンジャーだ。無農薬・有機栽培の高付加価値の農業を行う。中には、蜂を使ってカメムシを駆除する天敵農法など先進的な農業に挑戦する人も。ブランド野菜に取り組み、「レンジャー野菜」と名付けて親しんでもらう。30代が中心となり、農業を襲う高齢化・過疎化とも戦っている。地域のイベントや、子どもたちへの食育にも積極的に取り組む。

黒江の町並みを活かした景観づくり協定(黒江ジャパン)

賞 第4回優秀賞

〒642-0001 和歌山県海南市船尾 222



町家を整備し漆器のまちらしい外観を次代へ



英語で「ジャパン」と呼ばれる漆器。黒江地区は日本の四大漆器産地の一つとされ、歴史的な町並みが残る。しかし空き家や空き地が増え始めことで、危機感を持った地元住民が立ち上がり「黒江の町並みを活かした景観づくり協定」を地区内で結んだ。略称は「黒江ジャパン」。地区外のサポーターも加わり、コンサートやクラシックスポーツカー関連などのイベント活動を展開。古民家を利用したレストハウスづくりの取り組みも始めた。

英語で「ジャパン」と呼ばれる漆器。黒江地区は日本の四大漆器産地の一つとされ、歴史的な町並みが残る。しかし空き家や空き地が増え始めことで、危機感を持った地元住民が立ち上がり「黒江の町並みを活かした景観づくり協定」を地区内で結んだ。略称は「黒江ジャパン」。地区外のサポーターも加わり、コンサートやクラシックスポーツカー関連などのイベント活動を展開。古民家を利用したレストハウスづくりの取り組みも始めた。

伯耆国たたら顕彰会

賞 第5回優秀賞

〒689-4503 鳥取県日野町根雨 616



地元で栄えた「たたら製鉄」を継承、発信



日野町、日南町を中心に栄えた「たたら製鉄」の歴史が消えてゆくことに危機感を持った有志が集まり、立ち上げた。

製鉄と当時の庶民の生活をわかりやすく伝えようと、鳥取県米子市在住の作家・松本薫さんが執筆した、小説「TATARA」を出版したほか、展示施設「たたら楽校」を開校した。移動できる「ミニたたら」を使い砂鉄から鉄を生成する実演会や、関係地の専門家が集まる「たたらフォーラム」の開催を通じて、地域の歴史資源の文化的価値を積極的に発信している。

智頭の森こそだち舎

(受賞当時：智頭町森のようちえん まるとんぼう)

賞 第3回優秀賞

NPO法人

〒689-1442 鳥取県智頭町大屋 407



自然の中で「見守る保育」発展、移住者呼び込む



「幼いころから自然と触れ合う機会を与え、自然の中でのびのび遊ばせたい」という親の思いから創設。「まるとんぼう」

「すぎぼっくり」の二つの森の幼稚園を運営している。町内の森を遊び場とし、子どもが自然の中で主体的に過ごすことを尊重、「見守る保育」を積極的に進めている。卒園後の居場所として「新田サドベリースクール」を開校した。森の子育てにひかれて移住する人は200人を超え、暮らし始めるためのシェアハウスも開設。今後、産院との連携も視野に入れる。

鳥の劇場

賞 第6回ブロック賞 (中国・四国)

NPO法人

〒689-0405 鳥取県鹿野町鹿野 1812-1



廃校の劇場で演劇を上演、文化拠点に成長



鳥の劇場は、2006年以来、鳥取県鹿野町で使われなくなった幼稚園と小学校を劇場に造り変え、演劇の拠点としている。

毎年9月に実施する「鳥の演劇祭」、海外の劇団やアーティストとの共同作業、障害者芸術への支援など活動は幅広い。近隣の学校では演劇を通じたワークショップの授業を実施、子どもたちに表現力や多様な物の考え方を教えている。地域に根差しつつ、地域の枠を超えた活動を展開し、演劇でしかできない形で地域に貢献することを目指している。

鳴り石の浜プロジェクト

賞 第4回優秀賞

〒689-2501 鳥取県琴浦町赤碕 1927-1



波で石が鳴る海岸を再発見、観光名所に育てる



高規格道路が開通して琴浦町の交通量が激減、「このままでは寂しい町になる」と危機感を持った地元有志が結成した。あまり知られていなかった「鳴り石の浜」と呼ばれる自然の海岸に着目。つるつるした丸い安山岩の石が積み重なった全国でも珍しい海岸で、打ち寄せる波で石が「カラコロカラコロ」と音を響かせる。「鳴る」が、物事が実現するなどを意味する「成る」を連想させるパワースポットとして全国から受験生や観光客が訪れる。祭りを開いたり、海岸にヒマワリの花を植えたりする活動にも取り組む。

鳥取

- 若桜鉄道 隼駅を守る会
- 二部地区活性化推進機構
- 智頭の森こそだち舎
- 鳴り石の浜プロジェクト
- 伯耆国たたら顕彰会
- 鳥の劇場
- 白鳳の郷地域活性化協議会
- 元気みなと
- 三朝温泉かじか蛙保存研究会
- シーセブンハヤブサ



二部地区活性化推進機構

賞 第2回優秀賞

〒689-4233 鳥取県伯耆町二部 1562-1



宿場町の歴史を案内、ハロウィーンイベントも



中山間地の二部地区はかつて、出雲街道の宿場町として栄えた歴史をもつ。しかし、高齢化や人口減が進み、住民はまちの

活力を取り戻そうと立ち上がった。米子市の青果市場と連携した野菜の販売開拓を進めるほか、山菜や農産物などを味わう会を開催。街道の歴史ガイドも引き受ける。10月のハロウィーンの時期には、子どもたちが地元産のカボチャをくり抜き、中にろうそくを入れ、路上に並べるイベントを開いている。

若桜鉄道 隼駅を守る会

賞 第1回優秀賞

〒680-0405 鳥取県八頭町隼郡家 268-2



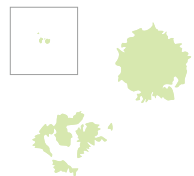
大型バイクによるまちづくりで三セク存続目指す



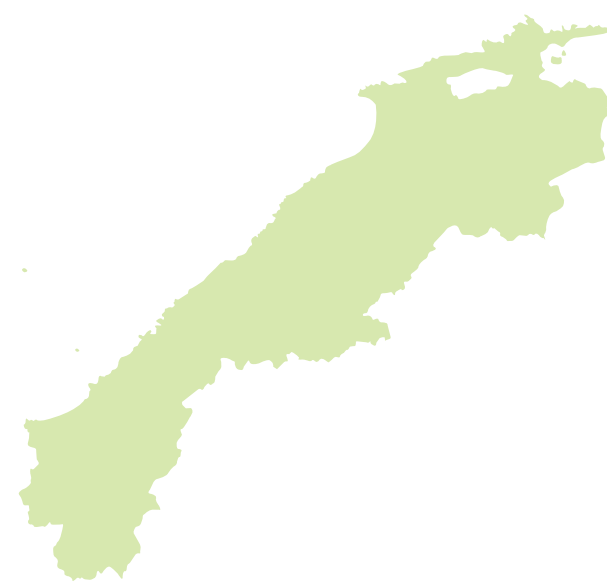
第三セクター・若桜鉄道の存続と周辺地域の活性化を目的に地元住民らが結成した。隼駅と同名であるスズキの大型バイク

「ハヤブサ」にちなんで「バイクのまちづくり」を掲げ、環境整備に取り組む。毎年8月、約2500台のハヤブサライダーたちが全国から集結し、地元住民と交流する「隼駅まつり」を開催している。また若者たちがカフェレストランや、古民家を活用したゲストハウスをオープン、ライダー、鉄道ファン、住民の絆を強めている。

島根



- 萩の会
- 谷自治振興会
- プロジェクトゆうあい
- てごねっと石見
- 松江ツーリズム研究会
- 神門通り甕りの会
- おっちラボ
- サウンドファイブ夢の音会
- 地域・教育魅力化プラットフォーム



谷自治振興会

賞 第2回優秀賞
〒690-3514 島根県飯南町井戸谷 478-1 谷公民館
HP f

予約制バスや雪かき活動展開、高齢化集落を維持



山々に囲まれ、高齢化の影響が深刻な地域で住民の互助機能の低下を補うため、全世帯をメンバーに組織した。有志が運転

手を買って出て、高齢者らの買い物や医療機関への足となる送迎バス「せせらぎ号」を運行。雪に閉ざされる冬季には、高齢者世帯の雪かき代行も実施し、住民による互助の仕組みをつくっている。廃校となった小学校を改修し「谷笑楽校」をオープン。地域の交流拠点として神楽を舞うイベントを年2回開催したり、定期的にかフェを開いたり、機能している。

萩の会

賞 第1回優秀賞 株式会社
〒698-1211 島根県益田市匹見町匹見イ 597-1

ブルーベリー軸に集落で会社、都市と交流楽しむ



高齢化が進み、農地の荒廃が目立ち始めた1998年「空き家を出さないために何かできないか」と、ボランティア団体として立ち上げた。地区で栽培するブルーベリーを収穫、加工したジャムなどの販売が好調となり、繰越金が発生したことなどから2006年に株式会社に移行。「無理せず、楽しむこと」を社訓とする。子どもを対象に「縄文体験」や、ブルーベリーの収穫体験を企画し、都市部との交流も活発に進める。地域へのUターンも受け入れている。

手を買って出て、高齢者らの買い物や医療機関への足となる送迎バス「せせらぎ号」を運行。雪に閉ざされる冬季には、高齢者世帯の雪かき代行も実施し、住民による互助の仕組みをつくっている。廃校となった小学校を改修し「谷笑楽校」をオープン。地域の交流拠点として神楽を舞うイベントを年2回開催したり、定期的にかフェを開いたり、機能している。

三朝温泉かじか蛙保存研究会

賞 第9回優秀賞
〒682-0199 鳥取県三朝町大瀬 1203-1 三朝郵便局内

美声のカジカガエルを守ろうと川や森を整備



三朝温泉では初夏になると、川辺からカジカガエルの美しい鳴き声が響く。清流を守っているのが、かじか蛙保存研究会だ。約40年前に「かじかの声を聞く会」として発足したが、カジカガエルが減り始め、鑑賞会から保護活動に力点を移した。清流の源流域に広葉樹を植樹して環境保全を図っている。豊かな自然の営みを循環させてカジカガエルの楽園を守り抜いた。毎年6月には川

辺に席を設け、美声に耳を傾ける会を開いている。

シーセブンハヤブサ

賞 第10回ブロック賞（中国・四国） 株式会社
〒680-0404 鳥取県八頭町見槻中 154-2
HP f

廃校を改修した複合施設を運営、人材育成拠点に



無人駅近くの小学校だった建物を、シェアオフィス、カフェ、ショップが入った複合施設「隼Lab.（ラボ）」としてオープンした。起業を支援し、投資、IT企業、地域商社が拠点を構える。オープンエリアでは、若い母親や高齢者を巻き込んだイベントがめじろ押しだ。「日本の未来のモデルになる田舎をつくる」を理念とし、起業家育成講座を通じて人材育成拠点を目指す。地域に根付いた活動を展開、過疎の町に年間4万人以上が訪れる拠点となった。

無人駅近くの小学校だった建物を、シェアオフィス、カフェ、ショップが入った複合施設「隼Lab.（ラボ）」としてオープンした。起業を支援し、投資、IT企業、地域商社が拠点を構える。オープンエリアでは、若い母親や高齢者を巻き込んだイベントがめじろ押しだ。「日本の未来のモデルになる田舎をつくる」を理念とし、起業家育成講座を通じて人材育成拠点を目指す。地域に根付いた活動を展開、過疎の町に年間4万人以上が訪れる拠点となった。

白鳳の郷地域活性化協議会

賞 第7回優秀賞
〒689-2305 鳥取県東伯郡琴浦町槻下 975
HP f

歴史遺産を掘り起こし、住民の連帯感創出



鳥取県のほぼ真ん中、琴浦町で2009年、地域の有志が立ち上げた。国の特別史跡など地域内の歴史遺産の掘り起こし

や、環境美化、地域住民の連帯感創出の場づくりに、精神的に活動を展開。耕作放棄地にモチ米やソバを栽培・販売する。地元特産の「鳥取県芝」発祥の地であることを知らせるため、芝生産をしている畑でプレーするグラウンド・ゴルフ大会を毎年実施。過度に補助金に頼らない財政モデルも確立、薄れていた地域の連帯感を取り戻した。

元気みなと

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒684-0004 鳥取県境港市大正町 62 番地 1
f

魚のオブジェで海岸通りの景観形成、にぎわい創出



境港市のみなとさかい交流館から海とくらしの史料館までの全長2.5kmの海岸通り（旧元気みなと商店街を含む）を「おさ

かなロード」と命名、境漁港にゆかりのある「おさかなオブジェ」を複数設置し、2017年「港湾協働団体」に指定された。ご当地グルメの開発や食のイベントに参加、実施している。また地元出身者の顕彰事業なども開催し、海岸通りの景観形成と、地元・境港のにぎわいの創出を図る。

地域・教育魅力化プラットフォーム

賞 第10回記念賞 一般財団法人
〒690-0886 松江市母衣町 83-5 母衣町ビル 3階
HP f

島留学を拡大、都会の高校生を県全域で受け入れ



隠岐の高校に全国から生徒を呼び込む取り組みを「地域みらい留学」として島根県全域や全国に拡大するため、2017

年に一般財団法人を設立した。地方と都市の生徒が刺激し合う濃密な3年間に生徒の意欲を育み、ひいては地域の活性化につなげることを目指す。若者流出が深刻なブータンでも活動する。コロナ禍ではオンラインを活用、週末にどこにいても参加できる地域留学説明会や、高校生らが社会人と語りながら自分たちの未来を考える勉強会を開催している。

おっちラボ

賞 第8回準大賞 NPO法人
〒699-1332 島根県雲南市木次町木次 29 三日市ラボ
HP f

山あいの地で人材育成、ユニークなビジネス創造



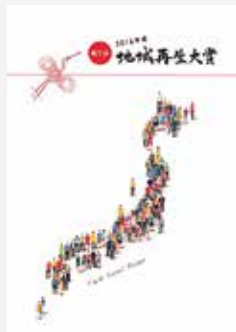
人口減少や高齢化が進む山あいの地で、産業の担い手育成を続ける。市が始めた人材育成塾の運営を受託、多彩な講師を

招き開業も支援、県内外から集まった塾生のプラン実現を目指す。地元素材を生かしたカフェや、お年寄り向けに買い物と組み合わせた運動指導などユニークなビジネスも。Uターンした看護師らが始めた訪問看護ステーションは会社化し軌道に乗った。アイデアを形にする仕掛けづくりを広げる。

第7回 (2016年度)

大賞・準大賞
選考の決め手

大賞「都岐沙羅パートナーズセンター」(新潟県村上市)は、行政や住民、企業を取り持ち、地域づくりを進めた実績が高く評価された。準大賞「東北開墾」(現ポケットマルシェ、岩手県花巻市)は生産者の思いや努力を伝える情報誌とともに農水産物を届けるアイデア。準大賞「パーソナルアシスタント青空」(愛媛県松山市)は、障がい者と自然栽培の農業に挑み、耕作放棄地を活用するなどして経営を軌道に乗せた成果が目目された。



サウンドファイブ夢の音会

賞 第9回優秀賞
〒697-0303 島根県浜田市金城町久佐ハ 295-13
HP

バンド活動が発展、拠点を整備し都市と交流



バンド活動などを通じた地域づくりから取り組みを開始。結成50周年を超え、会員は20~60代の約40人。拠点として整備した「夢の音村」や「森の公民館」で都市部住民との交流を図っている。劇作家の生誕地であることを切り口に、森の公民館周辺から「島村抱月生誕地顕彰の杜」までの県道約11kmの沿線で民泊受け入れ農家30軒を目指すなど、グリーンツーリズム推進に力を入れる。山菜やイノシシなど地域の食材を使った「ばあば級グルメ」レストランも企画している。

として整備した「夢の音村」や「森の公民館」で都市部住民との交流を図っている。劇作家の生誕地であることを切り口に、森の公民館周辺から「島村抱月生誕地顕彰の杜」までの県道約11kmの沿線で民泊受け入れ農家30軒を目指すなど、グリーンツーリズム推進に力を入れる。山菜やイノシシなど地域の食材を使った「ばあば級グルメ」レストランも企画している。

松江ツーリズム研究会

賞 第6回優秀賞 NPO法人
〒690-0887 松江市殿町 43 番地 カラコ工房 3階
HP f

島根の魅力発信、観光振興につなげる



観光振興に的を絞った島根県内初のNPO法人として2005年に発足。小泉八雲の著作「怪談」ゆかりの地など、地域の観光

資源を生かした着地型旅行を企画、実施する一方、松江城や小泉八雲記念館などの指定管理も担ってきた。18年からは日本銀行旧松江支店の建物「カラコ工房」の指定管理者として同施設の運営に専念。18年末までの剰余金で、非営利型の一般財団法人松江ツーリズム研究会基金を設立し、島根の観光振興に貢献した人々を表彰する事業(松江ツーリズム研究会観光大賞、副賞金100万円)を展開している。

神門通り甦りの会

賞 第7回優秀賞
〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町 1-42-202

出雲大社の門前町を復興



全国屈指の参拝者を誇る出雲大社。2013年の遷宮が終わり、より自立した街づくりを目指す。衰退していた門前町「神

門通り」を復興するため、大社地区以外の「よそ者」が立ち上がり、神門通り甦りの会を結成。観光案内、空き店舗の活用促進を進め、新規出店を促した。「縁結び」をテーマに、歩ける門前町を行政や住民と一緒に取り戻した。出雲大社はうさぎと縁があり、神社とともに「うさぎプロジェクト」を企画、来客に通りを回遊してもらう企画に今後取り組む。

プロジェクトゆうあい

賞 第4回ブロック賞(中国・四国) NPO法人
〒690-0888 松江市北堀町 35-14
HP f

情報機器を駆使して障がい者らに優しいまちに



障がいの有無にかかわらず、誰もが自立して暮らせる地域づくりが目標。約120人のスタッフのうち半数近くが障がい者

だ。視覚障がい者向けの音声案内装置や移動支援アプリの開発、車いす使用者向けに歩道の段差や多目的トイレなどを記したバリアフリーマップ作成などの事業を展開。就労訓練の一環として古本のネット販売や、パソコンのリサイクルにも取り組む。障がいがある子どもの放課後等デイサービスで学習や生活を指導。行政だけでなく民間も一緒に社会を変えていこうと、さまざまな団体と連携を進める。

てごねっと石見

賞 第5回大賞 NPO法人
〒695-0011 島根県江津市江津町 1517-35
HP f

江津市を拠点に創業を目指す人々を支援



経営者、市職員、商店会マネージャーが集まり、創業を目指す若者らを支援し定住につなげようと立ち上げた。てごねっ

とは地元の方で「手伝い」を意味する「てご」をネットワークを合わせた造語。地域資源を活用した起業を後押ししようと江津市が始めた「ビジネスプランコンテスト」の企画、運営にあたる。また県内外で市民活動に参加している人や移住者らが学び合う「GO▶つくる大学」、駅前の交流施設「パレットごうつ」の運営、地域ぐるみで小中高校生のキャリア教育を進める事業などに幅広く取り組む。

かさおか島づくり海社

賞 第6回大賞 NPO法人
〒714-0301 岡山県笠岡市北木島町 9768-29



七つの島の住民生活を全面支援、特産品開発も



人口流出と高齢化に直面する岡山県笠岡市の七つの島で住民有志が立ち上がった。保育園運営や介護事業、買い物支援など

を行政と連携し、全面的に展開する。住民のつながりを深めるため毎年5月、「島の大運動会」を開催、島外に住む出身者も集まる。瀬戸内の魚から三宅島の火山灰を使って余分な水分や臭みを除去した干物「魚々干（とっとぼし）」、埼玉県草加市のせんべい店と提携した「瀬戸の島のりせんべい」など特産品開発にも力を入れる。

大賞・準大賞
選考の決め手

第8回（2017年度）

大賞「陽気な母さんの店」（秋田県大館市）は、行政の補助金に頼らず農産品の加工・販売の売り上げを伸ばす主婦らの取り組みが評価された。準大賞「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」（東京都豊島区）は子ども食堂の草分けで、勉強を教えるなど居場所づくり活動が新たなモデルになった。準大賞「おっちらボ」（島根県雲南市）は研修を重ねて若者の起業を支援。医療・介護の事業を軌道に乗せるなどした。



西粟倉・森の学校

賞 第4回準大賞 株式会社
〒707-0504 岡山県西粟倉村長尾 461-1



起業から10年 地域資源にさらなる価値を



面積の95%が森林で「百年の森林事業」に取り組む岡山県西粟倉村に、2009年10月、設立された。自社工場で丸

太を製材する工程から、一貫した生産体制でプロ向けの建材・DIYユーザー向けオリジナル商品などの生産・販売をしている。また周辺地域とのネットワークを生かした原木や製品の流通、大型建築物への木材供給など地域林業の発展・地域資源の価値を最大限に引き出すことを目的に事業を行っている。

矢掛ハッカ普及会

賞 第5回優秀賞
〒714-1201 岡山県矢掛町矢掛 3042 番地 1 矢掛放送内



地元で栽培されていたニホンハッカが復活



矢掛町をはじめ、岡山県南部地域はかつてニホンハッカの一大産地だったが廃れてしまった。2010年に地元の河川敷

に自生しているのを確認し、復活。「真美緑」「博美人」「秀美」として商標登録し、ハッカ油を抽出する蒸留所も開設した。ジェラート、あめ、お茶、焼酎などの商品化を進める。ハッカが利いたカクテル「モヒート」も人気を集め、県内や首都圏の飲食店などで楽しむことができる。日本のハッカ栽培の発祥地とされる岡山から再び、全国ブランドを目指す。

岡山

- 倉敷町家トラスト
- 勝山のお雛まつり実行委員会
- かんなぎ
- 西粟倉・森の学校
- 矢掛ハッカ普及会
- かさおか島づくり海社
- てっちりこ
- タブララサ
- 川辺復興プロジェクトあるく

かんなぎ

(受賞当時：吉備野工房ちみち)

賞 第3回優秀賞 NPO法人
〒719-1124 岡山県総社市三須 796-1



温故知新と刷新！地域に根差した幸せづくり



吉備の自然・歴史・文化が育んだ精神性を継承し、備中神楽をはじめ、現存する地域資源を共に創意工夫して魅力を高め、市民が地域に誇りや

喜びを感じて暮らせるまちづくりの推進、文化・産業の振興に寄与することを目的とし、ゲストハウス総社かぐらやの運営、レンタルスペースやキッチンで野花や発酵・薬膳の知識などを楽しく学び共有できる場づくり、幸せの鍵である隣人とのつながり、コミュニティづくりを行っている。

倉敷町家トラスト

賞 第1回準大賞 NPO法人
〒710-0053 岡山県倉敷市東町 1-21



江戸～昭和の町家を生かし、SDGs達成を目指す



江戸から昭和初期の古い町家が残る美しいまちなみを守ろうと、市民らが立ち上がった。古い空き家を町家生活が体験できる

宿泊施設などに改装。かばん店や帽子店などの出店も仲介し、にぎわい創出につなげる。高校生と空き家再生も行う。周辺地域の団体とネットワークを構築して始めた「町家 de クラス」というイベントでは、お茶や日本画の教室やさまざまな暮らしの体験プログラムを実施し、保存の意義を理解してもらい、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指す。

勝山のお雛まつり実行委員会

賞 第2回優秀賞
〒717-0013 岡山県真庭市勝山 70-3 真庭商工会勝山支所



城下町の軒先に江戸時代から現代までのひな人形

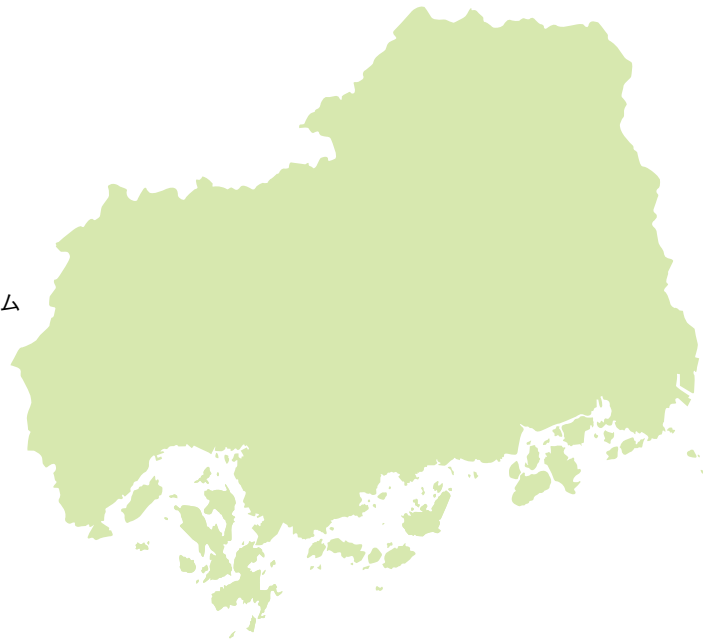


岡山県北部に位置する真庭市の中心地域・勝山地区は城下町として栄え、情緒ある民家や商家のまちなみが保存されてい

る。この景観を生かして毎年3月の桃の節句に、それぞれの家が工夫を凝らし、おひなさまを飾るイベントを開催している。商工会女性部が指導して、毎年、住民が新しいひな人形も作成する。家々の軒先には、江戸時代から現代までのさまざまなおひなさまが展示され、全国各地から観光客を集めている。

広島

- 工房おのみち帆布
- ブルーリバー
- 自治組織「共和の郷・おだ」
- 広島県立油木高校ナマズプロジェクトチーム
- 西中国山地自然史研究会
- 新建自治会
- 寺領味野里
- 尾道空き家再生プロジェクト
- 川西郷の駅
- 敷信村農吉



ブルーリバー

賞 第2回大賞 有限会社
〒728-0024 広島県三次市青河町 582-1
HP

住民が会社設立、割安の住宅提供し若者定住促す



廃止の危機に直面した地元の小学校を立て直そうと住民が出資して有限会社を設立、移住者を受け入れる住宅の建設を始めた。新築・改装を合わせて13棟の住宅は満室状態が続き、小学校の児童も維持できる見通しが立った。経営を安定化させようと太陽光発電の売電事業も開始。地区内の荒地を購入、住民が出資して運営するレストランができ、都市と住民の交流の場になっている。単なる人口の取り合いにならないよう、周辺地域との広域連携を模索する。

工房おのみち帆布

賞 第1回優秀賞 NPO法人
〒722-0035 広島県尾道市土堂2丁目 1-16
HP f

港町ゆかりの帆布で小物・バッグを製造・販売



港町の尾道はかつて、帆船用の布である帆布の製造が盛んだったが、化学繊維など新素材の台頭で廃れていった。市内に唯一残った帆布製造工場に着目し、服飾小物やバッグ作りに乗り出した。2003年にNPO法人化した後、市内の商店街に店舗を構え、年間2万人が訪れる観光スポットに育った。帆布の原料の綿花栽培や、同じ地元の資源でもある柿渋で染めた帆布でバッグや小物を作り、尾道の伝統産品の魅力を発信する。

UNOICHI 実行委員会

賞 第9回ブロック賞（中国・四国）
〒706-0001 岡山県玉野市
f

瀬戸内海の魅力発信、市民、移住者、学生ら参加



宇野港を拠点に瀬戸内海の魅力を発信しようと2014年から「UNOICHI 海が見える港のマルシェ」を開催してきた。

玉野市民、移住者、大学生らが参加し、高校生もボランティアとして協力。18年には実行委員会の高校生がプラスチックゴミの削減などによる海洋環境保全を目指す「SOS プロジェクト」を立ち上げた。コロナ禍でも清掃活動、エコグッズの企画・販売などできることに取り組む。20年秋には「瀬戸内海海ゴミフォーラム in おかやま」に代表が出席、思いを語った。

川辺復興プロジェクトあるく

賞 第10回優秀賞
〒710-1313 岡山県倉敷市真備町川辺
f

豪雨被害を機に、母親らが生活支援や地域づくり



西日本豪雨で浸水被害を受けた倉敷市真備町の東部にある川辺地区で、子育て世代の母親らを中心に結成した。プレハブ

の拠点を開設して、住民への支援物資配付や地域外のみなし仮設住宅に出た人らとのつながりづくり、住民アンケートなどをしてきた。各家庭が分散避難する「マイ避難先」へのルートを考える啓発、子育て世代向けの「防災おやこ手帳」の作成なども。イベント開催など地区を支える核にもなっている。2020年の熊本豪雨では義援金や物資を素早く支援した。

てっちりこ

賞 第7回優秀賞 NPO法人
〒708-0431 岡山県鏡野町河内 60-8 みずの郷奥津湖内
HP

古くから栽培されるトウガラシ商品を開発



地元で古くから栽培されていたトウガラシを「姫とうがらし」と名付けてドレッシングやしょうゆなどの商品開発に取り組

み、食を切り口にした地域おこしで注目されている。栽培のしやすさ、鳥獣害の少なさも特長。ホームページでの通信販売や、地元特産のゆずや山椒のコミュニティビジネスも展開している。6次産業化を通じて中山間地域でのビジネスの可能性を切り開くとともに、過疎・高齢化で衰退しつつある農業の活性化にも一役買っている。

タブララサ

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒700-0962 岡山市北区北長瀬表町 2-17-80 プランチ北長瀬 110 ハッシュタグ内
HP f

若者のエコの要素導入、岡山が“すき！”な気持ち高める



活動の原点は岡山市中心を流れる川沿いの西川緑道公園。こんなことがしたい！を大切に、まちの人、地域の商店とのつ

ながりを深めながら、リサイクルキャンドルを使った西川キャンドルナイトを毎年開催している。結婚式場で使ったキャンドルをリサイクルすることで環境配慮の気持ちとともに、幸せをシェアする Happy Share Candle 事業、楽しい思い出の場であるイベントから出るごみの削減に取り組むリユース食器の貸出事業「エコスマ」（エコをスマートに）など、中山間地域にも場を広げながら活動を続けている。

川西郷の駅

賞 第9回特別賞 株式会社
〒728-0621 広島県三次市三若町 2396 番地
HP f

住民が株式会社を設立、産直農村コンビニを運営



近くに買い物ができる施設がなくなった三次市川西地区で85%の住民が出資して株式会社を設立。

2017年、ファミリーマートと提携し、地元農作物の産直市を兼ねた農村コンビニ「川西郷の駅 いつわの里」を開業した。主婦らがつくる草餅や柏餅は売り切れてしまう人気商品に。うどんなどを食べられる軽食コーナーもあり、住民の交流の場となった。「住みたいと思える町」の拠点に育て、過疎の歯止めを目指している。

寺領味野里

賞 第7回優秀賞
〒731-3824 広島県安芸太田町寺領 1668

地元特産の柿でスイーツ開発、世代交代に成功



平均年齢80歳を超すおばあちゃんを中心に運営してきた。2001年に地元特産の祇園坊柿を使ったスイーツ「チョコちゃん」を開発し、生産を続けている。12年、町観光協会と連携し、高付加価値化事業を展開。著名なパティシエの協力で製造工程を改革し、パッケージも刷新。15年には「おみやげグランプリ」で準グランプリを受賞した。世代交代が進み8人のメンバーのうち、以前からは1人だけ。平均年齢は70歳前後に若返り、期待を背負って生産に励んでいる。

敷信村農吉

賞 第10回優秀賞 株式会社
〒727-0014 広島県庄原市板橋町 1358-1
f

保育所を住民ら運営。給食に地元農産物、販売も



人口3万5千人、広島県最北部の庄原市で地域住民の声から生まれた。出生数の減少で統廃合と民間委託の計画が進んでいた

地域の保育所を、自分たちで運営するためだ。地域の農産物を給食に取り入れる中、販売にも事業を拡大。中国地方最大の都市、広島市内のデパートやレストランに無農薬、減農薬の農産物を届ける。ネット販売にも力を入れる。農村の特色を生かし、子育て可能な環境と雇用を確保するモデルとして注目されている。

尾道空き家再生プロジェクト

賞 第8回ブロック賞(中国・四国) 認定NPO法人
〒722-0031 広島県尾道市三軒家町 3-23
HP f

空き家を再生し、新たなまちの魅力を発信



坂と路地のまちに増える空き家。このままでは古い建物や特徴ある景観は失われてしまう。危機感をもった市民が立ち上がり、2008年にNPO法人を設立した。再生を手掛けた空き家は20軒以上。カフェやギャラリーなど新たな観光資源になった。市から受託した空き家バンクでは、若者たちの移住を呼び込み、成約は100軒以上に。空き家を改修した宿泊施設を移住者の雇用の場とするなど工夫し、定住に成果を上げている。

西中国山地自然史研究会

(受賞当時：芸北せどやま再生会議)

賞 第5回優秀賞 NPO法人
〒731-2551 広島県北広島町東八幡原 10119-1
HP f

山林所有者が伐採した木を買い取り、加工販売



林業の不振や後継者不足、商店街の不振などの課題を解決しようと住民が立ち上がった。地元の山林所有者が伐採して持

ち込む木を買い取り、加工してまきストーブの利用者や、温浴施設に販売する独自の流通システム「せどやま市場」を開いた。エネルギーの地産地消と、荒廃が進む山林の手入れを両立させている。地元の商店だけで使える地域通貨「せどやま券」で木を買い取り、その利益を地域内で循環させることで、地元経済の活性化につなげている。

新建自治会

賞 第6回優秀賞
〒731-0222 広島市安佐北区可部東 6-7-39-6
HP f

サロンの運営や警報メールを活用し防災対策



75人が犠牲になった2014年8月の広島土砂災害。被災した広島市安佐北区の新建団地の自治会は、独自性あふれる方法で「安心・安全な団地」を目指している。住民の絆を深めようと、主婦たちがカフェや女子会を設立。自治会理事の自宅には雨量計を設置し、自ら避難基準を設けるなど災害対策を進め、年2回の避難訓練を実施している。約190世帯のうち約140世帯がメール連絡網に登録、素早い注意喚起、安否確認を目指す。

自治組織「共和の郷・おだ」

(受賞当時：共和の郷・おだ)

賞 第3回特別賞
〒739-2207 広島県東広島市河内町小田 2182
HP

住民が「小さな役場」をつくり農業にも取り組む



住民で「小さな役場」をつくり分担して専門部会を組織、人口減や高齢化に挑む。農村振興部が中心とな

って調査し「10年後には農業をやめているかもしれない」と心配する声を受け、農事組合法人が設立され、大型機械を入れるなど効率化や品質向上に取り組んだ。また地域の基本目標を支える7本の柱と77項目の地域ビジョンを設定し、ビジョンの具現化に向け取り組んでいる。一方で進む高齢化に対し、アンケートに基づいて部会や役員体制を再編、持続可能な在り方を探る。若い世代の呼び込みや空き家対策にも力を入れる考えだ。

広島県立油木高校ナマズプロジェクトチーム

賞 第4回優秀賞
〒720-1812 広島県神石高原町油木乙 1965
HP

放棄地活用、特産品目指し高校生がナマズ養殖



中山間地の神石高原町は、高齢化に伴い耕作放棄地が年々増加。放棄地の有効活用と特産品をつくらうと、比較的手間が掛からないナマズ養殖に目を付けた。生徒が代替わりしながら、養殖・加工技術を磨き、地域への普及を図る。全長30~50センチに育ったナマズは、天井や蒲焼きとして学園祭などで振る舞う。月に1回、学校近くの道の駅でナマズ料理を提供。ナマズの燻製加工や、冬の成長をよくするビニールハウスでの飼育、ふんを肥料として同時に水耕栽培するアクアポニックスへの取り組みも始めた。

青海島共和国

賞 第6回優秀賞

〒759-4106 山口県長門市仙崎 2874

HP

廃校を活用し農業・漁業の体験観光を実施



日本海に浮かぶ青海島では、少子化と人口流出で閉校した小学校を拠点に、周辺を「共和国」に見立てて住民が地域おこし

を仕掛けた。教室を迎賓館や“国立”博物館として活用、釣りや魚のさばき、キャンプを体験できる修学旅行が盛況。特産の仙崎かまぼこを、白身魚をおろすところから始め、バーベキューで食べるプランが人気だ。東京などから年間4千人が訪問。特産品の開発販売や耕作放棄地でのもち米栽培、民泊などに取り組み、元気な島づくりを進めている。

防府商工会議所

賞 第4回優秀賞

特定認可法人

〒747-0037 山口県防府市八王子 2-8-9

HP

「幸せます」を発信、世界記録の神輿パレードも

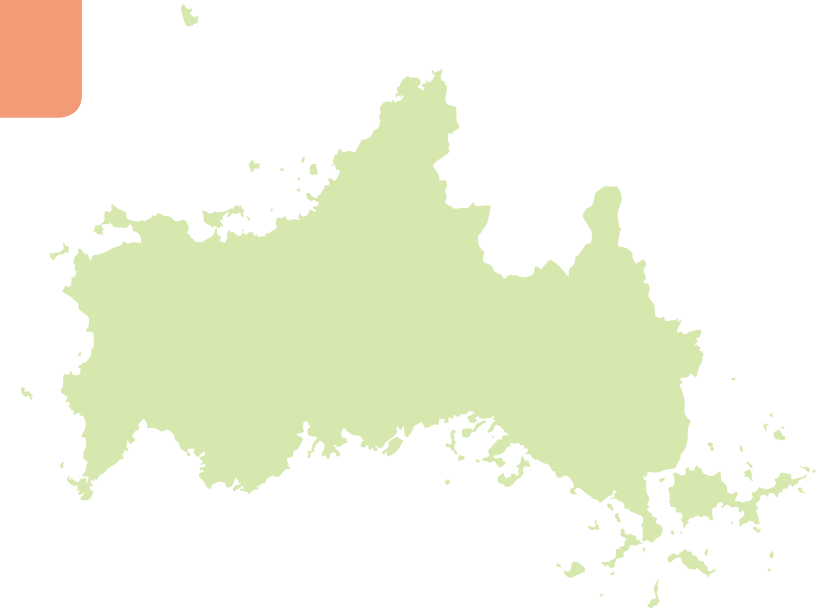


方言で「ありがたい」「助かります」を意味する地域ブランド「幸せます」のロゴを生み、商品開発を手掛ける。市とブランドをPRするため2018年4月29日に「最大の連続した神輿パレード」のギネス世界記録を達成した。

ゴールデンウィークの「春の幸せますフェスタ」で企業・団体・学校が計100基の神輿をつくり、1700人がパレードした。記録は性別不問だが、ご当地の天神おんな神輿が30年続いていることもあり、女性だけの神輿で達成したことも話題となった。

山口

- ジブンノオト
- 麦川安全・安心見守り隊
- 防府商工会議所
- 浜崎しっちゃん会
- 青海島共和国
- 大道理百笑倶楽部
- 創生工房 仁保ヴィレッジ
- 山口狒犬楽会
- 福川こどもクラブ



第9回 (2018年度)

大賞・準大賞
選考の決め手

大賞「多言語センターFACIL」(神戸市)は、外国人のための医療機関での通訳や行政文書の翻訳などを続け、住民の多様化が進む現代にふさわしい取り組みとされた。準大賞「きらりよしじまネットワーク」(山形県川西町)は住民が出資し特産物づくりから買い物支援まで幅広く活動した農村活性化のモデル。準大賞「いけま福祉支援センター」(沖縄県宮古島市)は主婦らが離島で介護事業を行っている。



浜崎しっちゃん会

賞 第5回優秀賞

〒758-0022 山口県萩市浜崎町 77 番地

f

商家の家並み残る城下町をガイド、イベント開催



浜崎地区には、萩市の中でも江戸時代の商家の家並みが残る。景観を守り魅力を全国に発信しようと、地元有志が結成。メンバーが観光ボランティアガイドとして古地図などを手に地区を案内する。新鮮な魚の天ぷらや干物、和菓子の食べ歩きも。年1回のイベント「浜崎伝建おたから博物館」では、商家に伝わっている吉田松陰の書や、坂本龍馬の名前が入った萩焼など「お宝」を家の中などに展示。朝市開催や国史跡「旧萩藩御船倉」でのコンサートなどにも取り組む。

メンバーが観光ボランティアガイドとして古地図などを手に地区を案内する。新鮮な魚の天ぷらや干物、和菓子の食べ歩きも。年1回のイベント「浜崎伝建おたから博物館」では、商家に伝わっている吉田松陰の書や、坂本龍馬の名前が入った萩焼など「お宝」を家の中などに展示。朝市開催や国史跡「旧萩藩御船倉」でのコンサートなどにも取り組む。

麦川安全・安心見守り隊

賞 第2回優秀賞

〒759-2214 山口県美祿市大嶺町奥分 188-2

児童の登下校を住民見守り、無事故記録を続ける



子どもの安全を守ろうと地元有志で結成した。隊員は子どもたちを集合場所から小学校まで毎日送り、通学路に3カ所ある信号のない交差点では横断を手助ける。児童らは学校前の交差点を渡り終えると、校門近くにある隊員手づくりの「交差点無事故記録」の掲示板の数字を新しくする。月1回の集団下校の際には、班員が児童を自宅まで送り届ける。メンバーは約20人で、散歩の途中に高齢者宅を訪問したり、下校時にも児童を見守ったりして、地域の安全に寄与している。2020年9月24日で10410日無事故。

子どもの安全を守ろうと地元有志で結成した。隊員は子どもたちを集合場所から小学校まで毎日送り、通学路に3カ所ある信号のない交差点では横断を手助ける。児童らは学校前の交差点を渡り終えると、校門近くにある隊員手づくりの「交差点無事故記録」の掲示板の数字を新しくする。月1回の集団下校の際には、班員が児童を自宅まで送り届ける。メンバーは約20人で、散歩の途中に高齢者宅を訪問したり、下校時にも児童を見守ったりして、地域の安全に寄与している。2020年9月24日で10410日無事故。

ジブンノオト

(受賞当時：島スタイル)

賞 第1回優秀賞

株式会社

〒742-2514 山口県周防大島町大字神浦 63

HP

100年続くふるさとをつくるキャリア教育



高齢化率日本一を記録していた山口県周防大島町に、2004年にUターンした若者が、島おこしの組織を立ち上げ起業

支援を始めた。13年に「100年続くふるさとをつくる」を経営理念とした小中高・大学生を対象としたキャリア教育の株式会社を創設。周防大島町を拠点に、広島県教委「個別最適な学びに関する実証研究事業」や、岡山県教委「おかやま創生 小中学校パワーアップ事業」等を受託し、教育ビジネスを成長させている。20年には教育オンラインサロン「探究島」を開設し、教育を仕事にする人を育てている。

徳島

- グリーンバレー
- 徳島共生塾一歩会
- 新町川を守る会
- アニメまつり実行委員会
- 伊座利の未来を考える推進協議会
- いろどり
- とくし丸
- 鳴門「第九」を歌う会
- 阿波農村舞台の会
- 大歩危・祖谷いってみる会



徳島共生塾一歩会

賞 第2回優秀賞 NPO法人
〒779-1121 徳島県阿南市那賀川町黒地 158-4
HP

四国遍路の世界遺産化や地域の環境問題に取り組む



団体名には、地域の環境や文化を通して、「まちづくり」に「一歩一歩取り組む」という思いを込めている。コミュニティー

の再生を目指し、「身近な環境や文化を守り、次世代につなげること」を合い言葉に、現在「四国遍路の世界遺産化」とポケットパークの整備や自然公園のパトロールなどの「環境問題」を2本柱に活動を行っている。とりわけ、ハンディのある人たちや外国人のための「遍路ウォーク」、「お接待」「遍路道のクリーンアップ」などに力を入れている。

グリーンバレー

賞 第1回優秀賞 認定NPO法人
〒771-3310 徳島県神山町神領字中津 132
HP

「人」コンテンツにクリエイティブな田舎づくり



「日本の田舎をステキに変える!」を掲げ、芸術や文化の力で地域の魅力を創出。国内外の芸術家を毎年秋、町に招き、創作活動を支援する「神山アーティスト・イン・レジデンス」を20年以上も毎年開催。アーティストをきっかけとして、多様な人材を受け入れてきたことで、さまざまな新規事業やプロジェクトが町に自生。今後もその流れを加速させるべく、新しいことに常にチャレンジを続けている。その取り組みは、地域活性化のモデルとして全国から注目を集め続けている。

山口狛犬楽会

賞 第9回優秀賞
山口県周南市
HP

個性豊かな狛犬を通して地元を愛する気持ちを醸成



神社などでよく目にするものの、地域ごとに特徴があることや由来など、知られていなかった狛犬に着目して、これまでに

山口県内で千組余りの狛犬を調査してきた。春と夏には狛犬を巡りながら地域の文化や自然に親しむイベント「狛犬ウォーク」を開催する。地元ケーブルテレビ局の人気番組「狛さんぽ」や動画投稿サイトで狛犬の調査結果や地域の魅力を発信、海外にも伝えている。

大道理百笑倶楽部

賞 第7回優秀賞
〒745-0242 山口県周南市大道理 1153
HP

棚田集落に芝桜、遊歩道や展望所を手作りし交流



人口400人、その半数以上が高齢者の集落に、棚田と10万本の芝桜を見ようと、毎年5万人が訪れる。作ったのは6

戸の農家で始まった「百笑倶楽部」。農作業を軽減しようと畦に防草シートを張る際、芝桜を植えようと思いついた。デザインは専門学校の若者に依頼し、3年がかりで完成した。芝桜まつりは、手作りの遊歩道や展望所に加え住民との交流が魅力。活動の輪が広がり、元気な高齢者にひかれ移住する若者も出てきた。

福川子どもクラブ

賞 第10回優秀賞
〒746-0062 山口県周南市福川中市町 6-27

海や川、山の自然を生かした「子ども探検隊」育成



身近にある海や川、山などの自然環境を生かした「子ども探検隊」の活動に十数年にわたって取り組んでいる。毎年30

人程度の小学生が参加。専門家の指導や、ボランティアサークルの大学生の協力の下で、沢登りや洞窟探検など、普段はできない「冒険」を体験することができる。活動に参加することで地域や自然への愛着が増し、定住する若者も出るなど、地域活性化や人材育成に貢献している。

創生工房 仁保ヴィレッジ

賞 第8回優秀賞
〒753-0302 山口市仁保中郷字中桑原 32
HP

農と食を基盤に地域のさまざまな人が交流



閉鎖されることになった山口県環境緑化園(7.6畓)を、残された500種類の樹木や花木を利用し地域の拠点として整備した。「歩く」「食べる」「育てる」をキーワードに、周辺農家や婦人団体、学校などのさまざま

な人が参加、農と食を基盤とした情報交換や交流をしている。地域の大学と協力し、村内で育てているオリーブやドクダミ、ヨモギなどを活用した健康茶といった特産品開発にも取り組む。新規就農、さらには農業への理解を深める「きっかけ」の場として多岐にわたる活動にチャレンジする。

阿波農村舞台の会

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒770-8063 徳島市南二軒屋町2丁目3番3号 林建築事務所内

HP

人形浄瑠璃でまちが変わる



県内の神社境内に数多く残る芝居小屋「農村舞台」を調査、活用を図り、人形浄瑠璃の振興や地域の活性化につなげる。舞台

の多くは過疎、高齢化が進む山間部にあるが、にぎわいを創り出し地域住民の自信と誇りを取り戻す。会が設立された2003年以降、6カ所の舞台で復活公演が実現した。14年から人形浄瑠璃の上演施設「徳島県立阿波十郎兵衛屋敷」を指定管理者として運営、人形浄瑠璃や農村舞台の動画配信、吉野川クルーズや藍染め施設との連携、3Dプリンターを使った木偶制作、特産品販売など活動の幅を広げる。

とくし丸

賞 第7回優秀賞 株式会社
〒770-0846 徳島市南内町1-65-1 リバーフロント南内町3F

HP

高齢者を対象に移動スーパー事業を立ち上げ



食料を買いに行けない高齢者が増えている。人口減少、車社会の進展、相次ぐ郊外への大型店進出などにより、地域から

店が次々と消えているからだ。買い物に困っている高齢者らは「買い物弱者」「買い物難民」と呼ばれる。この社会的な課題に向き合い、2人の男性が徳島で移動スーパー事業を立ち上げた。その名は「とくし丸」。北海道から沖縄まで、すべての都道府県を走っている。

大歩危・祖谷いってみる会

賞 第10回優秀賞 一般社団法人
〒778-0102 徳島県三好市西祖谷山村善徳33-1

HP

宿泊施設が結末、外国人誘客に成果。波及効果も



大歩危・祖谷地区にある五つの主要宿泊施設が2000年に設立した。昔ながらの景観や歴史、暮らし、もてなしを大

切に誘客に力を入れている。外国人宿泊者は12年には2千人余りだったが、19年には2万人を超えた。移住者の増加など波及効果も大きい。地域の認知度も高まり、米大手旅行雑誌が選ぶ「2018年に訪れるべき50の旅行地」に、祖谷溪が日本で唯一、入った。コロナ禍の間は地域清掃や新メニュー開発に力を入れた。

鳴門「第九」を歌う会

賞 第8回優秀賞 認定NPO法人
〒772-0017 徳島県鳴門市撫養町立岩五枚244

HP

全国からの合唱仲間と「第九交響曲」演奏会



第1次世界大戦中に徳島県鳴門市にあった板東俘虜収容所では、人道的な収容所運営や地域住民との温かな交流を背景にドイツ兵捕虜によってベートーベンの「第九交響曲」がアジア初演された。1918年6月1日だった。この史実を後世に伝えていこうと、毎年6月、全国から集う合唱仲間と共に、鳴門市で第九演奏会を開いている。初演100年の2018年には記念演奏会を開催。20年のコロナ禍では動画で合唱を公開、第九を通して平和と友愛のメッセージを発信している。

伊座利の未来を考える推進協議会

賞 第5回ブロック賞（中国・四国）
〒779-2107 徳島県美波町伊座利 伊座利漁業協同組合内

HP

漁村のよさ体験、留学・就業で人を呼び込む



人口約100人の漁師町で「なにもないけど、なにかある」をキャッチフレーズに結成。児童、生徒数の減少で地域の

小中学校が廃校になる恐れが出て、住民が都市部から子どもを受け入れる漁村留学に乗り出した。受け入れた子どもは優に100人を超える。1日漁村体験イベントを開くほか、特産の伊勢エビを使った料理が味わえる「イザリCafe」を開設。店には県内外から年間約1万人が訪れる。

いろいろ

賞 第6回選考委員長賞 株式会社
〒771-4501 徳島県上勝町福原字平間71-5

HP

料理に添える葉を集め出荷、産業の柱に育成



人口約1500人、65歳以上の高齢化率は53%。典型的な山あいの過疎の町、徳島県上勝町で1986年、

日本料理に添える「つまもの」を商品化した葉っぱビジネス「彩（いろいろ）」がスタートした。約150軒の農家が携わり、年間売り上げは2億6000万円に上る。中には年収1000万円という人もいる。比較的作業が軽めのため多くの高齢者が携わることができ、一人一人の表情を輝かせた地域ビジネスとなっている。

新町川を守る会

賞 第3回優秀賞 認定NPO法人
〒770-0832 徳島市寺島本町東1-17

HP

浮遊ゴミの清掃などで河川を整備、周遊船も運航



「市民の汚れた川は市民の手できれいに再生しよう！」との思いから地元有志で結成。徳島市中心部の新町川や周辺の河川

で、ボートに分乗して浮遊ゴミを網で回収するなど清掃活動に取り組む。中心市街地を囲む河川の周遊船をほぼ毎日、無料運行（保険料は必要）し、市民や観光客に人気。不法係留されているボートや桟橋撤去も進める。国道沿いには年3回たくさんの花を植える。世界各国のボランティアが活動に参加、カップルも誕生した。「水都」にふさわしい世界に開かれたまちづくりを目指す。

アニメまつり実行委員会

賞 第4回優秀賞 徳島市

HP

市街地で春秋にアニメイベント「マチ★アソビ」



徳島を盛り上げようと、毎年春と秋の2回、アニメイベント「マチ★アソビ」を開催。期間中、徳島市中心市街地が「アニメー色」に染まり、3日間で約8万人が集まる。アニメキャラクターの衣装で着飾ったコスプレイヤーが、レッドカーペットを敷いた商店街のアーケードを歩くファッションショーのほか、人気声優のライブ、トークイベントやアニメ原画展などが開催される。

四国こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会

賞 第5回優秀賞
〒766-8502 香川県琴平町榎井 817-10



文化財の芝居小屋を公演を続けながら保存



国指定重要文化財、旧金毘羅大芝居（通称：金丸座）は、日本有数の歴史を誇る芝居小屋だ。毎年春、四国こんぴら歌舞

伎大芝居公演が開催され、江戸時代末期そのままの風情を残す舞台上で演目を披露する。年に1度の公演に、全国からファンが訪れ、町は歌舞伎一色に染まる。初日には、町内を役者が練り歩く「お練り」もある。町民の熱意で文化庁を動かし「重要文化財を活用しながら保存する」という国内では珍しいケース。運営の大半は、ボランティアが支え、町民の誇りとなっている。

瀬戸内こえびネットワーク

(受賞当時：瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」)

賞 第3回優秀賞 NPO法人
〒760-0019 高松市サンポート 1 番 1 号



継続した活動で、瀬戸内国際芸術祭と島を支える



瀬戸内海の島々で開催される3年に1度の現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」。その間の取り組み「ART SETOUCHI」の

運営を担い、島のサポーターとして運動会や祭りなど地域の手伝いを行うボランティア「こえび隊」の事務局となって国内外から多くのサポーターを受け入れている。島のレストランやカフェの運営、通年で行われるイベントやガイドツアーの企画なども行う。島民、アーティスト、行政・民間組織などを緩やかにつなぐ中間支援組織。

街角に音楽を@香川

賞 第6回優秀賞 一般社団法人
〒760-0025 高松市古新町 1-4 WINDビル 103



音楽家らを招き多彩な事業で新たな活気を



行政、民間と協働、ハイレベルのミュージシャンやアーティスト、パフォーマーらを招いている。活動は2007年、香川

県高松市の中心部、高松丸亀町商店街の壱番街再開発事業完成を機にスタート。「MUSIC BLUE（瀬戸内の青に響く）」をコンセプトに、音楽を通じて人々が交流し、母性的な本質をもった風土の瀬戸内に、独自の地域文化が創造できるよう活動している。JR高松駅のコンコースにストリートピアノを置く「街角の友達ピアノプロジェクト」も実施した。

直島女文楽

賞 第4回優秀賞
〒761-3110 香川県直島町 1122-1 直島町教育委員会



女性だけで人形浄瑠璃を演じ、伝統を守る



全国的にも珍しい、女性だけで構成される人形浄瑠璃の一座。江戸時代、幕府の直轄領であった直島は芸能が盛んに行

われてきたが、明治時代の初期に下火となる。文楽も途絶えていたが、昭和23年に女性のみで再興された。地元の主婦ら約15人が町のイベントや高齢者施設の慰問などで公演している。漁船を人形遣いの足隠しに使い、細やかな動作と華やかな衣装が特徴だ。瀬戸内国際芸術祭でも公演し、地域の文化の伝承に力を入れている。

香川



- 高松丸亀町商店街振興組合
- 丸亀市川西地区自主防災会
- 瀬戸内こえびネットワーク
- 直島女文楽
- 四国こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会
- 街角に音楽を@香川
- アーキペラゴ
- まちづくりネットワーク Re:born.K
- サンポート高松トライアスロン大会実行委員会
- 肥土山農村歌舞伎保存会

丸亀市川西地区自主防災会

賞 第2回優秀賞
〒763-0092 香川県丸亀市川西町南 428-1



地震に備え住民が訓練、防災日本一のまち目指す



南海トラフ巨大地震に備え「わが街はわが手で守る」を掲げ、住民で結成した。防災には「人づくり」

が重要と考え、地元の小中学校、高校の児童・生徒に定期的に訓練を実施。将来の減災・防災活動のリーダーに育ってほしいとの狙いからだ。災害時の情報を正確に早く収集し、伝達できるようにと、約30台の無線機を整備する。支援がなくても7日間の生活に耐えられるよう、食品、水、毛布の備蓄を拡大。月1回の情報伝達訓練を行い、地域を挙げて防災活動に取り組んでいる。

高松丸亀町商店街振興組合

賞 第1回ブロック賞（中国・四国）
〒760-0029 香川県高松市丸亀町 13-2 丸亀町ビル 4階



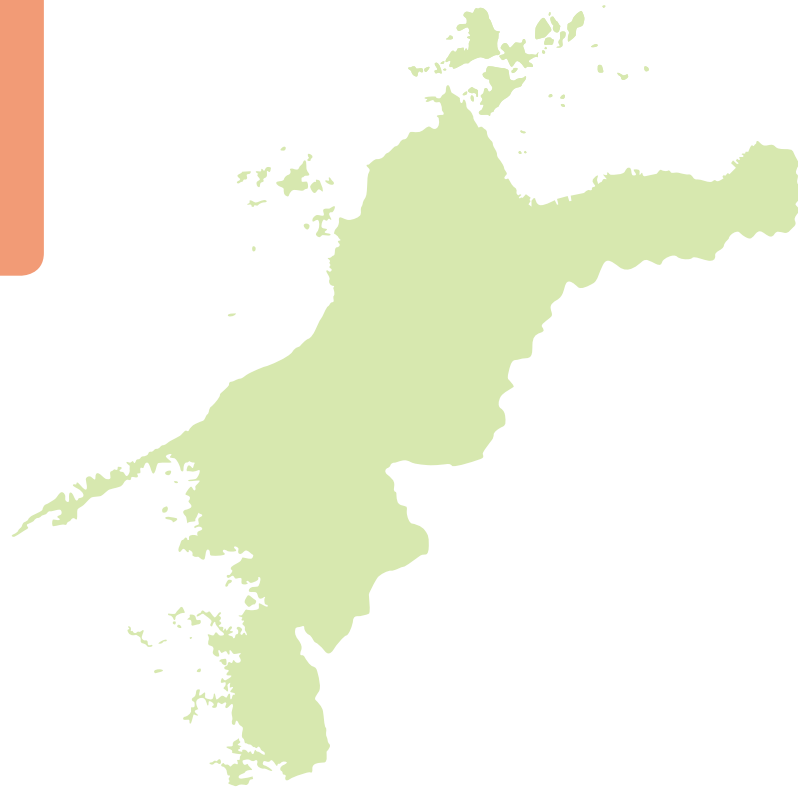
まちづくり会社が商店街丸ごと運営、医食住が柱



郊外店に押されていた歴史ある商店街の魅力を高めようと、地権者が定期借地権で貸し出した土地を、商店主らが設立したまちづくり会社が一括で管理・運営する仕組みで再開発に取り組む。「所有権と利用権の分離」は、商店街の新たなモデルとなった。再開発の3本

柱は「医、食、住」で、医療施設や高齢者向け住居、病院が管理するレストランなどを整備。街の機能を高め、コンパクトシティにつなげる。街はにぎわいを取り戻し、若い世代の居住者も増えてきた。

愛媛



- 能島の里
- 俳句甲子園実行委員会
- 今治焼豚玉子飯世界普及委員会
- 坊っちゃん劇場
- 農音
- 愛媛県立長浜高校水族館部
- パーソナルアシスタント青空
- 和田重次郎顕彰会
- 翼学園
- シクロツーリズムしまなみ

俳句甲子園実行委員会

賞 第2回優秀賞 NPO法人
〒790-0014 松山市柳井町 2-21-3 グリーンフィールドヒラオカ
HP f

高校生の俳句大会が全国規模に、商店街も活性化



1998年から毎年夏、松山市で全国の高校生を対象にした俳句コンクール「俳句甲子園」を主催する。5人一組のチーム

で参加し、予選リーグ、トーナメント、決勝リーグを経て決勝戦まで、質疑応答を交わしながら俳句の創作力や鑑賞力を競う。「試合」会場には市内中心街の通りを使うなど、商店街の活性化にも一役を買う。ボランティアを中心に運営。正岡子規を生んだ俳句のまちの魅力を全国へ伝えている。

能島の里

(受賞当時：能島の里を発展させる会)

賞 第1回優秀賞 NPO法人
〒794-2203 愛媛県今治市宮窪町宮窪 4703
HP

海賊ゆかりの景勝地で潮流体験、特産品を発信



瀬戸内海でも屈指の景勝地である宮窪瀬戸を一望できるカレイ山を拠点に有志が活動する。「村上海賊」ゆかりの地だった

歴史と、10ノットを超える速さの潮流を漁船に乗って実感する体験、非常に硬いことで知られる花崗岩「大島石」や地元で栽培しているイチジクなどの特産品を組み合わせ、県内外からの観光客を集める。一角をエコミュージアムとして整備、景観全体を「潮流美術館」と称し、地域の魅力発信に取り組む。6次産業化を進めるため店舗も運営する。

サンポート高松トライアスロン大会実行委員会

賞 第9回優秀賞
〒760-0018 高松市天神前 1-28
HP f

市民ボランティアを中心に運営、国際大会も招致



日本一の「まちなか大会」を目指し、民間主導で2010年にスタート。最初は沿岸の通りだけだったが、13年から目抜き

通りもコースに。五輪代表選考につながるポイントを獲得できる「アジアカップ」も誘致、住民や企業、行政などを巻き込み発展した。20年はコロナ禍で中止となったが「リモート・トライアスロン」を開催。参加者は各自の練習コースで3種目をこなしたタイムを掲げた写真をSNSに投稿、モチベーションを保つ。

肥土山農村歌舞伎保存会

賞 第10回優秀賞
〒761-4151 香川県土庄町肥土山甲 2037
HP

農村歌舞伎を若手住民が上演、子どもだけの演目も



小豆島に江戸時代から300年以上にわたり受け継がれてきた「農村歌舞伎」を若手住民らが毎年、上演している。肥土山

離宮八幡神社の境内には木造の「肥土山の舞台」（国指定重要有形民俗文化財）があり、そこで毎年5月3日に保存会の役者部会のメンバーが中心となって全4幕を演じている。中には子ども役者のみが出演する演目もあり、大人顔負けのせりふ回しと所作に機軸を埋めた観客からは盛んな拍手とともにおひねりが飛ぶ。

アーキペラゴ

賞 第7回選考委員長賞兼ブロック賞（中国・四国）
NPO法人
〒760-0062 高松市塩上町 1-2-7 ミュキビル 1・2F
HP f

芸術家の幼稚園派遣などアートを活用した街づくり



2002年にNPO法人「INS香川」として設立。09年1月、法人名を英語で多島海という意味を持つ「アーキペラゴ」

に改め、アートを活用したまちづくり、地域おこしを行う。主な事業に、芸術士（アーティスト）を幼稚園、保育所などに派遣する事業と、県産品PRの「さぬきマルシェ」、環境啓発活動。瀬戸内海の島を舞台に10年から始まった瀬戸内国際芸術祭「漆の家プロジェクト」の運営も手掛けている。

まちづくりネットワーク Re:born.K

(受賞当時：観音寺まちなか活性化プロジェクト Re:born.K)

賞 第8回優秀賞
〒768-0067 香川県観音寺市坂本町 1丁目 1-25 観音寺商工会議所内
HP f

地域紹介番組のネット配信や若者が関わる事業展開



香川県西部の町・観音寺のまちなかを活性化しようと、商店主や市民らで組織した。まちの人・店・魅力などを紹介する番組「今宵もはじまりました」をネット配信するほか、Shop in Shop（店の中に店を）や、若い世代に関わってもらう「銭形高校」の運営を手掛けるなど、多彩で楽しい事業を通じ、人や組織、文化などの地域資源をつなげ、活用することで、まちなかの交流人口の拡大を図っている。

翼学園

(受賞当時：えひめ心のつばさ)

賞 第9回奨励賞

NPO法人

〒790-0047 松山市余戸南3丁目3-39



長期欠席の子どもの支援し、学校復帰を実現



小学校でのいじめを解決するために1985年に活動を始め、大勢の子どもをいじめから救い、円満解決して学校へとつな

げた。その後も35年間変わらず、学校に行くことがつらいと感じる子どもの支援を続けている。さまざまな理由で学校に行けなくなってしまった子どもの問題を解決し、これまでに690人以上の子どもの学校復帰を実現。彼らは今も元気で、実社会で活躍している。

パーソナルアシスタント青空

賞 第7回準大賞

株式会社

〒790-0942 松山市古川北3丁目4-32



障がい者とともに無農薬・無肥料の自然栽培



障がい者とともに農薬や化学肥料を一切使わない自然栽培農業を展開する。耕作放棄地を農地に戻し、ネットなど販路を独自

に確立、米や野菜、果物は「青空ブランド」として販売している。障がい者には一人一人に合った働き方をしてもらう。2016年には「一般社団法人農福連携自然栽培パーティー」を設立、全国の約100団体が加盟してノウハウを共有し、アフリカなど海外にも指導の輪を広げる。介護事業や放課後等デイサービスなどにも取り組む。

農音

賞 第5回記念賞

NPO法人

〒791-4506 松山市宇和間927



移住者を受け入れ、ミカンブランドを再興



松山市沖の中島でバンドマンの若者がミカン農家に転身。WebサイトやSNSなどで島暮らしの情報を発信して、共感した

約70人が移住。地方で若者が減り、都会には生活に疲れた若者がいる。疲れた若者が地方に移れば、双方にプラスになるのではという。住民と移住者の交流も深める。農音が取り組む農地は約22haになった。空き家バンクやツーリズム、援農や農業の第三者継承にも取り組み、若者の移住を通して地域の新しいモデルづくりを目指す。

今治焼豚玉子飯世界普及委員会

賞 第3回優秀賞

〒794-0024 愛媛県今治市共栄町2-2-20



B級グルメをてこに、地域の良さを各地にPR



焼豚玉子飯は、今治市内の中華料理店のまかない料理として生まれ、厨房で人気があったことから、店のメニューとなった。

井にご飯をよそい、スライスした焼き豚をたつぷりのせる。その上半熟の目玉焼きをさらにのせ、甘いいたれをかける。焼き豚の厚さや部位、玉子の焼き方、たれは各店舗でそれぞれ特徴があり、違いを楽しむことができる。この井を目当てに訪れる観光客も増え、ご当地グルメが地域経済の活性化につながっている。B-1グランプリにも入賞する人気者だ。

シクロツーリズムしまなみ

賞 第10回優秀賞

NPO法人

〒794-0026 愛媛県今治市別宮町8-1-55



自転車文化振興に臨時列車や施設、イベント企画



瀬戸内しまなみ海道の自転車文化振興へ、開通10周年の2009年4月、今治市に設立。自転車を乗せられる臨時列車の

運行や市内の観光地ガイドツアー、サイクリングマップ作製、サイクリスト休憩所設置などに取り組んできた。14、18年に市内にゲストハウスをオープンし、自転車健康づくり講座、幼児ランニングバイク大会も開催。来島海峡でのシーカヤックツアーなど活動の舞台を海にも広げる。

和田重次郎顕彰会

賞 第8回優秀賞

〒790-0823 松山市清水町2-18-7



アラスカで活躍した探検家をテーマに地域づくり



アラスカやカナダで活躍した、愛媛県出身の探検家和田重次郎は、アラスカ開拓で大きな足跡を残していたが、幼少期に過

ごした母親の故郷・松山市日の出町では、その存在が埋もれていた。和田重次郎顕彰会は、地元の公園に顕彰碑を建立し、町内会と協力して地元のイメージアップを推進。地元の小中学校に講師を派遣し、生徒が公園の清掃活動に参加している。また、アラスカでミュージカル公演を行うほか、重次郎像が建立されるなど、海外にも広がりを見せている。

愛媛県立長浜高校水族館部

賞 第6回優秀賞

〒799-3401 愛媛県大洲市長浜甲480-1



校内水族館で地域に活力、研究成果も



存続が危ぶまれた県立高校が特色づくりの目玉として、かつて地元のシンボルで住民が再建を夢見る水族館を1999年、

校内に開設、活気をもたらしている。世界の高校生らが集う米国での国際学生科学技術フェアで「イソギンチャクはなぜカクレマノミを刺さないか」という研究が上位入賞。応用したクラゲよけクリームは商品化された。水族館部の活躍は「赤い橋のある町で」として映画化、漫画「熱帯魚は雪に焦がれる」のモデルにもなっている。

坊っちゃん劇場

賞 第4回優秀賞

〒791-0211 愛媛県東温市見奈良1125



地域の歴史や偉人を題材にミュージカル上演



愛媛県内の食品加工会社経営者が、文化事業による地域貢献を目的に2006年、自主制作の作品を年間通して上演する

ミュージカル常設施設を設立。四国や瀬戸内の歴史や文化、偉人をテーマにオリジナルミュージカルを作り、同一演目で1年間上演し、年間7~8万人の観客を集める。地元企業、教育機関と連携し、演劇講座やワークショップなども展開し、地域の文化向上に大きく貢献している。

久礼大正町市場協同組合

(受賞当時：久礼大正町市場)

賞 第5回優秀賞

〒789-1301 高知県中土佐町久礼 6523-1



明治時代からの商店街活用、観光客・住民が支持



土佐のカツオ漁師町として知られる中土佐町で、古くは庶民の台所として栄え、明治時代から続く長さ約500mの商店街が

観光スポットとして注目を集める。観光客が店先に出ている魚介類や総菜などを選び、自分好みの丼に仕立てる「久礼丼」(要予約)が人気だ。コロナ禍では地産地消に注目。大漁で安くなった新鮮な魚の情報などをデジタル発信、長時間営業が難しい高齢者が経営する店でも早く買ってもらえるようにする工夫に取り組んでいる。

黒潮実感センター

賞 第3回ブロック賞(中国・四国) NPO法人

〒788-0343 高知県大月町柏島 1



海洋調査や体験学習を続け「里海」づくり目指す



高知県西南端の大月町・柏島で、海の調査研究活動や環境保全、さらに環境教育、地域の活性化に取り組む。子どもたちを

受け入れてシュノーケリングや釣りを楽しみながら海の良さを発信。漁業者とダイビング業者の共存に力を尽くすなど、生活に密着した「里海」に目を向けた活動に力を入れる。アオリイカの「里親制度」も導入。産卵床を購入した里親にイカが贈られる仕組み。産卵床は森林組合の協力で間伐材を利用し、海と山の連携も進める。

室戸市木炭振興会

賞 第6回優秀賞

〒781-6741 高知県室戸市羽根町甲 1966



製炭技術磨きや研究生受け入れ、後継も育成



土佐備長炭の生産者が2007年に設立、製炭技術の研究と伝承、後継者育成などに取り組んでいる。04年に中国が木炭

の輸出を規制したことから、国産需要が拡大。振興会は市内外から研修生を受け入れ、技術を若手製炭者らに伝えてきた。備長炭の原木は「ウバメガシが一番」と言われるが、その数は限られていたため、市内に大量に自生するアラカシなどに原木を切り替えながらも上質な炭を製造。市場の評価を得て、増産体制を整えている。

中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会

賞 第4回優秀賞

〒781-6201 高知県馬路村馬路 3505-7



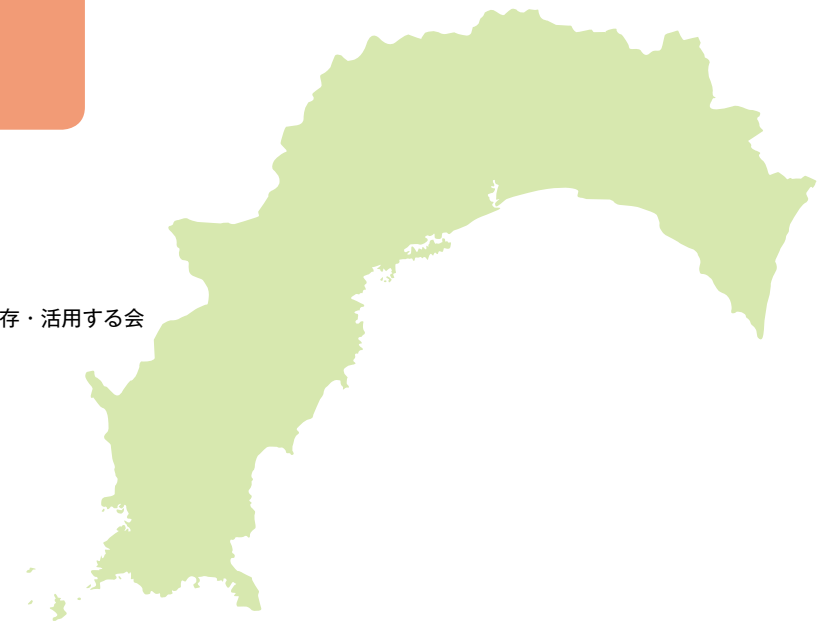
廃止された林業用鉄道を活用、観光客を呼び込む



高知県東部の海岸部3町と山間部2村の計5町村をつなぎ、全国有数の美林「魚梁瀬杉」を運んでいた「魚梁瀬森林鉄道」は1963年、廃止された。5町村の住民有志が、鉄道の遺構検証や観光資源化に取り組む。その後、橋梁やトンネルなど計18の遺産が国の重要文化財の指定を受けた。散策ツアーや、旧トンネル内でのカフェ、コンサートのイベント開催も。森林鉄道と特産のゆずを組み合わせた「日本遺産」にも認定され、全国から観光客を呼び込んでいる。

高知

- 四万十ドラマ
- 大宮産業
- 黒潮実感センター
- 中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
- 久礼大正町市場協同組合
- 室戸市木炭振興会
- 砂浜美術館
- 十和おかみさん市
- むろと廃校水族館
- 日高わのわ会



大宮産業

賞 第2回準大賞

株式会社

〒787-1615 高知県四万十市西土佐大宮 1578



住民出資で株式会社、店舗を運営しインフラを守る



過疎化が進み、不採算だとして撤退した店舗を、住民が出資した会社が引き継いで運営している。役員は住民が務め、住民代表によるアドバイザー会議も設け、地区を挙げて知恵を絞る。肥料や日用品に加え、地元産米の販売に力を入れ、酒類販売も始めた。ガソリンスタンドや現金自動預払機(ATM)も備えた暮らしのインフラを住民が守った人口減対応のモデルとして注目されている。

四万十ドラマ

賞 第1回優秀賞

株式会社

〒786-0534 高知県四万十町広瀬 583-13



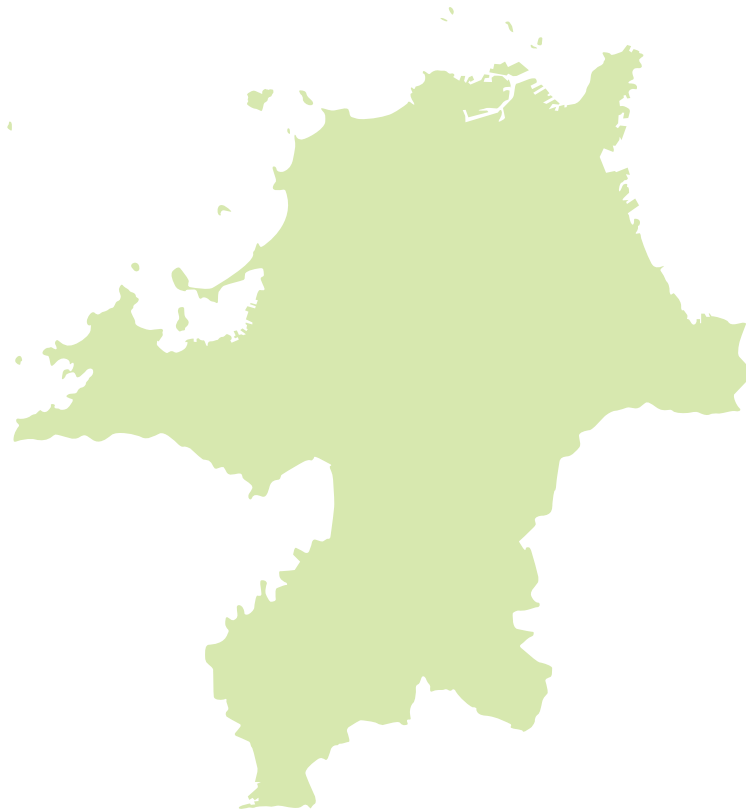
地場農産物、間伐材を生かし、生産者と商品開発



地域の農産物にこだわり、付加価値を高めた商品を開発販売する。間伐材を利用した芳香剤「四万十のひのき風呂」や、

町内産茶葉100%のペットボトル飲料「しまんと緑茶」、地場産の栗で作った「しまんと地栗渋皮煮」さらに「しまんと地栗モンブラン」が人気だ。地元の新聞を折り、のり付けして作る「しまんと新聞ばっく」はおしゃれで環境に優しいと海外でも評判。600人以上のインストラクターを育て、普及に努めている。

福岡



- 筑紫野市商工会
- つづら棚田保全協議会
- はやめ人情ネットワーク
- 抱樸
- 藍の家保存会
- A I P
- がんばりよるよ星野村
- 遠賀川源流サケの会
- のこのしまアイランドパーク

つづら棚田保全協議会

賞 第3回優秀賞
〒839-1393 福岡県うきは市吉井町新治 316 うきは市役所ブランド推進課

オーナー制度や都市の人々の交流通じ棚田を守る



日本の棚田百選に認定された「つづら棚田」は、約400年前に造られたと伝えられる。美しい景観を維持するため、地元農家がうきは市の支援を受けて発足。棚田を借り受け、農家と交流を深めながらコメ作りの体験ができる棚田オーナー制度を取り入れた。都市部などから多くの応募があり、季節ごとにオーナー限定のちまきづくりや餅つき体験などのイベントを実施し、農業の素晴らしさを実感できるようさまざまに工夫している。

筑紫野市商工会

賞 第1回優秀賞
〒818-8577 福岡県筑紫野市湯町 3丁目 2番 5号
HP

染料となるムラサキグサ商品を地元生産者と開発



二日市温泉を中心とした地域活性化のため、かつて朝廷に納める税として栽培され、染料などになったムラサキグサが自生していたことに着目し、紫色をテーマにした街づくり「紫プロジェクト」を始めた。苦労したのはムラサキグサの栽培だ。約半年かけて入手した種を試行錯誤して育てた。市内に誕生した西鉄大牟田線の新駅名が、商工会などの提言で「紫駅」になるなどのまちづくり事業を展開。生産部門は一般社団法人筑紫野むらさきまちづくり協会が担い、両輪体制で活動している。

むろと廃校水族館

賞 第9回優秀賞
〒781-7101 高知県室戸市室戸岬町 533-2
HP

廃校に水族館。展示を工夫し、人気施設に



室戸市室戸岬町の旧椎名小学校を市が改修し、2018年4月に開館した。NPO法人「日本ウミガメ協議会」（大阪府）が

指定管理者として運営。屋内の水槽や屋外のプールに定置網で混獲されたウミガメや、近海のアジやブリなど50種類、千匹以上が泳ぐ。廃校舎のユニークな活用法が話題を呼び、予想をはるかに超える来館者が訪れた。多くは市外や県外の観光客で、リピーターも多い。コロナ禍では近隣の飲食店と協力してスタンプラリーを開催、賞品は人気グッズ「ブリのぬいぐるみ」だ。

砂浜美術館

賞 第7回優秀賞
〒789-1911 高知県黒潮町浮鞭 3573-5
HP f NPO法人

自然の砂浜を美術館に見立ててユニークな展覧会



砂浜美術館が誕生したのは1989年。美術館といっても「建物」も「有名アーティスト」の作品もない。太平洋に面した約4

km²の自然の砂浜を美術館に見立てているのである。年に数回、企画展を開催。5月に開催する「Tシャツアート展」は、全国から集めたデザインをTシャツにプリントし、砂浜に洗濯物のように展示する。浜辺に流れ着いた漂流物も立派な展示物だ。「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」という設立当初のコンセプトは変わらない。

日高わのわ会

賞 第10回準大賞
〒781-2152 高知県日高村沖名 3-2
HP f NPO法人

トマトの村で住民が育児、商品開発、福祉に結束



人口5000人のトマト産地の村で、子育てを助け合おうと母親たちが結成。「できる人が、できる時間に、できることを」

をモットーにNPO化した。規格外のトマトからソースやジャムを製造販売し、オムライスが自慢の食堂を開設。村の店を紹介する名物企画「オムライス街道」にも参加する。さらに高齢者支援、障害者就労に活動の幅を広げた。事業を支えるのは子育て中の母親ら約50人で年間1億円近くを売り上げる。地元大学生や高校生も助っ人に育った。

十和おかみさん市

賞 第8回優秀賞
〒786-0504 高知県四万十町十川 4-1
HP f 株式会社

古くから栽培されている野菜を主婦らが地産地消



四万十町十和地域の主婦らが2001年に結成し、11年に株式会社化した。メンバーは約140人。地域で古くから栽培される大根やカブ、キビ、高菜、チシャなどを「昔野菜」と名付けて直販所「十和の台所」で販売している。また町内で特産品を使った商品を開発、販売する四万十ドラマ（第1回優秀賞）の直営店で郷土料理バイキングを開くほか、弁当を町内外で販売するなど地産地消を進める。学校給食のメニュー開発など食育にも積極的に取り組む。

のこのしまアイランドパーク (久保田観光)

賞 第10回優秀賞

株式会社

〒819-0012 福岡市西区能古 1624



農家が家族と四季の花の種をまき自然公園を開設



故久保田耕作さんは1941年から能古島を開墾。福岡市でも有数のサツマ芋生産者になったが、巨大な東京の市場を視察

し、高度成長期には心を癒やす自然が必ず求められると感じて自然公園づくりに目を向けた。家族で四季の種をまき、花を育てた。「大地に汗した開拓の日々 一粒の種が今 緑となり花を開く 明日の為に 力強く鋤を握ろう」。公園内には耕作さんが刻んだ農魂碑が立つ。立地の良さを生かし、宿泊やワーケーションの場としても潜在力を生かす。

がんばりよるよ星野村

賞 第8回優秀賞

NPO法人

〒834-0201 福岡県八女市星野村 10951



豪雨被災地で農業復興支え、移住体験施設も運営



2012年の九州北部豪雨災害で被災した山間部で農業復興に取り組んだ。都市住民にも参加を呼び掛け、田畑から大量

の泥をかきだし営農再開を支えた。人口減を食い止めようと、空き家の相談窓口を開設、移住体験施設も運営している。国連サミットで採択された持続可能な開発目標 (SDGs) を受け、30年に向け環境保全、空き家・耕作放棄地の利用計画をスタート。地域の小中学生に地元の星空の魅力を伝えるカリキュラムや、棚田の復旧、田植えに取り組む「星野未来塾」を開催している。

藍の家保存会

賞 第6回優秀賞

〒811-3304 福岡県福津市津屋崎 4-14-20

藍染めを営んでいた町家を保存し町おこし



江戸時代から明治時代にかけて、製塩と海上交易で栄えた津屋崎には白壁の商家や民家が建ち並び「津屋崎千軒」と呼ばれ

た。1993年、往時の面影を残す、元紺屋だった上妻邸の解体計画が持ち上がった時、「栄えた当時の町並みを残そう」と住民有志が保存活動を始めた。津屋崎人形の当主の故原田活男さんや元美術教師の故柴田治さんらが中心となり、上妻家の無償提供を受けたことによって町家を保存できた。建物を「藍の家」と名付け、展示やイベント、藍染め体験などの活動を行っている。

はやめ人情ネットワーク

(受賞当時: はやめ南人情ネットワーク)

賞 第4回大賞

〒836-0091 福岡県大牟田市沖田町 510



認知症などの高齢者を地域ぐるみで声かけ見守り



大牟田市駿馬地区は「向こう三軒両隣」の意識が強く、高齢者の孤独死を出さないための声かけ・見守り活動が盛んに行わ

れている。「大牟田方式」と呼ばれ、全国に広がった認知症のSOSネットワーク模擬訓練が生まれた地域だ。それを基盤として、町内の公民館や社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ、警察、消防、学校など地域のさまざまな人々が世代を超えてつながり、17年間継続。誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して活動している。

第10回(2019年度)

大賞・準大賞
選考の決め手

大賞「ふるさと福井サポートセンター」(福井美浜町)はITの活用で、空き家の発生を事前に食い止める先進的な取り組み。準大賞「あらかわ子ども応援ネットワーク」(東京都荒川区)は多くの民間団体、行政、教育機関が緊密に連携し、子どもの貧困対策に取り組んだ。準大賞「日高わのわ会」(高知県日高村)は子育てに悩む母親の集まりが特産のトマトの活用、高齢者支援や障害者就労、イベントづくりに発展した。



遠賀川源流サケの会

賞 第9回優秀賞

〒820-0313 福岡県嘉麻市桑野 2254-1



サケが帰る清流にしようと稚魚放流や環境整備



毎年3月、遠賀川流域の計20カ所でサケの稚魚計4万匹を地域の小中学生や住民団体などと放流している。旧産炭地を流

れる遠賀川は、排水汚染からサケの遡上が一時、途絶えた。放流や森づくり、河川清掃などの活動には「サケが帰る清流を」の思いがある。上流の歴史ある「鮭神社」では遡上サケの奉納も行われ、伝統継承にも役割を果たす。サケだけではなくヤマメの放流も始め、川に定着するようになった。小中学生と海・山の生物を観察する授業も年10回程度開いている。

AIP

賞 第7回奨励賞

NPO法人

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1-17-1



「福岡をエンジニアの聖地に」とIT人材育成



実践的なスキルを持ったIT人材を戦略的に育成、地域の活性化を促進するために設立した。ITをはじめ多業種の交流・学習

スペース「AIPカフェ」の運営や、自由参加型の会合などを通じ、人々の「顔が見える」関係を重視する。さらにこれらの経験と実績により福岡市から、エンジニアが集まり、活躍し、成長できる場である「エンジニアカフェ」の運営を委託される。福岡市とエンジニアが一体になって、福岡を「エンジニアの聖地」とすべく、支援を行っている。

ほうほく 抱樞

賞 第5回優秀賞

認定NPO法人

〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田 2-1-32



ホームレスの自立や就労、生活面を支援



路上生活者をはじめとする生活困窮者の支援活動に取り組む。住居や就労などの経済的な問題だけではなく、ホームレスを

生む原因である社会的孤立の解消まで視野に入れた、一貫した支援体制が評価されている。元路上生活者が体験を語る「生笑一座」を2014年に結成し、全国の小中学校などで「助け合って生きる」ことの重要性を子どもたちに伝える活動にも力を入れ始めホームレスを生まない社会づくりを目指す。

解散・休止の形もさまざま

受賞団体のうち、20を超す団体が活動を休止したり組織を解散したりしている（予定を含む）。「県立柏原病院の小児科を守る会」（兵庫県丹波市）は、閉鎖の危機にあった地元病院の小児科を守ろうと母親たちが、勤務医の負担を軽くするため不要不急の受診を控えるよう訴えたり、病院に行く前の症状を判断できる小冊子を配布するなどした。この結果、地域全体での小児科の診療体制は維持され、目的を達成したとして活動を休止した。

沖縄県名護市の「津嘉山酒屋保存の会」は、戦前の姿を残す泡盛工場の保存に愛好家が立ち上がり、建物内でのコンサートや古酒造りの講習会などを展開した。工場施設は解体修復され国の重要文化財の指定を受けたことから会は解散した。このように初期の目的を達成して活動の休止や解散をする一方で、活動資金が続かなかったりメンバーの高齢化や人材難でやむなく休止や解散をする団体もある。

岩手県釜石市の「釜石プラットフォーム」は、東日本大震災の翌年1月に釜石のまちづくりを担う目的で、当時珍しい非営利型の株式会社として設立された。キッチンカーによる飲食の提供や被災した飲食業者の自立支援などに当たるなどした。会社は2018年6月に解散したが、メンバーはこれまで培ったネットワークを生かして養殖カキのブランド化など、新たなプロジェクトに挑んでいる。

大阪市の「介護・住まい・防災ネットワーク」は東成区の商店街空き店舗を活用し、高齢者の交流施設「新道パトリ」を運営してきた。20年6月に従来の活動は終了。10月からは「キッチン・パトリ」の名称で料理を通じて人々が絆を結ぶ別の活動の場になった。

嬉野市地域力開発プロジェクト・新ツーリズムチーム

賞 第3回優秀賞

〒843-0301 佐賀県嬉野市嬉野町下宿乙 848



スリッパ卓球、ホテル、お茶企画で温泉街に活気



嬉野温泉に活気をもたらそうと、地元の若手経営者らが立ち上げた。卓球のラケットの代わりに、旅館にあるスリッパを使用し、宿泊者らと「スリッパ卓球大会」を毎月開催するほか、市内のマッサージ師を旅館の大広間に集め、低料金でリラックスしてもらえ「もみフェス」を実施。ホテルを少人数で観賞する企画や、さまざまな場所で特産のお茶体験ができる「ティーツアー」など、若い感覚で集客のイベントを次々と仕掛け、温泉街の魅力アップにつなげている。

嬉野温泉に活気をもたらそうと、地元の若手経営者らが立ち上げた。卓球のラケットの代わりに、旅館にあるスリッパを使用し、宿泊者らと「スリッパ卓球大会」を毎月開催するほか、市内のマッサージ師を旅館の大広間に集め、低料金でリラックスしてもらえ「もみフェス」を実施。ホテルを少人数で観賞する企画や、さまざまな場所で特産のお茶体験ができる「ティーツアー」など、若い感覚で集客のイベントを次々と仕掛け、温泉街の魅力アップにつなげている。

黒川町家読連絡会

賞 第5回優秀賞

〒848-0121 佐賀県伊万里市黒川町塩屋 504-1 黒川コミュニティセンター

家族で読書し、コミュニケーションを促進



2007年に伊万里市で家読運動が始まって以来、毎年度末に「家読のすすめ発表会」を黒川公民館で開催し、200

人を超える参加で町民と共に家読の大切さを共有している。また、開始から10周年を迎えた2016年には、伊万里市が「日本一のうちどく推進のまち・いまり」を宣言し、伊万里うちどく推進ネットワークが発足した。「黒川町うちどく広め隊」が結成され、市内全域に黒川の取り組みを紹介するなど、推進運動を展開している。

佐賀



- 蕨野棚田保存会
- きびつとの杜
- 嬉野市地域力開発プロジェクト・新ツーリズムチーム
- 黒川町家読連絡会
- 鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会
- 栄町地域づくり会
- 牛津赤れんが会
- さがクリークネット

きびつとの杜

賞 第2回特別賞

NPO法人

〒841-0204 佐賀県基山町宮浦 1605

荒れ地を楽しめる場にしたいと住民が公園手作り



荒れ地を楽しめる場所に変えたいと、元サラリーマンらが話し合っ生まれたアイデアを住民の力で実現させた。

草を刈ったり木を切ったりの作業をメンバーが手弁当で進めた。約1300平方メートルの公園に生まれ変わった。公園を維持する草刈りの業務委託を受けている。近くの工業団地の緑地の植栽管理も請け負う。

蕨野棚田保存会

賞 第1回優秀賞

〒849-3203 佐賀県唐津市相知町平山上甲 1334



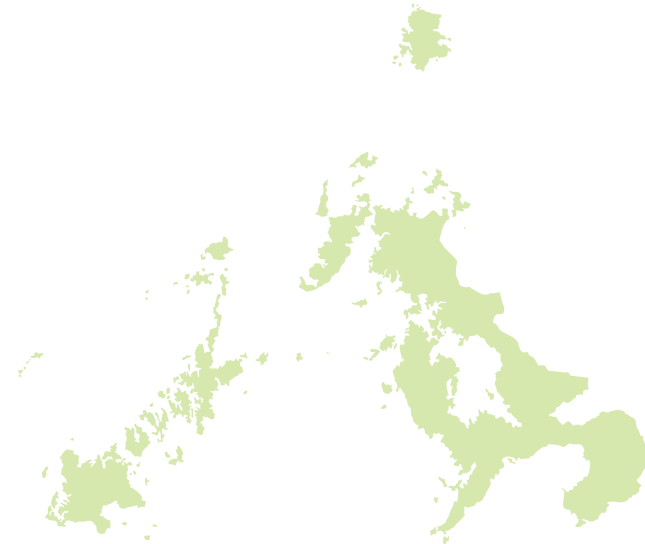
千枚棚田を生かし、農業体験や米のブランド化



後継者不足や高齢化で休耕田が増え始めた、約700枚の棚田が連なる蕨野地区の現状に危機感を抱いた住民有志が

立ち上げた。棚田米のブランド化と、交流事業をスタート。昼夜の寒暖差があるなど特性を生かしたコメは注文が増えている。大学と地域交流協定を結び、学生ボランティアを中心に「棚田援農隊」が結成され、休耕田を実習田とし農作業や水路掃除など地区の共同作業に参加している。棚田のウォーキングや桜の植樹も実施。

長崎



- 長崎コンプラドール
- まつうら党交流公社
- あづち大島たからもの会
- 平戸国際交流 HIRA の会
- 南島原市冬のお祭り実行委員会
- 大地といのちの会
- 松原宿活性化協議会
- 神代小路まちなみ保存会
- 平戸観光ウェルカムガイド
- 雪浦あんぱんね

まつうら党交流公社

賞 第2回ブロック賞（九州・沖縄） 一般社団法人
〒859-4778 長崎県松浦市御厨町田代免 601
HP f

農漁村の体験型修学旅行を提供、中高生呼び込む



人口減少が進む厳しい状況をはね返し、広域で体験型修学旅行の受け入れを進めようと、北松浦半島の市町村は2003年、

母体となる協議会を設立した。田植えや定置網漁など農業・漁業、そば打ちや元寇の史跡見学、乗馬まで80を超えるプログラムをそろえ、約300会員が1日1200人を受け入れる体制を整えた。年間約2万人の中学生、高校生らが訪れる。修学旅行が少ない時期を中心に、外国人観光客の受け入れに力を入れている。

長崎コンプラドール

賞 第1回優秀賞 NPO法人
〒852-8013 長崎市梁川町 13-29
HP

歴史や文化に触れるまち歩き推進、スタッフ育成



長崎弁で「ぶらつく」などを意味する「さるく」。2006年度に開催されたまち歩き博覧会「長崎さるく博」に関わった

市民らが立ち上げた。歴史や自然が豊かな長崎を紹介するほか、観光動向の調査研究、住民主体のイベント開催のノウハウの提供などを通じ、地域の活性化に寄与する。長崎市内の観光コースや地図の作製も手掛け「歩く」ことを通じて、まちの魅力の再発見につなげる。出島で観光客を出迎えるスタッフの育成や、全国各地でのまち歩きフォーラム開催にも取り組む。

牛津赤れんが会

賞 第9回優秀賞
〒849-0303 佐賀県小城市牛津町牛津 586 牛津町会館内
HP f

れんが建物を拠点に地域づくり、自主映画を製作



国の登録有形文化財「牛津赤れんが館」を活用、「アートなまち」をコンセプトに、30～70代の会員15人が自由な発

想でジャズコンサートや伝統芸能の発表会などを2002年から続ける。地域に光を当てる取り組みとして17年に会員が中心となりドキュメント映画を製作。幕末・明治期にまちの礎を築いた人物に迫る内容で、協賛やエキストラなどで住民を巻き込み、県内各地で上映された。19年には鎌倉～明治期を取り上げた映画を製作。観光客誘致にも取り組む。

鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会

賞 第6回優秀賞
〒849-1312 佐賀県鹿島市納富分 2463-1
HP f

古い家並みを舞台に酒蔵が合同でイベント



江戸後期から昭和初期にかけての白壁土蔵や町家が残る佐賀県鹿島市浜町の「酒蔵通り」で、6蔵元が一斉に蔵開きを

し、うまい日本酒、食文化、歴史を堪能してもらう「酒蔵ツーリズム」を開いている。2011年、世界的ワインコンクール日本酒部門で地元蔵元が最高賞を獲得した機会を生かし、即座に組織をつくってツーリズムを開催、成功した。他産業、他地域とも連携して来場者を年々伸ばし、空き家対策としても具体的成果を挙げ始めている。

さがクリークネット

賞 第10回ブロック賞（九州・沖縄） 任意団体
〒840-0826 佐賀市白山 2-1-12 佐賀商工ビル 7階
f

水路を活用・保全し、豊かな環境を実現する



街中の水路網「クリーク」を地域の誇れる土木遺産として、市民が佐賀の歴史や風土の魅力を再発見できるよう取り組む。

2015年から学生や会社員、公務員ら約30人が、江戸時代に築かれたクリーク文化の発展を目指し、「暮らす」「使う」「維持する」をコンセプトに楽しみながら活動している。企業、自治会、大学と連携しながら、クリークに船着き場を造り、カヤックや和船の乗船体験、川底や護岸の清掃のほか、マルシェなど水辺に親しむイベントを実施している。

栄町地域づくり会

賞 第8回優秀賞 NPO法人
〒848-0021 佐賀県伊万里市大坪町甲 2443-63

高齢者の支え合いが若い世代との交流に発展



高齢者同士が支え合う仕組みとして、75歳以上の独居世帯に地域の高齢者が夕食を届け、安否も確認する「見守り弁当」

に取り組んできた。民間業者の利用が増え、2020年3月にサービスを廃止。4月からは高齢者に限らず、幅広い世代の交流事業を進めている。子どもと高齢者のふれあいの場や、一緒にできるラジオ体操、高校生が高齢者にタブレットの使い方を教える教室など企画はさまざま。参加者の昔の写真を集めた「あれから50年」展などユニークな発想で活動する。

平戸観光ウェルカムガイド

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒859-5104 長崎県平戸市崎方町 776-6
HP

教会や商館など見どころ案内、ご当地検定も実施



1999年に任意団体として発足し2004年にNPO法人に。市内のUターン者や主婦、定年退職後の38人が登録し、

旅行会社の主催旅行や修学旅行、平戸を訪れたグループ、個人旅行などの市内の名所案内に対応する。平戸の歴史や文化、自然にまつわる知識を問う「平戸検定」も10年から平戸市と共催で年1度実施。検定受検者のための公式テキストブックも出版している。13年にはまちづくりに功績のあった個人・団体を表彰する「平戸市まちづくり大賞」も受賞した。

松原宿活性化協議会

賞 第7回優秀賞
〒856-0009 長崎県大村市松原本町 77-1
f

伝統文化の継承へ講師を招き寺子屋塾を開催



長崎街道の宿場町として栄えた古い街並みが残る長崎県大村市の松原地区で、街並みの保存と地域交流を

目的に2004年から活動を始めた。夏休みに子どもたちを集めて行う寺子屋塾や、地域住民が持ち寄り飾るひな祭りは、江戸時代に建てられた旧松屋旅館が拠点。参加者は年々増え、世代間交流の潤滑油としての役割も果たす。また長崎街道松原宿は、20年に長崎街道～シュガーロード～の構成文化財として、日本遺産に認定された。村川一恵会長は「活動を通じて子どもたちの心のよりどころとなる古里を残したい」と話している。

雪浦あんばんね

賞 第10回優秀賞 NPO法人
〒857-2328 長崎県西海市大瀬戸町雪浦下釜郷 504
HP f

空き店舗や古民家を拠点にイベント、放棄地再生



海辺の静かな町の空き店舗を改修した交流施設「ゆきや」、古民家を活用したゲストハウス「森田屋」を拠点に、住民や移

住者が始めた地域回遊型散策イベント「雪浦ウィーク」は、毎年5月の大型連休の西海市を代表するイベントに育った。交流拠点にはパン工房を併設。ゲストハウスには海外からの旅行者も訪れる。耕作放棄地の開墾や移住希望者の相談、地域資源を生かしたグリーンツーリズムの取り組みなども進める。

神代小路まちなみ保存会

賞 第8回優秀賞
〒859-1303 長崎県雲仙市国見町神代丙 126-2
HP f

武家屋敷街として栄えた景観守る活動に取り組む



江戸時代に佐賀藩神代領主、鍋島氏の武家屋敷として栄えた雲仙市国見町の神代小路地区は、石垣や水路など往時の面影

が残る。景観を守ろうと2000年に活動を開始。生け垣の枝切りや清掃、歴史講演会などを通じて住民の郷土愛を育ててきた。一方、人口減少には歯止めがからず、空き家対策が喫緊の課題。高齢化も深刻で、活動の幅を次世代に広げるため20年5月、NPO法人「神代小路ネットワーク」を設立した。街並みの写真集やガイドブックづくりも目指す。

南島原市冬のお祭り実行委員会

賞 第5回優秀賞
〒859-2304 長崎県南島原市北有馬町丁 397
HP f

キリシタン文化が花開いた地域性を生かす



キリシタン文化で知られる南島原の歴史的特性を生かし、毎年冬にイベントを開催する。市内の若者らが制作する、立ち木と

しては国内最大級の約30本のクリスマスツリー2本を小学校のグラウンドに設置。合わせて約5万個の電球が夜のまちを飾る。たいまつを持ちながら、キリシタン時代の服を再現した姿で市内を歩く「南蛮行列」や、「ポーロ」などの南蛮菓子、料理の再現に取り組み、文化的遺産をまちの活性化に活用している。

あづち大島たからもんの会

賞 第3回優秀賞
〒859-5801 長崎県平戸市大島村神浦 52 番地
HP

島の景観を保存、スギ花粉「避粉地」をアピール



的山大島は長崎県西北端、平戸島からフェリーで約40分の距離に位置する離島。かつては海上交通の要衝として栄え、

開発されずに残った古い家並みの景観を、空き家を活動拠点にして守る。スギ花粉の飛散量が極めて少ないことから、花粉症に悩む人のための「避粉地」をアピールしている。2泊3日の「避粉地体験セラピーツアー」を企画し、花粉症の季節に毎年、都市部からの客が訪れ、まちの活性化につながっている。

大地といのちの会

賞 第6回優秀賞 NPO法人
〒857-8588 長崎県佐世保市栄町 2-1 佐世保玉屋 8 階
HP

生ごみを利用した無農薬野菜の栽培を広める



約50坪の畑には四季折々の旬の野菜が育つ。ダイコン、ニンジン、タマネ

ギなど、年間で約30種類。どれもが無農薬で、「元気野菜」と呼んでいる。雑草が生い茂った土を耕し、家庭などから出た生ごみを微生物で分解させ、土づくりをする。ごみの減量が実現し、安全・安心な農業にもつながる。耕作放棄地の有効活用にも目を向けている。畑で収穫した元気野菜の大半は、九州を中心に全国の顧客へ宅配している。農園は月1回開かれる畑の手入れの講習会会場にもなっている。

平戸国際交流 HIRA の会

賞 第4回優秀賞
〒859-5116 長崎県平戸市職人町 258-2

家康の外交顧問、三浦按針ゆかりの地とサミット



徳川家康の外交顧問を務め、平戸で亡くなった英国人「三浦按針(ウィリアム・アダムス)」を顕彰する「按針忌」を毎年、開催

している。また按針ゆかりの大分県臼杵市、静岡県伊東市、神奈川県横須賀市と持ち回りでサミットを開いてきた。太平洋戦争中の英国人捕虜との和解活動や、日本人を父とするインドネシア系オランダ人との対話集会にも取り組んだ。地元では按針の墓から西洋人とみられる遺骨が発見される話題も。2020年は没後400年に当たり、記念事業に取り組む。

網田教育の里づくり隊

賞 第5回ブロック賞（九州・沖縄）
〒869-3171 熊本県宇土市長浜町 328-1-4



あいさつやまちの清掃通じ、地域ぐるみで子育て



過疎や少子化が進む人口4000人弱の網田地区で地域ぐるみで子育てに取り組んでいる。地元の大人たち約30人で構成

する。地域を挙げたあいさつ運動や、まちの清掃に取り組む、小中学校にメンバーが出向いての読み聞かせも続けている。地元を愛する心を育もうとする結束力が強く、学校も協力的だ。年1回の地域のイベントでは地元食材を使った長さ12cm以上にもなる巻きすし作り挑戦している。東京からUターンして農業に励む若者も出てきた。

二見わっしょいファーム

賞 第3回優秀賞 NPO法人
〒869-5172 熊本県八代市二見本町 681-2



買い物難民化に悩む住民らコンビニ的直売所運営



二見地区は海から山までつながる豊かな土地で、さまざまな産物に恵まれるが、人口減少によって日用品

などを扱う店がゼロになった。住民が地元の農家や漁業者らに呼び掛け、農水産物のほかコンビニ的な機能も持つ直売所「しよい」を開店した。「~しよ」という方言にちなんだ。2012年にNPO法人設立。かんきつ類のバンベイクなど珍しいものも並べられている。他の地域の物産館や飲食店などとともに八代市の中心部で月1回物産市を開いており、500~1000人の買い物客でにぎわう。

天草市大浦地区振興会

賞 第6回特別賞
〒861-7203 熊本県天草市有明町大浦 1723-1 大浦地区コミュニティセンター



定置網のオーナー制度などを企画し交流人口増加



定置網や底引き網漁を体験できる「ひと網オーナー制度」など、ユニークな地域おこしに取り組む大人気。全住民総出の温か

なおもてなしに魅了された参加者はリピーターも多い。2018、19年度は「大浦田舎暮らし体験」として会員制でホテル観賞、民泊、デコボン施設見学、定置網漁、神社の祭り、ウォーキングなどの交流を楽しめる催しを開催した。交流人口の増加を、地域の活力と住民の生きがいにつなげる。

芦北伽哩街道実行委員会

賞 第4回優秀賞
〒869-5461 熊本県芦北町芦北 2592-15



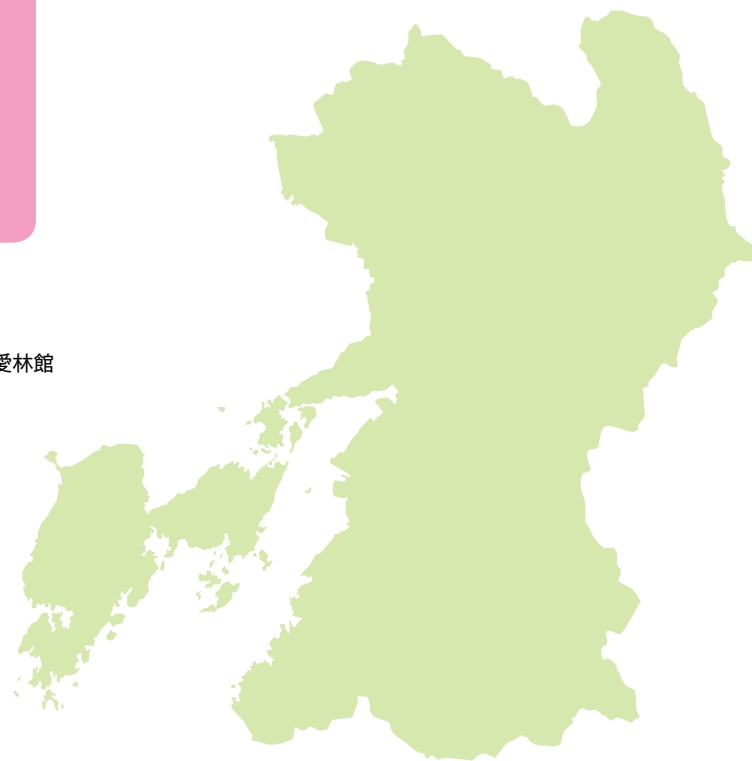
地元素材のオリジナルカレーを十数店が競い合う



芦北町と水俣市にあるレストランや食堂など十数店舗で組織する。料理研究家の先駆けで芦北町出身の故江上トミさんが、

日本の家庭に最初にかレーを紹介したとされる功績をたたえ、海水浴客らに楽しんでもらおうと企画した。夏休み期間中に芦北伽哩街道夏フェアを開催し、地元食材を使って各店がオリジナルカレーの味を競う。あしきた牛を使った焼きカレーやアジアカエビのフライをのせたカレーなどが出た。地元高校と協力してカレー弁当を開発、カレーが食べられる列車運行にも取り組んでいる。

熊本



- 阿蘇グリーンストック
- 水俣市久木野ふるさとセンター愛林館
- 二見わっしょいファーム
- 芦北伽哩街道実行委員会
- 網田教育の里づくり隊
- 天草市大浦地区振興会
- 開懐世利六菓匠
- 小岱山薬草の会
- 阿蘇門前町商店街振興協会
- くまもと☆農家ハンター

水俣市久木野ふるさとセンター愛林館

賞 第2回優秀賞
〒867-0281 熊本県水俣市久木野 1071



森づくりや棚田保全、イベントに幅広い活動拠点



愛林館はJR山野線久木野駅跡地にできた交流施設。「エコロジー（風土・循環・自立）に基づくむらおこし」「今後2000

年間、この地に住み森と棚田を守っていけるむらづくり」をテーマに、地域づくりを進める。施設では、むらづくりの研修、そば打ちや豆腐、こんにやく作りの体験ができる。照葉樹の造林を進め、荒れた棚田の再生のため、大豆を育てるプロジェクトを行う。マラソン大会やライブ、「棚田のあかり」も開催。

阿蘇グリーンストック

賞 第1回特別賞 公益財団法人
〒869-2307 熊本県阿蘇市小里 656-1



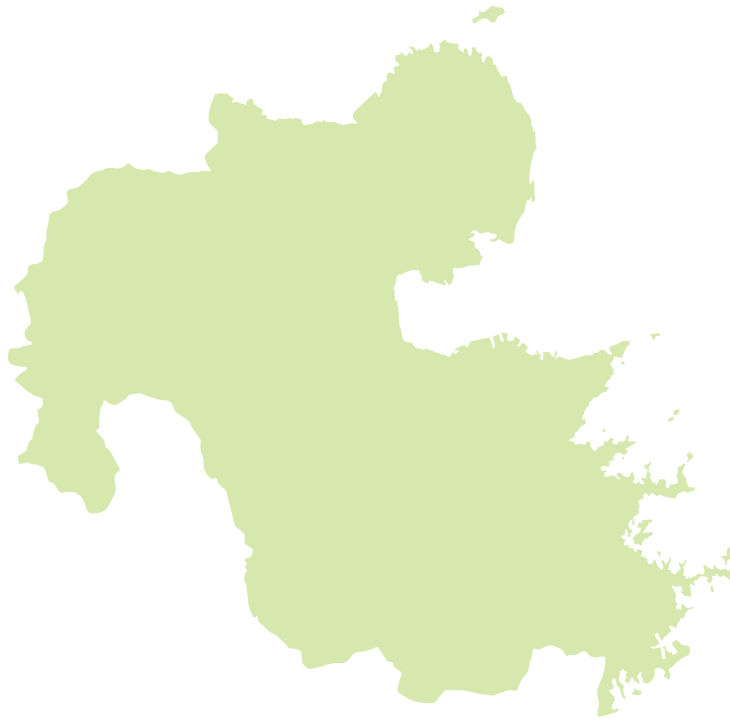
雄大な草原を守るため野焼きをボランティア支援



雄大な阿蘇山の草原地帯。行政や農家、市民、企業が協力して設立し、ボランティアで野焼き支援活動を行い、美しい

緑を守る取り組みを続けてきた。乾燥した草を燃やすだけに危険は付きまとうが、研修会を行ったり、難燃性のヘルメットや活動服を身につけたりするなど安全対策に力を入れる。特産の「あか牛」を支援するオーナー制度やファームステイ事業といった農村と都市の交流の促進など活動の幅を広げてきた。「地域の宝」を伝えるために、若者を含めさらに多くの人の理解を深めていく構えだ。

大分



- 安心院町グリーンツーリズム研究会
- ハットウ・オンパク
- 豊後森機関庫保存委員会
- BEPPU PROJECT
- くにさき七島蘭振興会
- 豊の国宇佐市塾
- 別府八湯ウォーク連絡協議会
- 湯布院映画祭実行委員会
- 下郷村
- 庄内神楽座長会

ハットウ・オンパク

賞 第2回優秀賞 NPO法人
〒874-0920 大分県別府市北浜 1-14-15
f

体験・交流型地域づくりで資源発掘、人材育成



温泉地として有名な別府八湯で誕生した「ハットウ・オンパク」は、多種多様な体験プログラムの開催を通じて、地域資源の発掘と人材育成を促進する取り組み。路地裏の共同湯といった地域密着の場を、ボランティアの住民が紹介しながら歩くといった体験・交流型の地域づくりに有効な「オンパク」の手法は、これまで全国100以上の地域に導入された。近年ではタイやグアテマラなどの海外でも行われるようになった。

安心院町グリーンツーリズム研究会

賞 第1回ブロック賞（九州・沖縄） NPO法人
〒872-0521 大分県宇佐市安心院町下毛 1195-1
HP f

農家に泊まり農作業を体験、地域経済の柱に成長



農家に泊まり農作業を体験するグリーンツーリズムの先駆けだ。活動を始めた1996年に8軒だった会員は50軒に増加。人気旅館のおかみさんからもてなしを学んだり、料理を習ったりする“大学”や、本場・ドイツなどへの視察など、会員の研修にも力を入れてきた。日帰りも含め年間約8千人を受け入れ、地域経済の柱に成長した。漁村の家庭も加わり活動の場は海にも広がり、バカンス法制定の運動にも力を入れる。

阿蘇門前町商店街振興協会

賞 第9回優秀賞
〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 3092-2

商店街をわき水活用や豪華景品の夜市などで復活



事業者一丸で地域のにぎわい創出に励む。阿蘇神社の門前にある商店街は、幹線道路への大型店進出などで1970年代に衰退したが、一帯に自噴する豊富な湧き水を散策スポットにした「水基」や桜並木を90年代から整備。花見の季節に通りに多数の畳を敷いて、飲食や交流を楽しんでもらう「お座敷商店街」や、豪華景品の夜市、農産物を生かした商品開発などに取り組み、往時の輝きを復活させた。2016年の熊本地震では被災者支援にも力を入れた。

開懐世利六菓匠

賞 第7回優秀賞 一般社団法人
〒861-4115 熊本県南区川尻 1丁目 3-39-1
HP

和菓子職人が工芸菓子の実演・販売会を地元で開催



熊本市南区川尻地区は江戸時代、年貢米の積み出し港として栄えた「職人の町」。和菓子職人らでつくる「開懐世利六菓匠」は1990年に結成。造形にこだわった「工芸菓子」の実演・販売会を地元で長年にわたって開催し、「川尻といえば和菓子」のイメージを定着させ、まちおこしに一役買っている。全国イベントの際には記念菓子も作成。学校現場でも体験教室を催し、日本の和菓子文化を伝える。新型コロナウイルスが収まったら菓子をツールに日本により多くの外国人観光客を迎える構えだ。

くまもと☆農家ハンター

賞 第10回優秀賞
〒869-3203 熊本県宇城市三角町戸馳 397
HP f

若手農家がイノシシ駆除。IT活用、ジビエにも



熊本県内の若手農家がイノシシから農地を守るため勉強、防護を重ね、自ら狩猟免許を取り、駆除にも当たっている。ITを活用し、センサーや監視カメラで現場を「見える化」して負担を軽減。ネットを使った情報発信にも熱心だ。活動拠点の宇城市三角町では、住民が駆除に取り組むなど、地域維持への好循環が生まれている。ジビエ活用拡大のため解体施設も完成した。レシピの共同開発など高校生にも活動の輪が広がっている。

小岱山薬草の会

賞 第8回優秀賞
〒865-0051 熊本県玉名市繁根木 75 サンビル 1階

地元の薬草を生かし、料理教室や出前授業を展開



19人のメンバーが崇城大薬学部と連携し、地元の薬草（山野草）を生かした地域活性化や健康づくりに取り組む。料理教室や出前授業をはじめ、イベントで薬草を使った料理や茶を振る舞うなどして住民への普及啓発に努める。自前の薬草園も持ち、商品化を視野に加工食品の開発も進めている。玉名市は「薬草のまち」としての認知度が上がり、県内外から愛好者らが視察や研修に訪れている。後継者を育て、若い人に「食べて健康になれる」薬草の魅力を伝える。

下郷村

賞 第9回ブロック賞（九州・沖縄）

〒871-0431 大分県中津市耶馬溪町大島 3818-1



地域誌や学童施設、共同店舗整え移住者呼び込む



人口1300人余りの中山間地、中津市耶馬溪町下郷地区で、地元の人と移住者がつくった地域づくりグループだ。顧問の

中島信男さんは「暮らしの範囲はお寺の鐘が聞こえるくらいがちょうどいい」と活動の本質を語る。有機無農薬農業をベースに、林業などプラスアルファの仕事で“いのちぎ(生計を立てる)”する。盆踊りや祭りに加え、新しく映画祭を開いて楽しみを創出。地域誌「雲と橋」を発行して豊かな暮らしを発信し、移住者を呼んでいる。

別府八湯ウォーク連絡協議会

賞 第7回優秀賞

〒874-0944 大分県別府市元町 11-7



地域密着で個人客に温泉地の魅力を発信



日本一の温泉湧出量を誇る別府は鉄輪、浜脇、別府、観海寺、亀川、柴石、堀田、明礬という8つの温泉地からなる。昭和の時代は宴会中心で団体客がターゲットだったが、平成からは個人客がメイン。温泉地の良さをアピールするため、目を付けたのが土地の魅力探しだった。別府にあるいろいろなタイプの温泉、路地裏の共同湯といった地域に密着した場所を、ボランティアの住民が紹介しながら歩く。泉都を体感するコースは23にもなった。案内の様子は動画で公開、自宅からも温泉街散策を楽しめる。

和の時代は宴会中心で団体客がターゲットだったが、平成からは個人客がメイン。温泉地の良さをアピールするため、目を付けたのが土地の魅力探しだった。別府にあるいろいろなタイプの温泉、路地裏の共同湯といった地域に密着した場所を、ボランティアの住民が紹介しながら歩く。泉都を体感するコースは23にもなった。案内の様子は動画で公開、自宅からも温泉街散策を楽しめる。

くにさき七島蘭振興会

賞 第5回優秀賞

〒873-0355 大分県国東市安岐町富清 3209



敷物材料の特産植物を栽培、後継者も育成



七島蘭は1660年ごろから別府湾周辺一帯で栽培され、敷物や畳表の材料として江戸時代から昭和40年代まで大分の特産品だった。戦後のピーク時は年間550万量を生産したが、畳表は海外産の材料に取って代わり、生産者の高齢化が進んで消滅寸前だった。それに対し、国産品を見直す動きが起き、畳表に加えて円座などの工芸品を取り入れ、ブランド化を通じた七島蘭復活を目指す。年2千量ほど生産されるようになり、1ターン、Uターンの後継者も出ている。

品だった。戦後のピーク時は年間550万量を生産したが、畳表は海外産の材料に取って代わり、生産者の高齢化が進んで消滅寸前だった。それに対し、国産品を見直す動きが起き、畳表に加えて円座などの工芸品を取り入れ、ブランド化を通じた七島蘭復活を目指す。年2千量ほど生産されるようになり、1ターン、Uターンの後継者も出ている。

豊後森機関庫保存委員会

賞 第3回優秀賞

〒879-4403 大分県玖珠町帆足 473-1



廃止された機関庫を保存、観光スポットの公園に



蒸気機関車が活躍していた1970年まで稼働していた機関庫を観光資源として保存に取り組んできた。活動が実を結び、国の登録有形文化財に指定された。機関庫には列車12両が入り、車両の向きを変える転車台もある。歴史的価値があると年間1万人以上が訪れ、映画のロケ地にもなった。9600型蒸気機関車を展示、ミニトレインを走らせる700mのコースや町営の資料館もある機関庫公園として、観光スポットに育った。委員会メンバーはイベントなどの際に案内を引き受けている。

の登録有形文化財に指定された。機関庫には列車12両が入り、車両の向きを変える転車台もある。歴史的価値があると年間1万人以上が訪れ、映画のロケ地にもなった。9600型蒸気機関車を展示、ミニトレインを走らせる700mのコースや町営の資料館もある機関庫公園として、観光スポットに育った。委員会メンバーはイベントなどの際に案内を引き受けている。

庄内神楽座長会

賞 第10回優秀賞

〒879-5498 大分県由布市庄内町柿原 302 由布市役所庄内地域振興課



神楽座結集、公演やグッズで財源確保、知名度も



由布市庄内町地域の神楽座が集まり、1993年に庄内神楽座長会を立ち上げた。定期公演や神楽祭り、出張公演を開催。グッズ販売や公演の有料化などに取り組んだことで、自主財源を確保した。「庄内といえば神楽」というイメージが内外に浸透。知名度は飛躍的に伸び、県外からの出張依頼も。神楽のシンボルマーク「みことちゃん」は各商店でも利用され、地域全体で神楽を軸とした活性化が進んでいる。コロナ禍では感染防止のオリジナルマスクキットをつくった。

に伸び、県外からの出張依頼も。神楽のシンボルマーク「みことちゃん」は各商店でも利用され、地域全体で神楽を軸とした活性化が進んでいる。コロナ禍では感染防止のオリジナルマスクキットをつくった。

湯布院映画祭実行委員会

賞 第8回ブロック賞（九州・沖縄）

〒870-0022 大分市大手町 2-2-5



全国の映画祭の草分け、温泉エリアで文化交流



全国の映画祭の草分けとなる「湯布院映画祭」は1976年から大分県由布市湯布院町の由布院温泉エリアにある湯布院

公民館を主会場に開かれている。映画人とファンがシンポジウムで熱く議論を交わし、毎晩、食事しながら交流するのが恒例。映画館のない町に文化を根付かせる原動力になっている。2016年の熊本地震、17年の九州北部豪雨で被害を受けたが、両年ともに映画祭を開催して湯布院の健在ぶりを県内外に発信した。コロナ禍の20年は【夏の陣】【秋の陣】を分散開催。

豊の国宇佐市塾

賞 第6回優秀賞

〒879-0311 大分県宇佐市森山 216



戦争中の映像発掘やフォーラムで歴史伝える



太平洋戦争中、日本軍の出撃拠点だった旧宇佐海軍航空隊を地域資源と捉え、戦争遺産の保存や、平和フォーラム、ウォーク

といった市民への啓発活動を展開してきた。とりわけ米国立公文書館が保有する米軍の空襲や空中戦、日本軍機の特攻などの映像を発掘、撮影地などを解析する活動は大きな反響を呼んでいる。平和の大切さと命の尊さを訴える活動の成果は、資料館と戦争の遺構群で構成する「宇佐市平和ミュージアム（仮称）」建設という形で結実する。

BEPPU PROJECT

賞 第4回優秀賞

NPO法人

〒874-0933 大分県別府市野口元町 2-35 管建材ビル 2F



温泉の街に現代アートを融合、作家が創造力発揮



温泉の街、別府とアートのつなぎ手を目指す。2009年、12年、15年に多数のアーティストが参加、文化が入り交

じった別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」は10万人規模の観衆を集めた。その後は「in BEPPU」として個展形式のアート展を毎年、開催している。古い共同住宅に全国の多様な芸術家が集い、創作の場とする「清島アパート」、クリエイターと企業をマッチングする「CREATIVE PLATFORM OITA」などの取り組みを展開する。

酒谷地区むらおこし推進協議会

賞 第5回準大賞

〒889-2511 宮崎県日南市酒谷乙 4557 日南市役所酒谷支所

住民が80年以上守った棚田で地域おこし



80年以上にわたって守る「坂元棚田」は、日本の棚田百選の一つ。過疎化に負けない地域をつくろうと住民で協議会

を結成した。拠点としている道の駅は、名物料理や新鮮な地元の野菜が人気を呼び、年間20万人が訪れる。全世帯が参加し、それぞれ年1200円を負担している。道の駅の運営団体にも出資する。坂元棚田は石垣で囲まれた独特な構造で、2002年にオーナー制度を取り入れ、石垣の清掃や稲刈りの体験も始めた。

小川作小屋村運営協議会

賞 第3回優秀賞

〒881-1302 宮崎県西米良村小川 254



地元料理、宿泊を楽しめる施設運営、地域に活気



レストランなどを備える「おがわ作小屋村」を運営し、年間2万~3万人が訪れる。メンバーは地元住民約20人。年配の女

性が腕を振るう。四季折々の山菜やシカ肉やシシ肉を使った料理が16皿の小鉢で並ぶ「おがわ四季御膳」は月千食ほどが出る人気メニューだ。手打ちそばも提供している。春には山菜祭りを開催し、採れたての山菜を直売している。宿泊施設の運営も受け持つっており、地域は観光客らでにぎわう。

宮崎



- まちづくりトロントロン（川南町商工会）トロントロン軽トラ市
- のべおか天下一市民交流機構
- 小川作小屋村運営協議会
- 染ヶ岡地区環境保全協議会
- 酒谷地区むらおこし推進協議会
- どんぐり1000年の森をつくる会
- 五ヶ村村おこしグループ
- はなどう
- ままのて
- 川坂川を守る会

どんぐり1000年の森をつくる会

賞 第6回ブロック賞（九州・沖縄） NPO法人

〒889-1801 宮崎県都城市山之口町富吉 2985-26



森を守ろうと市民の出資を集め植林



九州で水質ワースト1だった大淀川源流の森づくりを目指し、どんぐりの種から育苗する植樹活動を展開している。植樹1

本につき500円の協力金を負担してもらった「株主制度」など誰もが参加しやすい仕組みをつくり、自然再生を実践。活動開始から25年目に入り、植樹した広葉樹も15万本を超えた。以前は国有林での植樹だったが、過疎高齢化で山林を管理できなくなった所有者からの依頼で植樹するケースも増えている。子どもの環境教育なども開き、環境保全に成果を上げている。

染ヶ岡地区環境保全協議会

賞 第4回優秀賞

〒884-0005 宮崎県高鍋町持田 2205



ひまわり畑を柱に口蹄疫を克服、植栽を継続



地元農家を中心に発足し、現在のメンバーは約130人。2010年に発生した口蹄疫の影響によりキャベツ畑などで

畜産堆肥を使えなくなったことから、ヒマワリを使った緑肥に変更した。耕して土中に混ぜ入れる前の8月、咲き誇る約1100万本のヒマワリを楽しむことができる「きゃべつ畑のひまわり祭」を開催してきた。祭りは19年度で終了したが、ヒマワリ植栽は今後も続ける予定だ。

のべおか天下一市民交流機構

賞 第2回優秀賞

NPO法人

〒882-0813 宮崎県延岡市東本小路 131-5



旧藩主由来の「天下一」能面を使った薪能を開催



延岡城址を背景に毎年10月、薪能を開催し、2019年で23回を迎えた。旧藩主の内藤家に伝えられた安土桃山から江戸時代初期の面で、「天下一」の称号が与えられ裏面に焼き印が押された名品も。延岡市は72の面を所有しており、一流の能楽師が演じる。来場者は全国から約1200人。会場設営などの準備は地元の中、高生ら千人以上が手伝っている。寄付という形で協力する人も多く、地域が結束力を示している。

ら江戸時代初期の面で、「天下一」の称号が与えられ裏面に焼き印が押された名品も。延岡市は72の面を所有しており、一流の能楽師が演じる。来場者は全国から約1200人。会場設営などの準備は地元の中、高生ら千人以上が手伝っている。寄付という形で協力する人も多く、地域が結束力を示している。

まちづくりトロントロン（川南町商工会）トロントロン軽トラ市

賞 第1回優秀賞

〒889-1301 宮崎県川南町川南 13680-1



長い坂道で名物朝市・軽トラ市を開催、来客多数



トロントロンと呼ばれる地区の坂道600mを使って、毎月第4日曜日の朝8時から開催し、農家や漁業者らが農、海産物、畜

産加工品を軽トラックに載せて出店する。135台前後が並び、新鮮で安い食材を求めて1万人が訪れる。午前11時45分まで開かれるが、売り切れは珍しくない。抽選会も開かれる。2006年に始まり、口蹄疫や新型コロナウイルスといった問題で中止もあったが、たくましく再開、にぎわいを取り戻している。

鹿児島



- 種子島アクションクラブ
- 大隅横川駅保存活用実行委員会
- さくらじま旬彩館
- 伊佐みりよく研究所
- Lab蒲生郷
- 着物で出水武家屋敷を歩こう会
- がんばろう高山
- 阿室校区活性化対策委員会
- 金吾様踊り活性化実行委員会

大隅横川駅保存活用実行委員会

賞 第2回優秀賞

〒899-6303 鹿児島県霧島市横川町中ノ263 霧島市横川総合支所



木造駅舎の保存、活用を核に活性化に取り組む



霧島連山の裾野に広がる横川町は、かつて金の取引で栄えた。輸送を担う大隅横川駅は1903年に開業し、九州で最も

古い木造駅舎とされる。2006年、国の登録有形文化財に指定。太平洋戦争末期、機銃掃射を受けた7月30日には弾痕が残る駅で毎年、コンサートを開催し、平和の尊さを語り継いでいる。駅で地元の若者の成人式を開催しており、委員会のメンバーが作った門松を前に記念撮影をしている。ハロウィーンイベントも開いている。

種子島アクションクラブ

賞 第1回特別賞

〒891-3607 鹿児島県中種子町田島4141番地



ローカルヒーローが活躍、アクション創作劇上演



鹿児島県・種子島に元気を与える活動を、と立ち上がったローカルヒーロー「離島閃隊タネガシマン」。奮闘は20年を超え、島の“顔”に。オリジナル作品で行う公演は320回を超え、農業の衰退や人口減少など島を襲う「敵」と戦ったり、地元の人やエピソードを盛り込んだりしてきた。毎回違うシナリオ、単純な正義のヒーローでない活動が、子どもだけでなく大人からも人気を集め、活動の幅を広げてきた。地域発のキャラクターの先駆けとして、息の長い活動を続けている。

鹿島連山の裾野に広がる横川町は、かつて金の取引で栄えた。輸送を担う大隅横川駅は1903年に開業し、九州で最も古い木造駅舎とされる。2006年、国の登録有形文化財に指定。太平洋戦争末期、機銃掃射を受けた7月30日には弾痕が残る駅で毎年、コンサートを開催し、平和の尊さを語り継いでいる。駅で地元の若者の成人式を開催しており、委員会のメンバーが作った門松を前に記念撮影をしている。ハロウィーンイベントも開いている。

まמותて

賞 第9回優秀賞

〒880-0811 宮崎市錦町38番1号 グラード錦町店2F



食事の提供や学習の指導、講座を開き子育て支援



子どもを軸に多世代を支援しようと2014年に設立。ひとり親や生活困窮家庭を含む子育て世帯を対象に講座やセミナー

を開き、保育士や行政書士、社会福祉士などの専門職が相談に応じている。大学など市内3カ所で行う小中高生対象の無料学習塾「まמותて宅習塾」では、シニアや大学生らのボランティアが学習を支援。家庭が抱える複雑な課題を解決する糸口を探し、子どもを中心とした地域コミュニティの形成や居場所づくりにつなげている。

五ヶ村村おこしグループ

賞 第7回ブロック賞（九州・沖縄）

〒882-1621 宮崎県高千穂町岩戸58



地元料理提供の温泉茶屋、古民家移築の施設を整備



国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産に登録された「高千穂郷・椎葉山」の五ヶ村集落。平均年齢60歳の住民9人が1994年に村おこしグループを立ち上げ、地元料理を提供する「天岩戸温泉茶屋」、古民家を

移築して作った「神楽の館」などの施設をほぼ自前で整備した。地域の食材を利用したメニューの提供、夜神楽の伝承保存などに取り組む。地元の意欲ある若者夫婦に事業継承するとともに、閉鎖の危機にあった「天岩戸の湯」の存続や、コロナ禍対応として3密にならないキャンプ場づくりも進める。

川坂川を守る会

賞 第10回優秀賞

〒889-0102 宮崎県延岡市北川町長井3813



希少動植物の宝庫、湿原を保全、案内し魅力発信



延岡市北川町を流れる川坂川周辺の豊かな自然環境を保護しようと2010年に発足。希少動植物の宝庫である川坂湿原の

草刈り作業など定期的な維持管理に努め、近年は県の指導の下、モニタリングに会員主体で当たっている。地区外のボランティアが参加する環境保全イベントも定期的実施。会員はボランティアガイドとして県内外の個人や団体客を湿原に案内し、地区の魅力や県内外に発信している。活性化の一環として特産品販売も企画している。

はなどう

賞 第8回優秀賞

農事組合法人

〒889-4414 宮崎県高原町蒲牟田788-2



耕作放棄地でビールや酒原料を栽培、直売店で販売



高齢化や鳥獣被害が深刻化し、耕作放棄地が増加していた宮崎県高原町蒲牟田の花堂地区で、農地を集積。県内企業と連携し、ビールや日本酒の原料となる米や麦を栽培している。県内企業と提携して「牛乳甘酒」も開発した。出来上がった製品は法人が運営する木造の農産物直売所「杜の穂倉」でも販売し、黒字経営を続けている。古民家レストランも開店し、観光客が増加。若手農家の育成や移住者の呼び込みなど、法人が核となり地域に活気をもたらしている。

耕作放棄地でビールや酒原料を栽培、直売店で販売。高齢化や鳥獣被害が深刻化し、耕作放棄地が増加していた宮崎県高原町蒲牟田の花堂地区で、農地を集積。県内企業と連携し、ビールや日本酒の原料となる米や麦を栽培している。県内企業と提携して「牛乳甘酒」も開発した。出来上がった製品は法人が運営する木造の農産物直売所「杜の穂倉」でも販売し、黒字経営を続けている。古民家レストランも開店し、観光客が増加。若手農家の育成や移住者の呼び込みなど、法人が核となり地域に活気をもたらしている。

金吾様踊り活性化実行委員会

賞 第10回優秀賞

〒895-2202 鹿児島県さつま町中津川 825-1

若い世代が伝統芸能でU・Iターン、地域を担う



400年前から続く伝統芸能「金吾様踊り」のにぎわいを取り戻そうと、有志7人が2003年に活動を始めた。踊りの

復活と継承が、過疎の農村地域を再生する原動力になっている。趣旨に共鳴する若い世代がU・Iターンし、14世帯45人が農畜産業、行事など地域の担い手に加わった。地元への愛着や結束力は強まるばかり。夢は踊り手500人が40種の踊りを奉納する演目「大念仏踊り」の完全復活だ。コロナ禍では動画サイトも活用、疫病退散を祈願する。

がんばろう高山

賞 第8回特別賞

NPO法人

〒899-2311 鹿児島県日置市東市来町養母 15819-4



全住民参加で稲作体験などグリーンツーリズム推進



棚田がある集落で交流人口の拡大や若い世代の定住、高齢者の生活サポートに取り組む。156人(2020年4月時点)の住

民全員で構成。田植えや稲刈り体験、山菜狩りなどグリーンツーリズムに力を入れる。秋祭りやこんにゃく作り、かずら細工、マス釣りも人気だ。市街地に高齢者を車で案内する「買い物支援事業」も開始。軽トラで各戸を回り、野菜を物産館に共同出荷して支え合う。廃校の小学校に宿泊施設があり学生らが合宿などに利用、祭りの手伝いにも参加。19年には農産物や団子、お総菜を販売する「たかやま峠茶屋」もオープンした。

Lab蒲生郷

賞 第6回優秀賞

NPO法人

〒899-5302 鹿児島県始良市蒲生町上久徳 2241



多彩なイベントや講座で歴史のまちを再発見



日本遺産に認定された武家屋敷群など、歴史と文化のまち「蒲生郷」を再発見し楽しんでもらうイベントを総称した「蒲生ワ

クワクコレクション」(略称:カモコレ)を2009年から続けている。まち・山歩きやアートづくり、子どもキャンプなど多彩な取り組みを展開している。観光資源や人材、行政を横断的につないだ共生協働のまちづくりがにぎわいを創出、「蒲生は熱い」「元気だ」という評価につながっている。コロナ禍ではオンライン発信をするためのオンライン講座などに取り組む。

さくらじま旬彩館

賞 第3回ブロック賞(九州・沖縄)

有限会社

〒891-1419 鹿児島県桜島横山町 1722-48



桜島大根や小ミカンで主婦がオリジナル商品開発



桜島小ミカンなどのかんきつ類を中心に地元の農産物を使い、ドレッシングやジュース、みそなどオリジナルの商品を主婦が

開発してきた。水を入れるとすぐに大根おろしになるフリーズドライの「桜島大根パウダー」は話題に。おふくろの味を楽しめるレストランも好評だ。2004年に有限会社に組織を改め、黒字経営が続く。主婦の感覚を生かした無駄のないやり方と、子育てを優先し支え合う柔軟な働き方が評価され、地方での起業の一つのモデルとなっている。

第11回(2020年度)

大賞・準大賞
選考の決め手

大賞「佐賀未来創造基金」(佐賀市)は市民や企業からの資金を広い分野の市民活動に配分。行政や企業とも協働、活動に寄り添い、支援した。コロナ禍での医療従事者らへの迅速な助成も評価された。準大賞「つばめいと」(新潟県燕市)はインターン受け入れで金属加工産地の中小企業と全国の大学生をつなぐ。準大賞「志摩市民病院」(三重県志摩市)は赤字経営から脱して地域に開かれた病院に変身した。



阿室校区活性化対策委員会

賞 第9回優秀賞

〒894-3632 鹿児島県宇検村阿室 195



学校の存続目指し親子留学を誘致、農業の振興も



阿室小中学校存続のために始めた親子山村留学を機に、住民一丸となって活気ある地域づくりに成功した。「親子」の移

住が進んだことで児童生徒増だけでなく、移住者が農業の担い手となったり、起業して農産加工物を全国に販売したりと、新たな感性で地域資源を生かす力となっている。委員会は移住者の住宅確保、地元住民との交流推進などを実施。地元住民と移住者の協働による地域再生は人口減少時代の地域づくりのモデルとなっている。

着物で出水武家屋敷を歩こう会

賞 第7回優秀賞

〒899-0201 鹿児島県出水市緑町 1-3 出水市シティセールス課



武家屋敷を着物で散策し、風景を満喫



江戸時代に建てられた武家屋敷が数多く残り、国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれた麓(ふもと)武家屋敷群を着物

で散策し、美しい風景を楽しんでもらうイベントを春秋の年2回開いている。そこから発展して「出水麓着物・浴衣・茶道体験の会」が結成され、参加料8千円で、着物と帯は持ち帰りできる催しを通年で開いている。若い女性を中心に県内外から多くの人々が参加するほか、日本文化に興味のある海外の観光客からも人気だ。日本語、英語、中国語、韓国語のパンフレットも作成した。

伊佐みりよく研究所

賞 第5回優秀賞

NPO法人

鹿児島県伊佐市



ご当地グルメ開発や、ご当地キャラで活性化



過疎高齢化が進む伊佐市でご当地グルメやゆるキャラによる活性化に取り組む。地元農畜産物を使った手羽先料理を「手羽

キング」と名付け、ご当地グルメ大会に出場。料理PRのため、キャラクター「イーサキング」が生まれた。伊佐を「13(いざ)」と読み、トランプのキングとかけた。ご当地キャラ総選挙で上位に入るなど人気で、市の知名度アップにも貢献している。近年は海外での特産品販売イベントなども行い、好評。インスタグラム、YouTube、Twitter、Facebookにアカウントがあり、毎日情報を発信、県内外から高評価だ。

船浮音祭り実行委員会

賞 第3回優秀賞

沖縄県竹富町



沖縄を代表するアーティストら音楽祭で集落応援



西表島の西部に位置する船浮地区には40人ほどが暮らす。近隣の集落とつながる道路がなく、交通手段は船が頼りだ。過疎化が深刻なこの土地で生まれた池田卓さんはミュージシャンとして那覇を中心に活躍していた。拠点を船浮に移す前から、活性化を目的に「音祭り」を続けている。池田さんの人脈で沖縄を代表するアーティストが集まり、700人を超える観客が集まる。住民はイベント当日、名物イノシシ汁の販売や、船の送迎などでもてなす。

疎化が深刻なこの土地で生まれた池田卓さんはミュージシャンとして那覇を中心に活躍していた。拠点を船浮に移す前から、活性化を目的に「音祭り」を続けている。池田さんの人脈で沖縄を代表するアーティストが集まり、700人を超える観客が集まる。住民はイベント当日、名物イノシシ汁の販売や、船の送迎などでもてなす。

栄町市場商店街振興組合

賞 第2回優秀賞

〒902-0067 那覇市安里 3881-2A



復興期のレトロな街を、屋台祭やライブで元気に



那覇市の繁華街、国際通り北口近くにある栄町市場商店街は戦後復興期に誕生、当時とほとんど変わらない姿のまま。小さな商店や食堂などがひしめき合うように店を出し、レトロ感たっぷりの雰囲気はアジアの市場のようだと言われている。毎年6月から10月は、月1回屋台を出して飲食物を提供する「屋台祭」を開く。毎年11月のライブではミュージシャンに加え、屋台の人も演奏するように。昼は買い物客でにぎわい、夜も多くの人が訪れる人気スポットとなった。

小さな商店や食堂などがひしめき合うように店を出し、レトロ感たっぷりの雰囲気はアジアの市場のようだと言われている。毎年6月から10月は、月1回屋台を出して飲食物を提供する「屋台祭」を開く。毎年11月のライブではミュージシャンに加え、屋台の人も演奏するように。昼は買い物客でにぎわい、夜も多くの人が訪れる人気スポットとなった。

嘉手納町商工会女性部

賞 第4回優秀賞

〒904-0203 沖縄県嘉手納町嘉手納 259

伝統の野国芋を活用、人気の特産品に育てる



「基地の町」のイメージを払拭するため、伝統の芋を活用した地域再生に取り組む。中国から沖縄に甘藷を伝えた野国総管の功績をたたえ、地元では甘藷のことを野国芋と呼ぶ。作付面積が少なく量が取れないが、ソフトクリームやアイスぜんざいなどとして商品化され、道の駅や地元料理店で人気だ。年1回の「野国総管まつり」では、芋の葉を使った雑炊「カンダバーजूシー」をアンケートに答えた客に振る舞う。嘉手納町のゆるキャラ「いもっち」のポロシャツも受注販売している。

功績をたたえ、地元では甘藷のことを野国芋と呼ぶ。作付面積が少なく量が取れないが、ソフトクリームやアイスぜんざいなどとして商品化され、道の駅や地元料理店で人気だ。年1回の「野国総管まつり」では、芋の葉を使った雑炊「カンダバーजूシー」をアンケートに答えた客に振る舞う。嘉手納町のゆるキャラ「いもっち」のポロシャツも受注販売している。

島の風

賞 第3回大賞

NPO法人

〒905-0605 沖縄県伊是名村勢理客 1542



「島のこし」目指して古民家を宿泊施設に改修



名護市からフェリーで約1時間の伊是名島で、人口減に立ち向かい「島のこし」を目指す。赤やグレーの瓦屋根をサンゴの垣根が囲む伝統の風景を守ろうと、空き家を借り受けて、宿泊施設への改修を進める。将来は、施設の運営を地元集落に移し、地域を支える経済の柱をつくることで、活性化を進める計画だ。地元産のコメを加工した麺など特産品の開発・販売も進める。ほかの離島の団体とも連携し活動を広げたいとしている。

名護市からフェリーで約1時間の伊是名島で、人口減に立ち向かい「島のこし」を目指す。赤やグレーの瓦屋根をサンゴの垣根が囲む伝統の風景を守ろうと、空き家を借り受けて、宿泊施設への改修を進める。将来は、施設の運営を地元集落に移し、地域を支える経済の柱をつくることで、活性化を進める計画だ。地元産のコメを加工した麺など特産品の開発・販売も進める。ほかの離島の団体とも連携し活動を広げたいとしている。

沖縄

- 鳩間島音楽祭実行委員会
- 琉球在来豚アグー保存会
- 栄町市場商店街振興組合
- 島の風
- 船浮音祭り実行委員会
- 嘉手納町商工会女性部
- ハマスーキ
- 大城花咲翁会
- 平久保サガリバナ保存会
- 久米島ホテルの会
- フーカキサバニ
- ていーだこども食堂
- にじのはしファンド
- 首里まちづくり研究会
- 地域サポートわかさ
- いけま福祉支援センター
- バリアフリーネットワーク会議
- 与那原大綱曳実行委員会支度係

琉球在来豚アグー保存会

賞 第1回特別賞

〒905-0011 沖縄県名護市宮里 4-11-15-1



沖縄在来種の豚復活に取り組み、ブランドに成長



農家や研究者らが連携して、沖縄在来のアグー豚を守ってきた。「戻し交配」と呼ばれる方法で約10年かけて原種に近いアグー豚を復活させることに成功し、絶滅も危惧された状況から脱した。「復活の地」となった名護市が「アグーの里宣言」を打ち出しPRIに力を入れるなど、特産品としてアピールする動きも広がり、沖縄の新たなブランドに成長した。豚熱（CSF）からの防疫や、コロナ禍による需要減といった試練にも果敢に立ち向かっている。

農家や研究者らが連携して、沖縄在来のアグー豚を守ってきた。「戻し交配」と呼ばれる方法で約10年かけて原種に近いアグー豚を復活させることに成功し、絶滅も危惧された状況から脱した。「復活の地」となった名護市が「アグーの里宣言」を打ち出しPRIに力を入れるなど、特産品としてアピールする動きも広がり、沖縄の新たなブランドに成長した。豚熱（CSF）からの防疫や、コロナ禍による需要減といった試練にも果敢に立ち向かっている。

鳩間島音楽祭実行委員会

賞 第1回優秀賞

〒907-1544 沖縄県竹富町字鳩間 26



小さな島に観客千人集めライブイベント



人口60人ほど、周囲約4*しかかない鳩間島で毎年5月4日、千人前後の観客を集めて音楽祭を開く。民宿の庭で始まったイベントは屋外の広場にステージを変え、20回を超えた。全国で活動するアーティストら10組ほどが出演し、幅広い音楽を楽しめる。行政からの補助を一切受けず、島民が準備や当日の作業に協力。終了後には港で三線を演奏して、来島者を盛大に見送る。リピーターが多く、小さな島を元気にしている。

人口60人ほど、周囲約4*しかかない鳩間島で毎年5月4日、千人前後の観客を集めて音楽祭を開く。民宿の庭で始まったイベントは屋外の広場にステージを変え、20回を超えた。全国で活動するアーティストら10組ほどが出演し、幅広い音楽を楽しめる。行政からの補助を一切受けず、島民が準備や当日の作業に協力。終了後には港で三線を演奏して、来島者を盛大に見送る。リピーターが多く、小さな島を元気にしている。

にじのはしファンド

(受賞当時：にじの森文庫)

賞 第8回優秀賞 NPO法人

〒902-0062 那覇市松川 275-4 ディファイ南西 102 号



困窮世帯に食料支援、読書できる子どもの居場所も



児童養護施設・ファミリーホーム・里親のもとで養育を経験した子どもたちの進学や資格取得を、自助努力を大切にしながら

サポートしている。活動の一部門として子どもたちが本や漫画を読んで過ごしたり、友達と遊んだりできる居場所「にじの森文庫」を運営。子どもたちの要望や寄贈で蔵書は約2千冊に達した。子ども食堂として昼食も無料提供している。コロナ禍では困窮した家庭への弁当支給や食料配布、生活が苦しい学生への支援に取り組んだ。

フーカキサバニ

賞 第7回優秀賞

〒905-0021 沖縄県名護市東江 2-8-47



伝統の帆かけ船、体験乗船や上級者向けスクール



琉球王国時代の沖縄の漁師が乗って世界の海を駆け巡った木のくり舟

「帆かけサバニ」(＝フーカキサバニ)を21世紀の日常の中に取り戻そうと2002年に結成された。名護市を拠点に体験乗船会や上級者向けのスクールを実施し、操船技術を伝授してきた。単なるマリンレジャーにとどまらず沖縄文化の継承、地域活性化につなげている。20年夏からは恩納村のリゾートホテルでもサバニ体験を実践している。

首里まちづくり研究会

賞 第8回優秀賞 NPO法人

〒903-0824 那覇市首里池端町 34 2 F



琉球王朝時代の花の都で地域づくりにミツバチ



沖縄戦で失われた琉球王朝からの記憶をつむぎ、花の都だった首里のロマンを追い求め、ミツバチを活用したまちづくりを

進めている。ハチミツのもととなる花の植栽に取り組み、「王朝蜂蜜」の地域ブランド開発を展開している。子どもたちに関心を持ってもらうため、ハチの専門家と協力、小学校でミツバチの飼育を始めた。地域のホテルの庭にもミツバチ小屋を設け、ハチミツを食事に使用している。「蜂蜜ビール」の生産も企画中だ。豊かな環境の再生に努め、観光客が歴史を感じられる地域を目指す。

ていーだこども食堂

(受賞当時：浦添小学校PTA)

賞 第7回特別賞

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間 2-47-5



こども食堂や、受験対策の無料塾で子どもたちを支援



地域の児童館で、未就学児～18歳までの子どもを対象に事業を展開、定期的に無料で昼食を提供する。また経済的理由で学習塾に通えず、意欲があるのに志望校を諦める子どものために「受験対策の無料塾」を開いている。地元小学校PTAのサークル活動からスタートし、学校・行政・地域の有志と連携、地域で子どもを守り育てる事業として独立した。人と人との関係を育み、関わるボランティアも生きがいを感じる居場所でありたいと奮闘している。

平久保サガリバナ保存会

賞 第6回優秀賞

〒907-0331 沖縄県石垣市平久保 47-7

サガリバナの群落を守り、貴重な観光資源に



沖縄県石垣島の北端、平久保集落に自生する一夜限りの花、サガリバナ。2005年に米盛三千弘さんが自宅畑脇にある

サガリバナ群落を発見、多くの人に楽しんでほしいと遊歩道の整備などに夫婦で取り組んできた。北部地区活性化に向け保存会を開設、開花に合わせて地元のボランティアを含め一斉清掃を行っている。開花時期の夏場は観光客を含め地元の人も多く訪れている。

ハマスーキ

賞 第5回優秀賞

NPO法人

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町 1-4-11 糸満海のふるさと公園内



糸満の古式漁具や漁師に関する資料を収集、保存



沖縄本島の最南端に位置する糸満市。沿岸部にある糸満地区は沖縄屈指の漁業のまちだ。糸満海人の歴史、文化を継承する

ため、地元有志が設立したこの団体は「糸満海人工房・資料館」を拠点に、海人文化に関する資料の収集や保存に当たっている。展示物についての説明や講話のほか、子どもたちや観光客を対象にした体験メニューもある。施設では古式の水中眼鏡「ミーカガン」などのオリジナルグッズを販売している。

久米島ホタルの会

賞 第6回優秀賞

NPO法人

〒901-3138 沖縄県島尻郡久米島町上江洲 457-20



ホタルが生きる環境を守り、島民に誇り



クメジマボタルがすむ島の環境を蘇らせ、水質汚染や不法投棄、ゴミ問題、赤土問題といった課

題解決を目指す。それによる経済の活性化、そして何よりも久米島で生きる誇りと喜びを人々が見いだすことを活動理念としている。「久米島ホタル館」のパネル展示、生態飼育やガイドの手伝い、「ホタルの里」づくりのための草刈や清掃、植栽を行い、指定管理者となった。島全体の不法投棄ゴミや海洋ゴミの回収、啓蒙活動を住民と協力して実施。島内の保育園児から高校生で組織する「久米島ホタルレンジャー」も育っている。

大城花咲翁会

賞 第5回優秀賞

〒901-2314 沖縄県北中城村大城 124



沿道の除草や花壇増設、樹木の植栽を管理




年配の男性の生きがい、居場所をつくろうと16人で組織。地域の清掃、花の手入れ、植栽を続け、シーサーや彫刻などの

造形作品を飾るなどして訪れる人たちを喜ばせている。花咲かじいさんの昔話をイメージし、3千本のポウランを丸太に着生させて通りと公民館横広場の周囲に植え、管理している。定例の活動日は月2回だが、それぞれが空いた時間を活用し、美化活動に取り組む。梅雨明けの満月の時期に開催する「ムーンライトコンサート」や、集落全体を美術館に見立てた「スーヅグワー美術館」もにぎわっている。

協賛社・後援団体のことば

バリアフリーネットワーク会議

賞 第10回優秀賞 NPO法人
〒904-2151 沖縄県沖縄市松本 2-30-1
HP 


観光バリアフリー目指し空港にセンター、情報誌



全ての人々が障がいの有無に関わりなく自由に暮らせる地域社会を目指す地域社会を目指し設立された。観光バリアフリーの推進を柱に高齢

者や子ども、子育て中の親などあらゆるハンディキャップのある人々の社会参画を支援する。那覇空港で2011年、全国初のバリアフリーツアーセンターを開設。福岡空港でも同様のサービスを始めた。県内のバリアフリー対応施設を紹介する情報誌も発行している。県内全バス路線での視覚障害者向け音声サービスや、車いす利用者が暑さを避け快適に通行できる断熱舗装材開発にも成功した。

地域サポートわかさ

賞 第9回優秀賞 NPO法人
〒900-0031 那覇市若狭 2-12-1
HP 

公民館拠点に多彩な講座、SNSも駆使



若狭公民館周辺の住民や自治会、学校関係者らが結成。公民館の指定管理者として「朝食会」や、大学生が子どもを教

える「土曜朝塾」、一人親家庭の児童らへの無料英会話教室、公民館から遠い場所に出向く「パーラー公民館」など多彩な企画を展開している。参加者が物資を持ち寄り、専門家と活用法を考える防災キャンプを年4回、場所を変えて開催。コロナ禍では母子家庭、困窮した外国人の食を支援した。動画配信に積極的で、2020年県議選では、候補者10人と小中学校生6人のディスカッションを配信した。

与那原大綱曳実行委員会支度係

賞 第10回優秀賞
〒901-1392 沖縄県与那原町上与那原 16
HP

網の上に乗る「支度」の豪華な衣装展示会を開催



440年の歴史と伝統を誇る与那原大綱曳。長さ90㍎、重さ5㍎もの大綱の上に、琉球史劇の登場人物に扮した「支度」

が乗り、豪華絢爛な衣装を身にまとった勇壮な姿で観衆を魅了する。これまで支度の姿は大綱曳当日の限られた時間しか見ることができなかった。そこで多くの人に間近で支度の衣装や装飾品を見てもらい、関心を深めて伝統継承につなげることを目的に、2018年から「支度衣装展」を開催している。コロナ禍で大綱曳が神事のみとなった20年も10月30日～11月3日に衣装展を開催。

いけま福祉支援センター

賞 第9回準大賞 NPO法人
〒906-0421 沖縄県宮古島市平良池間 90-6
HP

手作りの介護事業、高齢者の知恵を次世代に継承



宮古島の隣にある池間島で、最後まで故郷に暮らしたいお年寄りの願いをかなえようと主婦グループが奮闘、2006年に

介護事業所を開設した。使われていなかった建物を拠点に、お年寄りをケア、介護士など新たな雇用も生まれた。民泊運営もサポートする。

高齢者の“生きる知恵”を次世代に継承する「アマイ・ウムクトゥ・プロジェクト」として小中学校に授業を設けた。月1回の「いけまシマ学校」で地域の人々が高齢者から踊りや歌謡を学んでいる。

協賛社・
後援団体の
ことば



協賛社・
後援団体の
ことば



中日本高速道路（NEXCO中日本）

つなぐ原動力へ

当社は、高速道路という重要な社会インフラを担う会社として、高速道路の建設・管理だけでなく、そこに暮らす方々とのつながりを大切にしています。さらに、高速道路ネットワークの効果を活かして地域と地域をつなぎ、地域の活性化と暮らしの向上、日本の社会・経済の成長に貢献していかなければならないと考えています。地域社会の一員として、2011年度から、高速道路沿線地域の皆さまと対話し、協働することを目的とし、人手不足の農山村でのボランティア活動を4県6地区で活動してきました。本活動は200回を超え、延べ約3200名のグループ社員が参加しています（2021年3月末時点）。静岡県浜松市都田地区では、耕作放棄地で枝豆や玉ねぎなどを育てており、一緒に汗を流しながら活動することで、地域と顔が見える関係を築いています。

2019年度には、NEXCO中日本・地域創生プロジェクト「北陸ジェネレーション」を始動しています。本プロジェクトは、観光などの交流人口の増加を目的とするものから一歩踏み込んで、地域の産業・産地に焦点を当てることで、定住人口の維持や移住の促進に貢献していく取り組みです。地域で活躍する方々を紹介する冊子の発行（＝知る）、産地の商品・製品の販売（＝買う・食べる）、産地を楽しむドライブプランの企画（＝来る）により、総合的にプロジェクトを推進しています。今回ご紹介した取り組み以外にも、当社では、地域ごとに様々な取り組みをおこなっています。今後も地域の皆さまとつながり、地域をつなぐ原動力として活動していきます。

日本取引所グループ（JPX）

マーケットを通じ、地域、

そして日本経済の発展をサポートする

日本取引所グループ（JPX）の開設する市場（マーケット）は、企業に対して資金調達機会を、投資家に対して資産運用機会を、社会全体に対して価格発見機能を提供しています。そして、活力あるマーケットを通じて、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。

少子高齢化や東京への一極集中が進む中、わが国の持続的な発展には地域経済の活性化は不可欠です。こうした観点から、二つの取り組みを行っています。

一つ目は、各地域における企業の上場支援です。成長した企業の存在は、雇用の受け皿となり、また、その地域経済の発展にも寄与し、上場はそのための有力な手段の一つとなります。JPXは地方金融機関と連携し、情報交換や人材交流等の協力体制を構築しています。また、上場基準を緩和する一方で参加者をプロ投資家に限定した「Tokyo Pro Market」を設け、上場への一歩を踏み出しやすい環境も整備しています。

二つ目は、金融リテラシーの向上です。わが国の家計の金融資産1900兆円のうち約半分は現預金として蓄えられ、これらのお金が少しでも地域の企業に向かえばさらなる活力に、また、出し手にとっては有効な資産形成につながります。JPXは、投資の意義を伝えるセミナー「+YOU ニッポン経済応援プロジェクト」や、学生等を対象に疑似的な株式会社設立・経営を体験する「起業体験プロジェクト」を、全国各地で開催しています。

同じゴールを目指す「地域再生大賞」の取り組みをJPXは今後も応援していきます。

協賛社・
後援団体の
ことば



東日本高速道路（NEXCO東日本）

地域をつなぎ、地域とつながる

私たちNEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献することを、グループ全体の経営理念としています。

高速道路をご利用のすべてのお客さまに、安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお届けするため、高速道路インフラの老朽化対策や4車線化事業・スマートICの設置など高速道路の機能強化の推進や、大地震はじめ近年大型化の傾向にある台風など自然災害への対応といった重要課題に真摯に取り組むことは、社会の皆さまから求められる私たちの役割・使命です。当社グループは、こうした社会に直接貢献する企業活動そのものの中でCSRを実践し、SDGsに掲げる各目標に貢献してまいります。

また当社グループは、高速道路インフラを通じて地域と地域をつなぎ、地域とともに成長をしていきたいと願っております。このため、地域の皆さまと連携し、東日本エリアの観光振興につながる取り組みはもとより、サービスエリアの園地に花と緑で地域らしさを創出する活動（ハイウェイガーデンプロジェクト）や、障害をお持ちの皆さまとの環境保全等の活動（高福連携）にも各地で積極的に取り組んでまいります。

引き続き、地域再生大賞の取り組みを通じて、地域の元気を創造しようとする皆さまとともに地域を活性化してまいります。

協賛社・
後援団体の
ことば



ゆうちょ銀行の地域社会への取り組み

<関連するSDGs>

- ◆ 地域への資金循環等
- ◆ 地域金融機関との連携等
- ◆ 地公体取引の推進等
- ◆ 中小企業の経営支援のための取り組み



ゆうちょ銀行

「地域に根差した最も身近で信頼される金融機関」として150年

2021年、日本郵政グループは、明治4（1871）年の郵便事業創業から150周年を迎えます。事業創業以来、国営企業から民営化と時代の流れにあわせて形を変えてきましたが、「地域に根差した最も身近で信頼される金融機関として、お客さまのご期待にお応えしたい」というゆうちょ銀行の思いが変わることはありません。

ゆうちょ銀行は、お客さまの大切な資金を地域に循環させていくために、地域金融機関との連携を通じて、2016年度から地域活性化ファンドへの参加を積極的に推し進めています。引き続き、地域金融機関との連携・協働により、地域経済の発展・成長に貢献します。

また、ATMネットワークの活用や事務の共同化などを通じて、地域金融機関との協業を深めるとともに、地域ファイナンスの取り組みとして、地方債や地方公共団体貸付をはじめ、PFI事業向けプロジェクトファイナンスの協調融資へ参加するなど、さらなる地域経済の活性化に取り組んでいます。

ゆうちょ銀行は、今後も地域社会の未来に向けた取り組みを積極的に進めてまいります。

協賛社・
後援団体の
ことば



串カツ田中監修のソースカツ丼



愛媛県産真鯛を使用したおにぎり

協賛社・
後援団体の
ことば



ローソン

地産地消や地産外消を進めて 全国各地の「マチ」を活性化

ローソンは1975年の創業以来、社会の変化に対応し、お客様のニーズを見極め、新たな商品やサービスを作り出してきました。

「私たちは、みんなと暮らすマチ」を幸せにします」という企業理念のもと、マチに暮らす人々の生活全般を支える、なくてはならない存在であり続けるために、お客様が笑顔になっていただける商品やサービスの開発を進めています。

その取り組みの一環として、全国各地の「マチ」の活性化を目指し、47都道府県・約1万5000店舗の店舗網を活かして、各地の名産品や地元食材を使用した商品の発売を行うなど、地産地消や地産外消を積極的に進めています。

また、各地域の学生さん達と地元食材を使用した商品開発を共同で行い、地域の皆様と一緒に地元を盛り上げる取り組みも行っています。

2020年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、出荷量が落ち込んだ食材の消費拡大応援として、様々な地域の食材を使用した商品を発売しました。

さらに各地域の人気ラーメン店や老舗洋食店などの飲食店と様々な商品の共同開発など実施し、コラボを行った企業数は60社以上にのぼりました。「おいしさでマチを元気に」をテーマにローソンと飲食店が一緒になって行った本取り組みは、飲食店になかなか足を運べないお客様にとって、「地元でお馴染みの味を近くのローソンで購入できること」に価値を感じていただき、大変多くの方にご利用いただきました。

今後も、地域ならではの食文化の紹介による観光振興、そして各地域のおすすめ品の販売拡大を通じた地域経済の活性化を図ってまいります。

城南信用金庫

「よい仕事おこしネットワーク」を拡大中

信用金庫は、地域を守り、地域の方々の幸せのためにつくられた公共的使命を持つ金融機関であり、「地域社会の繁栄への奉仕と発展に貢献する」という経営理念に基づき活動しています。

我が国には、北海道から沖縄まで254（2020年12月末時点）もの信用金庫があり、金融面の支援はもちろんのこと、それぞれの信用金庫が、それぞれの地域のさまざまな課題を解決するために日々奮闘しています。また、全国隅々にわたる店舗網を持つ信用金庫が、個々のエリアを越えてスクラムを組んで連携している「よい仕事おこしネットワーク」（事務局・城南信用金庫）に参画しており、地域の枠を超えたビジネスチャンスの創出や多種多様な課題の解決に取り組んでいます。さらに、このネットワークには、信用金庫や中小企業のみならず、「地域課題を解決して、日本を明るく元気に！」という同じ志を持つ、市区町村や全国の地方新聞社、大学などにも続々とご参加いただいております。本当に幅広いネットワークが広がっているところです。

我が国は、人口減少・少子高齢化といった構造問題を抱える中、突如襲われたコロナ禍で、今や地域社会の疲弊は深刻を極めていますが、こうした時こそ、「地域を守る信用金庫の出番の時」と捉え、「よい仕事おこしネットワーク」の同志と力を合わせ、地域再生大賞に関係する皆様のご協力を賜わりながら、安心・安全な地域社会と豊かな国民生活の実現に注力して参りたいと存じます。

{ 年表・地域再生大賞のあゆみ }

| 年 | 地域再生大賞 | 社会の動き |
|------|--------------------------------|---|
| 2009 | 加盟社・共同通信社合同企画「地域再生」スタート | 【国内】衆院選で民主党圧勝、政権交代 【地域づくり】年越し派遣村に多くの人。失業率最悪レベルで雇用不安 【国際】オバマ米新政権がスタート。「核なき世界」でノーベル平和賞 |
| 2010 | 地方新聞社と共同通信が合同で地域再生大賞を創設 | 【国内】参院選で民主党大敗。迷走の鳩山内閣が総辞職 【地域づくり】所在不明の高齢者が続々と判明、「無縁社会」も深刻に 【国際】中国が日本のGDPを抜き世界第2位の経済大国に |
| 2011 | 2月 第1回大賞に「グラウンドワーク三島」(静岡) | 【国内】東日本大震災、東京電力福島第1原発事故 【地域づくり】台風12号、15号で大きな被害 【国際】世界人口70億人に |
| 2012 | 1月 第2回大賞に「ブルーリバー」(広島) | 【国内】衆院選で自公が政権奪還 【地域づくり】消費税増税法が成立、2段階で10%へ 【国際】中国で習近平氏の新指導部発足 |
| 2013 | 1月 第3回大賞に「島の風」(沖縄) | 【国内】2020年の東京五輪開催決定 【地域づくり】環太平洋連携協定(TPP)交渉に参加 【国際】中国で大気汚染深刻化 |
| 2014 | 1月 第4回大賞に「はやめ南人情ネットワーク」(福岡) | 【国内】御嶽山噴火で戦後最悪の火山被害、広島市で大規模土砂災害 【地域づくり】人口減対策の5カ年計画「地方創生総合戦略」を政府決定 【国際】マララ・ユスフザイさんにノーベル平和賞 |
| 2015 | 1月 第5回大賞に「てごねつと石見」(島根) | 【国内】安保法が成立、集団的自衛権行使可能に 【地域づくり】TPP大筋合意、国内では農協改革 【国際】COP21で温室ガス排出実質ゼロ目指す協定採択 |
| 2016 | 1月 第6回大賞に「かさおか島づくり海社」(岡山) | 【国内】熊本地震で2度の震度7 【地域づくり】出生数、初の100万人割れ 【国際】米大統領にトランプ氏選出 |
| 2017 | 1月 第7回大賞に「都岐沙羅パートナーズセンター」(新潟) | 【国内】森友、加計学園問題、国会で安倍首相を追及、忖度争点に 【地域づくり】九州北部の豪雨、福岡と大分39人死亡 【国際】英がEU離脱正式通知 |
| 2018 | 1月 第8回大賞に「陽気な母さんの店」(秋田) | 【国内】西日本豪雨で死者220人超。台風、猛暑も 【地域づくり】外国人材受け入れ拡大の改正出入国管理法成立 【国際】米中が報復関税で応酬、貿易摩擦の收拾難航 |
| 2019 | 1月 第9回大賞に「多言語センターFACIL」(兵庫) | 【国内】天皇代替わり、平成から令和に 【地域づくり】相次ぐ台風で列島被害甚大、停電や河川氾濫 【国際】温暖化防止訴え少女グレタ・トゥンベリさんが国連演説 |
| 2020 | 1月 第10回大賞に「ふるさと福井サポートセンター」(福井) | 【国内】新型コロナウイルスまん延、政府が緊急事態宣言、東京五輪・パラリンピック延期 【地域づくり】移動自粛と休業要請で経済低迷 【国際】米大統領にバイデン氏選出 |
| 2021 | 1月 第11回大賞に「佐賀未来創造基金」(佐賀) | |



協賛社・
後援団体の
ことば

都市再生機構 (UR)

URは全国のまちづくりを応援します

まちづくり・地域づくりの主役は、そこで暮らし、働く方々にほかなりません。私たちURは、地元の方々との対話を大切に、歴史や文化を含む地域の資源を存分に生かし、まち・地域を元気にするための取り組みを進めています。

1955年に設立された日本住宅公団を母体とするURは、60年以上にわたり「まち」と「住まい」に関わるさまざまな課題に向き合ってきました。現在、我が国において、地方を中心とした人口減少・少子高齢化や頻発する自然災害への対応などが求められるなか、URは、全国の「地方都市の再生」に向けたまちづくり支援に全力で取り組んでいます。

地域のおかれる状況や課題は千差万別です。このため、URによる支援の方法についても、地方公共団体によるまちづくり構想・計画づくりの支援、構想・計画に基づく具体的な事業化の支援、あるいはUR自らによる事業の実施などさまざまなツールを組み合わせたことが必要です。

そのまちの課題が何か、これからの時代にどのようなまちづくりを進めるべきか、URは何を担えるのか、それが住んでいる人や訪れる人の満足感や幸せにつながるのか。こうしたことを、地元公共団体や地元の方々とともに考えることから始めます。そこに、URならではの外部からの視点、国の機関として都市・住宅整備や災害からの復旧・復興に携わってきた経験、国や全国の企業・プレイヤーとのネットワークを総動員し、一緒に全国のまちづくり支援を進めてまいります。

まちづくりチャレンジ550 ～地域再生大賞の10年～

発行日 2021年3月22日

編著 地域再生大賞実行委員会

編集 橋田欣典

制作協力 鎌田司、荒木正人、伊藤岳秋、神田詩野、隈昭司、
佐久間護、錦織綾恵、藤田康文、横田実

協賛 中日本高速道路、日本取引所グループ、野村證券、
東日本高速道路、ゆうちょ銀行、ローソン、
城南信用金庫（地域パートナー） ※五十音順

後援 都市再生機構、日本政策金融公庫 ※五十音順

発行人 水谷 亨

発行 一般社団法人共同通信社

〒105-7201 東京都港区東新橋1-7-1 汐留メディアタワー

デザイン 沖直美（MORE than WORDS）

印刷所 株式会社太平印刷社

本書のコピー、スキャン、デジタル化等無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、個人や家庭内の利用で
あっても著作権法違反となり、一切認められておりません。

© Kyodo News, 2021. Printed in Japan

地域再生大賞事務局

〒105-7201 東京都港区東新橋1-7-1 共同通信社内

電話 03 (6252) 8237 ファクス 03 (6252) 8238

メール thd.chiikisaisei@kyodonews.jp

47NEWS 特集ページ



公式フェイスブック



定価：2200円（本体 2000円 + 税10%）

